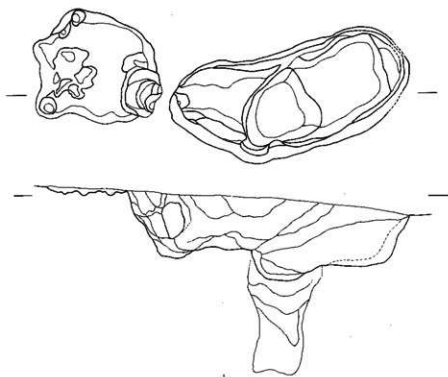


有明町埋藏文化財発掘調査報告書（6）

半島基幹農道整備事業（草野地区）に伴う埋藏文化財発掘調査報告書

はま ばい 遺 跡  
しも 堀 遺 跡



2004年3月

鹿児島県曾於郡有明町教育委員会



土坑26・27 断割り状況



赤色突帯土器 (366)



土坑27 断割り状況



テフラ分析(1)



土坑26・27連結部 断割り状況



土坑27 シミ状痕跡



土坑43・44・45 断割り状況



シミ状痕跡2(1)



土坑43・44 断割り状況



シミ状痕跡2(2)



土坑44 断割り状況



シミ状痕跡1



土坑1・土坑16 断割り状況



土坑1 シミ状痕跡(1)



土坑1 断割り状況



土坑1 シミ状痕跡(2)



土坑13 断割り状況



土坑13 シミ状痕跡



土坑66・67 断割り状況 (1)



シミ状痕跡 1



土坑66・67 断割り状況 (2)



シミ状痕跡 2



土坑60 断割り状況



シミ状痕跡



土坑53・54 断割り状況



土坑58 断割り状況



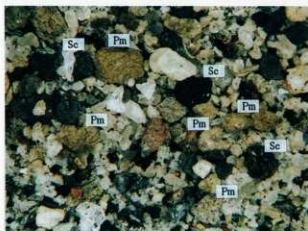
土坑61 断割り状況



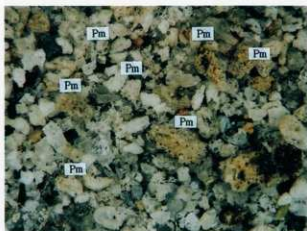
テフラ分析 (2)



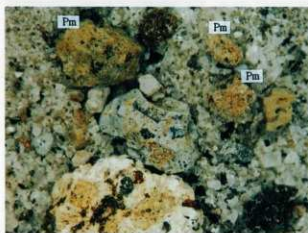
植物珪酸体分析



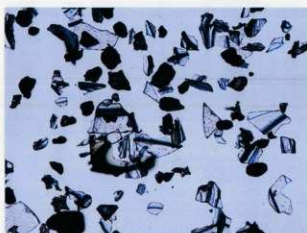
1. Kr-Mの軽石 (6区トレンチ2層; 1)



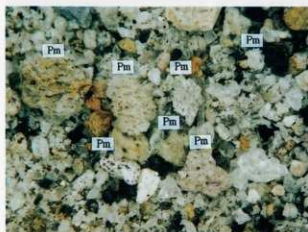
2. Sz-5?の軽石 (6区トレンチ5層; 4)



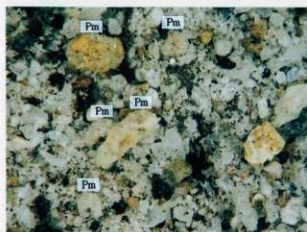
3. Ikの軽石 (6区トレンチ7層; 6)



4. K-Ahの火山ガラス (6区トレンチ9層; 7)



5. Sz-13の軽石 (6区トレンチ15層; 12)



6. Sz-14の軽石 (6区トレンチ17層; 14)

Pm : 軽石, Sc : スコリア,



## 序 文

本書は半島基幹農道整備事業（草野地区）に伴い、鹿児島県教育庁文化財課並びに鹿児島県埋蔵文化財センターの協力の下に有明町教育委員会が主体となり、平成14年度に実施した埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

浜場遺跡、下堀遺跡では、おもに縄文時代早期・晩期、古墳時代の良好な遺構・遺物を発見しており、浜場遺跡の石鏃製作跡、下堀遺跡の連穴土坑群や自然科学分析の結果など、その成果は注目に値するものであり、有明町及び大隅地域の歴史を語る上で重要な資料と言えます。

今後、これらの成果が研究や社会教育・学校教育の場などにおいて活用され、地域の歴史・文化に対する愛着と保護・活用へとつながることを心より願っております。

最後になりましたが、発掘調査並びに整理事業・報告書作成に従事していただいた方々をはじめ、ご支援・ご指導をいただいた県教育庁文化財課及び県立埋蔵文化財センターの皆様深く感謝申し上げます。

教育長 長 重 逸 郎



## 例 言

1. 本書は半島基幹農道整備事業（草野地区）の農道整備に伴って行われた有明町野神所在の浜場遺跡・下堀遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査・整理作業ならびに報告書作成は、有明町教育委員会が鹿児島県農政部より委託を受けて実施した。
3. 発掘調査は確認調査を平成11年12月から平成12年1月まで、本調査を平成14年8月から平成15年3月まで実施し、整理作業ならびに報告書作成を平成15年4月から平成16年3月まで行った。
4. 発掘調査・整理作業ならびに報告書作成は、鹿児島県教育庁文化財課ならびに鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもと有明町教育委員会が実施した。  
発掘調査は、確認調査を中水 忍、本調査を東 徹志・松崎卓郎がそれぞれ実施した。  
整理作業ならびに報告書作成は、東が後述する補助員の協力を得て作業を行い、東・松崎・中水が執筆して、東が編集した。執筆者名は目次に示して文責を明らかにしてある。
5. 発掘調査ならびに整理作業・報告書作成の過程において、以下の機関に作業委託を依頼した。
  - ・調査補助ならびに遺構実測・トレース : 株式会社埋蔵文化財サポートシステム
  - ・発掘作業 : 社団法人有明町シルバー人材センター
  - ・航空写真撮影 : 有限会社ふじた
  - ・自然科学分析 : バリノ・サーヴェイ株式会社
  - ・石器（剥片石器）の実測・トレース・写真撮影 : 株式会社埋蔵文化財サポートシステム
6. 発掘調査ならびに報告書作成に際して、下記の方々にご指導・ご支援をいただいた。記して感謝を申し上げたい。  
本天道輝（鹿児島大学）、新東晃一・堂込秀人・黒川忠広・横手浩二郎・宗岡克英（鹿児島県立埋蔵文化財センター）、秋成雅博（清武町教育委員会）、辻本崇夫（バリノ・サーヴェイ株式会社）、杉山真二（株式会社古環境研究所）、和田るみ子（新和技術コンサルタント株式会社）、村上昇（立命館大学大学院）、東 朋子 [順位不同・敬称略]
7. 発掘調査・整理作業ならびに報告書作成の過程において、以下の方々が補助員として携わった。  
野口さとり、川ノ上真理、安野美子、若松孝雄、加藤英仁、山元弓枝
8. 調査記録と遺物の保管は、鹿児島県曾於郡有明町野井倉1756番地 有明町役場および農業歴史資料館内に保管する。問合せは有明町教育委員会 社会教育課 社会教育係まで。

## 凡 例

1. 下堀遺跡の読みは標準語で「シモボリ」となるが、当地では「シモボイ」と呼ばれている。表紙においては現地呼びで表記してある。
2. 調査は全体の管理・進行・事務作業などを東 徹志が行い、発掘調査を東・松崎卓郎で分担した。以下、各担当の調査区を記す。  
浜場遺跡：1・2区；東・松崎、3～6区；東（期間の前半）・松崎（後半）、7・8区；東  
下堀遺跡：[検出面1] 1～4・6区；東、5区；松崎  
[検出面2・3] 3・4・7-2・7-3区；東、5・6・7-1区；松崎
3. 方位は全て平面直角座標系第1系（公共座標）上のX軸方向を北とし、磁北を用いた場合はアルファベットで表示をしている。座標値は旧地形（日本測地形）である。
4. 調査で用いたレベル値は、調査地近くの工事用BMより引用した絶対海拔高である。
5. 土色名に数字が入っているものは、農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』に準じている。
6. 遺構は、土坑（SK）・柱穴（Pit）・溝（SD）と呼称して、遺構面ごとに通し番号を用いている。
7. 本書中の遺物の挿図番号は通し番号であり、分布図に見られる書体ポイント数の小さな番号は遺物の註記番号を示す。
8. 図の縮尺は各図に示しており、遺構図中に見られる「 $\Gamma$ 」は断面位置を示している。また、切り位置を示すのに用いた「東・西・南・北」と「w・e・s・n」は略方位である。
9. 下堀遺跡Ⅷ・Ⅸ層上面において検出した柱穴の個別図は、縮尺1/20に統一してある。また、柱穴一覧表中における「塊」の表記は「ブロック」と同意語として用いている。
10. 石器図中の黒塗りの範囲は「カジリ痕」を示している。

# 本文目次

第I章 遺跡の環境 ……………(東) 1			
第1節 有明町の環境 …………… 1			
1. 鹿児島県の環境 …………… 1			
歴史的環境 …………… 1			
地理的環境 …………… 1			
気候的環境 …………… 1			
2. 有明町の環境 …………… 1			
歴史的環境 …………… 3			
遺跡の環境 …………… 4			
古墳時代・縄文時代の環境 … 4			
地理的環境 …………… 5			
ア) 遺構配置と地形 …………… 35			
イ) 遺構 …………… 38			
a. 散石 …………… 38			
b. 土坑 …………… 39			
c. 柱穴 …………… 46			
5. 遺物 …………… 53			
ア) 遺物の分布状況 …………… 53			
イ) 土器 …………… 53			
ウ) 石器 …………… 61			
第3節 まとめにかえて …………… 68			
付節 石器の鑑定について …………… 68			
第II章 調査の組織と経過 (中水・東・松崎) 6			
第1節 調査に至る経緯 …………… 6			
第2節 調査の組織 …………… 6			
1. 確認調査 …………… 6			
2. 本調査 …………… 6			
3. 整理作業ならびに報告書作成 … 7			
第3節 確認調査の成果 …………… 8			
1. 浜場遺跡 …………… 8			
調査の方法 …………… 8			
層位 …………… 8			
調査の概要 …………… 9			
2. 下堀遺跡 …………… 9			
調査の方法 …………… 9			
層位 …………… 9			
調査の概要 …………… 10			
3. まとめ …………… 10			
第4節 本調査の経過 …………… 11			
第III章 浜場遺跡の調査成果 ……………(東) 13			
第1節 調査の環境 …………… 13			
第2節 調査の概要 …………… 13			
1. 調査の方法 …………… 13			
2. 層序 …………… 14			
ア) 基本土層 …………… 14			
イ) 土層と旧地形 …………… 16			
3. 検出面1の調査成果 …………… 16			
ア) 遺構配置と地形 …………… 17			
イ) 遺構配置と遺物分布状況 … 17			
ウ) 遺構 …………… 17			
a. 柱穴と掘立柱建物・柱列 … 17			
b. 土坑 …………… 20			
エ) I～V層出土の遺物 …………… 28			
a. 遺物の分布状況 …………… 28			
b. 土器 …………… 28			
c. 石器 …………… 34			
4. 検出面2の調査成果 …………… 35			
第IV章 下堀遺跡の調査成果 ……………(東) 73			
第1節 調査の環境 …………… 73			
第2節 調査の概要 …………… 73			
1. 調査方法 …………… 73			
2. 層序 …………… 78			
ア) 現況と旧地形 …………… 78			
イ) 層序 …………… 78			
3. 検出面1の調査成果 …………… 82			
ア) 遺構 …………… 83			
a. 溝 …………… 83			
b. 土坑 …………… 87			
c. 柱穴と掘立柱建物・柱穴 … 91			
イ) 遺物 …………… 99			
a. 土器 …………… 102			
b. 石器 …………… 103			
4. 検出面2・3の調査成果 …………… 103			
ア) 地形と遺物分布・遺構配置 … 103			
イ) 遺構 …………… 104			
a. 溝 …………… 104			
b. 集石 …………… 110			
c. 土坑 …………… 124			
d. 柱穴 …………… 176			
ウ) 遺物 …………… 223			
a. 遺物の分布・出土状況 … 223			
b. 土器 …………… 223			
c. 石器類 …………… 254			
第3節 まとめにかえて …………… 273			
第V章 自然科学分析の成果 …………… 276			
第1節 自然科学分析の概要 ……………(東) 276			
第2節 下堀遺跡の自然科学分析 …(バリノ・サーヴェイ株式会社) 281			
1. 試料 …………… 281			
2. 分析方法 …………… 283			
3. 結果 …………… 285			
4. 考察 …………… 293			

## 表 目 次

<p>第1表 周辺遺跡一覽…………… 3</p> <p>第2表 基本土層と土色・土質詳細…………… 15</p> <p>第3表 浜場遺跡 VI層上面 覆立柱建物の柱穴一覽…………… 25</p> <p>第4表 浜場遺跡 VI層上面 柱列の柱穴一覽…………… 26</p> <p>第5表 浜場遺跡 I～V層 土器観察表(1)…………… 32</p> <p>第6表 浜場遺跡 I～V層 土器観察表(2)…………… 33</p> <p>第7表 浜場遺跡 I～V層 石器一覽…………… 34</p> <p>第8表 浜場遺跡 VIII～X層 散石一覽…………… 39</p> <p>第9表 浜場遺跡 VII～X層 出土標計測表(1)…………… 40</p> <p>第10表 浜場遺跡 VII～X層 出土標計測表(2)…………… 41</p> <p>第11表 浜場遺跡 IX層上面 柱穴一覽…………… 46</p> <p>第12表 浜場遺跡 VIII～X層 土器一覽…………… 53</p> <p>第13表 浜場遺跡 VIII～X層 石器一覽(1)…………… 64</p> <p>第14表 浜場遺跡 VIII～X層 石器一覽(2)…………… 65</p> <p>第15表 浜場遺跡 VIII～X層 石器剥片の計測表(1)…………… 65</p> <p>第16表 浜場遺跡 VIII～X層 石器剥片の計測表(2)…………… 66</p> <p>第17表 浜場遺跡 VIII～X層 石器剥片の計測表(3)…………… 66</p> <p>第18表 浜場遺跡 VIII～X層 石器剥片の計測表(4)…………… 67</p> <p>第19表 浜場遺跡 石器観察表(1)…………… 69</p> <p>第20表 浜場遺跡 石器観察表(2)…………… 70</p> <p>第21表 浜場遺跡 石器観察表(3)…………… 71</p> <p>第22表 浜場遺跡 石器観察表(4)…………… 72</p> <p>第23表 下堀遺跡 調査進行表…………… 75</p> <p>第24表 下堀遺跡 基本土層…………… 76</p> <p>第25表 下堀遺跡 土色・土質詳細(1)…………… 77</p> <p>第26表 下堀遺跡 土色・土質詳細(2)…………… 78</p> <p>第27表 下堀遺跡 VI層上面 土坑一覽…………… 90</p> <p>第28表 下堀遺跡 VI層上面 柱列5～7の柱穴…………… 97</p> <p>第29表 下堀遺跡 I～III層 出土遺物…………… 101</p> <p>第30表 下堀遺跡 VII～IX層 グリッド別出土物の重量…………… 108</p> <p>第31表 下堀遺跡 集石一覽…………… 111</p> <p>第32表 下堀遺跡 集石構成礫の計測表(1)…………… 120</p> <p>第33表 下堀遺跡 集石構成礫の計測表(2)…………… 121</p> <p>第34表 下堀遺跡 集石構成礫の計測表(3)…………… 122</p> <p>第35表 下堀遺跡 集石構成礫の計測表(4)…………… 123</p> <p>第36表 下堀遺跡 II・III層上面 土坑内出土標の計測表…………… 124</p> <p>第37表 下堀遺跡 III・IV層上面 土坑一覽…………… 125</p>	<p>第38表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(1)…………… 207</p> <p>第39表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(2)…………… 208</p> <p>第40表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(3)…………… 209</p> <p>第41表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(4)…………… 210</p> <p>第42表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(5)…………… 211</p> <p>第43表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(6)…………… 212</p> <p>第44表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(7)…………… 213</p> <p>第45表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(8)…………… 214</p> <p>第46表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(9)…………… 215</p> <p>第47表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(10)…………… 216</p> <p>第48表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(11)…………… 217</p> <p>第49表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(12)…………… 218</p> <p>第50表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(13)…………… 219</p> <p>第51表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(14)…………… 220</p> <p>第52表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(15)…………… 221</p> <p>第53表 下堀遺跡 III層・IV層上面 柱穴一覽(16)…………… 222</p> <p>第54表 下堀遺跡 VII～IX層上面 土器観察表(1)…………… 250</p> <p>第55表 下堀遺跡 VII～IX層上面 土器観察表(2)…………… 251</p> <p>第56表 下堀遺跡 VII～IX層上面 土器観察表(3)…………… 252</p> <p>第57表 下堀遺跡 剥片石器一覽…………… 260</p> <p>第58表 下堀遺跡 石器剥片一覽…………… 261</p> <p>第59表 下堀遺跡 礫石器一覽…………… 265</p> <p>第60表 下堀遺跡 花崗岩一覽…………… 266</p> <p>第61表 下堀遺跡 軽石一覽…………… 266</p> <p>第V章 自然科学分析の成果 第2節</p> <p>表1 放射性炭素年代測定結果…………… 285</p> <p>表2 暦年校正結果…………… 285</p> <p>表3 テフラ分析結果…………… 286</p> <p>表4 重鉍物・火山ガラス比分析結果…………… 287</p> <p>表5 球藻分析結果…………… 288</p> <p>表6 4区南壁の植物珪酸体分析結果…………… 288</p> <p>表7 連穴土坑の植物珪酸体分析結果…………… 290</p> <p>表8 微細植物片分析結果…………… 290</p> <p>表9 樹種同定結果…………… 290</p> <p>表10 脂質分析結果…………… 291</p>
---	---

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置	第51図	下堀遺跡 調査区土層(4)……………	82	
第2図	遺跡位置と周辺遺跡……………	2	第52図	下堀遺跡 VI層上面 地形と遺構配置…	83
第3図	周辺地形と調査区位置……………	4	第53図	下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形(1)…	84
第4図	周辺地形概念図……………	5	第54図	下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形(2)…	85
第5図	浜場遺跡 確認調査トレンチ配置…	8	第55図	下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形(3)…	86
第6図	下堀遺跡 確認調査トレンチ配置…	10	第56図	下堀遺跡 VI層上面 溝1・2……………	87
第7図	浜場遺跡 調査区配置……………	14	第57図	下堀遺跡 VI層上面 土坑1・2……………	88
第8図	浜場遺跡 削平状況……………	16	第58図	下堀遺跡 VI層上面 土坑3・4・5・6…	89
第9図	浜場遺跡 調査区土層(1)……………	17	第59図	下堀遺跡 VI層上面 土坑7・12……………	90
第10図	浜場遺跡 調査区土層(2)……………	18	第60図	下堀遺跡 VI層上面 土坑11……………	91
第11図	浜場遺跡 調査区土層(3)……………	19	第61図	下堀遺跡 VI層上面 孤立柱建物1……………	92
第12図	浜場遺跡 4区 VI層上面 遺構配置と地形……………	21	第62図	下堀遺跡 VI層上面 柱列1……………	93
第13図	浜場遺跡 1～3区 VI層上面 遺構配置と地形……………	25	第63図	下堀遺跡 VI層上面 柱列2……………	94
第14図	浜場遺跡 VI層上面 孤立柱建物1……………	25	第64図	下堀遺跡 VI層上面 柱列3……………	95
第15図	浜場遺跡 VI層上面 土坑1・2・4・5……………	27	第65図	下堀遺跡 VI層上面 柱列4……………	96
第16図	浜場遺跡 I～V層 遺物分布状況……………	29	第66図	下堀遺跡 VI層上面 柱列5……………	97
第17図	浜場遺跡 I～V層出土の土器(1)……………	30	第67図	下堀遺跡 VI層上面 柱列6・7……………	98
第18図	浜場遺跡 I～V層出土の土器(2)……………	31	第68図	下堀遺跡 土器I1類(1)……………	100
第19図	浜場遺跡 I～V層出土の石器……………	34	第69図	下堀遺跡 土器I1類(2)……………	101
第20図	浜場遺跡 XI層上面 遺構配置及び地形……………	35	第70図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構配置と地形……………	103
第21図	浜場遺跡 検出面2 遺構・遺物分布状況……………	36	第71図	下堀遺跡 VIII～XI層 礎分布状況……………	104
第22図	浜場遺跡 VII～X層 散石3・土器集中部……………	37	第72図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構配置と地形(1)……………	105
第23図	浜場遺跡 VIII～X層 散石10・12……………	38	第73図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構配置と地形(2)……………	106
第24図	浜場遺跡 XI層上面 土坑3・4……………	39	第74図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構配置と地形(3)……………	107
第25図	浜場遺跡 XI層上面 土坑5……………	42	第75図	下堀遺跡 VIII～XI層 グリッド配置……………	108
第26図	浜場遺跡 XI層上面 土坑6……………	43	第76図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 溝1……………	109
第27図	浜場遺跡 XI層上面 土坑7～10……………	44	第77図	下堀遺跡 XII・XIII層上面 溝2……………	110
第28図	浜場遺跡 XI層上面 土坑11……………	45	第78図	下堀遺跡 集石1・2……………	113
第29図	浜場遺跡 XI層上面 柱穴3～6……………	46	第79図	下堀遺跡 集石3～7……………	114
第30図	浜場遺跡 XI層上面 柱穴10～23……………	47	第80図	下堀遺跡 集石8・9……………	115
第31図	浜場遺跡 XI層上面 柱穴24～34……………	48	第81図	下堀遺跡 集石10～12……………	116
第32図	浜場遺跡 VII～X層 遺物分布状況(1)……………	49	第82図	下堀遺跡 集石13・14……………	117
第33図	浜場遺跡 VII～X層 遺物分布状況(2)……………	50	第83図	下堀遺跡 集石15・16……………	118
第34図	浜場遺跡 VII～X層 遺物分布状況(3)……………	51	第84図	下堀遺跡 集石17……………	119
第35図	浜場遺跡 VIII～X層出土の土器(1)……………	52	第85図	下堀遺跡 XII層上面 土坑1(1)……………	126
第36図	浜場遺跡 VIII～X層出土の土器(2)……………	53	第86図	下堀遺跡 XII層上面 土坑1(2)……………	127
第37図	浜場遺跡 VII～X層 石材1類分布状況……………	54	第87図	下堀遺跡 XII層上面 土坑1(3)……………	128
第38図	浜場遺跡 VII～X層 石材2類分布状況……………	55	第88図	下堀遺跡 XI層上面 土坑2……………	129
第39図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(1)……………	56	第89図	下堀遺跡 XII層上面 土坑3・4……………	130
第40図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(2)……………	57	第90図	下堀遺跡 XII層上面 土坑5……………	131
第41図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(3)……………	58	第91図	下堀遺跡 XII層上面 土坑6・7・8……………	132
第42図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(4)……………	59	第92図	下堀遺跡 XII層上面 土坑9・10……………	133
第43図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(5)……………	60	第93図	下堀遺跡 XII層上面 土坑11・12……………	134
第44図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(6)……………	61	第94図	下堀遺跡 XII層上面 土坑13・14……………	135
第45図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(7)……………	62	第95図	下堀遺跡 XII層上面 土坑16……………	136
第46図	浜場遺跡 VIII～X層出土の石器(8)……………	63	第96図	下堀遺跡 XII層上面 土坑17……………	137
第47図	下堀遺跡 調査区配置……………	74	第97図	下堀遺跡 XII層上面 土坑18(1)……………	139
第48図	下堀遺跡 調査区土層(1)……………	79	第98図	下堀遺跡 XII層上面 土坑18(2)……………	139
第49図	下堀遺跡 調査区土層(2)……………	80			
第50図	下堀遺跡 調査区土層(3)……………	81			

第99圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑19	………139
第100圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑20-23(1)	………140
第101圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑20-23(2)	………141
第102圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑25	………142
第103圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑26·27(1)	………143
第104圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑26·27(2)	………144
第105圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑26·27(3)	………145
第106圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑28·31	………146
第107圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑29·30	………147
第108圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑32	………148
第109圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑33(15)·34(24)	………149
第110圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑35·36·38	………150
第111圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑37	………151
第112圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑39·40·41·42	………152
第113圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑43·44·45(1)	………153
第114圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑43·44·45(2)	………154
第115圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑43·44·45(3)	………155
第116圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑46	………156
第117圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑47·48(1)	………157
第118圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑47·48(2)	………158
第119圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑49·50·51·52	………159
第120圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑53·54(1)	………160
第121圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑53·54(2)	………161
第122圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑55·56·57	………162
第123圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑58	………163
第124圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑59	………164
第125圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑60(1)	………165
第126圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑60(2)	………166
第127圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑61(1)	………167
第128圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑61(2)	………168
第129圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑62·63·65	………169
第130圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑64	………170
第131圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑66·67(1)	………171
第132圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑66·67(2)	………172
第133圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑68·69·70(1)	………173
第134圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑68·69·70(2)	………174
第135圖	下堀遺跡	Ⅱ層上面	土坑71	………175
第136圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴配置(1)	………177
第137圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴配置(2)	………178
第138圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴配置(3)	………179
第139圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴126-180	………180
第140圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴27-38	………181
第141圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴39-95	………182
第142圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴94-153	………183
第143圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴154-232	………184
第144圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴235-289	………185
第145圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴290-357	………186
第146圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴358-400	………187
第147圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴401-449	………188
第148圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴450-504	………189
第149圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴505-551	………190
第150圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴552-594	………191
第151圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴595-638	………192
第152圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴639-678	………193
第153圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴679-722	………194

第154圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴723-767	………195
第155圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴768-849	………196
第156圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴850-893	………197
第157圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴894-936	………198
第158圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴937-984	………199
第159圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴985-1028	………200
第160圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴1029-1072	………201
第161圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴1073-1117	………202
第162圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴 1118-1130·277·199·45	………203
第163圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴837-840	………203
第164圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴321-338	………204
第165圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴783-800	………205
第166圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層上面	柱穴821-836	………206
第167圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布状況(1)	………224
第168圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布状況(2)	………225
第169圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布状況(3)	………226
第170圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布状況(4)	………227
第171圖	下堀遺跡	土器1類	(1)	………228
第172圖	下堀遺跡	土器2類	(1)	………229
第173圖	下堀遺跡	土器2類	(3)·4類	………230
第174圖	下堀遺跡	土器5類	(1)	………231
第175圖	下堀遺跡	土器5類	(2)	………232
第176圖	下堀遺跡	土器5類	(3)	………233
第177圖	下堀遺跡	土器5類	(4)	………234
第178圖	下堀遺跡	土器5類	(5)	………235
第179圖	下堀遺跡	土器5類	(6)	………236
第180圖	下堀遺跡	土器5類	(7)	………237
第181圖	下堀遺跡	土器5類	(8)	………238
第182圖	下堀遺跡	土器6類	(1)	………239
第183圖	下堀遺跡	土器6類	(2)	………240
第184圖	下堀遺跡	土器7類	(1)	………241
第185圖	下堀遺跡	土器7類	(2)	………242
第186圖	下堀遺跡	土器7類	(3)	………243
第187圖	下堀遺跡	土器8類	(1)	………244
第188圖	下堀遺跡	土器8類	(2)	………245
第189圖	下堀遺跡	土器9類	(1)	………246
第190圖	下堀遺跡	土器10類	(1)	………247
第191圖	下堀遺跡	土器10類	(2)	………248
第192圖	下堀遺跡	土器10類	(3)	………249
第193圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布と遺構配置	………252
第194圖	下堀遺跡	石器(1)	………253	
第195圖	下堀遺跡	石器(2)	………254	
第196圖	下堀遺跡	石器(3)	………255	
第197圖	下堀遺跡	石器(4)	………256	
第198圖	下堀遺跡	石器(5)	………257	
第199圖	下堀遺跡	石器(6)	………258	
第200圖	下堀遺跡	石器(7)	………259	
第201圖	下堀遺跡	石器(8)	………262	
第202圖	下堀遺跡	石器(9)	………263	
第203圖	下堀遺跡	石器(10)	………264	
第204圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布と遺構配置(1)	………267
第205圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布と遺構配置(2)	………268
第206圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布と遺構配置(3)	………269
第207圖	下堀遺跡	Ⅱ層、Ⅲ層	遺物分布と遺構配置(4)	………270

第208図	下堀遺跡 Ⅷ～Ⅸ層 遺物分布と遺構配置(集中部) ……271
第209図	下堀遺跡 Ⅷ～Ⅸ層 石器・剥片分布 ……272
第210図	下堀遺跡 テフラ同定の試料採取位置 ……277
第211図	下堀遺跡 植物珪酸体分析の試料採取位置 ……278
第212図	下堀遺跡 土坑26・27 試料採取位置 ……279
第213図	下堀遺跡 土坑66・67 試料採取位置 ……279
第214図	下堀遺跡 土坑43・44・45 試料採取位置 ……280

第V章	自然科学分析の成果 第2節
図1	4区南壁の模式柱状図、試料採集位置、および分析層位 ……282
図2	土坑変色部と地山の重鉱物組成および火山ガラス比 ……287
図3	4区南壁の植物珪酸体群集の層的变化 ……289
図4	土坑覆土、変色部、および地山の脂肪酸組成 ……292

## 図版目次

図版1	下堀遺跡 土坑26・27ほか
図版2	下堀遺跡 土坑43・44・45
図版3	下堀遺跡 土坑1・土坑13
図版4	下堀遺跡 土坑66・67・土坑60
図版5	下堀遺跡 土坑53・54・土坑58・土坑61ほか
図版6	テフラ分析
図版7	試料採取状況
図版8	重鉱物・火山ガラス
図版9	植物珪酸体
図版10	炭化材・種実遺体・珪藻化石
図版11	浜場遺跡 土器1
図版12	浜場遺跡 土器2
図版13	浜場遺跡 土器3
図版14	浜場遺跡 石器1
図版15	浜場遺跡 石器2
図版16	浜場遺跡 VI層上面 遺構1
図版17	浜場遺跡 VI層上面 遺構2
図版18	浜場遺跡 XI層上面 遺構1
図版19	浜場遺跡 XI層上面 遺構2
図版20	下堀遺跡 土器1
図版21	下堀遺跡 土器2
図版22	下堀遺跡 土器3
図版23	下堀遺跡 土器4

図版24	下堀遺跡 土器5
図版25	下堀遺跡 土器6
図版26	下堀遺跡 土器7
図版27	下堀遺跡 土器8
図版28	下堀遺跡 土器9
図版29	下堀遺跡 石器1
図版30	下堀遺跡 石器2
図版31	下堀遺跡 石器3
図版32	下堀遺跡 VI層上面 遺構1
図版33	下堀遺跡 VI層上面 遺構2
図版34	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構1
図版35	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構2
図版36	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構3
図版37	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構4
図版38	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構5
図版39	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構6
図版40	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構7
図版41	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構8
図版42	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構9
図版43	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構10
図版44	下堀遺跡 XII・XIII層上面 遺構11
図版45	調査地遠景
図版46	遺跡遠景

# 第 I 章 遺跡の環境

## 第 1 節 有明町の環境

### 1. 鹿児島県の環境

#### 歴史的環境

有明町は行政区分では鹿児島県曾於郡に含まれ、宮崎県との県境に位置している。両県を合わせて南九州と呼ばれることも多い。列島規模で見ると鹿児島県は九州島南端にあり、都の存在してきた京都・奈良・東京などを中心に考えると南端にあたる。旧国名の中にも辺境性に由来すると思われる「大隅国」の名称もみられる。しかし、東アジア全体から見た視点では、古くからアジアの中心であった中国大陸への出口にあたり、日本列島（本州島など）への入口でもあった。このため鹿児島は日本列島文化とアジア文化との交差点として、独特の文化を築いて今日に至っている。

#### 地理的環境

鹿児島県は、桜島に代表されるように火山と関係の深い土地である。過去に噴火した火山は霧島山・桜島・開聞岳・硫黄島などがあり、本県を東西に分ける錦江湾は、阿多火山・始良火山の大爆発により陥没した土地に海水が流入して形成された。これらの度重なる噴火はシラス・ボラ・コラなどの火山噴出物を降らせて、さらには火砕流により周辺一帯に膨大なシラスをもたらし、層の厚さが100mにも及ぶシラス台地を造りだしている。このシラス台地は保水性に乏しく、流水に弱く崩れやすい特徴を持っており、その台地の高さもあって水稲栽培には向きな土地であった。

#### 気候的環境

気候は温暖多湿な土地であり、県内には亜熱帯から温帯の植生が見られる。現在でも大隅半島の佐多岬や志布志湾の枕郷島などには亜熱帯性の植物相群が存在する。町内でも自生の北限が宮崎県串間市付近となる亜熱帯性の植物のソテツ・バナナが成育する姿が見られる。また、多雨地帯でもあり、とくに梅雨と台風による雨量は想像を超える。

この様に温暖多湿で雨が多いことは植生にも影響を与えており、植物の生育が早いのも特徴と言える。

### 2. 有明町の環境

有明町は九州島南端の大隅半島の南東部にあり、北西の宮崎県境に霧島山、北に鰐塚山地、西に古生層のみられる高隈山地、南に花崗岩で形成される肝属山地、東に太平洋に向かって南東部が開口する志布志湾が広がる。

町内のほとんどがシラス台地にあたるが、その様子は各地域で異なる。北の伊崎田は小谷が入り込んだ平坦面の狭い台地であるのに対して、野神・蓬原・野井倉は比較的広大な平坦面が広がる。いずれの土地も河川が台地を浸食しており、現在の河川は台地縁辺部の岸のはるか下を流れる。河川は伊崎田の本村川・高下谷川があり、志布志の安楽川に流れ込んでいる。町域中央を流れる菱田川は伊崎田と山重、蓬原・野井倉の間を流れて、通山から志布志湾に流れ込んでいる。野神・原田には田原川があり、大崎の特留川と合流してから湾に流れ込んでいる。

この様な地形のため昔から稲作は少なく、河川流域などで谷底の水田の意味である「追田」と呼ばれる水田が存在するのみであった。しかし、現在では近代から現代にかけての開拓事業により、台地の上に通水が施されて「蓬原開田」「野井倉開田」と呼ばれる水田地帯が広がっている。一方で、他の台地の上も耕地整備により広大な畑地が広がり、サツマイモに代表される根菜類などや茶畑が見ら





第2図 遺跡位置と周辺遺跡

番号	遺跡名	フリガナ	所在地	地形	時代	遺物・遺構
1	浜場	ハマバ	野神字浜場	台地	縄・古墳	成川式
2	下堀	シモボリ	野神字下堀・立山	台地	縄(早)・弥・古墳	成川式
3	牧原 A	マキハラエー	野神字牧原・高尾・中牧	台地	縄(後)	磨製石斧・打製石斧
4	牧原 B	マキハラヒー	野神字牧原	台地	古墳	
5	長塚古墳	ナガツカコファン	野神字岩道・立下	台地	古墳	円墳
6	岩屋古墳群	イワヤコファン	野神字河内・井手元	台地	古墳	円墳 3 基
7	渡迫古墳群	ワタリザコファン	野神字岩道	台地	古墳	円墳
8	渡迫	ワタリザコ	野神字渡迫・岩道・畠田	台地	古代	土師器
9	中方隈古墳群	ナカホウギリコファン	野神字穴倉	台地	古墳	円墳
10	大堀	オオボリ	野神字大堀・水喰	台地	古墳・古代	
11	水喰	ミツクレ	野神字水喰・蓬原字山ノ後	台地	古代	
12	上原	ウエハラ	原田字上原	台地	古墳	
13	風穴	カザアナ	野神字風穴・五色	台地	古墳	
14	五色	ゴシキ	野神字五色・風穴	台地	古墳	
15	上五敷	カミゴシキ	原田字上五敷・五色	台地	古墳	
16	西ノ堀	ニシノホリ	原田字西ノ堀・下五敷	台地	古墳	
17	塚堀	ツカボリ	原田字塚堀・下原	台地	縄・歴	土師器
18	立山	タチヤマ	原田字立山	台地	古墳	
19	下原	シモハラ	原田字下原	台地	古墳	
20	東中原	ヒガシナカハラ	原田字東中原・大塚	台地	古墳	
21	大塚	オオツカ	原田字大塚・出口	台地	縄・古墳	
22	原田古墳	ハラダコファン	原田字大塚・出口・牧	台地	古墳	円墳 5 基・方墳 1 基
23	坂ノ上	サカノウエ	原田字坂ノ上・前田・西原	台地	弥・古墳	
24	長田	ナガタ	原田字長田	台地	弥・古墳・中世	山ノ口式・成川式・土器・磁器

※図中に番号がないものは、隣接する大崎町に存在する遺跡である

第 1 表 周辺遺跡一覧

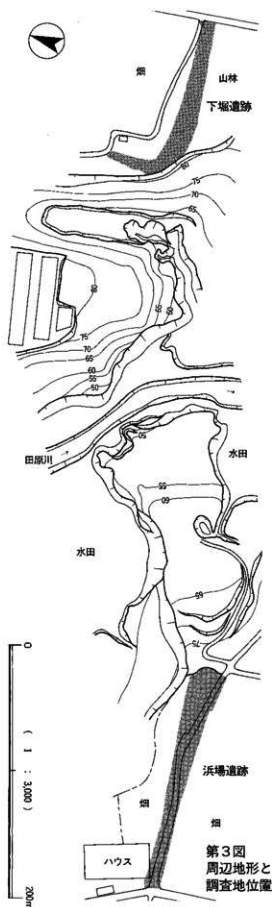
れる。現在ではこの台地上の畑地に灌漑事業計画が進められている。

また、畜産も盛んであり、競走馬などの牧場も見られる。

なお、町内は地理的・歴史的背景から七つの地域に分けて呼ぶことが多く、伊崎田・野井倉・通山・山重・野神・原田・蓬原と呼称している。これらは菱田川の東岸地域の前三者を「川東」と呼び、西岸地域の後四者を「川西」と呼んでいる。

#### 歴史的環境

本町は現在の行政区分では鹿児島県に属すが、過去においては日向国（宮崎県）に属しており、この地の歴史・文化を考えるには薩摩・大隅の他に日向の影響も考慮に入れる必要がある。日本書紀に詠われた「こまならばひゅうがのこま」の日向には有明町周辺も含まれると考えられ、当町の野神を日本書紀のほか三代実録・延喜式にも登場する「馬牧」に推定する説もある。このように宮崎との係わりは深く、また、古来より馬の飼育が盛んな土地であったことが想像できる。現在でも南に隣接す



る大崎町の野方などを中心に牧場が見られる。

北に隣接する志布志町には古来より港があり、海路を通じた文化の伝播・交流は盛んで港は栄えていたと伝えられている。当町は港の後背地にあたり、港と密接な関係にあったと思われる。さらに、町内の発掘調査において、中国大陸からの輸入陶磁器が出土していることから想像できる。

その他、当町域が栄えていたことを示す文物が各時代に存在している。縄文時代では未報告ではあるが野井倉の志陽の横堀遺跡で早期の遺物が多量に出土している。弥生時代には本村川流域の土橋集落から銅矛が出土しており、東京国立博物館に収蔵されている。古墳時代には県内最大級の円墳である原田古墳や蓬原の地下式横穴墓などが存在している。古代には荘園が設けられ町域の東に日向国教二院、西に同国教二郷が存在したと言われている。中世に入ると教二郷氏により蓬原城が築かれ、その後、近世の慶長頃まで島津氏の外城として続いていたことが記録に残っている。近代以降については、前述したように、台地の上を水田化するため住民を中心に用水路の開削・開田事業が進められ、今では平地と見間違えう程の水田が台地上に広がる。小学校教育などで「蓬原開田」・「野井倉開田」として紹介されている。

## 第2節 遺跡の環境

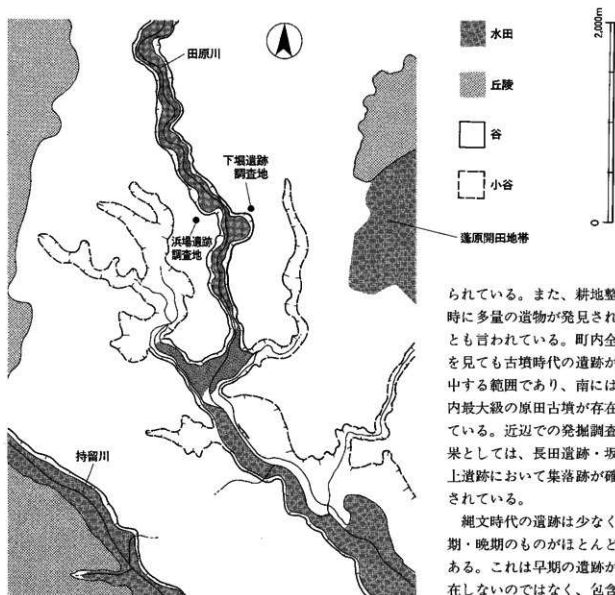
町内の遺跡数は、分布調査などの成果から総遺跡数204を数える。さらに近年、新規の道路建設や道路改修などにもなう緊急発掘調査により、具体的な姿が明らかになりつつある。

以下、報告する二遺跡の主体となる各時代と両遺跡の地理的環境について略述する。

### 古墳時代・縄文時代の環境

浜場遺跡で主体となるのは古墳時代と縄文時代早期、下堀遺跡では縄文時代晩期・早期である。周辺遺跡を見ると24遺跡中に古墳時代が20遺跡、縄文時代が5遺跡を数える。今回報告する以外で発掘調査が行われた遺跡は、長田遺跡と中方限古墳群内に存在する穴倉B遺跡のみである。

古墳時代の遺跡は周辺に数多く存在しており、五つの古墳群も見られる。現在、墳丘が確認できるものは少ないが、耕地整備以前には数多くの古墳があったことが知



第4図 周辺地形概念図

られている。また、耕地整備時に多量の遺物が発見されたとも言われている。町内全体を見ても古墳時代の遺跡が集中する範囲であり、南には県内最大級の原田古墳が存在している。近辺での発掘調査成果としては、長田遺跡・坂ノ上遺跡において集落跡が確認されている。

縄文時代の遺跡は少なく後期・晩期のものがほとんどである。これは早期の遺跡が存在しないのではなく、包含層まで深いため大規模な工事以外に破壊などが及ばなかった

ためと考えられる。町内全体でもほぼ同様の傾向が見られる。

近年の発掘調査の成果では、早期が伊崎田の黒葛遺跡・牧原遺跡・牧原A遺跡・大迫遺跡・飯野A遺跡、野井倉の横堀遺跡、蓬原の仕明遺跡がある。しかし、草創期にいたっては未発見である。前期から中期にかけては伊崎田の本村遺跡で中期を主体に前期の遺物まで出土したが、調査での確認はこれだけである。後期・晩期は伊崎田の黒葛遺跡・牧原遺跡・牧原A遺跡・大迫遺跡で確認された。

さらに、穴倉B遺跡の調査においても早期の包含層が確認されている。

#### 地理的環境

両遺跡は田原川を挟んで両岸に存在する。浜場遺跡は川に向かって比較的緩やかな傾斜面が続く地点であり、下堰遺跡では川との間に深い小谷が存在する。周辺の旧地形は耕地整備により失われているが、地形図からは両遺跡とも川と反対側に小谷地形が見られ、舌状に延びる台地末端の根元にあたるのが読み取れる。また、両遺跡の東西には約1kmの距離に宇都岳・草野岳が存在している。

## 第II章 調査の組織と経過

### 第1節 調査に至る経緯

鹿児島県農政部農地整備課（大隅耕地事務所、以下、「農政部」）は、草野地区において半島基幹農道整備事業を計画し、事業区内の埋蔵文化財の有無について鹿児島県教育庁文化財課（以下、「文化財課」）に照会した。

これを受けて鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、「県立埋文センター」）と有明町教育委員会社会教育課（以下、「社会教育課」）が平成9年3月に埋蔵文化財の分布調査を実施したところ、事業区内に遺物散布地として浜場遺跡・下堀遺跡が存在していることが判明した。

分布調査の成果をもとに農政部・文化財課・社会教育課が、埋蔵文化財の保護と事業の推進との調整を図るための協議を行ない、事業着手前に確認調査を実施することとなった。

確認調査は平成11年12月から翌年1月まで実施し、破壊が想定される範囲に良好な遺物包含層を確認した。これを受けて前述の三者は事業推進にあたっては、遺跡の破壊は避けられないと判断し、遺跡の記録保存を目的に本調査を実施することとなった。

本調査は、有明町教育委員会社会教課が主体となり、平成14年8月1日から平成15年3月14日まで実施した。調査に際しては、事業者側より、事業完了年度の関係から早急な調査完了を求められた。そのため文化財課の指導のもと、民間業者から調査技師1名の派遣をうけて調査員2名体制をとり、期間の短縮を図った。また、遺構の実測についても期間短縮と調査担当の負担軽減を目的に民間業者に作業委託し、教育委員会の管理のもと作業を行なった。

整理作業ならびに報告書作成は有明町教育委員会が平成15年4月から平成16年3月まで行なった。

### 第2節 調査の組織

#### 1. 確認調査

主 体 者	有 明 町 教 育 委 員 会		
責 任 者	〃	教 育 長	大 脇 茂 夫
企 画 担 当	〃	社 会 教 育 課 長	大 立 山 廣 幸
庶 務 担 当	〃	社 会 教 育 課 長 補 佐	浜 島 兼 雄
		社 会 教 育 係 長	井 手 佐 喜 雄
調 査 担 当	〃	社 会 教 育 課 主 事	中 水 忍 出 口 順 一 朗

#### 2. 本調査

主 体 者	有 明 町 教 育 委 員 会		
責 任 者	〃	教 育 長	大 迫 亨
企 画 担 当	〃	社 会 教 育 課 長	大 立 山 廣 幸
庶 務 担 当	〃	社 会 教 育 課 長 補 佐	畑 山 昭 俊
	〃	社 会 教 育 係 長	鬼 塚 仁
調 査 担 当	〃	社 会 教 育 課 主 事	東 徹 志
	株式会社埋蔵文化財サポートシステム	調 査 課 技 師	松 崎 卓 郎
調 査 支 援	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文 化 財 主 事	堂 込 秀 人
調 査 指 導	鹿児島県立埋蔵文化財センター	調 査 課 長	新 東 晃 一

重機操縦・安全管理：山口好邦（有限会社宮内機械）

作業従事者：中本雅紹、山平親行、山平アヤ子、小平光子、藏坪サエ、山平一美、谷口チエ、原浦八重子、立迫サチ、池尾チエ子、富迫利満、中野京子、橋口トシ、森山敬子、谷口久子、新保松夫、新保綾子、鈴木絹枝、黒木郁子、山添早苗、立山利行、立山キクエ、山元フクミ、田迫チズ、馬原キヌ子、持永ハツ子、瀬口イク、谷川静枝、園山キヤク、鍋サチ、藤田耕平、土橋ヨシ子、枝本ミネ、河野トヨ、牧サエ、上木光夫、丸口ミエ、西 良（社団法人有明町シルバー人材センター）

実測従事者：須田朗平、保 亜矢子、鎌田浩平、山田尚則、多々良正人、西別府かおり、上川路直光、上田幸生（株式会社埋蔵文化財サポートシステム）

調査は東徹志を責任者として、東・松崎卓郎が行ない、実測を株式会社埋蔵文化財サポートシステムが行なった。現場事務などは川ノ上真理、若松孝雄、加藤英仁の協力を得た。

調査作業は、重機の操縦・現場の安全管理などを山口好邦が担当し、掘り下げなど作業一般を社団法人有明町シルバー人材センター作業員が行なった。調査に関する協議・事務は、畑山昭俊のもと東・出口順一朗があたり、事務処理については吉井麗子の助けを得た。

### 3. 整理作業ならびに報告書作成

主 体 者	有 明 町 教 育 委 員 会		
責 任 者	"	教 育 長	大 迫 亨 長 重 逸 郎 (平成15年10月16日より)
企 画 担 当	"	社 会 教 育 課 長	立 山 廣 幸
庶 務 担 当	"	社 会 教 育 課 長 補 佐	畑 山 昭 俊 森 重 晃 一 (平成15年10月1日より)
	"	社 会 教 育 係 長	岩 元 秀 光
調 査 担 当	"	社 会 教 育 課 主 事	東 徹 志
調 査 支 援	鹿 児 島 県 教 育 委 員 会 文 化 財 課 鹿 児 島 県 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	文 化 財 主 事 文 化 財 研 究 員	堂 込 秀 人 黒 川 忠 広 横 手 浩 二 郎
調 査 指 導	鹿 児 島 県 立 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー 鹿 児 島 大 学 法 文 学 部	調 査 課 長 助 教 授	新 東 晃 一 本 田 道 輝

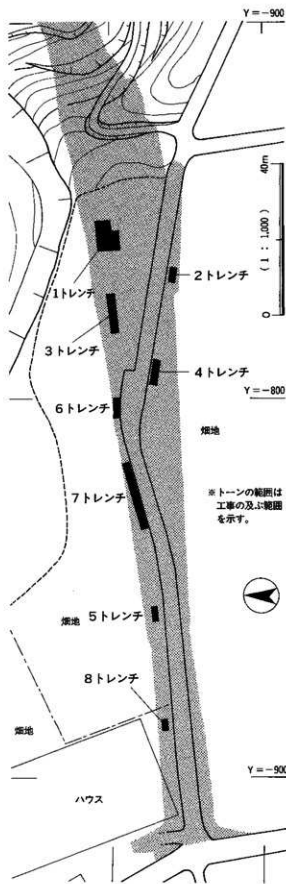
調 査 補 助 者：川ノ上真理、加藤英仁、野口さと、若松孝雄、安野美子、山元弓枝

作 業 従 事 者：谷口チエ、久神ヨシ子（社団法人有明町シルバー人材センター）

委 託 作 業 従 事 者：[遺構トレース] 須田朗平、末重由美子、保 亜矢子

[石器実測・トレース] 西別府かおり、鎌田真利子 [石器写真撮影] 松尾直子

[遺物分布処理] 須田朗平 （株式会社埋蔵文化財サポートシステム）



第5図 浜場遺跡 確認調査トレンチ配置

整理作業ならびに報告書作成に際しては、事務を畑山昭俊のもと東徹志が行ない、これを吉井麗子が助けた。

各作業は東のもと上記の補助者・従事者が行った。なお、図化については、東と共に下堀遺跡の土器を川ノ上真理・加藤英仁が、浜場遺跡の土器を加藤が、向遺跡の礫石器と下堀遺跡の集石を野口さとりが、下堀遺跡の柱穴を野口・山元弓枝が行ない、東が修正・加筆を行った。執筆は東・松崎卓郎・中水忍が分担し、東が編集した。(東)

### 第3節 確認調査の成果

#### 1. 浜場遺跡

##### 調査の方法

確認調査は、遺跡の性格と範囲を把握するためにトレンチを設定して実施した。浜場遺跡では1から7トレンチを設定した。作業は耕作土を重機により除去したのち、人力による掘り下げを行った。遺構の広がりや想定されたトレンチにおいては、事業範囲内で随時、拡張した。現況は平坦な畑地になっており、一部で上層が削平されているところも存在したが、包含層は残存する。

##### 層位

標準土層は以下のとおりである。

- I層 灰褐色土層 表土、現在の耕作土である。
- II層 黒褐色土層 やや硬質の層である。
- III層 暗黄褐色土層 やや柔らかい、古墳時代に相当する包含層と考えられる。
- IV層 黒色土層 やや柔らかい、弥生時代に相当する包含層と考えられる。
- V層 黒色土層 御池火山噴出物と考えられる黄白色バミス粒を含む、縄文時代後期に相当する包含層である。
- VI層 黒色土層 やや硬質の層である。
- VII層 暗茶褐色土層 池田降下軽石と考えられる黄白色軽石を含んでいる。
- VIII層 明黄褐色火山灰層 約6,300年前噴出の褐色のアカホヤ火山灰層である。
- IX層 黒色土層 硬質の層でバミス少量含む、縄文時代早期に相当する包含層である。

- X層 黒褐色土層 硬質の層でバミスを多く含む、縄文時代早期に相当する包含層である。  
 II層 黄褐色土層 約11,500年前に噴出の薩摩降下火山灰層でブロック状に堆積する。  
 III層 暗茶褐色土層 粘質の強いローム層である。  
 III層 乳白色砂質層 シラスの二次堆積層で硬化している。  
 XV層 黄白色土層 シラス層である。

## 調査の概要

事業の実施範囲にかかる畑地を現道に沿って東側から1～8トレンチを設定し、調査を行なった。1トレンチではIII・IV層から土器が出土し、VII層上面で数基の柱穴を検出した。覆土にVII層の池田降下軽石を含むものとそうでないものとに区分できる。2トレンチではVII層まで削平されており、さらには耕作時のトレンチャー痕がVIII層上面まで見られた。IX・X層では焼石が出土した。3トレンチではVI層まで削平されており、IX層より土器が出土した。4トレンチではVIII層まで削平されており、IX層で縄文時代早期の土器が出土した。5トレンチではIV層まで削平されており、VII層上面で柱穴を検出した。6トレンチではIX層まで削平されており、遺物・遺構は共に確認できなかった。7トレンチではVI層まで削平されており、VIII層上面で柱穴を検出した。8トレンチではVIII層上面で柱穴を検出した。

出土した遺物には、縄文時代早期の土器と古墳時代の成川式土器が見られた。

## 2. 下堀遺跡

### 調査の方法

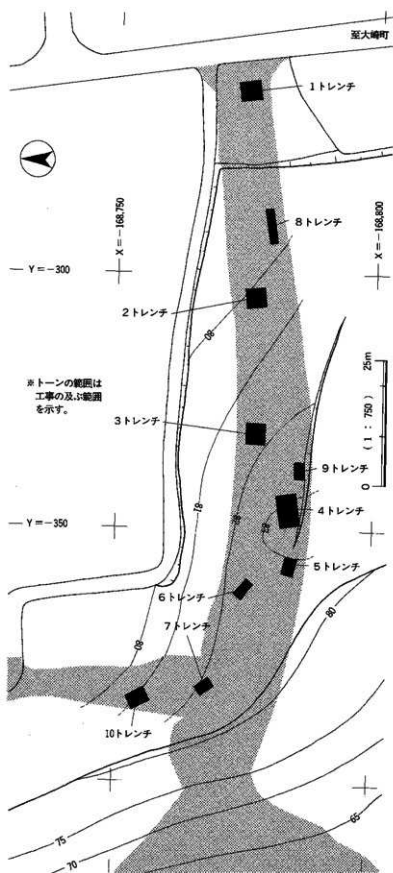
確認調査は、遺跡の性格と範囲を把握するためにトレンチを設定して実施した。下堀遺跡では山林内に1～10トレンチを設定した。表層を重機により除去したのち、人力による掘り下げを行なった。遺構の広がりか想定されたトレンチにおいては、事業範囲内で随時拡張した。包含層の残存状況は全体的に良好であった。

### 層位

標準土層は以下のとおりである。

- |       |          |                                   |
|-------|----------|-----------------------------------|
| I a 層 | 暗灰褐色土層   | 表土。                               |
| I b 層 | 灰褐色土層    | 旧表土。                              |
| II層   | 暗黄褐色土層   | 硬質の層である。                          |
| III層  | 黒褐色土層    | 御池火山噴出物と考えられる黄白色バミスが見られる。         |
| IV層   | 淡黒褐色土層   | 池田降下軽石と考えられる黄白色軽石が見られる。           |
| V層    | 暗黄褐色土層   | VI層の二次堆積と考えられる層である。               |
| VI層   | 明黄褐色火山灰層 | 約6,300年前噴出の橙色のアカホヤ火山灰層である。        |
| VII層  | 暗黒褐色土層   | 硬質の層でバミスを少量含む、縄文時代早期に相当する包含層である。  |
| VIII層 | 暗茶褐色土層   | 硬質の層でバミスを含む、縄文時代早期に相当する包含層である。    |
| IX層   | 茶褐色土層    | バミスを多く含む硬質の層である。                  |
| X層    | 淡黄褐色土層   | 約11,500年前に噴出の薩摩降下火山灰層でブロック状に堆積する。 |
| XI層   | 濁黄茶褐色土層  | 粘質のある層である。                        |
| XII層  | 黄茶褐色土層   | 粘質のある層である。                        |
| XIII層 | 明黄褐色土層   | 粘質のある層である。                        |
| XIV層  | 乳茶褐色土層   | シラス層である。                          |





第6図 下場遺跡 確認調査トレンチ配置

### 調査の概要

事業の実施範囲にかかる山林内の東側から順に1～10トレンチを設定した。1トレンチではⅣ層で土器が出土した。2トレンチではⅦ層から焼石が出土した。3トレンチではⅦ層・Ⅷ層で焼石と縄文時代早期の土器が出土した。4トレンチではⅢ・Ⅳ層で土器が出土した。5トレンチでは遺物・遺構ともに確認できなかった。6トレンチではⅦ・Ⅷ層で多数の焼石が出土した。8トレンチではⅢ層上面溝状遺構が検出された。9トレンチではⅢ・Ⅳ層から土器が出土した。10トレンチではⅥ層上面で土坑が検出されたが、その性格は不明である。

出土した土器には、弥生時代・古墳時代の成川式・縄文時代早期などが見られる。

### 3. まとめ

調査の結果、浜場遺跡は古墳時代・縄文時代早期の遺跡であり、下場遺跡は古墳時代・弥生時代・縄文時代早期の遺跡であることが判明した。(中水)

#### 第4節 本調査の経過

浜場遺跡・下堀遺跡の本発掘調査の経過について、以下、調査日誌より略述する。

8月18日（月）～8月30日（金）

浜場遺跡のプレハブの設置。重機による表土剥ぎ。環境整備・安全対策の後、東側から1～4区の調査区を設定。1～3区をⅥ層上面まで掘り下げ開始する。

9月2日（月）～6日（金）

1・2区はⅥ層上面にて掘立柱建物跡・土坑・ビット等の検出を行ない、完掘した後写真撮影・図面作成・地形測量を行なう。4区は北半分の表土剥ぎを行ない、Ⅵ層上面まで掘り下げ開始する。

9月9日（月）～13日（金）

3区は遺物の取り上げ後、土坑・ビット等を検出して写真撮影。4区はⅥ層上面にてビット等の検出後、完掘して写真撮影・図面作成を行ない、埋め戻して南側の表土剥ぎを行なう。1・2区についてはアカホヤ層を除去し、東側から新たに5・6・7区を設定。5区からⅧ層の掘り下げを開始する。

9月24日（火）～27日（金）

3区はⅥ層上面検出遺構の図面作成後、埋め戻し。4区はⅥ層上面にて土坑・ビット等を検出し、写真撮影・図面作成を行なって埋め戻す。5・6区はⅧ～Ⅸ層から石鏃・剥片等が少量出土する。

10月7日（月）～11日（金）

5・6区はⅧ～Ⅹ層上位にかけて、親指大～拳大程の礫が部分的に集中して出土する傾向が見られたため、散石として位置をおさえて取り上げる。また、Ⅹ層下部からは遺物の出土が見られないため、調査員立会いのもと、重機にてⅩ層上面まで掘り下げる。5・6区間ベルトのⅧ～Ⅹ層掘り下げる。

10月15日（火）～18日（金）

5区では、Ⅹ層上面にてほぼ南北方向に長軸をとる連穴土坑2基を検出。4分割して慎重に掘り下げる。また、土坑・ビット等も検出し、掘り下げる。6区でも土坑・ビットを検出して掘り下げる。浜場遺跡と平行して下堀遺跡1区の調査を行なう。重機による表土剥ぎを行ないⅥ層上面まで掘り下げる。遺物の取り上げ後に遺構検出を行ない、写真撮影・図面作成を行なう。調査員立会いのもと重機によりトレンチを掘り下げるが、遺物の出土、遺構の検出等見られず、埋め戻して終了する。

10月21日（月）～25日（金）

堂込秀人氏（鹿児島県立埋蔵文化財センター）より御指導を頂く。6区は遺構の写真撮影・図面作成および地形測量を行ない、浜場遺跡は7区まで調査終了。下堀遺跡に移動し、周辺の環境整備・安全対策を行なった後、調査区を設定して、2・3・6区からⅠ～Ⅴ層の掘り下げを開始する。

10月28日（月）～11月1日（金）

2・3区はⅥ層上面にて土坑・ビット・硬化面等検出。完掘を行ない、写真・図面等の記録を取る。その後、2区は西壁沿いに下層確認トレンチを設定して掘り下げ。3区はアカホヤ層の除去後にⅧ～Ⅹ層の掘り下げを開始。4区ではⅥ層上面まで掘り下げを開始。6区は掘り下げを継続。

11月5日（火）～8日（金）

2区下層確認トレンチⅩ層上面にてビットを検出。4区は遺物取り上げの後、Ⅵ層上面にて土坑・ビット等を検出し、完掘して写真撮影・図面作成を行なう。その後、アカホヤ層を除去し、西壁沿いに先行トレンチを設定してⅧ層の掘り下げを開始する。5区はⅠ～Ⅴ層を掘り下げて遺物取り上げを行ない、Ⅵ層上面にて遺構を検出する。また、下堀遺跡の調査と平行して、浜場遺跡8区の調査を行なう。表土剥ぎを行なうが、アカホヤ層より上層は削平されていたため、Ⅷ層から掘り下げを開始する。

11月11日(月)～14日(木)

2区は遺構の写真・図面を作成し、埋め戻す。4区はⅪ層上面にて北東―南西に長軸をとる連穴土坑を検出。5区は遺構完掘後に写真・図面を作成。6区はⅥ層上面にて2列に弧状に並ぶ柱穴を検出、完掘後に写真・図面を作成する。浜場遺跡8区はⅢ層上面まで掘り下げ後、遺構検出を行なう。

11月18日(月)～22日(金)

4区はⅧ～Ⅺ層の遺物出土状況・西壁土層断面の写真撮影。5区はアカホヤ層の除去後、南壁沿いからⅧ～Ⅺ層の掘り下げ開始。6区もアカホヤ層の除去後、Ⅷ層の掘り下げを開始。浜場遺跡8区はピットを検出。遺構完掘後に写真撮影・図面作成・地形測量を行ない、埋め戻して調査を終了する。

12月9日(月)～13日(金)

3・4区は包含層の掘り下げ。Ⅺ層上面にて連穴土坑および連穴土坑と思われる土坑がまとまって検出。遺構の掘り下げを行なう。6区はⅧ～Ⅹ層から柴石群を、またⅪ層上面にて連穴土坑を検出。高所作業車で遺構全体の写真撮影を行なう。西壁にて農業歴史資料館展示用に土層の剥ぎ取りを行う。

12月16日(月)～20日(金)

3～5区は包含層・遺構の掘り下げ、遺物取り上げを行なう。6区は遺構を完掘して写真撮影・図面作成を行なう。2～5区の北側において表土剥ぎを行ない、7-1・7-2・7-3区を設定する。辻本崇夫氏(佛バリノ・サーヴェイ)より土壌サンプルの採取方法を御指導頂く。

1月6日(月)～10日(金)

3・4区はⅩ層上面においても遺構の検出が見られたため、一部そこまで掘り下げて遺構を検出する。7-1区はⅦ層上面にて遺構を検出し、写真撮影・図面作成を行なう。7-2区はⅧ～Ⅹ層を掘り下げる。7-3区はアカホヤ層を除去し、Ⅷ～Ⅹ層を掘り下げ。遺跡全体の空中写真撮影を行なう。

1月14日(火)～17日(金)

3区は遺構を完掘、写真・図面を作成して埋め戻す。5区はⅪ・Ⅻ層上面にて連穴土坑・土坑・ピットを検出して掘り下げる。7-1区はアカホヤ層を除去した後、Ⅷ～Ⅹ層の掘り下げを開始する。7-3区はⅧ～Ⅹ層の遺物の出土がほとんど見られないため、調査員立会いのもと重機にて掘り下げる。Ⅻ層上面にて多数のピットを検出する。いくつかは円形に並ぶ様子もうかがえる。遺構を検出し掘り下げる。

1月20日(月)～24日(金)

新東晃一氏(鹿児島県立埋蔵文化財センター)が来跡し、御指導頂く。土壌分析を行なうために、連穴土坑内の埋土をサンプリングする。7-1・7-2区はⅧ～Ⅹ層を掘り下げて遺物を取り上げる。

1月27日(月)～31日(金)

7-1・7-2区はⅧ～Ⅹ層を掘り下げ。Ⅺ・Ⅻ層上面にて7-3区同様ピットを多数検出し、掘り下げる。7-3区は遺構を掘り下げる。本田道輝氏(鹿児島大学)より御指導頂く。

2月10日(月)～2月14日(金)

4・5区間ベルトを掘り下げて、遺物取り上げ。Ⅺ・Ⅻ層上面にて連穴土坑・土坑・ピットを検出、掘り下げる。7-1～7-3区は遺構を掘り下げる。一部写真撮影・図面作成を行なう。

2月24日(月)～28日(金)

4・5・7-1～7-3区は遺構を掘り下げる。完掘後、写真撮影・図面作成を行なって終了する。

3月3日(月)～14日(火)

プレハブを撤収。駐車場跡地の整地、埋め戻し等を行ない、下掘遺跡の調査を終了する。

(松崎)

## 第三章 浜場遺跡の調査成果

### 第1節 調査の環境

調査地は有明町野神の下方限集落の南に所在しており、調査地を挟んで南側は大崎町の飛地となる。周辺には「野神原」と呼ばれる比較的平坦な地形が広がるが、これは近代以降の開拓・耕地整備などにより、丘の削平と谷の埋め立てが行なわれて平坦化したものである。そのため、本来の地形は失われており詳しくは不明であるが、現在の地形から推測することができるものを図4にまとめた。これによれば調査地周辺は、北を根元にして南に突き出した舌状地形を呈しており、東西を谷に挟まれている。調査地はその根元近くの平地東側の縁辺部に位置する。また、遺跡の範囲は舌状地形の根元から中程まで、台地上の広い範囲にわたっている。

調査地の北側と東側は田原川へと続く崖・急斜面となる。しかし、東側は付近の田原川流域ではほとんどが切り立った崖なのに対して、急ではあるが昇り降り可能な斜面である。また、西側には東側ほどではないが小谷地形が見られる。南側には平坦な台地が広がる。

調査着手前の状況では、調査範囲は未舗装の農道と畑地にあたり、調査範囲中央の農道を挟んで南北に畑地が存在していた。この北の畑地に隣接する崖は、一部が崩落・流出して調査対象範囲にまでおよんでいた。また、1区東側ではすでに現地表から約10m下に道路工事が完了しており、調査区脇は崖となっていた。

### 第2節 調査の概要

調査は8月中旬の益明けから開始し、一時の中断を挟んで11月下旬に終了した。調査当初、8区の含まれる調査地南の畑地では作物が育成中のため、農道と北側畑地の範囲から調査を開始した。先ず1・2区で検出面1（Ⅵ層上面）での調査を行ない、次いで3・4区の検出面1と5・6・7区での検出面2（Ⅸ層上面）の調査を並行して行なった。その後、作物の収穫を待って8区の調査を実施した。なお、8区は検出面1が削平されており、検出面2の調査のみを行なった。

#### 1. 調査の方法

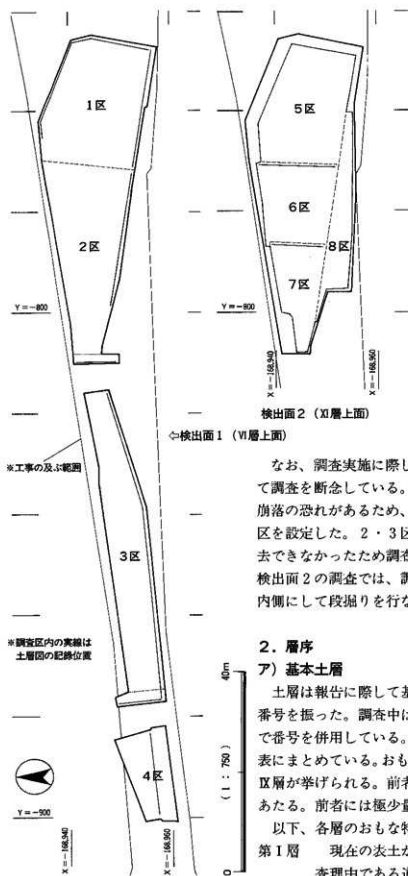
本調査の範囲については、確認調査において古墳時代と縄文時代早期の包含層が確認されており、その調査成果から前者が調査対象範囲の全面、後者が対象範囲の東半分に広がると予想された。そのため予想範囲を中心に調査を行ない、必要に応じて随時補足トレンチを設けて確認後に拡張する形をとった。調査に際しては、北側の畑地を借り上げて事務所・休憩所と土の仮置場を確保して行なった。

土層の掘り下げについては、重機を用いて表土とアカホヤ（Ⅶ）層を調査員立会のもと除去し、その他をおもに人力で掘り下げた。X層など無遺物層であることが確認できた層については、一部において、調査員の立会いのもと重機を使用して、慎重に薄く剥ぎ取る掘り下げを行なった。

発掘作業は調査員二人体制で作業員を二班にわけて、調査地内の二カ所を並行して作業を進めた。実測作業については、調査員の指示のもと委託業者が行なった。

調査区と呼称は、検出面1を東から1～4区、検出面2を東から5～8区と呼称しており、1・2区の下層が5～7区にある。

遺構検出はⅥ層上面とⅨ層上面の二回行ない、前者を検出面1、後者を検出面2とした。各検出面に対応すると考えられる包含層との間には大きな距離の開きがあるが、これは包含層と地山が共に黒色土であるため遺構検出が困難であり、調査期間の関係から十分な調査が実施できないと判断したこ



第7図 浜場遺跡 調査区配置

とから、確実に遺構の検出できる面において作業を行なったためである。

縄文時代早期の包含層の調査では、先ず、任意の位置に幅約3mの先行トレンチを入れて、すべて人力でⅦ-3層途中からⅪ層上面まで掘り下げた後、調査区全体に調査域を広げて行なった。一部で、トレンチの出土・検出状況に応じて重機などを併用した。結果として、層位的にはⅩ層が、平面的には5区北端部などを、重機を用いて掘り下げた。なお、先行トレンチは、5区東壁から南壁までと5・6区間土層観察ベルト（6区東壁）から6区南壁までの二カ所を調査区壁に沿って「L」字状に設定した。

なお、調査実施に際しては、安全確保のため数箇所において調査を断念している。場所と理由は、1区東側と北東隅が崩落の恐れがあるため、壁面から2～3mの幅をとって調査区を設定した。2・3区と3・4区の間には電柱があり、撤去できなかったため調査を断念した。また、掘削深度のある検出面2の調査では、調査区を検出面1の調査区端から1m内側にして段掘りを行なった。

## 2. 層序

### ア) 基本土層

土層は報告に際して基本土層を作成し、地表面から順番に番号を振った。調査中は、おもに衣にある呼称を用い、一部で番号を併用している。各土層の土質・土色は代表的なものを表にまとめている。おもな遺物の包含層としては、Ⅲ層とⅦ・Ⅷ層が挙げられる。前者が古墳時代、後者が縄文時代早期にあたる。前者には極少量の縄文時代晩期も含まれる。

以下、各層のおもな特長について記述する。

第1層 現在の表土から旧耕土までにあたり、本調査の調査理由である道路工事の搬入路整備層も含む。旧耕土の青みを帯びた黒色土には、火山に由来すると思

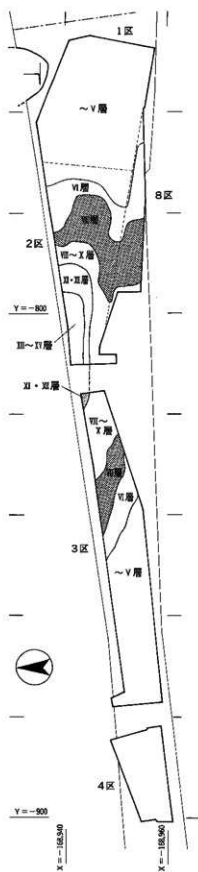
層番号	調査呼称	土色・土質の詳細
I-0	バラス	工事の搬入用の道路整備土
I-1	表土	5GY3/1暗オリーブ灰色土、非常に多量の1~5mm大の白色砂粒を含む
-2	旧耕土	2.5GY2/1黒色土、1~5mm大の白色砂粒を含む
II	クロボク	5PB2/1青黒色土
III	ミイケ	10YR3/2黒褐色土、よく締まる
IV	橙色砂粒	2.5Y2/1黒色土、1mm大の橙色砂粒を多量に含む
V	青黒	5PB1.7/1青黒色土
VI	イケダ	7.5YR2/2黒褐色土、0.5~2cm大の橙色砂粒を多量に含む
Ⅶ-1	アカホヤ1	2.5Y6/6明褐黄色土
Ⅶ-2	アカホヤ2	2.5Y6/8明褐黄色砂質土
Ⅶ-3	アカホヤ3	2.5Y6/8黄褐色砂質土、非常に粗い粒度、1~10mm大の明褐黄色砂粒を非常に多量に含む
VII	B1(クロ1)	N2/0黒色土、IX・X層に比べて柔い
IX	B2(クロ2)	2.5Y3/1黒褐色土、VII層に比べて硬い
X	B3(クロ3)	2.5Y3/3暗オリーブ褐色土、IX層に比べてさらに硬い
XI	サツマ1	2.5Y5/4黄褐色土、シミ状の斑点が見られる
XII	サツマ2	2.5Y7/6明黄橙色土、10YR7/8黄褐色の斑点状のシミが見られる
XIII		暗赤褐色土(5YR3/4)、1~5cm大の橙色軽石粒を多く含む
XIV	チョコ1	にぶい赤褐色土(5YR4/4)、粘性が強い
XV	チョコ2	10YR7/8黄橙色土、やや粘性を帯びる
XVI		2.5Y8/8黄橙色土、やや砂質、1~5cm大の橙色軽石粒を多量に含む
XVII		7.5Y7/3にぶい橙色土、1cm大の橙色軽石粒を含む

※破線部は検出面

第2表 基本土層と土色・土質詳細

われる白色砂粒を含んでおり、この噴出物の起源は大正期の桜島の噴火と考えられる<sup>2)</sup>。

- 第II層 他層より黒みを帯びた黒色土である。一部で遺物が出土しているが、第III層に由来するものと考えられ、一部では擾乱土層も存在する。
- 第III層 赤みを帯びた黒色土で、他層に比べてよく締まる。おもに古墳時代の遺物包含層である。当層は既往の調査では約4,200年前に噴出の「御池降下火山灰層」としてきた。そのため本調査においても「ミイケ」と呼称したが、その年代観については疑問があり、後述の自然科学分析において「御池降下火山灰層」とは異なることが指摘されている。
- 第IV層 やや赤みを帯びた黒色土に、2mm大以下の橙色砂粒を多量に含む。
- 第V層 青みを帯びた黒色土で、他層に比べてやや粘性がある。遺物がわずかに出土するが上層の遺構内遺物と考えられる。
- 第VI層 3cm大以下の橙色軽石を多量に含む。約5,500年前に噴出の池田降下軽石層に比定される。層上面は、おもに古墳時代に対応する遺構の検出面である。
- 第VII層 明るい橙色の砂粒及び砂質土で構成され、下層に行くにつれて粒度が粗くなる。約6,300年前に噴出のアカホヤ降下火山灰層に比定される。



第8図 浜場遺跡 削平状況

第Ⅷ～Ⅹ層 アカホヤ降下火山灰層と薩摩降下火山灰層に上下を挟まれた黒色土層であり、縄文時代早期の遺物包含層である。この三層は土層中に火山に由来すると思われる白色・橙色砂粒を多く含む。この砂粒はⅩ層にとくに多く含まれる。また、土質が他層に比べて硬質であり、3層の間での対比では、Ⅷ層は比較的柔らかいがⅦ層・Ⅷ層は非常に硬く、とくにⅧ層は硬い。土色の黒色はⅧ層が最も黒が強いが下層に行くにつれて薄くなる。遺物はほとんどがⅧ層・Ⅸ層に集中しており、Ⅹ層は無遺物層に近い。

第Ⅺ・Ⅻ層 黄色の砂質土にブロック状の斑点が見られ、約11,500年前に噴出の薩摩降下火山灰層に比定される。層上面は縄文時代早期に対応する遺構の検出面である。

第Ⅳ・Ⅴ層 茶褐色の粘質土で非常に強い粘性を帯びる。町内では未確認であるが、縄文時代草創期に相当する層と考えられる。

#### イ) 土層と旧地形

調査地は大きく削平を受けて旧地形は失われているが、第1層除去後の各層検出状況と土層断面から、旧地形は2区の西端を頂点とした緩やかな丘陵状地形であったと推定できる。調査範囲は、この頂点を境に東西に下る傾斜面となるが、西側比べて東側が急傾斜であり、西側は4区付近ではほぼ平坦となっている。各土層の状況については詳しくは図に示している。

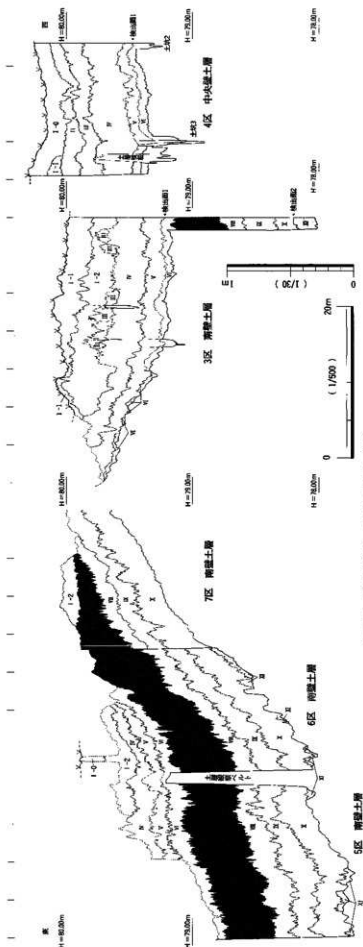
削平状況としては、調査地一帯が戦後すぐの耕地化<sup>3)</sup>により大きく削平され、さらに畑地は現在の機械耕作により深く削平が及んでいる。一方で調査対象範囲中央の未舗装農道部分は砂利層を取り除けば、前述の畑地よりは遺存状況が良い状態であった。

#### 3. 検出面1の調査成果

Ⅶ層上面において遺構の検出作業を行ない、多数の遺構を検出した。Ⅲ層より出土した遺物に対応するものと考えられる。時期は遺物から、おもに古墳時代にあたるものと考えられる。遺構ごとの時期決定については、遺構に伴う遺物がほとんど無かったため覆土を目安とした。ただし、近世から現代までもしくはそれ以前かという極めておおまかな区別しかできなかった。

なお、溝1とそれに並行する二つの円形土坑の列は、覆土から現代の排水路と芋穴<sup>4)</sup>であるとえられる。

第9区 浜野土層(1)



ア) 遺構配置と地形

遺構は、東側の1区・2区東半と西側の3区西半・4区に集中するが、これは前述の削平によるものと考えられ、本来は2区西半から3区東半にかけても遺構が存在したと思われる。

土層からはVI層上面での地形状況が、前述の復元された旧地形とほぼ同様であることが分かる。この地形に対しての遺構の分布は、東側に柱穴が多く、西側には柱穴に加えて複数の土坑が見られる。さらに遺構の分布密度は東側に比べて、西側にやや密集する。

イ) 遺構配置と遺物分布状況

遺物も遺構と同様に、東側の1区・2区東半と西側の3区西半・4区に集中するが、前述とおり、これは削平により包含層が消滅したためである。しかし、包含層の残存する範囲内においても偏りが見られており、東側では1区北東隅の掘立柱建物1の周囲に遺物が集まる。西側では3区西半分の南側に遺物が偏り、この範囲には柱穴・土坑が集中している。また、4区東側の樹根痕とした範囲に土器の接合資料が集中している。

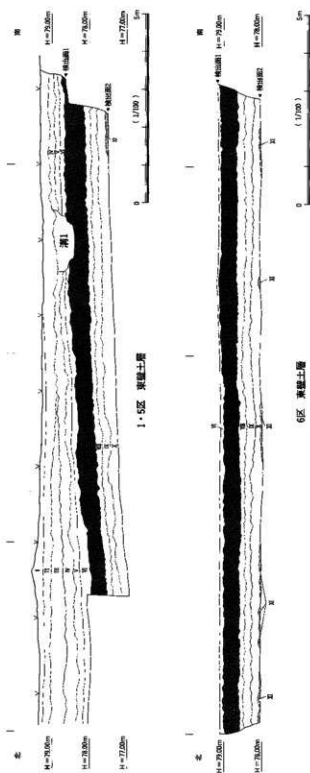
ウ) 遺構

a. 柱穴と掘立柱建物・柱列

多数の柱穴を検出した。そのうち調査中に施設として復元できたのは後述する掘立柱建物1棟のみである。しかし、その後の整理・検討において掘立柱建物1棟と上層構造は不明であるが何らかの施設跡と考えられる8基の柱列を想定した。いずれも詳しい時期は不明である。

柱穴は町内の他の遺跡で見られるものと同様に二段掘りのものが見られる。





第10図 浜場遺跡 調査区土層 (2)

いずれも掘り方は整うが、柱列6の柱穴は凹凸の激しい掘り方をもっている。

なお、各施設の性格は不明であるが、町内の牧遺跡<sup>9)</sup>において柵と思われる遺構が見つかり、日本書紀の記述から馬飼育に関する施設が考えられる。類推できるものとしては、柱列2・7が囲い柵、柱列4・5が牛馬のつなぎ場であろうか。その他については不明である。以下、個別に記述する。

#### 掘立柱建物 1

1区北東隅で検出した。調査範囲内で最も低い緩斜面上に位置する。周囲には西側・南側に柱穴が存在しており、庇などの付属施設にあたる可能性が考えられる。平面形が梁行1間×桁行2間の長方形を呈して、東側のPit 1・6間がやや狭くなる。梁行2.8m×桁行6.6mで総床面積18.5㎡を測る。

#### 掘立柱建物 2

3区東半で検出した。周囲は削平が激しく、柱穴などは見られない。平面形は梁行1間×桁行1間の長方形を呈する。梁行1.9m×桁行3.5mで総床面積6.7㎡を測る。

#### 柱列 1

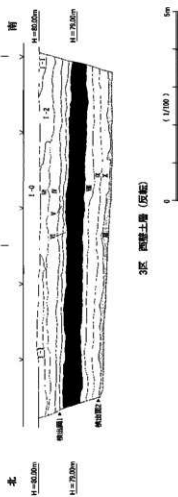
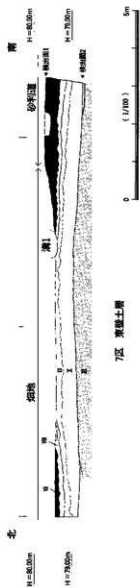
2区南端で検出した。柱穴が1列に並ぶが柱間距離は不規則である。柱列の長さは12.3mを測る。現代の溝1と並行するが覆土が異なり、それ以前の古い遺構と考えられる。性格は不明であるが柵などが想像される。

#### 柱列 2

2区北端で検出した。柱穴がほぼ一定の距離で巡り、平面形が楕円形を呈する。平面規模は長軸13.3m×短軸7.8mを測る。南東部の外に突き出す形でPit 2・4が配される。Pit 2・4間は3.2mを測る。性格は不明であるが、突出部を出入口とした牛馬の囲い柵などが想像される。

#### 柱列 3

1区中央で検出した。三つの柱穴が極めて近接して存在する。平面形は三角形を呈しており、掘形はこの三角形の中央に向かって傾いている。三つの柱穴に埋設された柱は上方で交差していたこ



第11図 浜場遺跡 調査区土層 (3)

とが考えられる。当町における古墳時代の調査においてよく見られるものであるが、性格は不明である。

#### 柱列 4

3区西半で検出した。柱穴が北東側の開いた馬蹄状に巡り、柱間がほぼ一定している。内部に1基の土坑が存在するが、柱列とセット関係にあるかは不明である。平面規模は開放部2.0m×長さ2.1mを測る。

#### 柱列 5

3区西端で検出した。柱穴4と同様に柱穴が北東側の開いた馬蹄状に巡る。柱間はあまり一定しない。柱穴4と比べると柱配置が乱れている。平面規模は開放部1.7m×長さ1.4mを測る。

#### 柱列 6

4区西端で検出した。9基の柱穴が円形に巡り、平面規模は径3.0mを測る。柱間が一定すると考えられる。Pit 1～6は平面配置が六角形を呈する。Pit 2・3間にはPit 7～9が一定の間隔で並んでいる。

#### 柱列 7

4区東半で検出した。5基の柱穴が弧を描くように巡る。調査区外にまで広がり柱列2と類似した施設と考えられる。柱間がPit 1～3間に比べてPit 3～5が約半分の間隔となる。

#### 柱列 8・9

2区中央の柱列8と3区西端の柱列9は類似しており、3基の柱穴が直線状に並んでいる。

### b. 土坑 (1～5)

土坑は分布がやや偏っており、1・2区の掘立柱建物1と柱列2の間、溝1周辺、柱列1周辺、3区の西半に偏る。今回の調査では各土坑の性格などは把握できなかった。

以下、おもなものについて記述する。

#### 土坑 1

1区南端の溝1の底面から検出した。溝1に切られている。中央に柱穴状の掘り込みが見られる。形態は平面形が歪な円形で、断面形が二段掘りを呈する。法量は一段目が長軸78cm×短軸63cm×深さ13cm、二段目が長軸63cm×短軸58cm×深さ34cmを測る。

#### 土坑 2

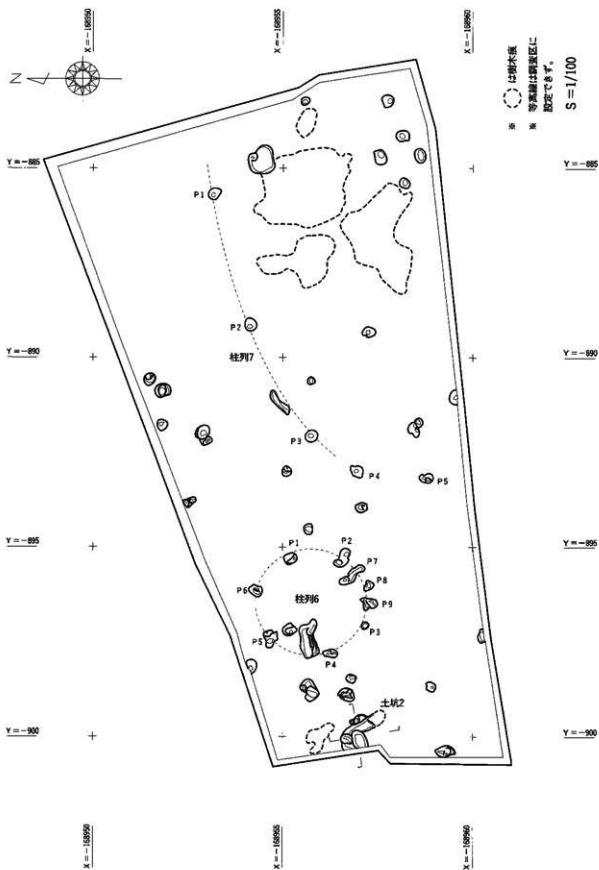
4区西端で検出した。中央に柱穴状の掘り込みが見られる。形態は平面形が歪な円形で、断面形が不明瞭であるが二段掘りを呈する。法量は一段目が長軸(95)cm×深さ13～31cm、二段目が長軸(46)cm×短軸37cm×深さ41cmを測る。

#### 土坑 4

3区西半で検出した。底面に五つの柱穴状の掘り込みが見られる。形態は平面形が歪な円形で、断面形は二段掘りを呈する。法量は径108cm×深さ4～56cmを測る。柱穴はPit 1が径19cm×深さ35cm、Pit 2が径16cm×38cm、Pit 3が径24cm×57cm、Pit 4が径22cm×32cm、Pit 5が径20cm×55cmを測る。

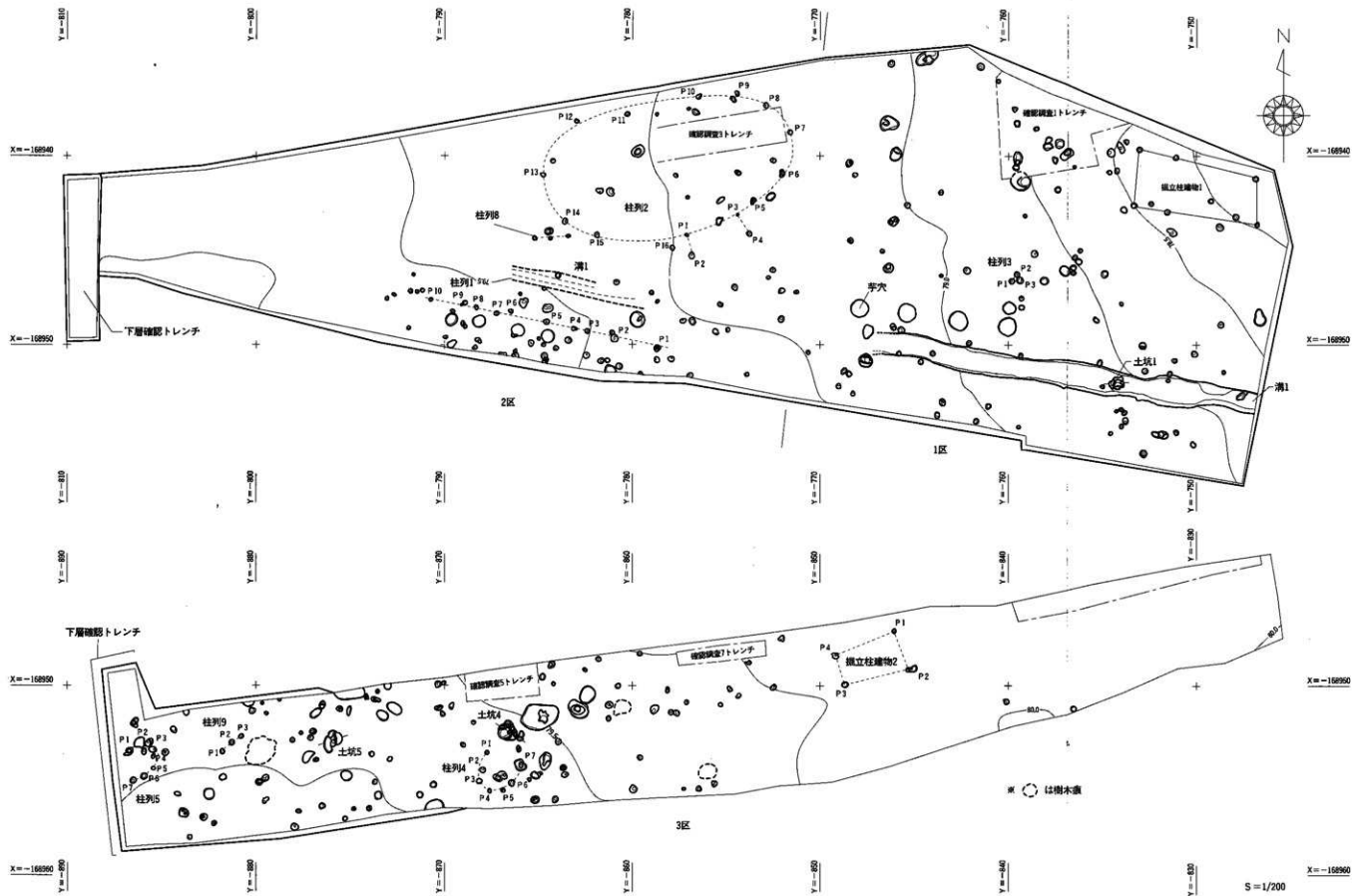
#### 土坑 5

3区南半で検出した。中央に柱穴状の掘り込みが見られる。形態は平面形が歪な円形で、断面形が二段掘りを呈する。法量は一段目が長軸98cm×短軸81cm×深さ6～10cm、二段目が長軸80cm×短軸22cm×深さ40cmを測る。

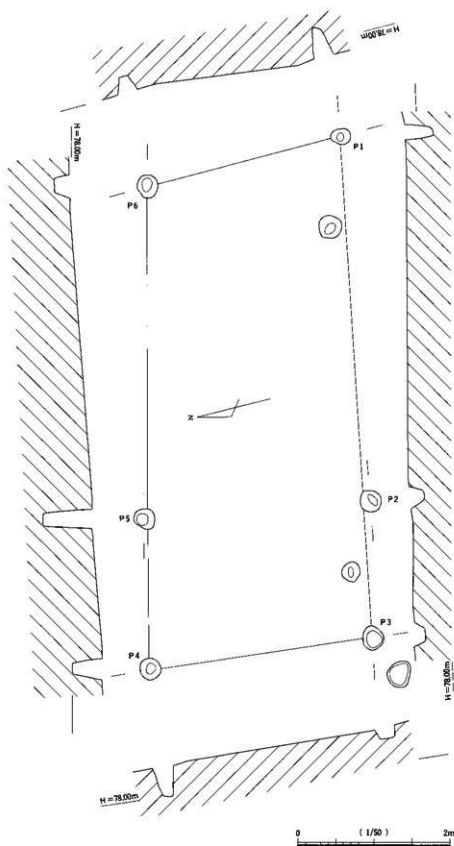


第12図 浜場遺跡 4区 VI層上面 遺構配置と地形





第13図 浜場遺跡 1～3区 VI層上面 遺構配置と地形



### 掘立柱建物 1

Pit No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	20	35
P2	28	20
P3	33	15
P4	28	40
P5	26	65
P6	30	20

### 柱間距離 (cm)

P1-P2	482
P2-P3	185
P3-P4	297
P4-P5	198
P5-P6	440
P6-P1	263

### 掘立柱建物 2

Pit No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	25	34
P2	60×21	24
P3	29	14
P4	29	58

### 柱間距離 (cm)

P1-P2	215
P2-P3	348
P3-P4	158
P4-P1	346

第3表 浜場遺跡 VI層上面  
掘立柱建物の  
柱穴一覧

第14図 浜場遺跡 VI層上面 掘立柱建物 1

柱列 1

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	35	28	P1-P2 280
P2	38	43	P2-P3 150
P3	25	30	P3-P4 650
P4	30	14	P4-P5 160
P5	35	36	P5-P6 190
P6	22	24	P6-P7 800
P7	25	24	P7-P8 110
P8	20	8	P8-P9 60
P9	25	5	P9-P10 180
P10	18	13	

柱列 2

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	20	19	P1-P2 110
P2	30	16	P2-P3 320
P3	15	20	P3-P4 120
P4	25	36	P4-P5 180
P5	25	14	P5-P6 220
P6	45×20	19	P6-P7 220
P7	25	32	P7-P8 190
P8	25	61	P8-P9 180
P9	35×20	16	P9-P10 180
P10	25	13	P10-P11 400
P11	28	21	P11-P12 270
P12	20	16	P12-P13 330
P13	25	16	P13-P14 270
P14	25	19	P14-P15 180
P15	25	27	P15-P16 410
P16	25	26	P16-P17 110

柱列 3

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	30	26	P1-P2 50
P2	28	10	P2-P3 35
P3	35	22	P3-P1 45

柱列 4

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	21	28	P1-P2 90
P2	31	40	P2-P3 66
P3	30	6	P3-P4 78
P4	18	31	P4-P5 61
P5	22	32	P5-P6 64
P6	30	47	P6-P7 112
P7	60×46	38	P7-P1 194

柱列 5

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	57×27	53	P1-P8 78
P2	48×34	56	P3-P4 59
P3	41×30	43	P4-P5 67
P4	26×16	26	P5-P6 64
P5	22	8	P6-P7 65
P6	33	15	P7-P1 157
P7	31	54	
P8	33×24	42	
P9	34	55	

柱列 6

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	34	16	P1 P2 138
P2	54×24	23	P2-P3 196
P3	20	12	P3-P4 108
P4	40×20	54	P4-P5 172
P5	46×34	68	P5-P6 146
P6	38×26	54	P6-P7 234
P7	76×16	37	P7-P8 66
P8	28×20	11	P8 P9 46
P9	34×20	14	P9-P1 236

柱列 7

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	36	38	P1-P2 360
P2	30	48	P2-P3 330
P3	34	58	P3-P4 150
P4	30	69	P4-P5 180
P5	36×20	25	

柱列 8

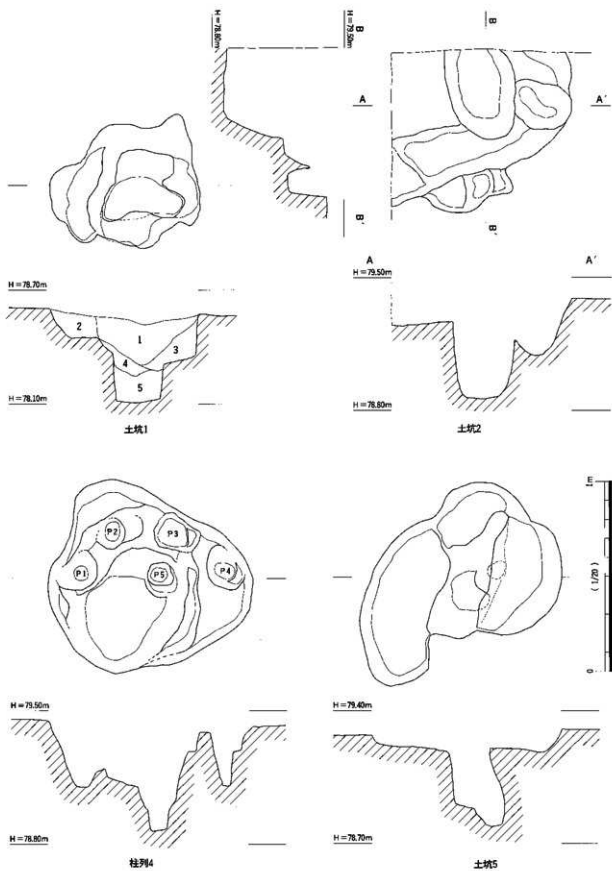
Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	20	53	P1-P2 80
P2	18	35	P2-P3 100
P3	25	31	

柱列 9

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	28	21	P1-P3 71
P2	31	53	
P3	27	64	P2-P3 61

第4表 浜場遺跡 VI層上面 柱列の柱穴一覧





第15圖 浜場遺跡 VI層上面 土坑1・2・4・5

## エ) I～V層出土の遺物

遺物はI層からV層にかけて出土した。しかし、ほとんどの遺物はII・III層から出土しており、I・IV・V層の遺物はII・III層に含まれた遺物の削平による移動や遺構などによる落ち込みなどと考えられる。また、II層についても、層中に桜島の大火期に噴出・堆積したと考えられる白色砂粒が見られることから、近代に攪乱を受けていると推測される。以上のことから遺物が原位置を保持しているのはIII層であり、その他の層から出土した遺物もほとんどがIII層に由来するものと考えられる。時期についてはおもに古墳時代であるが、一部に縄文時代晩期のもも見られる。

### a. 遺物の分布状況

おもな分布状況としては前述のとおりであるが、比較的集中する東側の1区北東隅と西側の3区西半分の南側においては、それぞれ石楯が見られる。とくに西側集中範囲の石楯40は磨製である。しかし、他に石器は見られない。土器は挿図番号1・3・4・5・7・10が接合資料であるが、接合する土器片は離れても5m程度と近い。

### b. 土器(1～36)

土器は、凶化しなかったものも含めても斐の数量が極端に少なく、高杯が多く見られる。また、一部を除けば破片が多く、二次焼成の痕跡が見られるものも多い。他にも高温焼成による変成土器片と思われる60I～604が存在しており、色調は灰白色を呈する。また、1点ではあるが須恵器があり、タキ目の残る壺の胴部片600である。

時期としては、古墳時代の「成川式」であり、中村編年<sup>9)</sup>の中津野式を中心にする。一部、小型丸底壺24～27が東原式に、椀28・29を高杯の口縁部とすると辻堂原式に比定できるなど新しい様相も見られる。

以下、凶化できたものについて器種別に略述し、詳細について観察表に記述する。

壺は土器1～10があり、いずれも被熱の痕跡が見られる。土器1・2・5・10と土器3・4・6の胎土が類似する。

土器1は最も遺存状態がよく胴部上半まで残る。丸い口縁端部に外反する口縁をもち、頸部はやや屈曲が強い。口縁部内部に端部から1cm下に薄い黒色の帯が巡っており、蓋使用の痕跡であろうか。

土器2はやや外反する口縁に端部が平坦な面をもち、端部内面が上方にわずかに隆起する。

土器3・4は類似しており、同一個体と考えられる。東九州系の土器の特徴をもって、口縁の内外面に接合痕がみられ、胴部内面には非常に明瞭な接合痕が残る。

土器5は胴部最大径に1条の刻目突帯が巡る。突帯は貼り付けであり、高さ5mm×幅8mmを測って、刻目が7～10mm間隔で刻まれる。刻目は工具状のもので刻まれたと考えられる。

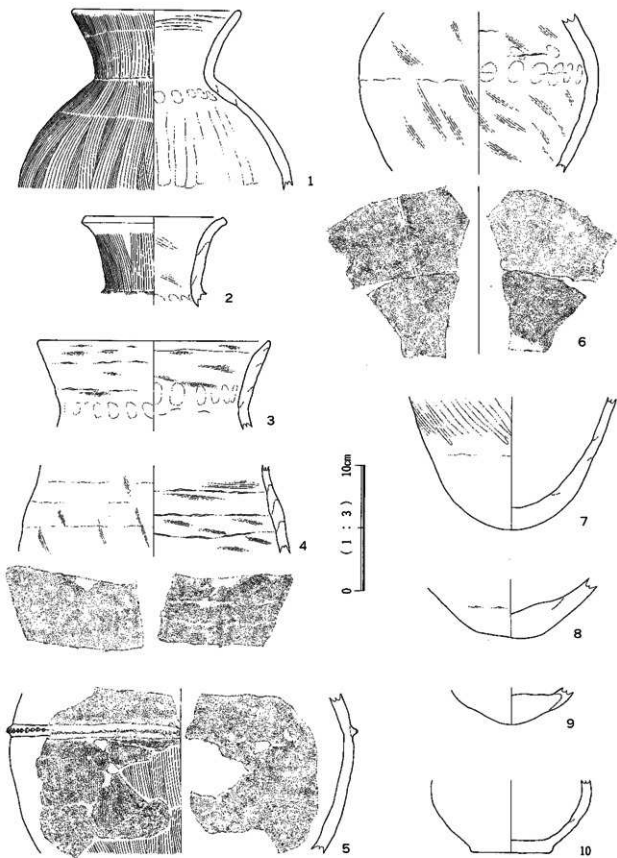
土器6は胎土・色調などが土器3・4に類似する。非常に器面の遺存状態が良い。

土器7～9は底部で、土器7・9は緩やかな尖り底、土器8は径45mm程のやや不明瞭な平底をもっている。

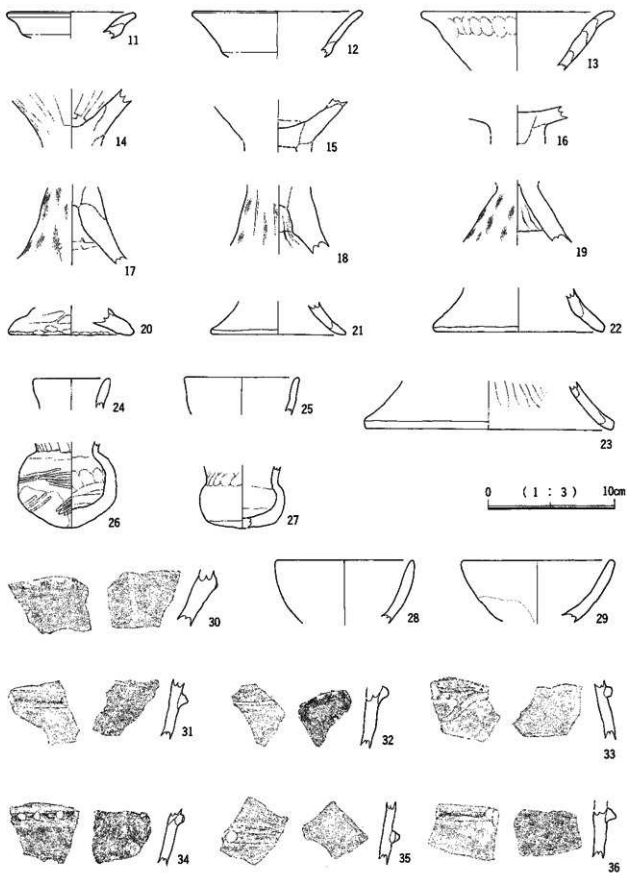
高杯は土器11～23があり、削平により遺存状態は悪い。被熱を受けたと考えられるものが多くあり、使用の状況は供膳のみでなく、転用などが考えられる。杯部の口縁は土器11・12が途中で強く屈曲して外反する。土器13はやや厚い器壁が直線的に延びて、端部が外反する。土器13は脚部の可能性も考えられる。土器15は接合部で割れており二重口縁状に接合したと考えられる。脚部との接合では土器16・17・18に充填法が見られる。脚部は土器20のみ屈曲が強いと思われる。土器23は端部が平坦な面



第16図 浜場遺跡 I~V層 遺物分布状況



第17図 浜場遺跡 I～V層出土の土器(1)



第18図 浜場遺跡 1～V層出土の土器(2)

探区 番号	遺物 番号	出土 層位	発祥・ 部位	断面の状況と色調		断面		土上と発掘時 含有量・埋没・位度	備考
				断面	断面	断面	断面		
1	216.219, 220Hカ	Ⅲ	釜 口縁-胴	やや赤色化	胴部下に向かって うすく黒色の縦線が びらり、口縁部から 胴部にかけて5mm前 後の円形割痕が多く 見られ、胴部にも大 きな割痕が見られる	膨熱した縦のハ ケメ(6本/cm)、割 痕でやや凸れる	口縁部・釜のハケ メ・胴部・釜のナデ、 肩部に凸が見られ る。縦方向のナデ、 最後に指痕の残る 粗いナデを施す	やや粗い筋十 面肌はやや凸が 多い。石英・長石・ クアレ種や赤褐色砂 粒・黒色砂粒。赤褐 色砂粒が4mmを測る ものがある。他は 2・3mm大以下	口縁部内部に筋 部から1cm下で薄 い黒色の帯びが漂 う。粘土結合は、不 明であるが、口 縁・胴部に割痕、 胴部が外れる
2	359	Ⅲ	釜-口 縁	やや赤色化し、口 縁から胴部に向か ってゆるがすい黒色 化範囲が見られる	下方に行くにつれ うすく黒色化し、 5mm大以下の円形割 痕が見られる	口縁部を横のナデ で整然とした縦 のハケメ(6本/cm)	横のナデに、一 部、 ナデの下に斜めの ハケメが胴部に残 る	1に類似	
3	5.37	Ⅲ	釜-口 縁	やや赤色化する。 赤色化は縦方向の帯 状に見える。 接合痕がナデ面し されずにおわずかに残 る	口縁部に歪みず かに3mm大の円形割 痕が見られる。 胴部に接合痕が一 部残る	縦の粗いナデ、一 部に浅く細かいハケ メ(12本/cm)が見ら れる	横の粗いナデ、一 部に浅く細かいハケ メ(12本/cm)が見ら れる	精緻な筋十 面調に心黒・灰心・ 赤褐色砂粒・黒色砂 粒を含む。粒度はお もに1mm大以下の大 きである	粘土結合は内積 する
4	223.226 11カ	I・II	壺-胴	わずかに赤色化	明瞭な接合痕が残 る	丁実な横のナデ、 一部に浅く細かいハ ケメ(12本/cm)が見 られる	丁実な横のナデ、 一部に浅く細かいハ ケメ(12本/cm)が見 られる	3に類似する	
5	289.288 11カ	Ⅲ	壺-胴	やや赤色化し、残 存下部から5cm程 10mm以下の円形割 痕がやや多く見られ る	全面が黒色化し、 全面に10mm大以下 の円形割痕が多く見 られる	縦のハケメ(6本/ cm)	横のハケメが粗い ナデであろうか	1に類似するが、 含有量が多い	外壁に貼り付け 崩れ目帯が1条通 る粘土結合は外積 か
6	4区北平 一筋	I	釜-胴	最大径付近に黒化 物の付着が見られ、 残存下部部に赤色化 と割痕が見られる。 一部、黒線がうすく 残る	最大径付近に黒化 物の付着が見られ、 残存下部部に赤色化 と割痕が見られる。 一部、黒線がうすく 残る	最大径を挟んで上 が横のナデ、下が斜 めのナデ、一部に浅 く細かいハケメ(12 本/cm)が見られる	左上がりの斜めの ナデ、一部に浅く細 かいハケメ(12本/cm) が見られる	3に類似する	内積であろうか
7	50.50	Ⅳ	壺-底	赤色化して、全面 が厚けるが、残存上 部部から5cm下がと く厚く、黒化物が 付着する。帯状に通 る	やや赤色化して、 全体に5cm大の円形 割痕が見られるが、 残存上部部から5cm 下には割痕が多く見 られる。帯状に通 る	1本左上がりの 斜めのナデとミガキ 裏面は横のナデ、砂 粒の移動による筋も 見られる	横のナデ	3に類似する	
8	22212カ	Ⅲ	壺-底	やや赤色化した部 分が見られる。全体 に厚着する	断面は粗く割痕 して、厚着しない。 全面が黒色化する	不明	不明	やや密な筋十 面肌はやや凸が 多く、石英・長石・ クアレ種や赤褐色砂 粒・黒色砂粒・白色 砂粒、赤褐色砂粒が 5mmを測るものがある。 他は2mm以下	
9	4区北平 一筋	I	釜-底	赤色化する	赤色化する	粗いナデ	やや粗いナデが器 壁に沿って残る	密な筋十 面肌はやや凸が 多く、石英・長石・ク アレ種や赤褐色砂粒 ・黒色砂粒を含む 含有量が多い	両面に貼り付け であろうか
10	179.175 11カ	SD1	小型壺 -底	やや赤色化し、底 面から残存上部部ま で5mm大の円形割痕 が多く見られる	全面が非常に多量 の細かい割痕で厚着 する	断面・底面とミガ キ裏面と思われるが 厚着して不明	断面により不明	1に類似するが、 含有量が多い	
11	272	II	高杯-杯	赤色と黒色の範囲 が見られる	赤色と黒色の範囲 が見られる	横のナデ	横のナデ	精緻な筋七 1mm大以下の石 英・長石・クアレ種 を少量含む	
12	練丁ミ イテ層中	(B)	高杯-杯	やや赤色化して、 3mm大の円形割痕が わずかに見られる	赤色化して、口縁 縁部から10mm前後 下に3mm大の円形割 痕が非常に多く見ら れる	横のナデ	横のナデ	11に類似	
13	271	Ⅲ	高杯-杯	やや赤色化して、 一部で黒色範囲が見 られる	やや赤色化して、 一部で黒色範囲が見 られる	横のナデ、底部に 指痕残痕が見られ る	横のナデ	11と類似	
14	36	II	高杯-杯	やや赤色化する	赤色化する	横のナデ、縦に工 具痕が見られる	横のナデ、縦に工 具痕が見られる	11と類似	
15	279	II	高杯-杯	やや赤色化する		横のナデ	横のナデ	11と類似	光澤法?
16	242	Ⅲ	高杯-杯	わずかに赤色化す る	非常に赤色化して、 少量の3mm大の円形 割痕が見られる	横のナデ	横のナデ	11と類似	光澤法
17	374	I	高杯-杯	わずかに赤色化す る		横のナデ、一部、 その下に縦のハケメ が残る	横の粗いナデ	11と類似	光澤法
18	259	Ⅳ	高杯-杯	一部がうすく黒色 化する	黒色化する	横のナデ、一部、 その下に縦のハケメ が残る	横の粗いナデ	11と類似	光澤法
19	268	Ⅲ	高杯-杯	一部がうすく黒色 化する	黒色化する	横のナデ、一部、 その下に縦のハケメ が残る	横の粗いナデ	11と類似	光澤法
20	281	II	高杯-杯			指痕残痕が残る粗 いナデ	粗い横のナデ、層 部には指痕残痕が見 られる	11と類似	

第5表 浜場遺跡 I~V層 土器観察表(1)

発見 番号	遺物 番号	出土 層位	器種・ 部位	器面の状態と色調		洞 空		胎土と混相材 含有量・層厚・粒度	備 考
				外面	内面	外面	内面		
21	3区南半 4区南半	I	高杯・脚 高杯・脚	わずかに赤色化す る	わずかに赤色化し て、少量の3mm大の 円形剥離が見られる	横のナデ	横のナデ	11と類似	
23	301	III	高杯・脚	赤色化する	赤色化して、少量 の3mm大の円形剥離 が見られる	横のナデ	横のナデ	11と類似	
24	291	II	小型丸底 甕一口縁			横のナデ	横のナデ	11と類似	
25	252	III	小型丸底 甕一口縁	赤色化して、少量 の3mm大の円形剥離 が見られる	やや赤色化して、 少量の3mm大の円形 剥離が見られる	横のナデ	横のナデ	精緻な胎土。 1mm以下の子実・灰質・アサヒ礫 や赤褐色砂粒を少量含む。 赤褐色砂粒は 5mm大を超えるもの も見られる	
26	227	III	小型丸底 甕一胴	黒斑が見られる 全体に2mm大の円形 剥離がわずかに見ら れる		横の粗いナデの後に、 横のミガキが施され る	横の粗いナデ	11と類似	
27	4区南半 一括	I	小型丸底 甕一胴	黒斑が見られる	器面が白色化する	横の粗いナデ、胴部 に黒斑は痕が見られ る	横のナデ	やや粗い胎土に、 1mm以下の子実・ 灰質・クワレ礫や黒 色砂粒を少量含む	
28	4区南半 一括	I	瓶・口縁	黒斑が見られる		横のナデ	横のナデ	25と類似	
29	4区南半 一括	I	瓶・口縁			横のナデ	横のナデ	25と類似	

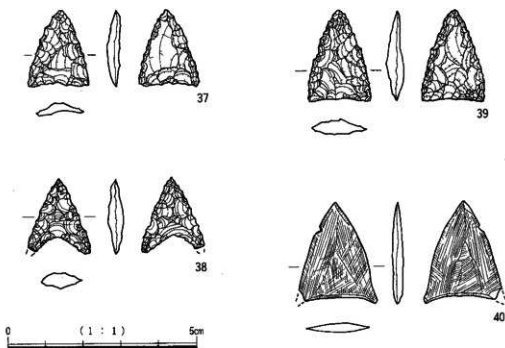
第6表 浜場遺跡 I～V層 土器観察表(2)

をもっている。

小型丸底甕は土器24・25・26・27があり、口縁部はいずれも直立気味であるが、胴部底面は比較的  
面をもつものと丸いものに分かれる。土器27は内面がやや白色化する。

土器28・29は高杯の口縁部の可能性があるが瓶とした。両者は同一個体の可能性も考えられる。

破片であるが土器30～36には突帯文が見られた。土器30・34・35は縄文時代晩期のものであろうか。



第19図 浜場遺跡 I～V層出土の石器

挿図 番号	遺物 番号	出土位置		種類	器種	石材	法量 (cm, g)			
		地区	層位				長さ	幅	厚み	重さ
37	6	1	III	剥片石器	石鏃	頁岩	2.0	1.60	0.35	0.9
38	34	1	III	剥片石器	石鏃	チャート	2.0	(1.65)	0.40	0.8
39	44	1	II	剥片石器	石鏃	頁岩	2.4	1.65	0.45	1.3
40	277	3	III	剥片石器	磨製石鏃	頁岩	2.7	(2.05)	0.25	1.3

第7表 浜場遺跡 I～V層 石器一覧

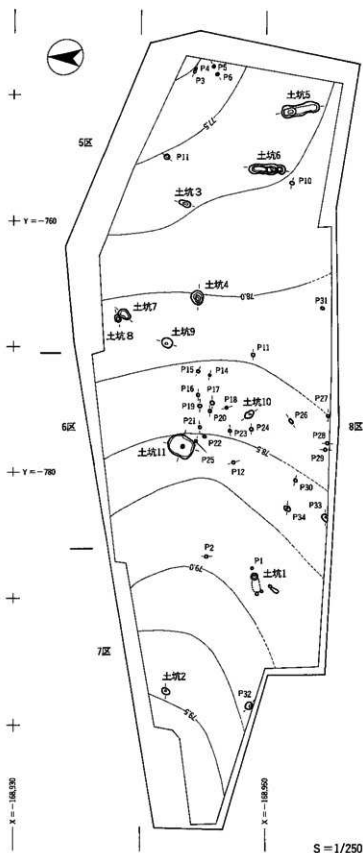
### c. 石器 (37～40)

石鏃は4点出土した。その他に攪乱層から軽石製品606が出土している。

石鏃は打製37～39と磨製40があり、打製は形態から石鏃37・39と石鏃38に分けることができる。また、磨製石鏃40は打製石鏃37・39の形態に近い。石材については打製石鏃38のみが白色チャートである。

石鏃37・39・40と石鏃38は時期が異なる可能性も考えられる。





第20図 浜場遺跡 XI層上面 遺構配置及び地形

#### 4. 検出面2の調査成果

調査は確認調査と先行トレンチの成果から1・2区下に遺物の分布範囲が拡がると推測し、東から5～7区と呼称して実施した。なお、8区は縄文時代早期のみの調査である。

検出面2は、遺物包含層であるⅧ・Ⅸ層を掘り下げて、Ⅺ層上面で遺構精査を行った。時期は縄文時代早期と考えられる。なお、包含層と検出面との垂直差は、包含層下端であるⅩ層上面から20～30cmを測る。

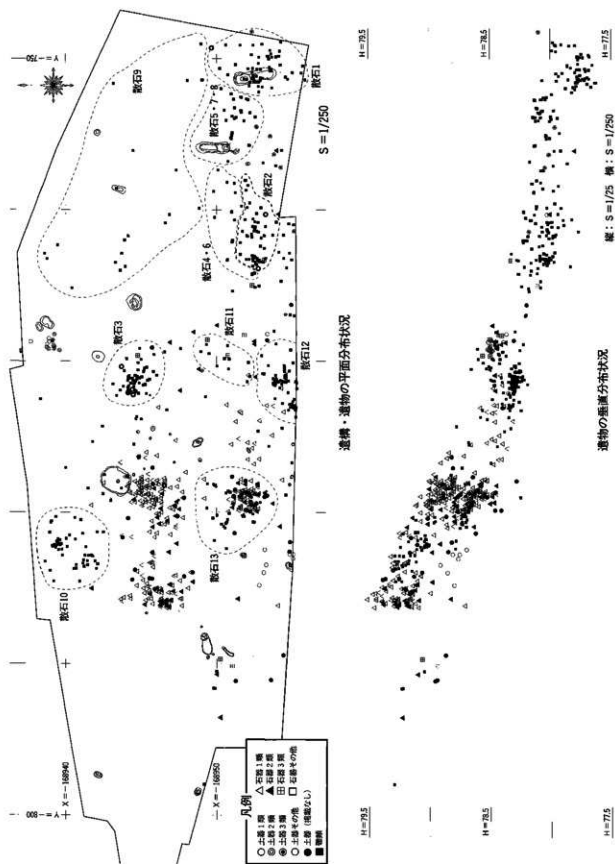
おもな成果としては、石鏃製作跡と思われる範囲を三ヶ所確認している。石材は町内では始めて出土したもので風化の激しい黒色安山岩である。一方、土器の出土は極少量である。遺構は柱穴34基・土坑11基を検出した。土坑5・6が「連穴状土坑」に、土坑11が「竅穴状土坑」にあたる。集石は明確なものは見られなかったが、礫の密度が「集石遺構」に比べると極めて疎な散石状の礫の集まりを13基確認した。

各遺構の詳細な時期については、遺構内より遺物が出土していないため不明である。

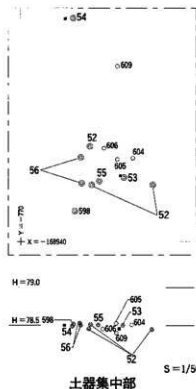
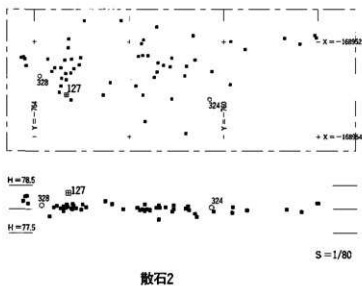
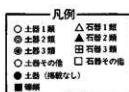
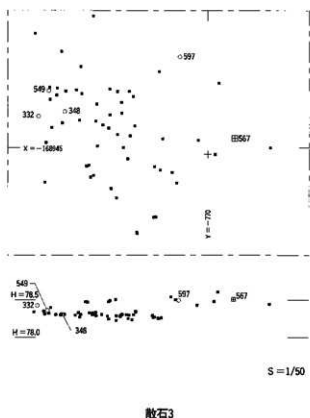
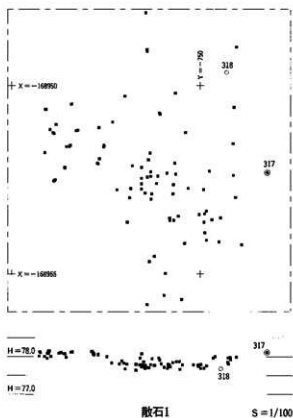
#### ア) 遺構配置と地形

遺構は7区西半のみ検出面まで削平される。全体の配置状況としては、遺構が調査範囲中央と南東端に比較的集まる。中央部はとくに密集しており土坑11の南には柱穴群と剥片集中部が重なる。

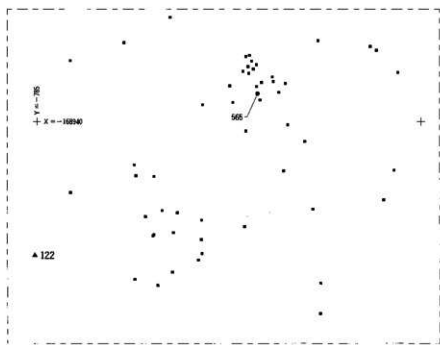
南東端部は中央に比べると遺物・遺構ともに疎であるが、土坑5・6と散石が重複して存在する。



第21図 浜場遺跡 検出面2 遺構・遺物分布状況



第22図 浜場遺跡 VII~X層 散石1~3・土器集中部



H = 80.0

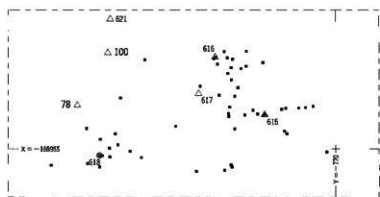
H = 79.5

122▲

H = 79.0



散石10



H = 78.5

H = 77.5



散石12

## イ) 遺構

### a. 散石 (1~13)

調査区内に出土した礫を比較的集まる範囲で、人為的行為の結果としての散石状遺構ととらえて散石と呼称した。全部で13基を数える。散石番号は調査の都合で付されており、実際の礫群としての範囲は散石1・5・7・8、散石2・4・6、散石3、散石10、散石11・12、散石13と考えられる。

各散石を構成する礫に大きな違いは見られず、基本的に川原石と思われる角の丸い円礫とそれが破砕した角礫が見られ、一部で赤色化するものも見られる。出土礫の総重量は23,696gを量る。

散石1~3・10・12には比較的礫の集まる範囲が見られる。とくに散石1~3は垂直分布において最も集中する範囲が低くなり、全体的にレンズ状の分布を示す。

散石3については、調査時において同法量の礫が比較的密に集まるなど、他とやや異なる点が見られた。礫法量の比較でも同様の傾向がある。構成礫はやや赤色化し、一部は破砕する。近接する土坑4・土坑9とはセット関係の可能性があり、「集石」に見られる集石部と掘り込みになる可能性も考えられる。

各散石の詳細については表に述べる。

第23図 浜場遺跡 VII~X層 散石10・12

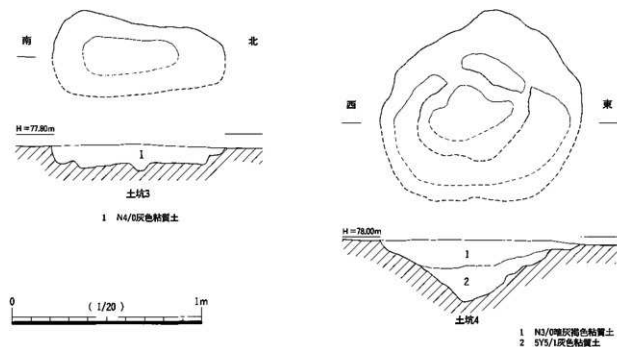
## b. 土坑 (1~11)

土坑は11基を数え、円形を基調とした形態をとる。特徴的なものとしては、土坑5・6と土坑11が挙げられる。土坑5・6は形態から「連穴土坑」と考えられ、床面の深部が「燃焼部」にあたると考えられる。「連穴土坑」と考えられる両者であるが、ほぼ同規模で並行するにもかかわらず「燃焼部」を逆に持っている。土坑11は「竪穴状土坑」である。底面から施設の上層構造を復元できる柱穴など検出できなかったが、土坑の周囲に数基の柱穴が見られた。近接する下堀遺跡の調査成果を考慮すると柱穴の検出漏れの可能性が高いことから、土坑の周囲に柱列が巡る形の竪穴住居の可能性が考えられる。他に土坑4・9が平面円形に逆三角形の断面を持ち、他の土坑とはやや異なる形態をとる。

以下、個別に述べる。

	総個数	総重量	標平均法量 (mm・g)			備 考
			長さ	幅	重さ	
散石 1	57	2219.77	47.04	19.46	38.94	
散石 5・7・8	26	1969.35	52.99	24.13	75.74	
	83	4189.12	48.91	20.91	50.47	散石 1・5・7・8 の合計
散石 2	52	3524.58	52.03	23.15	67.78	
散石 4・6	27	1166.29	44.58	18.92	43.20	
	79	4690.87	49.49	21.71	59.38	散石 2・4・6 の合計
散石 3	44	4065.44	61.59	46.31	92.40	
散石 9	28	1770.86	57.56	20.10	63.25	
散石10	50	2140.40	47.83	20.17	42.81	
散石11	13	232.82	40.35	13.94	17.91	
散石12	59	3609.85	51.30	23.83	61.18	
散石13	36	2056.43	53.73	20.96	57.12	

第8表 浜場遺跡 VII~X層 散石一覧



第24図 浜場遺跡 XI層上面 土坑3・4



### 散石10

	長さ	幅	高さ	10	58.79	10.34	54.35	21	52.80	17.71	22.26	32	42.89	12.94	13.70	42	26.65	13.80	7.14
1	77.62	15.35	76.87	11	54.78	15.80	27.47	22	42.39	17.33	25.03	33	39.32	22.31	26.60	43	28.32	15.07	9.60
2	69.92	28.16	120.30	13	89.70	42.12	173.12	23	45.50	31.25	43.58	34	41.49	25.90	21.73	44	32.55	9.38	5.80
3	58.19	17.85	34.09	14	70.83	41.60	168.09	24	46.96	23.28	27.89	35	38.29	23.07	21.67	45	26.57	13.83	8.44
4	60.78	21.17	63.30	15	57.20	37.84	115.38	25	51.06	10.25	24.96	36	41.12	11.57	13.95	46	24.39	15.93	7.22
5	68.89	36.46	109.74	16	61.63	36.30	108.30	27	45.86	15.63	28.92	37	41.63	11.00	12.87	47	28.74	8.06	2.86
6	81.13	22.26	51.50	17	51.54	34.20	82.54	28	47.37	14.17	21.89	38	33.92	19.98	16.73	48	25.73	13.25	5.79
7	37.31	23.94	86.64	18	80.91	13.33	51.57	29	48.18	10.29	17.77	39	37.75	17.57	15.56	49	22.36	14.61	5.00
8	45.42	24.72	33.26	19	47.45	17.80	21.60	30	40.34	14.30	18.39	40	32.78	14.80	14.85	50	26.03	8.31	2.29
9	59.24	22.94	110.86	20	45.76	27.11	36.28	31	41.54	18.40	27.02	41	29.77	14.22	8.84				

### 散石11

	長さ	幅	高さ	4	43.28	17.97	21.28	8	42.82	14.90	16.67	12	21.25	4.86	2.43
1	54.74	25.37	37.69	5	45.75	18.00	24.39	9	45.14	18.72	15.67	13	22.88	7.14	2.56
2	56.69	16.89	36.68	6	42.33	5.06	12.60	10	38.12	18.27	10.77				
3	49.79	19.31	24.65	7	42.68	23.53	24.62	11	29.05	4.23	2.81				

### 散石12

	長さ	幅	高さ	12	37.92	22.12	32.78	24	72.59	31.19	117.25	36	53.89	25.03	52.70	48	36.10	15.97	22.96
1	76.36	41.97	240.78	13	38.53	16.12	23.26	25	61.95	28.78	104.21	37	59.22	14.76	32.48	49	42.69	21.32	20.75
2	60.65	27.30	85.51	14	43.75	22.34	27.76	26	62.70	36.84	90.68	38	50.51	20.47	49.94	50	46.27	21.07	22.85
3	67.51	32.89	135.71	15	30.46	20.48 <th>14.09</th> <td>27</td> <td>73.71</td> <td>43.96</td> <td>133.55</td> <td>39</td> <td>49.53</td> <td>24.96</td> <td>49.82</td> <td>51</td> <td>37.68</td> <td>21.83</td> <td>15.92</td>	14.09	27	73.71	43.96	133.55	39	49.53	24.96	49.82	51	37.68	21.83	15.92
4	61.39	29.51	102.49	16	37.61	10.91	10.94	28	71.86	26.15	84.23	40	45.86	27.06	44.82	52	36.96	14.89	10.55
5	50.51	29.26	62.53	17	32.38	13.50	10.35	29	61.19	33.75	124.38	41	46.92	19.32	31.62	53	35.29	5.97	10.74
6	46.44	30.49	53.75	18	30.65	15.45	8.96	30	48.71	31.98	78.99	42	40.08	19.39	29.73	54	30.15	23.07	16.42
7	61.28	44.57	102.92	19	55.98	40.21	313.53	31	61.77	16.93	73.97	43	54.39	20.81	44.43	55	41.15	16.65	14.63
8	55.87	25.17	38.74	20	73.59	25.04	129.82	32	63.61	23.96	62.05	44	38.35	18.07	22.88	56	35.56	15.93	16.53
9	53.20	22.41	44.29	21	79.23	26.94	137.68	33	58.36	36.38	91.10	45	42.34	13.36	23.19	57	38.58	11.98	11.89
10	49.71	20.80	40.22	22	75.37	30.57	128.22	34	48.96	22.85	37.67	46	49.27	20.05	30.90	58	32.75	13.80	11.65
11	45.52	20.57	37.06	23	70.39	33.72	128.74	35	54.29	26.01	65.29	47	46.49	22.80	31.23	59	27.79	17.78	11.17

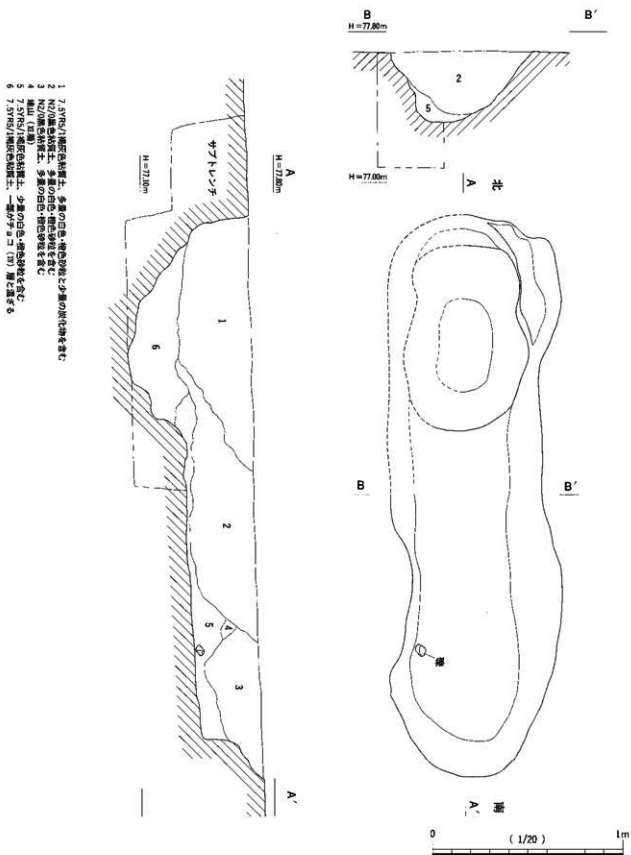
### 散石13

	長さ	幅	高さ	8	48.49	22.12	35.18	16	60.07	29.43	82.76	24	44.51	18.45	31.99	32	32.40	16.26	15.91
1	115.98	22.69	172.93	9	43.58	16.09	15.01	17	55.39	30.68	84.46	25	48.18	15.06	25.46	33	25.84	17.59	11.27
2	93.81	36.73	248.80	10	40.53	6.35	16.38	18	84.60	27.79	140.35	26	43.61	20.75	28.68	34	34.13	10.72	6.62
3	51.42	18.63	35.65	11	42.97	9.51	9.27	19	53.17	34.20	62.35	27	39.88	26.30	29.39	35	21.97	12.86	3.38
4	53.92	12.11	29.78	12	154.46	26.05	304.98	20	51.70	20.88	49.01	28	44.58	25.74	42.66				
5	52.94	23.60	39.04	13	63.26	29.64	79.57	21	54.24	24.86	47.19	29	41.58	19.65	14.36				
6	58.32	16.22	27.93	14	81.46	40.86	160.89	22	42.01	36.35	31.09	30	44.51	15.84	18.16				
7	61.51	23.34	38.79	15	69.75	12.23	33.45	23	49.19	27.16	64.94	31	28.77	16.36	15.54				

### 5・6区間ベルト内

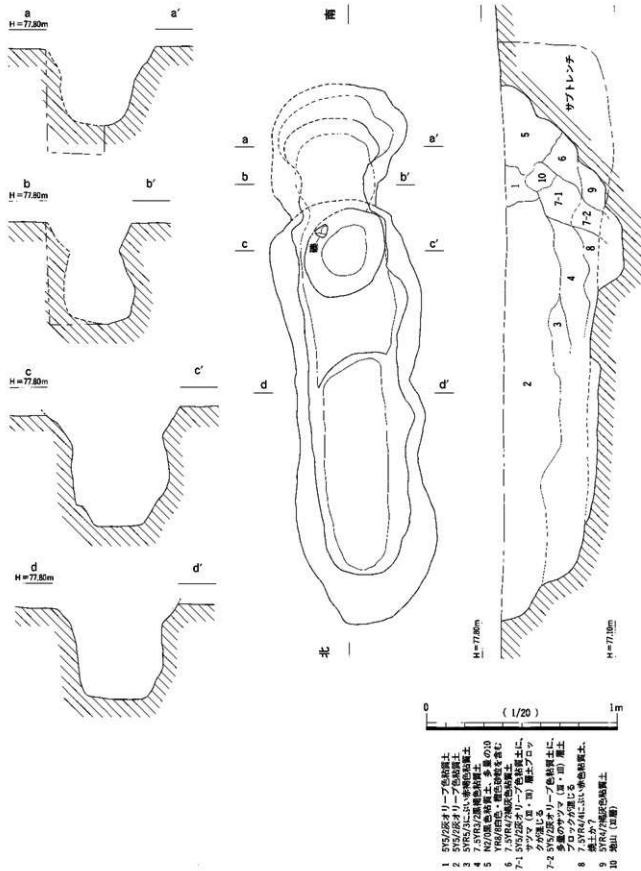
	長さ	幅	高さ	4	48.38	13.54	28.67	8	37.89	16.60	15.19	12	70.33	26.47	105.67	16	38.78	10.30	10.80
1	80.31	37.94	275.20	5	40.86	29.61	48.83	9	37.09	7.33	7.90	13	54.12	17.77	45.84				
2	66.58	28.86	97.78	6	47.61	9.78	18.56	10	41.94	4.73	7.22	14	45.06	17.43	19.73				
3	30.81	31.38	42.14	7	34.34	29.42	32.94	11	98.28	36.98	166.38	15	30.45	21.39	17.40				

第10表 浜場遺跡 Ⅷ～Ⅹ層 出土礫計測表(2)



第25図 浜場遺跡 XI層上面 土坑5





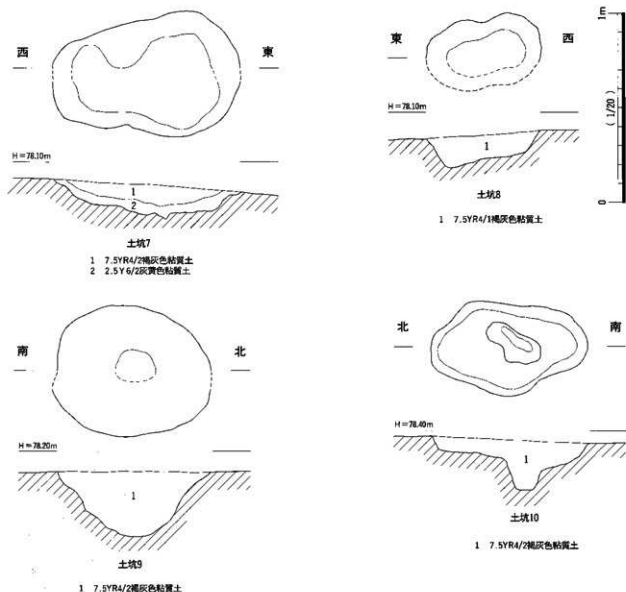
第26図 浜場遺跡 XI層上面 土坑6

土坑3は、形態は平面形が楕円形、断面形は浅いレンズ状を呈する。規模は長軸92cm×短軸37cm×深さ16cmを測る。

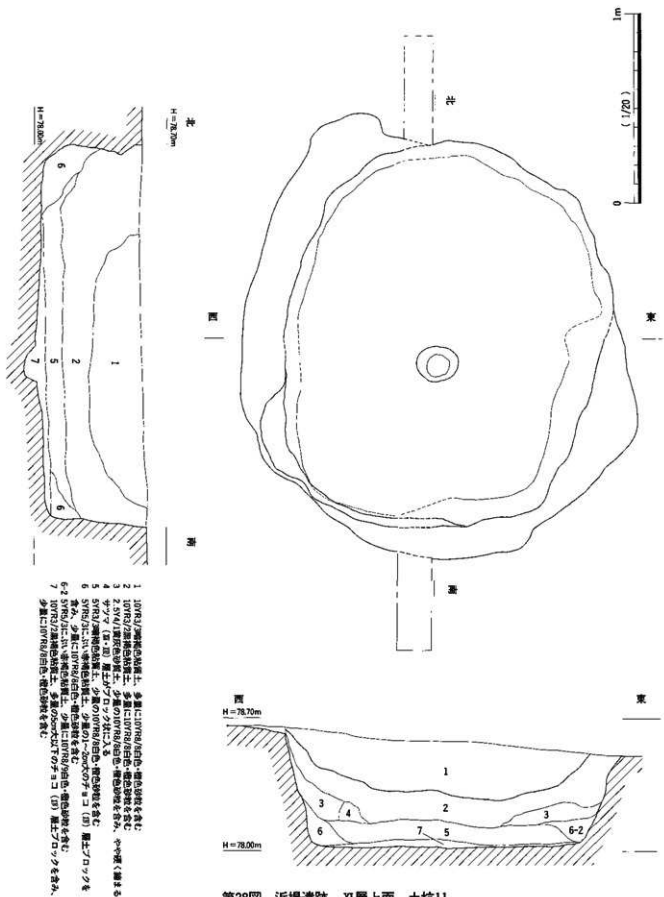
土坑4は、平面形が歪んだ円形、断面形が逆三角形を呈する。壁面にやや平坦となる範囲が見られる。規模は径111cm×深さ32cmを測る。

土坑5は、平面形が楕円形、断面形は北端が深くなった二段掘りの逆台形を呈する。北壁が斜めに傾斜する。規模は長軸273cm×短軸89cm、深さが深部64cm～浅部35cmを測る。覆土に明瞭な炭化物・焼土の範囲はなかったものの、第1層で極少量の炭化物が見られた。礫が1点出土したが被熱の痕跡などは見られない。土坑6に比べて遺構と地山の層境がやや不明瞭である。

土坑6は、平面形が楕円形と円形が並んだ瓢箪状を呈して、断面形が逆台形を呈する。底面は二段になり、南壁が階段状に段をもって傾斜する。規模が長軸284cm×短軸72cm、深さが深部62cm～浅部45cmを測る。浅部の底面が4cm掘り下がる。覆土には8層と8層下の層に焼土と思われる赤色土が存在



第27図 浜場遺跡 XI層上面 土坑7～10



第28図 浜場遺跡 XI層上面 土坑11

する。覆土は二分しており、白色・橙色砂粒の含有量が2層とそれ以外に分かれる。2層には白色・橙色砂粒が多量に含まれる。また、明瞭な地山層上ブロックである10層があり、「ブリッジ部」痕跡と思われる。10層を挟んで下の7層が「ブリッジ部」崩落層、上の1層が崩落に伴う陥没層と考えられる。

土坑7は、平面形が楕円形、断面形がレンズ状を呈する。規模は長軸98cm×短軸65cm×深さ16cmを測る。

土坑8は、平面形が楕円形、断面形が逆台形を呈する。規模は長軸59cm×短軸34cm×深さ17cmを測る。

土坑9は、平面形が円形、断面形が逆台形を呈する。調査後の検討で若干の掘り残しが見られ、本来は土坑4により近い形と考えられる。規模は径82cm×深さ42cmを測る。

土坑10は、平面形が楕円形、断面形が二段掘りとなる。規模は長軸80cm×短軸48cm×深さ10cm、底面の一段深い部分は長軸29cm×深さ16cmを測る。

土坑11は、平面形が全体的には円形を呈すが、主体となる掘込部は隅丸方形に近い。断面形は逆台形を呈する。規模は平面が径217cm×深さ54cmを測るが、主体の掘込部は平面が長軸206cm×短軸164cmを測る。底面は地山のチョコ（Ⅱ）層との境目がやや不明瞭で、中央に小土坑が存在する。小土坑は浅くて径21cm×深さ6cmを測り、柱穴を思わせるが覆土などから底面の凹凸の一部と考えられる。覆土はレンズ状に堆積しており、堆積状況から二つに分けられる。1段階が覆土5～7層、2段階が1～4層となり、2段階は廃絶後の埋没過程と考えられる。土坑11が何らかの施設と想定すると底面と5・6層上面の二つの床面が考えられる。

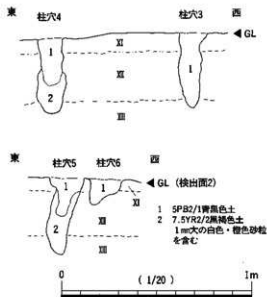
### c. 柱穴（3～6・10～23・24～34）

覆土に柱痕跡と埋土を持つものは柱穴32～34のみであり、他は柱痕跡が見られるのみである。また、分量も小さい。これらのことから杭状に柱を立てたことが想定される。上屋構造などについては復元できなかった。各法量については表にまとめる。

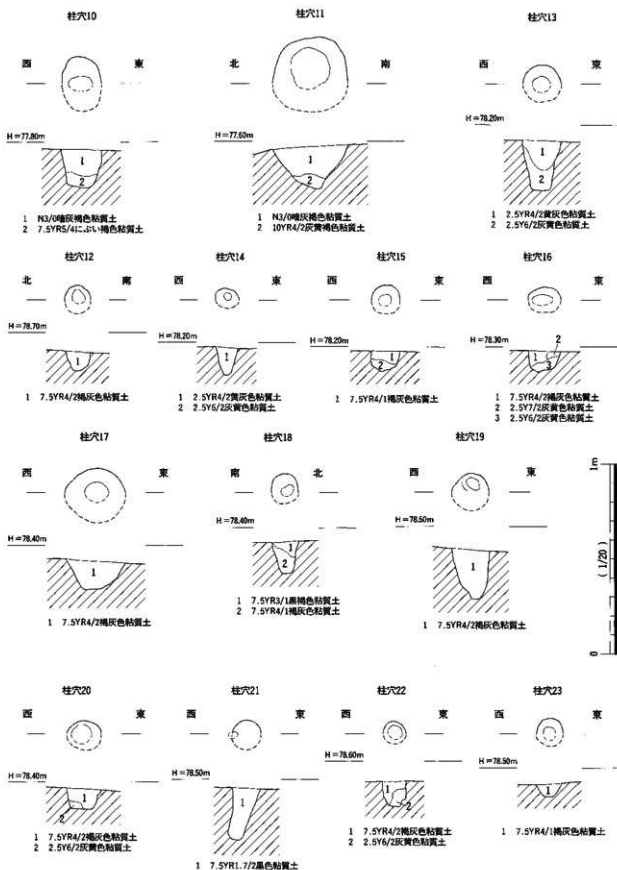
Pit No	径	深さ	Pit No	径	深さ
柱穴1	28		柱穴18	14	17
柱穴2	18		柱穴19	20	27
柱穴3	14	38	柱穴20	18	11
柱穴4	13	40	柱穴21	15	28
柱穴5	18	42	柱穴22	12	14
柱穴6	16	18	柱穴23	14	7
柱穴7	—	—	柱穴24	22	9
柱穴8	—	—	柱穴25	19	22
柱穴9	—	—	柱穴26	36	23
柱穴10	21	20	柱穴27	19	12
柱穴11	40	23	柱穴28	19	15
柱穴12	13	10	柱穴29	12	9
柱穴13	20	26	柱穴30	17	19
柱穴14	12	15	柱穴31	14	12
柱穴15	15	11	柱穴32	52	45
柱穴16	16	11	柱穴33	55	25
柱穴17	31	16	柱穴34	34	15

※単位はcm

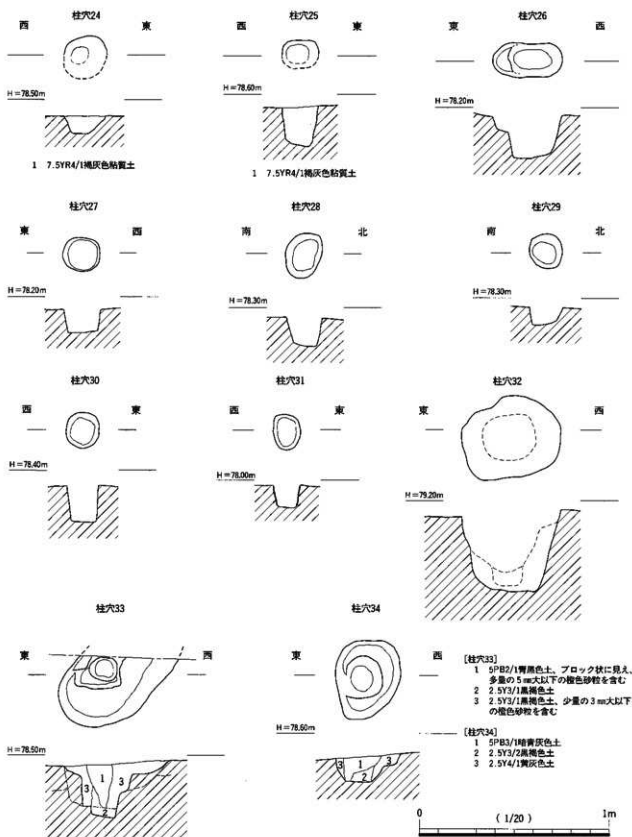
第11表 浜場遺跡 IX層上面 柱穴一覧



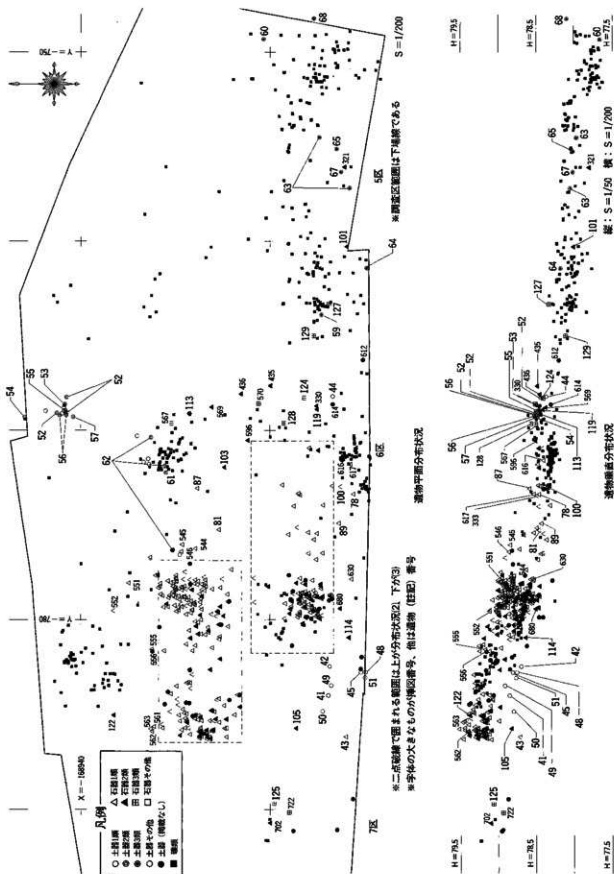
第29図 浜場遺跡 IX層上面 柱穴3～6



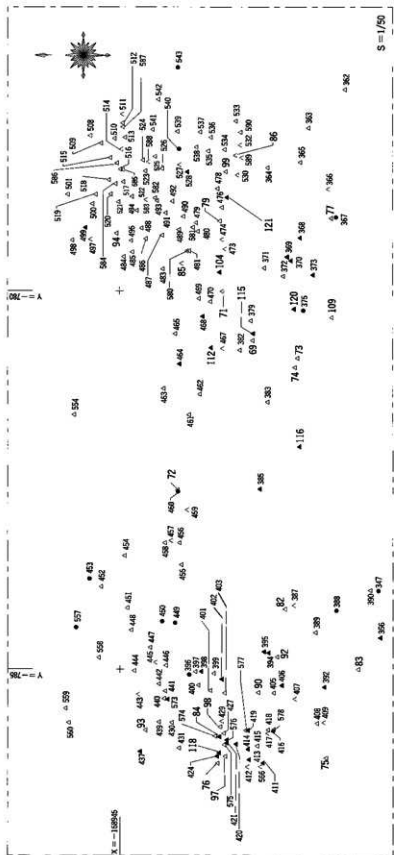
第30図 浜場遺跡 XI層上面 柱穴10~23



第31図 浜場遺跡 XI層上面 柱穴24～34

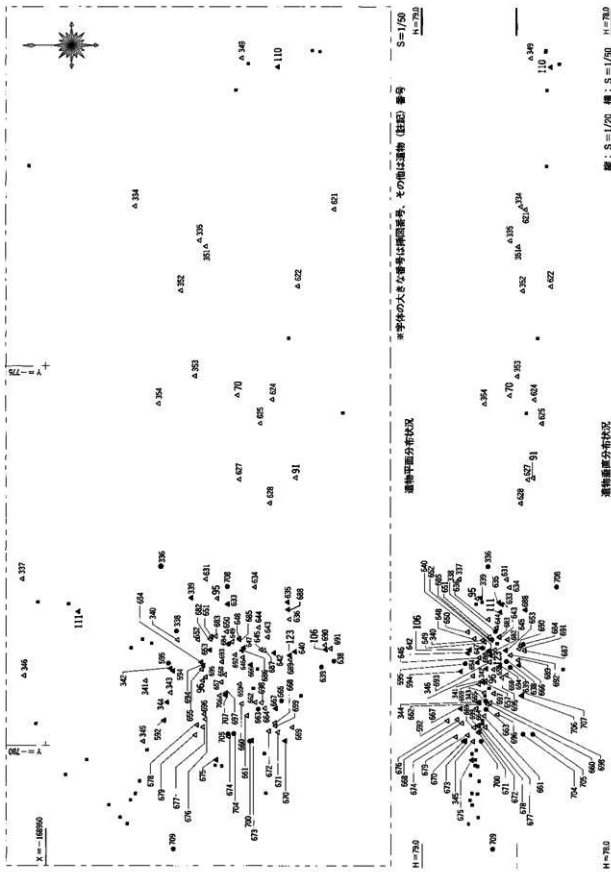


第32図 浜場遺跡 VII～IX層 遺物分布状況(1)

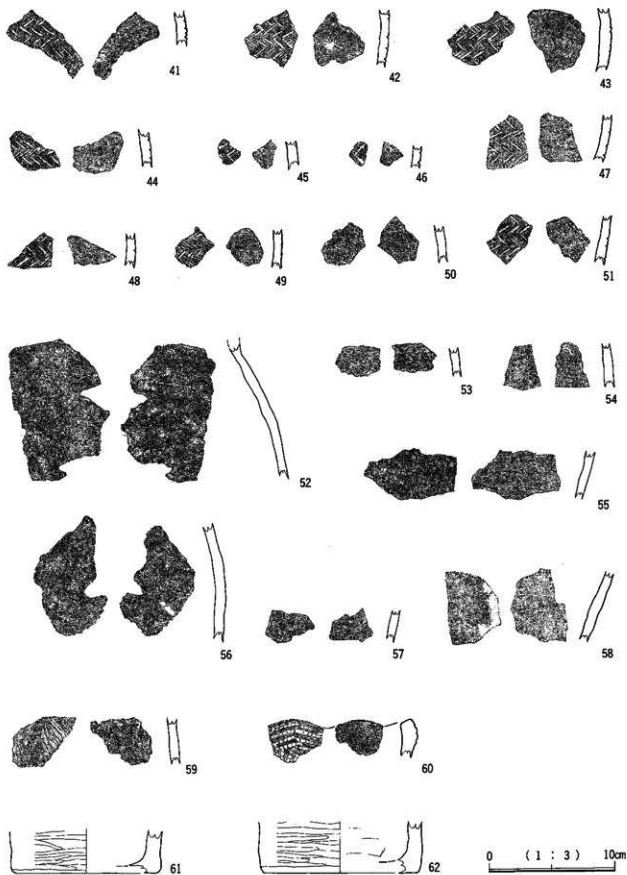


第33図 浜場遺跡 VII～IX層 遺物分布状況(2)





第34図 浜場遺跡 VII~IX層 遺物分布状況 (3)



第35図 浜場遺跡 VII～X層出土の土器(1)

## 5. 遺物

5～8区のⅧ～Ⅹ層で遺物が出土した。遺物の分布は、平面では5・6区と8区の東側に偏るが、これは前述したように削平の結果によるもので、本来は7区と8区西側にも分布していたと推測される。また、垂直分布ではⅧ・Ⅸ層に遺物が集まっており、当時の生活面はこの2層中に存在したと考えられる。

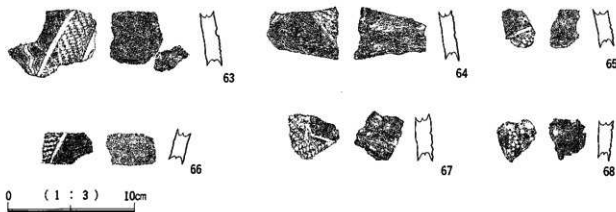
### ア) 遺物の分布状況

土器はおもに三ヶ所に集中しており、1類が6・7区境の南端に、2類が6区北端に、3類が5区南端に集まる。石器は三ヶ所の集中範囲が見られ、石鏃の製作場と考えられる。1つの範囲は約3mの規模である。

### イ) 土器 (41～68)

土器は出土量が約50点を数えるが、遺存状態が悪く、2・3cm大のものがほとんどである。

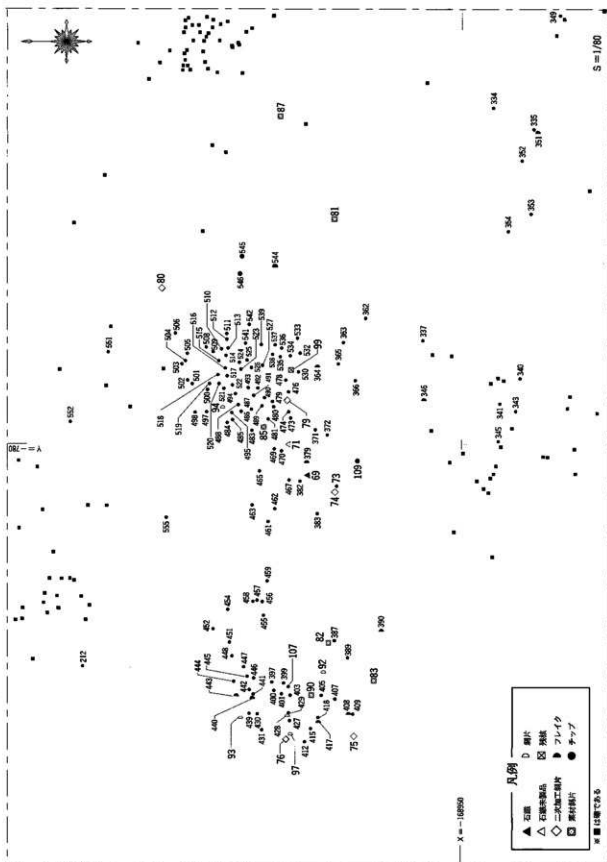
特徴から四つに分け、そのうち主体となる3つを1～3類と呼称する。1～3類は、本来、それぞれ



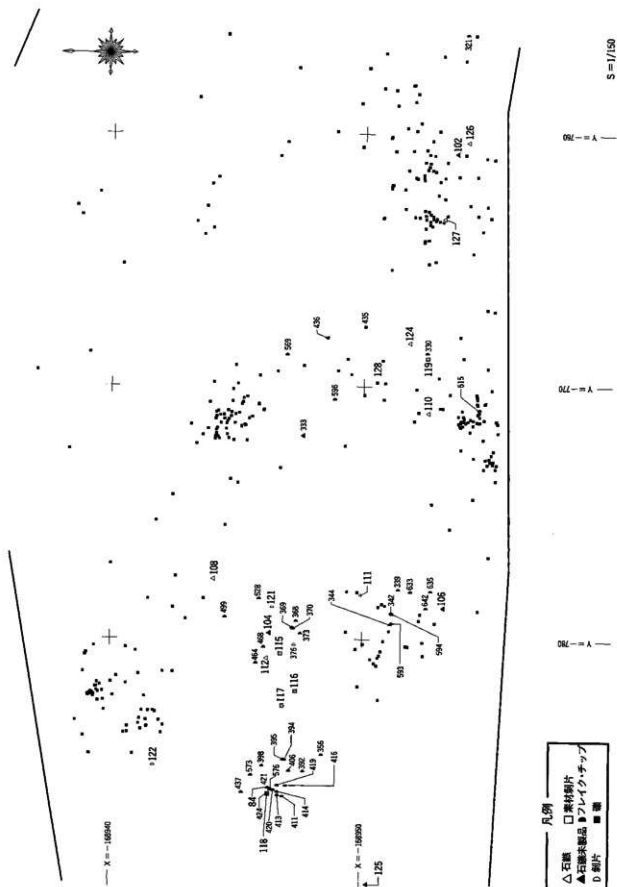
第36図 浜場遺跡 Ⅷ～Ⅹ層出土の土器 (2)

挿図 番号	遺物番号	出土位置		54	610	5・6区間ベルト	IX
		地区	層位				
41	717	8	IX	55	601	5・6区間ベルト	IX
42	710	8	IX	56	599・608	5・6区間ベルト	IX
43	720	8	IX	57	598	5・6区間ベルト	IX
44	613	8	IX	58	散石2	5	—
45	713	8	IX	59	328	5	IX
46	709	8	IX	60	318	5	IX
47	散石2	5	—	61	332	6	Ⅷ
48	714	8	IX	62	348・547・597	6	IX
49	716	8	IX	63	319・323	5	IX
50	718	8	IX	64	611	8	IX
51	715	8	IX	65	320	5	IX
52	600・603・607	5・6区間ベルト	IX	66	散石4	5	—
53	602	5・6区間ベルト	IX	67	322	—	IX
				68	317	先行トレンチ	IX

第12表 浜場遺跡 Ⅷ～Ⅹ層 土器一覽

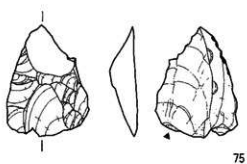
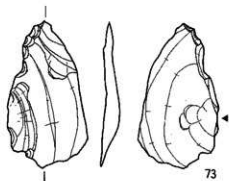
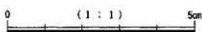
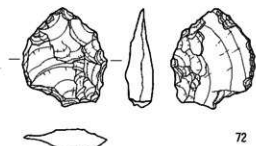
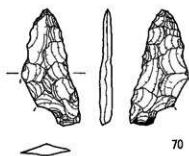
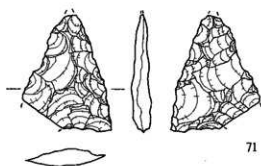
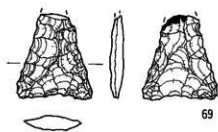


第37図 浜場遺跡 VII～IX層 石材I類分布状況

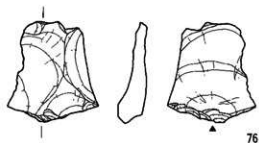
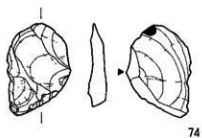


第38図 浜場遺跡 VII～IX層 石材2・3類分布状況

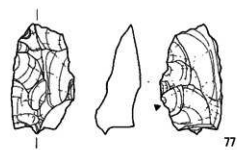
- 凡例
- △ 石類
  - 素材断片
  - ▲ 石造装飾品
  - フレイク・チップ
  - D 断片
  - 遺物



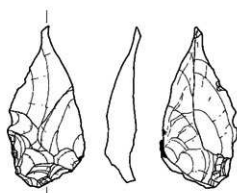
\*▲は打点方向を示す



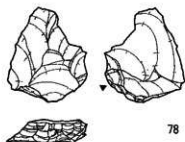
第39図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(1)



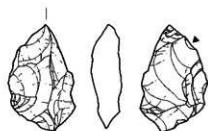
77



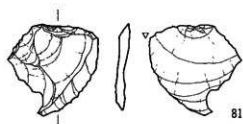
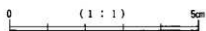
79



78



80



81

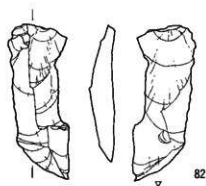


83

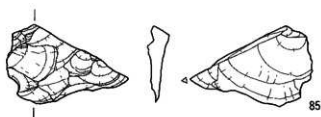
※△は推定される先端部を示す



84

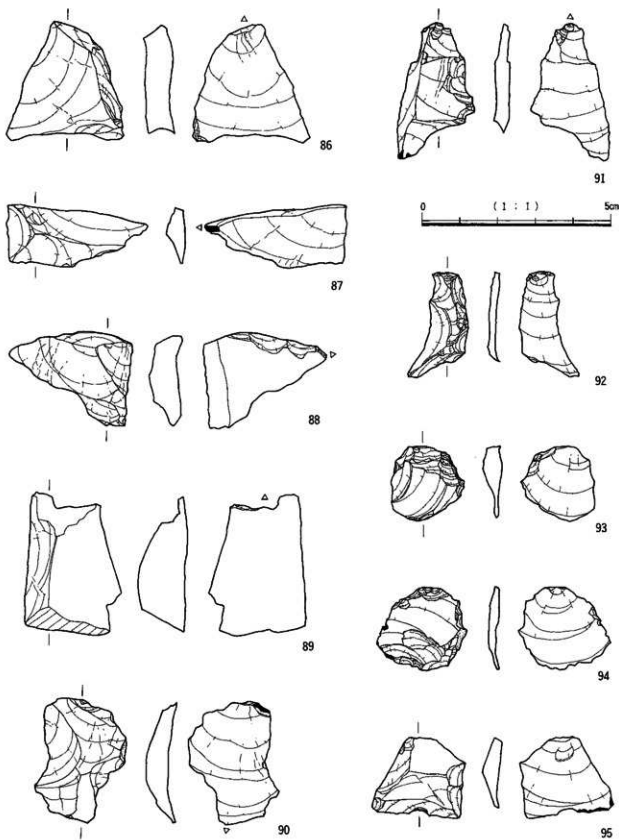


82



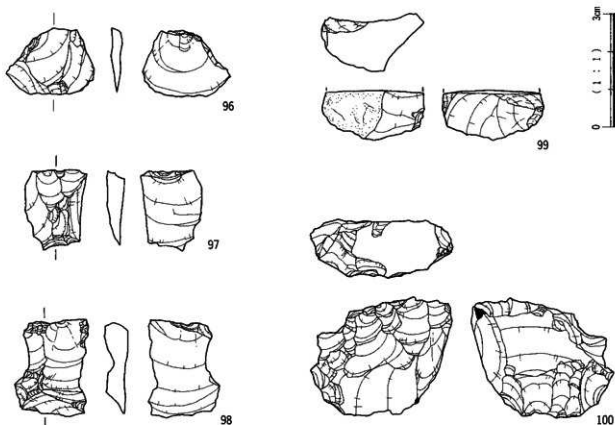
85

第40図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(2)



第41図 浜場遺跡 VII~X層出土の石器(3)





第42図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(4)

れが1個体であったと思われる。各類の形式は1類が辻タイプ、3類が塞ノ神式に比定される。他に石坂式・下剝峰式も存在する。

### 1類(41～51)

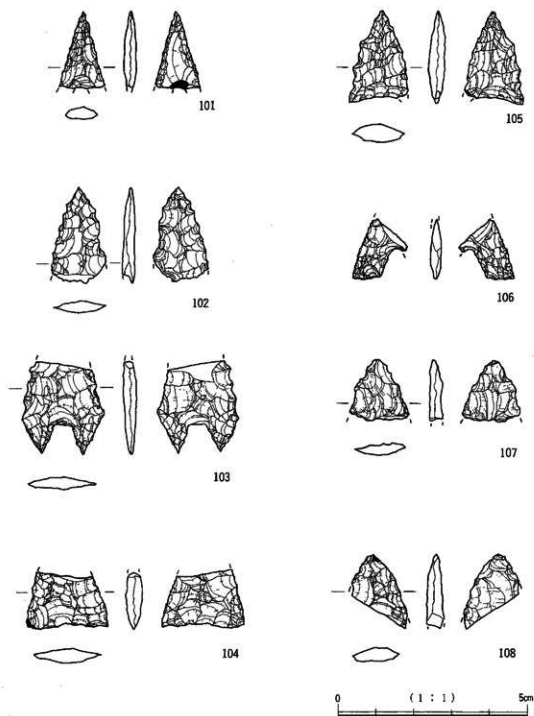
器面が被熱のためか黒色化したものが多い。器面は外面がナデ、内面がケズリもしくはナデで整える。外面には横向きの「ハ」字状の刺突文を施文する。文様は間隔を密にして横位に並行する。色調は、外面の基本色が7.5YR6/4にぶい橙色であり、多くのものが10YR3/1黒褐色まで黒色化する。内面も黒色化して2.5Y5/3黄褐色～5Y3/2オリーブ黒色を呈する。断面は5Y3/1オリーブ黒色を呈する。胎土には1mm大以下の石英・長石などの混和材が含まれる。

### 2類(52～58)

無文の土器で、52・56・57の外面に煤が付着して、52の内面下半に少数の5mm大以下の凹形剝離が見られる。被熱を受けたと考えられる。器壁が1・2類に比べて5mm程度と薄い。器面は外面を横のナデ、内面を横のケズリ後に横のナデで整える。色調は外面が5YR5/6明赤褐色、内面が2.5YR5/6明赤褐色、断面が7.5YR5/2灰褐色を呈する。胎土には多量に1mm大の石英・長石・黒色砂粒などが含まれる。

### 3類(63～68)

外面には並行沈線に挟まれた燃糸文が施文される。器面は外面がナデ、内面をやや粗いナデで整える。他に比べて器壁が1mm程度と厚い。色調は外面が7.5YR5/3にぶい褐色、内面が5YR6/6橙色、断面が2.5Y6/6明黄褐色を呈する。胎土には非常に多量の2mm大以下の石英・長石・赤褐色砂粒・黒色砂粒などが見られる。



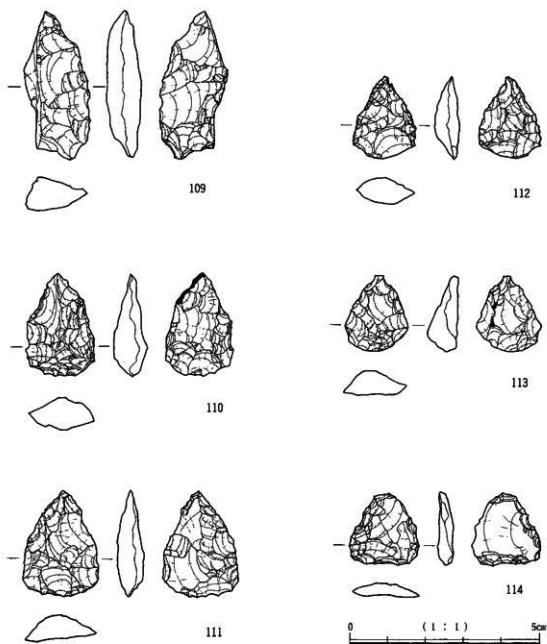
第43図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(5)

その他 (59～62)

土器59は綾杉状の条痕が見られる。石坂式であろうか。

土器60は口縁端部で刺突文が整然と密に施される。下剝峰式に比定と考えられる。

土器61・62は底部で器形が円筒形を呈する。文様の施文は見られず、器面は丁寧なミガキで整えられる。



第44図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(6)

#### ウ) 石器 (69～129)

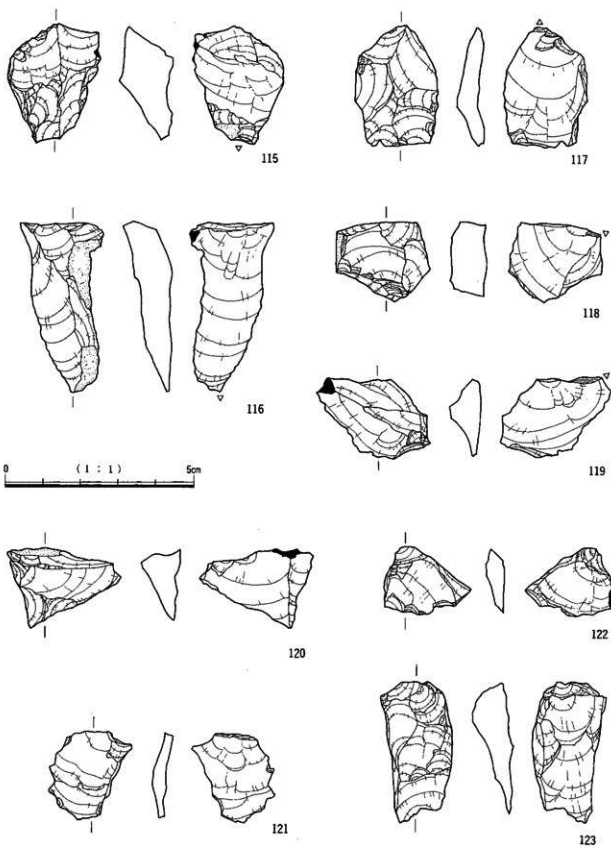
石器は6区より非常に多量の石鏃・剥片類が出土した。分布が三ヶ所の径3 m程の範囲に集まり、石鏃・剥片に加えて、石鏃未製品・石核などが見られることから石鏃製作跡と考えられる。

なお、報告者は石器に対して、十分な見識をもたないため<sup>9)</sup>、非常に雑な整理報告となっている<sup>9)</sup>。

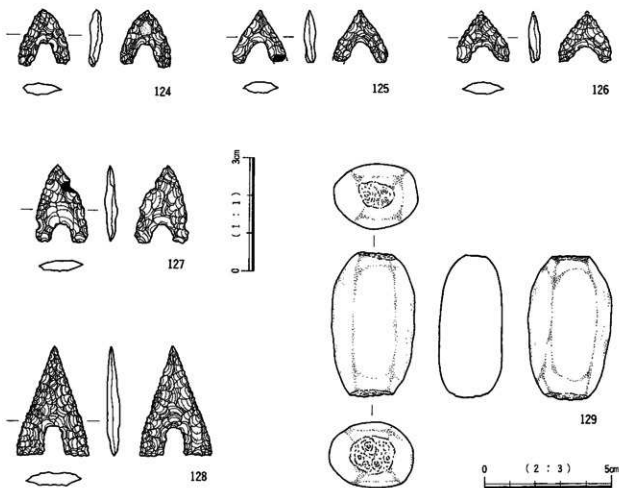
石器は石材の色調・材質から1類・2類・3類に分けて整理を行った。

#### 石材1類

石材の種類は頁岩、色調は外面が灰白色(5Y7/2)、断面が暗青灰色(5PB3/1)、外面の風化が非常に激しい。



第45図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器（7）



第46図 浜場遺跡 VII～X層出土の石器(8)

### 石材2類

石材の種類は頁岩<sup>10)</sup>、色調は暗青灰色(5B4/1～5PB4/1)

### 石材3類

石材の種類はチャート、色調は剥片計測表に個別に記述した。

なお、報告に際しては、図化したもの以外は計測表のかたちで掲載してある。また、その未図化の剥片は、法量から約1cm以上を「フレイク」、それ以下を「チップ」として任意に分けて表を作成した。ただし、基準は厳密ではない。

石材1類は製品2点・未製品2点に対して、製作工程での剥片などが二次加工剥片8点・素材剥片11点・剥片24点・残核2点・チップ221点と最も量が多い。総重量は224.76gを量る。分布は、6区中央の2ヶ所に集中する。

石材2類は製品6点・未製品8点に対して、素材剥片5点・剥片11点と1類とは異なり製作工程での剥片が少ない、とくに調整剥片と考えられるチップは少量である。総重量は129.71gを量る。

未製品8点には、比較的法量の安定した110～113がある。分布は6区中央2ヶ所と南の1ヶ所から散石2まで広がる。

石材3類は製品が5点・剥片が3点と、1類・2類に比べて総数が極めて少ない。2類と同様にチップは見られない。総重量は4.46gである。分布は、散石3から散石11にかけて散見される。

また、散石3より小型の敲石129が出土している。

挿図 番号	遺物 番号	出土位置		種類	器種	石材	法量 (cm, g)			
		地区	層位				長さ	幅	厚さ	重さ
69	381	6	IX	剥片石器	石鏃	石材1類	(2.25)	2.00	0.35	1.6
70	626	8	IX	剥片石器	石鏃	石材1類	3.10	(1.55)	0.30	1.1
71	471	6	VIII	剥片石器	石鏃 未製品	石材1類	(3.10)	(2.35)	0.50	3.0
72	579	6	VIII	剥片石器	石鏃 未製品	石材1類	2.65	1.20	0.75	3.3
73	377	6	VIII	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	3.90	2.10	0.55	3.5
74	378	6	VIII	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.60	1.90	0.65	2.4
75	410	6	VIII	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.95	2.45	0.80	3.8
76	423	6	IX	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.70	2.40	0.80	4.0
77	591	8	IX	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.90	1.65	1.40	5.1
78	619	6	IX	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.50	2.10	0.60	2.4
79	475	6	IX	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	4.30	2.00	0.95	5.8
80	550	6	VIII	剥片石器	二次加工剥片	石材1類	2.85	1.70	1.75	3.6
81	361	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材1類	2.40	2.45	0.30	1.1
82	386	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	4.10	1.70	0.70	3.1
83	391	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	1.50	2.10	0.40	1.1
84	426	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	2.20	3.00	0.50	2.0
85	482	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	2.10	3.20	0.60	2.7
86	531	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	3.15	3.15	1.10	8.2
87	548	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	1.70	3.75	0.50	3.5
88	574	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材1類	2.55	3.30	0.90	4.7
89	623	8	IX	剥片石器	素材剥片	石材1類	3.75	2.55	1.30	11.0
90	404	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材1類	3.30	2.40	0.80	3.9
91	629	8	IX	剥片石器	素材剥片	石材1類	3.65	2.05	0.50	2.5
92	393	6	VIII	剥片石器	剥片	石材1類	2.80	1.55	0.45	1.0
93	438	6	VIII	剥片石器	剥片	石材1類	2.00	1.95	0.50	1.9
94	496	6	VIII	剥片石器	剥片	石材1類	2.20	2.45	0.45	1.8
95	632	8	IX	剥片石器	剥片	石材1類	2.15	2.45	0.50	2.3
96	656	8	IX	剥片石器	剥片	石材1類	1.75	2.35	0.40	1.2
97	422	6	IX	剥片石器	剥片	石材1類	2.10	1.65	0.50	1.6
98	428	6	VIII	剥片石器	剥片	石材1類	2.45	1.70	0.60	2.0
99	529	6	VIII	剥片石器	残核	石材1類	(1.30)	2.70	1.55	4.7
100	620	8	IX	剥片石器	残核	石材1類	3.15	3.75	1.55	18.0
101	325	5	IX	剥片石器	石鏃	石材2類	(2.05)	(1.20)	0.35	0.5
102	326	5	X	剥片石器	石鏃	石材2類	(2.50)	(1.45)	0.35	0.9
103	333	6	VIII	剥片石器	石鏃	石材2類	(2.40)	2.15	0.30	1.5
104	472	6	VIII	剥片石器	石鏃	石材2類	(1.55)	2.15	0.45	1.5
105	719	8	IX	剥片石器	石鏃	石材2類	2.45	(1.55)	0.50	1.4
106	637	8	IX	剥片石器	石鏃	石材2類	(1.60)	(1.45)	0.35	0.5
107	402	6	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	(1.60)	(1.55)	0.35	0.8
108	507	6	VIII	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	(2.00)	(1.45)	0.45	0.8
109	374	6	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	3.95	(1.75)	0.90	5.2
110	350	6	VIII	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	2.75	1.70	0.90	3.4
111	355	6	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	2.80	2.00	0.70	3.1
112	466	6	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	2.20	1.60	0.50	1.9
113	568	6	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	2.00	1.65	0.80	2.0
114	681	8	IX	剥片石器	石鏃 未製品	石材2類	1.90	1.80	0.40	1.4
115	380	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材2類	3.15	2.45	1.40	8.7
116	384	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材2類	4.50	2.25	1.30	7.8
117	385	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材2類	3.20	2.25	0.70	3.9
118	425	6	VIII	剥片石器	素材剥片	石材2類	2.15	2.50	1.25	7.1
119	572	6	IX	剥片石器	素材剥片	石材2類	2.10	2.90	0.75	4.5
120	376	6	IX	剥片石器	剥片	石材2類	2.15	3.00	1.10	4.5
121	477	6	IX	剥片石器	剥片	石材2類	2.35	2.20	0.50	1.9
122	564	6	VIII	剥片石器	剥片	石材2類	1.80	2.30	0.60	2.0
123	641	8	IX	剥片石器	剥片	石材2類	3.75	1.90	1.10	6.3

第13表 浜場遺跡 VII~X層 石器一覽(1)

挿函 番号	遺物 番号	出土位置		種類	器種	石材	法量 (cm, g)			
		地区	層位				長さ	幅	厚さ	重さ
124	331	5	VII	剥片石器	石鏃	チャート	1.50	1.35	0.35	0.5
125	701	8	IX	剥片石器	石鏃	チャート	1.40	(1.40)	0.30	0.3
126	石鏃3	5	VII	剥片石器	石鏃	チャート	1.25	1.35	0.30	0.4
127	327	5	VII	剥片石器	石鏃	チャート	2.05	1.40	0.35	0.8
128	571	6	VII	剥片石器	石鏃	チャート	2.95	1.90	0.35	1.3
129	329	5	IX	礫石器	敲石	頁岩	5.70	3.25	2.55	

第14表 浜場遺跡 VII～X層 石器一覽(2)

1類 (灰白色 5Y7/1) : チップ

遺物 番号	重量 (g)	最大 長さ	出土位置 地区 層位	45	431	0.40	15.46	6	VII	91	493	0.12	7.57	6	VII		
1	212	0.74	19.86	2	SDI	46	439	0.38	16.37	6	VII	92	494	0.59	15.70	6	VII
2	334	0.58	18.46	6	VII	47	441	0.21	12.85	6	VII	93	495	0.09	8.05	6	VII
3	335	0.35	12.52	6	VII	48	442	0.89	18.46	6	VII	94	495	0.08	8.40	6	IX
4	337	1.97	25.61	6	VIII	49	444	0.50	18.54	6	VII	95	497	0.28	14.63	6	IX
5	340	0.52	20.28	6	IX	50	445	0.15	11.30	6	VII	96	498	0.21	9.13	6	VII
6	340	0.18	15.27	6	IX	51	446	0.94	18.13	6	VII	97	498	0.11	10.85	6	VII
7	341	0.67	19.65	6	IX	52	447	0.75	20.18	6	VII	98	500	0.14	10.15	6	VII
8	341	0.41	8.55	6	IX	53	448	0.06	9.33	6	VII	99	501	0.19	13.82	6	IX
9	341	0.07	10.14	6	IX	54	451	0.02	6.10	6	IX	100	502	0.42	14.31	6	IX
10	343	0.36	16.79	6	IX	55	452	0.06	6.81	6	IX	101	503	0.60	19.02	6	IX
11	345	1.23	15.24	6	IX	56	454	0.07	9.13	6	VII	102	504	0.32	12.05	6	VII
12	349	0.57	15.09	6	VIII	57	455	0.15	12.84	6	VII	103	505	0.65	18.32	6	IX
13	352	0.68	17.19	6	IX	58	455	0.08	8.79	6	VII	104	506	1.27	24.62	6	IX
14	353	1.11	22.99	6	IX	59	456	0.12	8.05	6	VII	105	508	1.40	18.34	6	IX
15	354	0.69	18.67	6	VII	60	457	0.02	6.13	6	VII	106	509	0.44	13.97	6	IX
16	362	1.41	22.32	6	VII	61	458	0.08	11.44	6	VII	107	510	0.81	18.07	6	VII
17	363	0.50	20.75	6	IX	62	459	0.05	7.88	6	VII	108	511	0.06	9.75	6	IX
18	365	0.80	21.02	6	VII	63	461	0.04	5.00	6	VII	109	512	0.22	10.62	6	IX
19	366	0.72	16.00	6	IX	64	462	0.68	16.22	6	VII	110	513	0.16	10.49	6	VII
20	371	0.24	12.47	6	IX	65	463	0.09	10.72	6	VII	111	513	0.12	11.37	6	VII
21	372	0.11	8.12	6	IX	66	465	0.08	11.62	6	VII	112	514	0.06	8.90	6	VII
22	374	0.22	34.31	6	IX	67	467	0.31	11.99	6	IX	113	515	0.25	13.10	6	VII
23	377	0.58	11.89	6	IX	68	469	0.09	9.25	6	VII	114	515	0.08	8.43	6	VII
24	382	1.28	15.53	6	IX	69	470	0.07	9.25	6	IX	115	516	0.11	8.90	6	VII
25	383	0.13	11.52	6	VII	70	473	0.16	8.82	6	VII	116	517	0.09	9.10	6	VII
26	387	0.35	17.39	6	VII	71	474	0.70	24.91	6	IX	117	518	1.04	19.47	6	VII
27	389	0.64	15.40	6	VII	72	476	0.11	9.29	6	IX	118	519	0.08	10.30	6	IX
28	397	0.09	8.86	6	VII	73	478	0.05	7.02	6	IX	119	520	0.07	12.33	6	VII
29	399	0.92	18.62	6	VII	74	479	0.13	12.13	6	IX	120	521	0.47	14.66	6	VII
30	399	0.21	11.52	6	VII	75	480	0.11	9.03	6	IX	121	522	0.09	8.03	6	VII
31	399	0.05	8.07	6	VII	76	480	0.09	8.73	6	IX	122	522	0.07	8.43	6	VII
32	400	0.71	26.17	6	VII	77	481	0.17	15.33	6	VII	123	523	0.25	12.41	6	IX
33	401	1.11	22.79	6	VII	78	483	0.30	12.79	6	VII	124	524	0.14	8.03	6	IX
34	402	0.21	12.50	6	IX	79	484	0.20	9.83	6	VII	125	524	0.03	6.14	6	IX
35	403	0.32	16.87	6	IX	80	485	0.36	17.19	6	VII	126	525	0.35	13.89	6	VII
36	405	0.28	17.43	6	VII	81	486	0.15	8.97	6	VII	127	525	0.06	7.95	6	VII
37	407	0.61	20.96	6	VII	82	486	0.01	6.30	6	VII	128	526	0.58	12.89	6	VII
38	409	0.40	16.14	6	VII	83	487	0.13	9.11	6	VII	129	527	0.23	11.79	6	VII
39	412	0.41	23.79	6	IX	84	488	0.36	15.36	6	VII	130	530	0.55	14.01	6	VII
40	415	0.68	20.93	6	IX	85	489	0.32	12.45	6	IX	131	532	0.64	16.92	6	VII
41	418	0.92	19.62	6	VII	86	490	0.22	13.83	6	IX	132	533	0.60	19.02	6	VII
42	427	0.69	17.57	6	VII	87	491	0.16	9.65	6	IX	133	534	0.26	11.74	6	IX
43	429	0.25	10.52	6	VII	88	491	0.03	8.46	6	IX	134	535	0.99	18.71	6	VII
44	430	0.38	17.95	6	IX	89	492	0.15	12.20	6	IX	135	536	0.44	14.08	6	VII
						90	493	0.26	17.13	6	VII	136	537	0.98	23.18	6	VII

第15表 浜場遺跡 VII～X層 石器剥片の計測表(1)

## 1類 (灰白色 5Y7/1) : チップ

137	537	0.09	9.91	6	Ⅷ	166	586	0.07	10.51	6	Ⅸ	195	660	0.18	12.78	8	Ⅸ
138	537	0.09	10.13	6	Ⅷ	167	587	0.13	11.01	6	Ⅸ	196	661	0.37	17.49	8	Ⅸ
139	538	0.22	14.89	6	Ⅷ	168	588	0.39	15.76	6	Ⅸ	197	662	0.39	13.80	8	Ⅸ
140	539	0.08	8.34	6	Ⅷ	169	589	0.66	24.11	6	Ⅸ	198	664	0.54	14.51	8	Ⅸ
141	541	0.16	13.31	6	Ⅸ	170	590	0.33	15.58	6	Ⅸ	199	668	0.52	13.98	8	Ⅸ
142	542	0.81	16.69	6	Ⅸ	171	592	0.28	17.49	6	Ⅸ	200	669	0.10	12.55	—	—
143	545	0.09	8.39	6	Ⅷ	172	592	0.25	14.59	6	Ⅸ	201	671	0.30	15.86	8	Ⅸ
144	546	0.60	24.39	6	Ⅸ	173	616	1.25	20.78	8	Ⅸ	202	672	0.56	16.43	8	Ⅸ
145	547	0.53	16.93	6	Ⅷ	174	617	0.69	19.24	8	Ⅸ	203	674	0.49	20.81	8	Ⅸ
146	551	0.76	13.64	6	Ⅸ	175	621	0.44	15.97	8	Ⅸ	204	676	0.12	9.29	8	Ⅸ
147	552	0.53	17.65	6	Ⅷ	176	624	0.20	12.38	8	Ⅹ	205	677	0.81	17.54	8	Ⅸ
148	554	0.30	18.35	6	Ⅷ	177	625	0.10	9.65	8	Ⅹ	206	678	0.03	4.87	8	Ⅸ
149	555	0.55	16.30	6	Ⅸ	178	627	0.02	5.55	8	Ⅹ	207	679	0.15	10.02	8	Ⅸ
150	558	0.03	8.66	6	Ⅷ	179	630	0.21	13.27	8	Ⅸ	208	682	0.09	9.79	8	—
151	559	0.68	14.86	6	Ⅷ	180	634	0.31	17.52	8	Ⅸ	209	683	0.11	10.69	8	Ⅸ
152	560	0.18	10.60	6	Ⅸ	181	636	0.29	11.74	8	Ⅸ	210	685	0.06	7.34	8	Ⅸ
153	561	0.24	10.35	6	Ⅸ	182	643	0.26	20.15	8	Ⅸ	211	689	0.15	16.50	8	Ⅸ
154	562	0.05	9.28	6	Ⅸ	183	644	0.37	14.36	8	Ⅸ	212	690	0.26	15.59	8	Ⅸ
155	563	0.22	10.70	6	Ⅷ	184	645	0.36	13.54	8	Ⅸ	213	691	0.26	14.56	8	Ⅸ
156	566	0.24	11.05	6	Ⅷ	185	648	0.09	10.80	8	Ⅸ	214	692	0.14	11.61	8	Ⅸ
157	566	0.03	7.16	6	Ⅸ	186	649	0.70	24.48	8	Ⅸ	215	693	0.05	7.04	8	Ⅸ
158	575	0.71	23.59	6	Ⅸ	187	650	0.62	14.55	8	Ⅸ	216	695	0.34	13.35	8	Ⅸ
159	577	0.90	21.30	6	Ⅸ	188	650	0.40	14.29	8	Ⅸ	217	696	0.88	19.09	8	Ⅸ
160	578	0.43	17.12	6	Ⅸ	189	651	0.60	22.77	8	Ⅸ	218	697	0.43	15.85	8	Ⅸ
161	581	0.37	17.45	6	Ⅸ	190	652	0.39	20.58	8	Ⅸ	219	698	0.22	10.54	8	Ⅸ
162	582	1.07	17.43	6	Ⅸ	191	655	0.18	12.99	8	Ⅸ	220	699	0.26	11.37	8	Ⅸ
163	583	0.42	15.40	6	Ⅸ	192	657	0.19	10.08	8	Ⅸ	221	706	0.06	8.86	8	Ⅸ
164	584	0.17	11.73	6	Ⅸ	193	658	0.50	11.94	8	Ⅸ	総重量		81.51 g			
165	585	0.12	12.17	6	Ⅸ	194	659	0.09	11.32	8	Ⅸ	平均の最大長		13.99mm			

第16表 浜場遺跡 Ⅷ～Ⅹ層 石器剥片の計測表(2)

## 1類 (灰白色 5Y7/1) : フレイク

遺物番号	重量 (g)	最大長 (mm)	出土位置 地区 層位	備考
1	351	1.07	17.81	6 Ⅸ a類
2	417	2.55	28.75	6 Ⅷ a類
3	440	1.92	17.04	6 Ⅷ a類
4	544	0.80	21.40	6 Ⅸ a類
5	580	0.98	22.32	6 Ⅸ a類
6	622	1.39	16.62	8 Ⅸ a類
7	628	0.92	16.33	6 Ⅸ a類
8	631	1.07	25.74	6 Ⅸ a類

9	687	1.06	19.78	8	—	a類
10	364	2.18	25.91	6	Ⅷ	b類
11	408	1.34	22.78	6	Ⅷ	b類
12	646	2.40	21.51	8	Ⅸ	b類
13	346	1.96	19.99	6	Ⅸ	c類
14	379	3.98	19.56	6	Ⅷ	c類
15	390	1.02	21.17	6	Ⅷ	c類
16	443	0.71	16.69	6	Ⅷ	c類
総重量		25.35 g				
平均の最大長		20.84mm				

第17表 浜場遺跡 Ⅷ～Ⅹ層 石器剥片の計測表(3)



## 2類 (暗青灰色 5B4/1)

	遺物 番号	重量 (g)	最大長 (mm)	出土位置		備考
				地区	層位	
1	321	4.01	25.90	—	I	
2	330	2.57	20.98	6	VII	
3	339	1.43	20.62	6	IX	
4	339	0.21	14.22	6	IX	
5	342	0.35	14.25	6	IX	
6	344	0.33	17.26	6	IX	
7	356	0.31	13.25	6	IX	
8	368	0.82	20.18	6	IX	
9	369	0.13	12.80	6	IX	
10	370	1.28	20.79	6	IX	
11	373	5.21	16.05	6	VII	
12	392	0.10	9.64	6	VII	
13	394	0.67	20.15	6	VII	
14	395	0.30	11.52	6	VII	
15	398	1.03	20.15	6	VII	
16	406	0.69	16.92	6	VII	
17	411	1.43	22.85	6	VII	
18	413	0.91	18.56	6	IX	
19	413	0.18	11.50	6	IX	
20	414	1.18	15.43	6	VII	
21	414	0.62	17.48	6	VII	
22	416	0.34	13.06	6	VII	
23	416	0.23	15.26	6	VII	
24	416	0.18	14.48	6	VII	
25	419	0.07	7.74	6	IX	
26	420	0.45	13.01	6	IX	
27	421	0.65	16.76	6	IX	
28	424	6.03	44.81	6	IX	
29	426	0.47	16.45	6	VII	
30	435	0.87	17.28	5	IX	
31	436	0.31	14.32	5	IX	
32	437	0.10	9.30	6	VII	
33	464	1.56	18.89	6	VII	
34	468	0.39	12.86	6	VII	

## 3類 (チャート)

	遺物 番号	重量 (g)	最大長 (mm)	出土位置		備考
				地区	層位	
1	567	0.15	11.87	6	IX	5Y7/1灰白色
2	570	0.07	9.03	6	VII	5Y4/1灰色
3	722	0.94	18.09	8	IX	5Y7/1灰白色

35	468	0.09	10.77	6	VII	
36	468	0.05	8.14	6	VII	
37	499	0.17	10.57	6	VII	
38	528	0.52	17.29	6	VII	
39	528	0.23	11.47	6	VII	
40	528	0.06	7.39	6	VII	
41	569	2.75	20.98	6	IX	
42	573	0.58	15.38	6	IX	
43	576	0.35	17.52	6	IX	
44	593	0.52	16.19	6	X	
45	594	0.24	10.13	6	IX	
46	596	0.17	11.85	5・6	IX	
47	596	0.16	9.56	5・6	IX	
48	615	1.50	22.22	8	IX	
49	633	2.50	19.74	8	IX	
50	635	0.36	10.84	8	IX	
51	640	0.63	15.72	8	IX	
52	642	1.32	17.05	8	IX	
53	647	0.73	16.69	8	IX	
54	653	0.44	12.71	8	IX	
55	654	0.21	11.42	8	IX	
56	666	0.22	13.87	8	IX	
57	667	1.29	20.30	8	IX	
58	670	0.59	13.71	8	IX	
59	673	0.35	12.68	8	IX	
60	675	0.20	12.10	8	IX	
61	680	1.13	26.21	8	IX	
62	686	0.09	9.18	8	—	
63	688	0.13	8.94	8	IX	
64	694	0.10	7.46	8	IX	
65	702	0.09	6.29	8	IX	
66	703	4.03	27.13	8	IX	
67	707	0.76	14.59	8	—	
68	707	0.14	12.04	8	IX	

総重量 58.11g

平均の最大長 15.48mm

総重量 1.16g

平均の最大長 13.00mm

第18表 浜場遺跡 VII～X層 石器剥片の計測表(4)

### 第3節 まとめにかえて

今回の報告では、十分な整理・検討が行なえきれなかったため、調査者としての見解を述べてまとめにかえる。

#### 1. 検出面1 (VI層上面)

時期は出土した遺物から古墳時代中津式が中心であり、一部に極少量の縄文時代晩期が含まれる。

遺物・遺構は削平範囲以外の調査区全体に分布しており、遺構の時期は遺構内から出土遺物を伴わないことから詳細は不明である。しかし、遺物と覆土から溝1とそれに並行する円形土坑以外はおもに古墳時代と考えられる。

注目する点としては、土器のほとんどが碎片であることと二次焼成などの被熱の痕跡が見られる点や、甕の数量が極端に少ない点、また、複数の柱列が楕円形や馬蹄形に配される点が上げられる。これらのことは調査地の往時の環境や性格を推測する上で手がかりになると考えられる。

調査者の想定としては、日本書紀における記述<sup>1)</sup>や町内における発掘調査類例など<sup>2)</sup>から、牛馬飼育に関係する施設と考える。ただし、これらの柱列が同時期であるか、古墳時代にあたるかなどは削平が激しいことなどから不明である。上記のことは性格の追求が難しかった柱穴のひとつの検証方向として貴重な資料と考える。

縄文時代晩期の土器が極少量出土するが遺構を伴うかは不明である。ただし、4区において、他とは異なる掘り方が歪な柱穴が円形に巡るものが存在しており、該当する可能性も考えられる。

#### 2. 検出面2 (XI層上面)

時期は縄文時代早期と考えられるが、土器が少量であることから、遺構などの詳細な時期については断定できない。注目する点としては、石鏃製作跡と考えられるものを3ヶ所、住居跡の可能性のある竪穴状土坑(土坑11)を1基検出した点などが挙げられる。この土坑11は上野原遺跡に見られる掘り込み外に柱穴をもつ竪穴住居の可能性も考えられる。また、「連穴土坑」がほぼ同軸方向に並行して築かれるが「燃焼部」が南北逆に配置されており、調査地付近の夏冬での風向き方向と同一であることと深い係わりがある可能性が考えられる。

調査者は上記に加えて、散石3を「集石」に類するものと考えて、調査地を住居・調理施設(「連穴土坑」・「集石」)の揃った定住型集落<sup>3)</sup>の一角と想定する。これに石鏃製作跡が加えて往時の生活状況を考える上で貴重な資料と考える。ただし、各遺構が同時期のものかは断言できない。

### 付節 石器の鑑定について

脱稿後、和田のみ子氏に石器の器種・石材の鑑定を協力いただいた。結果を観察表として掲載する。

- 1) 第II章の第4図を参照。
- 2) 町内における既往調査成果による。
- 3) 調査に参加された立山利行氏に教えて頂いた。
- 4) 薩摩芋の保存用の貯蔵穴である。現在でも町内においては、冬になると畑の中に円形の土坑に芋を入れ藁と土を被せたものが見られる。
- 5) 平成15年度の調査において、柱穴が直線状に並んだ遺構が見つかり、牛馬厩ではないかと考えられた。現在、整理中である。
- 6) 小村重子 1987 「成川式土器再考」『畿大考古』第6号
- 7) 2(7)・3区間と3・4区間の3区西壁沿いに幅3mのトレンチを調査対象範囲いっぱいまで広げて行った。
- 8) 石器の選別に際しては、秋成雅博氏にご助言いただいた。また、石材鑑定には和田のみ子氏にご協力いただき、粟米に表を掲載した。また、実測図・トレースは委託した。

押戻 番号	遺物 番号	器 種	石 材	備 考
37	6	石鏃	黒色安山岩	
38	34	石鏃	チャートD	
39	44	石鏃	黒色安山岩	
	151	打製石斧	頁岩	ホルンフェルス?
	212	フレイク	珪質頁岩	
40	277	石鏃	硬質頁岩	磨製石鏃
	321	フレイク	安山岩	
101	325	フレイク	チャートE	
102	326	石鏃	チャートE	
127	327	石鏃	チャートC	
129	329	蔽石	砂岩	
	330	フレイク	安山岩	
124	331	石鏃	チャートE	
103	333	石鏃	黒色安山岩	
	334	フレイク	珪質頁岩	
	335	フレイク	珪質頁岩	
	337	フレイク	珪質頁岩	
	339	フレイク	安山岩	
	340	フレイク	珪質頁岩	
	342	フレイク	安山岩	
	342	フレイク	珪質頁岩	
	344	フレイク	安山岩	
	345	フレイク	珪質頁岩	
	346	フレイク	珪質頁岩	
	349	フレイク	珪質頁岩	
110	350	石鏃未製品	黒色安山岩	
	351	フレイク	珪質頁岩	
	352	フレイク	珪質頁岩	
	353	フレイク	珪質頁岩	
	354	フレイク	珪質頁岩	
111	355	石鏃未製品	黒色安山岩	
	356	フレイク	安山岩	
81	361	フレイク	珪質頁岩	
	362	フレイク	珪質頁岩	
	363	フレイク	珪質頁岩	
	364	フレイク	珪質頁岩	
	365	フレイク	珪質頁岩	稜面付
	366	フレイク	珪質頁岩	
	366	フレイク	頁岩	ホルンフェルス?
	368	フレイク	安山岩	
	369	チップ	安山岩	
	370	二次加工剥片	安山岩	◎
	371	使用痕剥片	珪質頁岩	?
	372	チップ	硬質頁岩	
	373	フレイク	安山岩	
109	374	石鏃未製品	黒色安山岩	
120	376	フレイク	黒色安山岩	
73	377	フレイク	珪質頁岩	
74	378	フレイク	珪質頁岩	
	379	フレイク	珪質頁岩	
115	380	フレイク	黒色安山岩	

押戻 番号	遺物 番号	器 種	石 材	備 考
69	381	石鏃	珪質頁岩	
	382	フレイク	珪質頁岩	
	383	チップ	珪質頁岩	
116	384	フレイク	黒色安山岩	
117	385	フレイク	黒色安山岩	
82	386	フレイク	珪質頁岩	
	387	チップ	珪質頁岩	
	389	フレイク	珪質頁岩	
	390	フレイク	珪質頁岩	
83	391	フレイク	珪質頁岩	
	392	チップ	安山岩	
92	393	フレイク	安山岩	
	394	フレイク	安山岩	
	395	フレイク	安山岩	
	397	チップ	珪質頁岩	
	398	フレイク	安山岩	
	400	フレイク	珪質頁岩	
	401	フレイク	珪質頁岩	
	402	チップ	珪質頁岩	
107	402	石鏃未製品	黒色安山岩	
	403	チップ	珪質頁岩	
90	404	フレイク	珪質頁岩	
	405	チップ	珪質頁岩	
	406	フレイク	安山岩	
	407	フレイク	珪質頁岩	
	408	フレイク	珪質頁岩	
	409	フレイク	珪質頁岩	
75	410	フレイク	珪質頁岩	
	411	フレイク	安山岩	
	412	フレイク	珪質頁岩	
	413	フレイク	安山岩	
	414	フレイク	安山岩	
	415	フレイク	珪質頁岩	
	416	チップ	安山岩	
	417	フレイク	珪質頁岩	
	418	フレイク	珪質頁岩	
	419	チップ	安山岩	
	420	フレイク	安山岩	
	421	フレイク	安山岩	
97	422	フレイク	珪質頁岩	
76	423	フレイク	珪質頁岩	
	424	フレイク	安山岩	
118	425	フレイク	黒色安山岩	
	426	フレイク	安山岩	
84	426	フレイク	珪質頁岩	
104	427	フレイク	珪質頁岩	
98	428	フレイク	珪質頁岩	
	429	フレイク	珪質頁岩	
	430	フレイク	珪質頁岩	
	431	フレイク	珪質頁岩	
	435	フレイク	安山岩	

第19表 浜場遺跡 石器観察表(1)

採回 番号	遺物 番号	器 種	石 材	備 考
	436	フレイク	安山岩	
	437	チップ	安山岩	
93	438	フレイク	珧質頁岩	
	439	フレイク	珧質頁岩	
	440	フレイク	頁岩	
	441	チップ	珧質頁岩	
	442	フレイク	珧質頁岩	
	443	フレイク	珧質頁岩	
	444	フレイク	珧質頁岩	
	445	フレイク	珧質頁岩	
	446	フレイク	珧質頁岩	
	447	フレイク	珧質頁岩	
	448	チップ	珧質頁岩	
	451	チップ	珧質頁岩	
	452	チップ	珧質頁岩	
	454	チップ	珧質頁岩	
	455	チップ	珧質頁岩	
	456	チップ	珧質頁岩	
	457	チップ	珧質頁岩	
	458	チップ	珧質頁岩	
	459	チップ	珧質頁岩	
	461	チップ	珧質頁岩	
	462	フレイク	珧質頁岩	
	463	チップ	珧質頁岩	
	464	フレイク	安山岩	
	465	チップ	珧質頁岩	
112	466	石礫未製品	黒色安山岩	
	467	フレイク	珧質頁岩	
	468	フレイク	珧質頁岩	
	469	チップ	珧質頁岩	
	470	チップ	珧質頁岩	
71	471	石礫未製品	珧質頁岩	
	472	石礫未製品	黒色安山岩	
	473	チップ	珧質頁岩	
	474	フレイク	珧質頁岩	
	474	磨製石斧	硬質頁岩	
79	475	フレイク	珧質頁岩	
	476	チップ	珧質頁岩	
121	477	フレイク	黒色安山岩	
	478	チップ	珧質頁岩	
	479	チップ	珧質頁岩	
	480	チップ	珧質頁岩	
	481	チップ	珧質頁岩	
85	482	フレイク	珧質頁岩	
	483	フレイク	珧質頁岩	
	484	チップ	珧質頁岩	
	485	チップ	珧質頁岩	
	486	チップ	珧質頁岩	
	487	チップ	珧質頁岩	
	488	フレイク	珧質頁岩	

採回 番号	遺物 番号	器 種	石 材	備 考
	489	フレイク	珧質頁岩	
	490	フレイク	珧質頁岩	
	491	チップ	珧質頁岩	
	492	チップ	珧質頁岩	
	493	フレイク	珧質頁岩	
	494	フレイク	珧質頁岩	
	495	チップ	珧質頁岩	
94	496	フレイク	珧質頁岩	
	497	フレイク	珧質頁岩	
	498	フレイク	珧質頁岩	
	499	フレイク	安山岩	
	500	チップ	珧質頁岩	
	501	チップ	珧質頁岩	
	501	打製石斧	頁岩	ホルンフェルス?
	502	フレイク	珧質頁岩	
	503	フレイク	珧質頁岩	
	504	二次加工剥片	珧質頁岩	
	505	フレイク	珧質頁岩	
	506	フレイク	珧質頁岩	
108	507	二次加工剥片	黒色安山岩	
	508	使用痕剥片	珧質頁岩	
	509	フレイク	珧質頁岩	
	510	フレイク	珧質頁岩	
	511	チップ	珧質頁岩	
	512	チップ	珧質頁岩	
	513	チップ	珧質頁岩	
	514	チップ	珧質頁岩	
	515	チップ	珧質頁岩	
	516	チップ	珧質頁岩	
	517	チップ	珧質頁岩	
	518	フレイク	珧質頁岩	
	519	チップ	珧質頁岩	
	520	チップ	珧質頁岩	
	521	フレイク	珧質頁岩	
	522	チップ	珧質頁岩	
	523	使用痕剥片	珧質頁岩	
	524	チップ	珧質頁岩	
	525	チップ	珧質頁岩	
	526	フレイク	珧質頁岩	
	527	二次加工剥片	珧質頁岩	?
99	529	フレイク	珧質頁岩	
	530	フレイク	珧質頁岩	
86	531	フレイク	珧質頁岩	
	532	フレイク	珧質頁岩	
	533	フレイク	珧質頁岩	礫面付
	534	フレイク	珧質頁岩	
	535	二次加工剥片	珧質頁岩	◎
	536	二次加工剥片	珧質頁岩	◎
	537	フレイク	珧質頁岩	
	537	磨製石斧	硬質頁岩	

第20表 浜場遺跡 石器観察表(2)

採回 番号	遺物 番号	器種	石材	備考
	538	チップ	珪質頁岩	
	539	チップ	珪質頁岩	
	539	使用痕剥片	頁岩	ホルンフェルス?
	541	チップ	珪質頁岩	
	542	フレイク	珪質頁岩	
	544	フレイク	珪質頁岩	
	545	チップ	珪質頁岩	
	546	フレイク	珪質頁岩	礫面付
	547	使用痕剥片	珪質頁岩	
	548	フレイク	珪質頁岩	
87	548	二次加工剥片	硬質頁岩	
80	550	フレイク	珪質頁岩	
	551	フレイク	珪質頁岩	
	552	フレイク	珪質頁岩	
	554	フレイク	珪質頁岩	
	555	使用痕剥片	珪質頁岩	
	558	チップ	珪質頁岩	
	559	使用痕剥片	珪質頁岩	
	560		凝灰岩	火山灰包含物
	561	フレイク	珪質頁岩	
	562	チップ	珪質頁岩	
	563	フレイク	珪質頁岩	
122	564	フレイク	黒色安山岩	
	566	チップ	珪質頁岩	
	567	チップ	チャート A	
113	568	石礫未製品	黒色安山岩	
	569	使用痕剥片	安山岩	
	570	チップ	チャート A	
128	571	石礫	チャート A	
119	572	使用痕剥片	黒色安山岩	
	573	フレイク	安山岩	
88	574	フレイク	珪質頁岩	
	575	二次加工剥片	珪質頁岩	
	576	フレイク	安山岩	
	577	フレイク	珪質頁岩	
	578	フレイク	珪質頁岩	
72	579	石礫未製品	珪質頁岩	
	580	フレイク	珪質頁岩	
	581	フレイク	珪質頁岩	
	582	フレイク	珪質頁岩	
	583	フレイク	珪質頁岩	
	584	チップ	珪質頁岩	
	585	チップ	珪質頁岩	
	586	チップ	珪質頁岩	
	587	チップ	珪質頁岩	
	588	フレイク	珪質頁岩	
	589	フレイク	珪質頁岩	
	590	フレイク	珪質頁岩	
77	591	フレイク	珪質頁岩	
	592	使用痕剥片	珪質頁岩	?
	593	フレイク	安山岩	

採回 番号	遺物 番号	器種	石材	備考
	594	フレイク	安山岩	
	596	チップ	安山岩	
	615	二次加工剥片	安山岩	◎
	616	使用痕剥片	珪質頁岩	◎
	617	フレイク	珪質頁岩	
78	619	フレイク	珪質頁岩	
100	620	石核	珪質頁岩	
	621	フレイク	珪質頁岩	
	622	フレイク	珪質頁岩	
89	623	フレイク	珪質頁岩	
	624	チップ	珪質頁岩	
	625	チップ	珪質頁岩	
70	626	石礫	珪質頁岩	脚部欠損
	627	チップ	珪質頁岩	
	628	フレイク	珪質頁岩	
91	629	フレイク	珪質頁岩	
	630	チップ	珪質頁岩	
	631	フレイク	珪質頁岩	
95	632	フレイク	珪質頁岩	
	633	フレイク	安山岩	
	634	フレイク	安山岩	
	635	フレイク	安山岩	
	636	チップ	珪質頁岩	
106	637	石礫未製品	黒色安山岩	
	640	フレイク	安山岩	
123	641	フレイク	黒色安山岩	
	642	フレイク	安山岩	
	643	フレイク	珪質頁岩	
	644	フレイク	珪質頁岩	
	645	フレイク	珪質頁岩	
	646	フレイク	珪質頁岩	
	647	フレイク	安山岩	
	648	チップ	珪質頁岩	
	649	フレイク	珪質頁岩	
	650	フレイク	珪質頁岩	
	651	フレイク	珪質頁岩	
	652	フレイク	珪質頁岩	
	653	フレイク	安山岩	
	654	チップ	安山岩	
	655	チップ	珪質頁岩	
96	656	フレイク	珪質頁岩	
	658	フレイク	珪質頁岩	
	659	チップ	珪質頁岩	
	660	チップ	珪質頁岩	
	661	チップ	珪質頁岩	
	662	チップ	珪質頁岩	
	664	フレイク	珪質頁岩	
	666	チップ	安山岩	
	667	フレイク	安山岩	
	668	フレイク	珪質頁岩	
	669	チップ	珪質頁岩	

第21表 浜場遺跡 石器観察表(3)

押印番号	遺物番号	器種	石材	備考
	670	フレイク	安山岩	
	671	フレイク	珪質頁岩	
	672	フレイク	珪質頁岩	
	673	フレイク	安山岩	
	674	フレイク	珪質頁岩	
	675	チップ	安山岩	
	676	チップ	珪質頁岩	
	677	フレイク	珪質頁岩	
	678	チップ	珪質頁岩	
	679	チップ	珪質頁岩	
	680	フレイク	安山岩	
114	681	石鏝未製品	黒色安山岩	
	682	チップ	珪質頁岩	
	683	チップ	珪質頁岩	
	685	チップ	珪質頁岩	
	686	チップ	安山岩	
	687	フレイク	珪質頁岩	
	688	チップ	安山岩	
	689	フレイク	珪質頁岩	
	690	フレイク	珪質頁岩	
	691	フレイク	珪質頁岩	
	692	チップ	珪質頁岩	
	693	チップ	珪質頁岩	
	694	チップ	安山岩	
	695	フレイク	珪質頁岩	
	696	フレイク	珪質頁岩	
	697	フレイク	珪質頁岩	

押印番号	遺物番号	器種	石材	備考
	698	フレイク	珪質頁岩	
	699	二次加工剥片	珪質頁岩	
125	701	石鏝	チャートA	
	702	チップ	安山岩	
	703	フレイク	珪質頁岩	
	706	チップ	珪質頁岩	
	707	フレイク	安山岩	
	709	磨製石斧	硬質頁岩	未製品
105	719	石鏝	頁岩	
	722	フレイク	チャートA	
	861	磨製石斧	頁岩	ホルンフェルス?
	341-1	フレイク	珪質頁岩	
	341-2,3	フレイク	珪質頁岩	
	374-1	フレイク	珪質頁岩	
	377-1	フレイク	珪質頁岩	
	399-1,2	フレイク	珪質頁岩	
	399-3	チップ	安山岩	
	528-1,2	フレイク	安山岩	
	528-3	チップ	珪質頁岩	
126	石鏝3	石鏝	チャートA	

- ※チャートA：淡緑色を呈す  
 チャートB：淡灰色を呈し黒色の線が入る  
 チャートC：淡赤茶色を呈す  
 チャートD：乳白色  
 チャートE：墨色

第22表 浜場遺跡 石器観察表(4)

- 9) 本文の記載事項はすべて東鑑志に資がある。  
 10) 和田氏のご指摘により色の類似するチャートが混ざることが判明したが、ここでは期間の都合上、当初の本文のまま掲載した。正確な石材については前述の和田氏作成の表を参照いただきたい。  
 11) 日本書紀「うまならばひむかの…」  
 12) 牧道部の穂列状柱列・下福遺跡の馬蹄状柱列、また、町内にはおもに近世に由来するものと思われるが牛馬飼育に関する小字名が見られる。例では○○畑は脱走防止の囲み溝を指すなどである。  
 13) どの程度定住したか、どの規模で集落とするかなどの問題点は除き、表現としてこの語句を用いる。

## 参考文献

- 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・菅村武一 1999 『鹿児島県の歴史』 歴史46 山川出版社  
 有明町郷土史編さん委員会編 1980 『有明町誌』 有明町  
 東鑑志・中水忠・出口順一郎 2003 『黒島遺跡(第1次・第2次)、牧塚遺跡、牧原A遺跡、大迫遺跡、飯野A遺跡、本村遺跡』有明町歴史文化財発掘調査報告書(3) 有明町教育委員会  
 中村直子 『成川式土器再考』『鹿児島大学』第6号 鹿児島大学法文学部考古学研究室  
 新東晃一 1989 『九州貝殻文陶器図録』『縄文土器大観』1 小学館  
 新東晃一 1989 『草ノ神・平野式土器様式』『縄文土器大観』1 小学館  
 南九州縄文研究会 2002 『南九州縄文集成1 南九州貝殻文土器』1～鹿児島県～  
 秋成雅博ほか 2003 『ボクデン・サンコスモ古賀建設(事)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』 福岡県古賀市教育委員会  
 桑原田武志 1998 『第4巻 縄文時代早期の調査』『向得原遺跡1』 鹿児島県吉田町教育委員会  
 九州縄文研究会・宮崎県考古学会 2003 『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』第13回九州縄文研究会 宮崎大会 資料集  
 八木澤一郎 1992 『鹿児島県下の縄文期集石1』『南九州縄文通信』No.6 南九州縄文研究会  
 八木澤一郎 1994 『南九州の集石遺構』『南九州縄文通信』No.8 南九州縄文研究会  
 新東晃一 1997 『縄文時代早期炉穴の復元』『南九州縄文通信』No.11 南九州縄文研究会  
 西宮瑞生 1997 『標準付きか穴の設計図』『南九州縄文通信』No.11 南九州縄文研究会

## 第IV章 下堀遺跡の調査成果

### 第1節 調査の環境

#### 地理の環境

おおまかな地理的環境は第1章に記述したとおりである。調査地周辺の現況としては、整備済みの耕地が台地上に広がっているが、その中には小谷地形が見られ、整備以前は起伏が大きかったことが予想できる。

調査地点は田原川に面した台地縁辺部に位置しており、現況でも最頂部が比高差10m程の丘になっている。丘は北側斜面がやや急斜面で、東側が緩やかな斜面になっており、西側は田原川に向かう小谷地形の斜面となる。南側は現況が山林と廃工場であるが、緩やかな斜面が続いていたと思われる。

#### 調査の環境

調査は10月下旬から3月下旬まで実施した。期間中は天候に恵まれたが、12月より霜の季節となり、地表面の凍結などにより調査が停滞した。さらに、調査範囲の追加などもあり、時間的余裕のない中で不十分な検討のまま調査を進めた。また、霜と合わせて北風が1日中吹きつけていたため、作業員の体調などの労働面での不安も大きかった。

なお、調査に際しては、隣接地が茶畑であったことから排出土の仮置場が確保できなかったため、一部を近辺の借上地に持ち出し、残りは調査地を調査区ごとに分けて、調査完了区から仮置場を利用した。

### 第2節 調査の概要

本調査計画としては、調査対象範囲が確認調査の成果から古墳時代に相当する包含層・遺構面が対象範囲全体に拡がり、縄文時代早期に相当するものは丘の頂点付近と東側斜面中央の2カ所に集中する範囲が存在すると想定できた。そのため前者は全面的に調査を行ない、後者は集中する範囲を中心に分布範囲を確認しながら、随時拡張していくことを決めて調査に着手した。

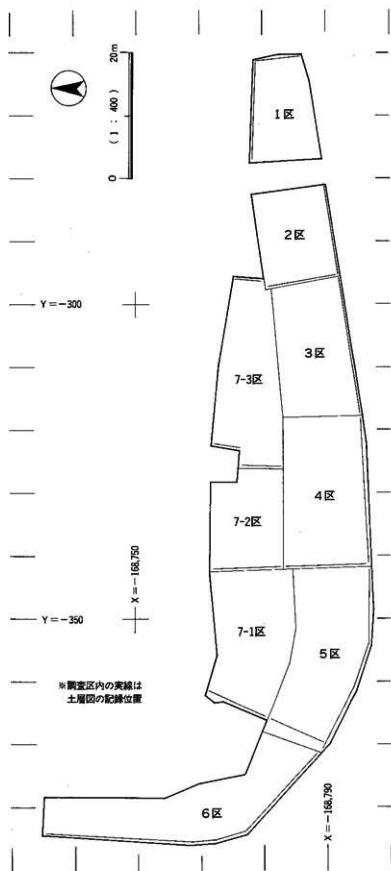
結果としては、古墳時代の包含層・遺構面は縄文時代晩期を中心としたものであり、5区を中心に全体に拡がるのが確認できた。一方、縄文時代早期の包含層・遺構面は想定より大きく拡がり、最終的には丘全体に及ぶことが確認できた。

また、道路整備にともない隣接する山林が削平されて農地になるとの連絡を受け、急遽、トレンチを設けて確認調査を行なったところ、調査の必要があると判断できたため、事業者・地主の了解のもと追加で調査を行なうこととなった。7区の範囲がこの追加範囲となる。

以上のことを受けて、調査期間延長を申し出て1ヶ月の延長となったが、当初の計画から事業の都合により調査員2名体制で期間短縮を図っていたため、この1ヶ月でも十分とは言えなかった。そのため、状況に応じて調査方法・対象に取捨選択を行ない、できるだけ良好な記録保存となるように努めている。

#### 1. 調査方法

調査は、調査員2名による作業員2班体制で実施した。1班は15名前後である。記録は写真撮影を調査員が行ない、図面の記録は調査員のもと作図を委託した。註記・観察などは調査員が記録した。掘下げは人力で行なったが、表土（I）・イケダ（VI）・アカホヤ（VII）層の掘下げについては重機を用いた。重機による掘下げは調査員及び作業員の立会のもと、平バケット装着の重機で薄く剥ぎ取り



第47図 下堰遺跡 調査区配置

を行なった。

調査区は道路整備範囲から約1m内側を任意で設定した。東から1区・2区と数えて計6区となる。7区については、前述のとおり追加となった範囲を示しており、西側から7-1区・7-2区・7-3区と数えた。

調査の進行は、まず、1班が調査対象範囲の東側の1区から着手して西に向かい、途中からもう1班が西側の6区から東に向かって調査を実施した。詳細は表のとおりである。

縄文時代早期の包含層(Ⅶ~Ⅺ層)の調査については、各区の調査において、先行トレンチを設けて土層堆積や遺物・遺構の分布と密度などを確認してから、調査区全体の調査を行なった。先行トレンチの位置と成果は、以下のとおりである。

- 2区：調査区西壁に沿って幅3mで設定する。1cm火の土器片数点と2・3cm大の礫が10数個出土、柱穴らしき痕跡を検出する。
- 3区：調査区南壁に沿って幅3mで設定する。多量の礫が出土する。遺物密度が東西で大きく異なり、東の2区に近づくにつれて希薄になる。
- 4区：調査区西壁・南壁に沿って幅3mで設定する。多量の遺物と多数の遺構を確認する。
- 5区：調査区南西隅に幅4m×長さ10mで設定する。薄い包含層に多量の遺物を確認する。
- 6区：調査区北半中央に幅2.5m×長さ10mで設定する。地形が北に下ることを確認する。地形の傾斜に従って、遺物が幅



		1 段階	2 段階	3 段階	4 段階	5 段階
1 区	掘1	全面調査を行なう。				
	掘2	既設トレンチ跡で土層の草種状況を確認する。拡張せず。	掘の戻す。			
2 区	掘1	全面調査。				
	掘出掘2	西壁際に2m幅の南北トレンチを設けて遺物・遺構の有無を確認する。 いずれも希薄のため拡張せず。	掘の戻す。			
3・4 区	掘1	全面調査を行なう。				
	掘出掘2	2・4区西壁跡と4区西壁跡に3m幅の先行トレンチを設けて遺物・遺構の有無と分布状況を確認する。 多量の遺物と明確な遺構を検出する。ただし、3区は北に向かって希薄であった。	2・4区1区の順に全面調査して分布態を確認する。遺物・遺構の分布が密がり、いずれも数量が膨大な量であることが判明する。 ただし、3区は東端にかけて遺物・遺構は希薄となる。	4区1区順に全面調査して分布態を確認する。遺物・遺構の分布が密がり、いずれも数量が膨大な量であることが判明する。 ただし、3区は東端にかけて遺物・遺構は希薄となる。	掘区において、柱穴が極めて少ないが検出できなかったことから、掘区上面まで掘削し、多数の柱穴跡を確認する。	4区は各遺構を調査する。掘区北側の掘削を行わない、「シムズ」遺構を確認する。
5 区	掘1	全面調査を行なう。				
	掘出掘2			先行トレンチで遺物・遺構の有無を確認する。多量の遺物と明確な遺構を検出する。	掘削前から調査を行ない、次いで北半分を行なう。遺物・遺構の分布が密がり、いずれも数量が膨大な量である。 掘削区層としていた埋層を掘削区と認識する。	掘削土坑の新掘りを行ない、「シムズ」遺構を確認する。
6 区	掘1	全面調査を行なう。				
	掘出掘2			掘削区層が密がり、北半分の掘削については掘削区中央に3m幅の先行トレンチを設けて遺物・遺構の有無を確認する。いずれも北に向かって掘削の希薄になるため、拡張せず。	掘の戻す。	
7-1 区	掘1					全面調査を行なう。
	掘出掘2					掘削区層まで人力で、掘削区層を掘削区層のもとで掘削される。多数の遺物・遺構が確認される。 掘削土坑の新掘りを行ない、「シムズ」遺構を確認する。
7-2 区	掘1				全面調査を行なう。	
	掘出掘2			先行トレンチで掘出掘1・2の遺物・遺構の有無を確認する。いずれも調査記録が必要と判断し、調査範囲の拡張を決める。	掘削区層まで人力で、掘削区層を掘削区層のもとで掘削する。多数の遺物・遺構を確認する。	掘の戻す。
7-3 区	掘1				全面調査を行なう。	
	掘出掘2			先行トレンチで掘出掘1・2の遺物・遺構の有無を確認する。いずれも調査記録が必要と判断し、調査範囲の拡張を決める。 掘出掘2の全面調査を行なう。	掘削区層まで掘削するが、掘削区層は希薄であったため、掘削を併用する。 掘削区層は掘削による破壊を免れると考えられたが、掘削のための掘削検出する。	掘の戻す。

第23表 下堀遺跡 調査進行表

端に希薄になる。遺構も見られない。

7-1区：調査区北東隅に幅1m×長さ7mで設定する。遺物密度が北に向かって希薄になるのを確認する。

7-2区：調査区西壁に沿って幅3mで設定する。多量の遺物と多数の遺構を確認する。

7-3区：調査区西壁に沿って幅1mで設定する。遺物と遺構を確認する。

なお、土層の観察は各調査区壁で行なったが、4区・7-2区と5区・7-1区の境、5区と6区の境には土層観察ベルトを残して調査を実施した。

遺構の検出については、VI層上面とVII層上面・VIII層上面において行なった。従来は、VIII層上面のみで検出を行っていた縄文時代早期の遺構群の検出を、VIII層上面とVII層上面で2回実施し、VIII層上面において検出の困難な小柱穴を把握することができた。

遺構調査については、掘出掘2の土坑の一部を、通常の「掘出→半掘→完掘」の工程に加えて、完掘後に長軸方向に断割りを行ない、遺構下部の土層確認を実施した。また、掘出掘2の柱穴は3区を除いたほとんどを掘出後に断割って土層を確認した。

層番号	調査呼称	推定火山灰	時期と出土土器	層の特徴
I-1	表土		現代	白色砂粒を含む
-2	旧耕土		現代、おもに戦後の開拓時の耕作土	白色砂粒を含む
II	クロボク		I層との攪乱が激しく詳細は不明であるが、陶器片などはこの層に由来するものか。	
III	ミイケ	板島テフラ	出土土器は11類(突帯文)、時期は縄文時代歴史時代のテフラ?	赤く発色した黒色土
IV	橙色砂粒	Sz-5		橙色砂粒を含む
V	青黒			青く発色した黒色土、比較的締まる
VI	イケダ	Ik 約5,700年前		1~3cm大の軽石を多量に含む
VII-0	アカホヤ0			下層の漸移層
		(Aha) 約6,300年前		明橙色で、粒度が非常に細かい 明橙色で、粒度が細かい 橙色で、粒度が非常に粗い
VIII	B1Y		VII~X層は縄文時代早期の包含層、層位的にはVII層から10類(右京西式)が出土する。	上層土を非常に多く含む
IX	B1(クロ1)		IX・X層で1~9類(塞ノ神式・手向山式・桑ノ丸式・下剝峰式・石坂式・倉岡B式・吉田式・前平式)が出土する。この2層では遺物を層位的に把握できなかった。	黒色が濃く、下層に比べて柔い
X	B2(クロ2)	Sz-11・12 Sz 13		白色・橙色砂粒(パミス)を上下層に比べて多く含む
XI	B3(クロ3)		今回、無遺物層であることを確認した層で、わずかに見られる遺物は遺構の落ち込みによるものである。	黒色が薄く、上層に比べて非常に硬い
-2	B4(クロ4)		3区でのみ見られた層位で、自然地形の落ち込みであろうか。	
XII	サツマモドキ	Sz-5 約11,000年前	上面が従来の遺構検出面である。土坑などは確実に検出できるが、小柱穴は見落とす。	下層に比べて発色の悪い黄色で、シミ状の斑点が見られる
XIII	サツマ		上面が小柱穴の検出面である。	黄色砂質土で、シミ状斑点や明黄褐色土塊が見られる
IV				やや粘性がある
IV	チョコ		縄文時代草創期と考えられる層であるが町内では遺物の出土例がない。今回、黒曜石の剥片(531)が1点出土した。	粘性が強い
IV				

※破線は遺構検出面をしめす

※推定火山灰は第V章のテフラ分析による

第24表 下堀遺跡 基本土層

層番号	調査呼称	土層・土質の詳細(記録位置)
I-1	表土	山林の腐葉土:7.5Y2/1黒色土、非常に柔い(2・3・4区南壁) 橋脚工事用仮設道路の造成土(1区)
-2	旧耕土	7.5GY3/1暗緑灰色土、多量の1~5mm大の白色砂粒を含む(2・3・4区南壁) 7.5GY2/1オリーブ黒色土、少量の1mm大の白色砂粒を含む(7-3区西壁)
II	クロボク	7.5YR2/1黒色土、粒度が細かく、やや硬い(1区)
III	ミイケ	10YR3/1黒褐色土、粒度が細かく、やや硬い(1区)
		10YR2/1黒色土、薄く赤色に発色する(2・3・4区南壁)
	ミイケ1	N2/0黒色土、多量に1mm大の橙色砂粒を含む(1区)
	ミイケ2	10YR2/1黒色土、1mm大の橙色砂粒を含む(1区)
IV	橙色砂粒	2.5Y3/1黒褐色土、非常に多量の橙色砂粒を含む(1区)
V	青黒	10G2/1緑黒色土(1区)
		5G2/1緑黒色土、直上の層よりやや硬い(2・3・4区南壁)
VI	イケダ	10YR2/2黒褐色土、少量の3~5mm大の橙色軽石を含む(2・3・4区南壁)
		10YR2/2黒褐色砂質土、層の上位は黒色が濃い、アカホヤ層の漸移層(7-3区東壁)
		2.5Y6/8明黄褐色砂質土、直下の層より粒度が細かい(1区)
		5Y6/6オリーブ色砂質土(1区)
		2.5Y5/3黄褐色土、非常に多量の1~10mm大の橙色砂粒を含む(1区)
VII	B1Y	7.5YR2/3極暗褐色土、少量の1~5mm大の10YR6/8明黄褐色を含み、やや柔い(7-3区東壁)
IX	B1(クロ1)	7.5YR1.7/1黒色土、やや柔い(1区)
X	B2(クロ2)	10YR2/1黒色土、硬い(1区)
		5Y2/1黒色土、多量に1mm大以下の白色・橙色砂粒を含む(2・3・4区南壁)
XI	B3(クロ3)	2.5Y3/1黒褐色土、非常に硬い(1区)
		2.5Y3/2黒褐色土、多量に5mm大以下の白色・橙色砂粒を含む(2・3・4区南壁)
	B4(クロ4)	2.5Y4/3オリーブ褐色土、2~4mm大の橙色砂粒をやや含む(2・3・4区南壁)
XII	サツマモドキ	2.5Y5/2暗灰黄色土(1区)
		2.5Y4/2暗灰黄色土、多量に5Y6/3オリーブ黄色土の範囲が斑点状に見られる(2・3・4区南壁)
		2.5Y5/4黄褐色砂質土、2.5Y4/2暗灰黄色色の範囲が見られ、層の上位の変色が濃い、サツマ層の漸移層であろうか(7-3区東壁)
XIII	サツマ	2.5Y5/4黄褐色土、1~10cm大の10YR6/6明黄褐色土ブロックを含む(1区)
		2.5Y6/6明黄褐色砂質土、上面付近に1~5cm大の2.5Y6/8明黄褐色土ブロックを含む(7-3区東壁)
IV		2.5Y3/1黒褐色土、2cm大以下の橙色砂粒と上下層の層土を含む(1区)
IV	チョコ	7.5Y4/2灰褐色粘土(1区)
IV		2.5Y5/6黄褐色粘質土、5mm大以下の2.5Y4/2暗灰黄色色の斑点状の範囲が見られる(1区)

第25表 下掘遺跡 土色・土質詳細(1)

層番号	調査呼称	土層・土質の詳細（記録位置）
Ⅲ	サツマ	2.5Y5/4黄褐色砂質土、多量に10mm以下の橙色軽石を含み、斑点状に色調の濃淡が見られる
Ⅳ		10YR3/2黒褐色砂質土、多量に5cm以下の5Y2/1黒色土ブロックが見られる
Ⅳ-1	チョコ1	10YR4/3にふい黄褐色粘質土、非常に粘性が強い
-2	チョコ2	10YR7/8黄褐色粘質土、非常に粘性が強い
Ⅴ		10YR8/8黄褐色粘質土、多量に10YR5/4にふい黄褐色土ブロックを含む、ブロックは縦に長い
Ⅵ		2.5Y4/3オリーブ褐色土、縦長のブロック状に割れて上層の10YR8/8黄褐色粘質土が入る
Ⅶ		2.5Y6/8明黄褐色土、やや粘性があり、3cm大以下の橙色軽石を含む
Ⅷ-1		2.5Y7/6明黄褐色細砂、多量に2cm大以下の橙色軽石を含み、下にいくほど砂粒は粗い
-2		2.5Y6/4にふい黄色中砂、非常に多量の3cm大以下の橙色軽石と、非常に多量の3cm大以下の白色・黒色砂粒を含む
-3		2.5Y5/2暗灰黄色粗砂、非常に多量の5cm大以下の橙色軽石と、非常に多量の5cm大以下の白色・黒色砂粒を含む
Ⅷ	シラス頭	10YR5/2灰黄褐色砂質土、粘性を帯び、上層（Ⅷ-3層）と同様の砂粒を多量に含む

※土色・土質記録位置は、土坑26・27の断割り時である

第26表 下堀遺跡 土色・土質詳細（2）

## 2. 層序

### ア) 現況と旧地形

調査地は、前述のとおり周辺から比高差10m程度の丘で、頂上部は5区東半付近にあたる。

現況は山林で、確認調査の時点で杉の植林が行なわれていた。聞き取り調査によると戦後に山を開拓して畑地としていた時期があり、当時耕地化のため人力で平坦に整えたということであった。一部、調査区を通過するための工所用搬入路により攪乱が見られるが、それ以外の削平は調査成果からも見られず、全体としてはおおそ旧地形のままと考えられる。

層位の観察からは、丘の最頂部に径30m程度の平坦面が見られ、耕地化を受けた地表面と変わらない程、もともと平坦な点が注目される。

なお、丘地形から外れる6区は、本来は東に下る凹地形であったと考えられ、調査地周辺も西の田原川に下るのではなく、東の小谷地形に向かってなだらかに下っている。

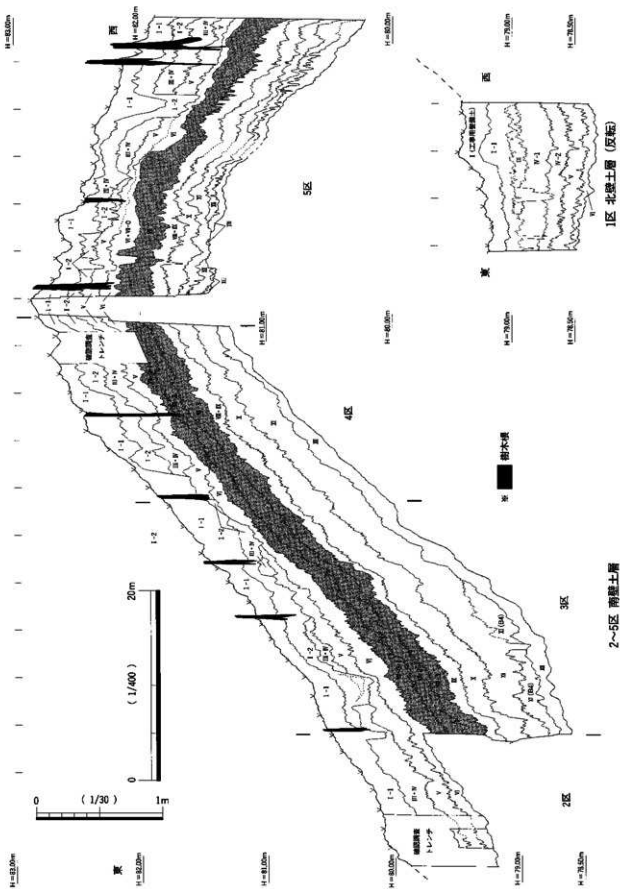
### イ) 層序

当遺跡での基本土層は、従来の有明町における土層とほぼ類似する。ただし、Ⅷ層・Ⅸ-2層・Ⅹ層については今回の調査で把握したものである。

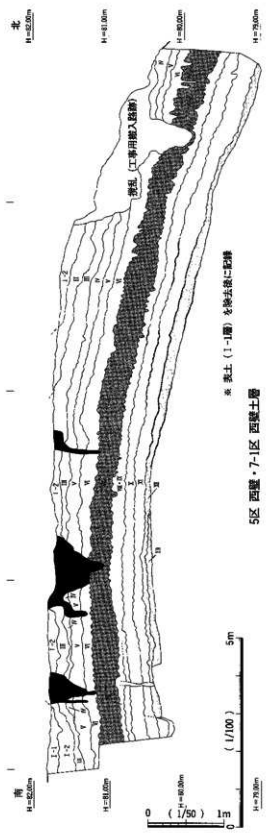
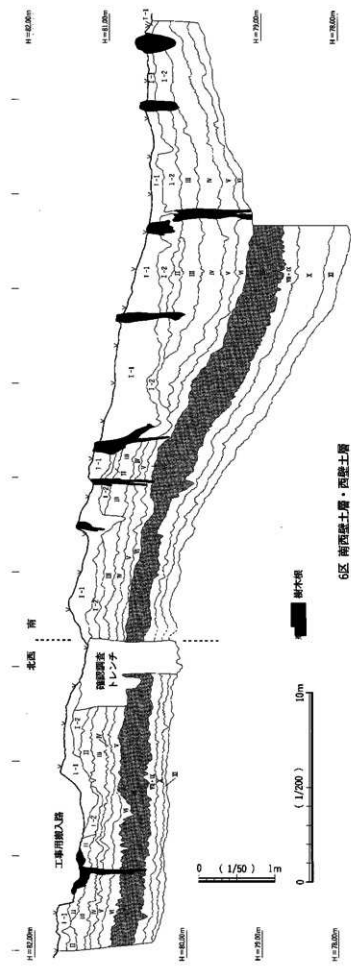
Ⅷ層は、従来、アカホヤ（Ⅶ）層と縄文時代早期包含層の漸移層と考えていた層位であるが、右京西式（10類）が多量の礫・赤い変色破砕礫を伴って包含される単層であることが確認できた。遺構については、Ⅷ層ないしⅨ層上面において数基の集石が存在しており、一部においては径30～50cmの土坑と思われる凹みも見られた<sup>2)</sup>。

Ⅸ-2層は、当遺跡で初めて確認したが、自然の凹地形への堆積土の可能性が高いと考えられる。

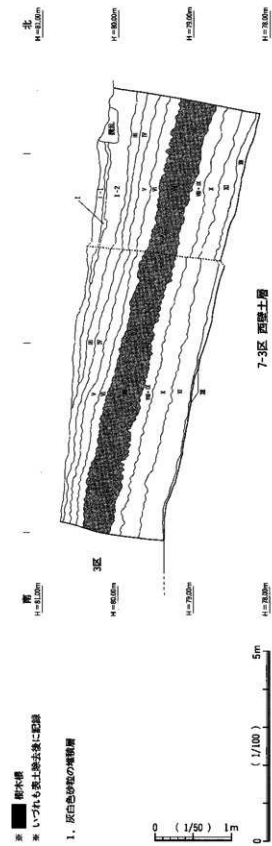
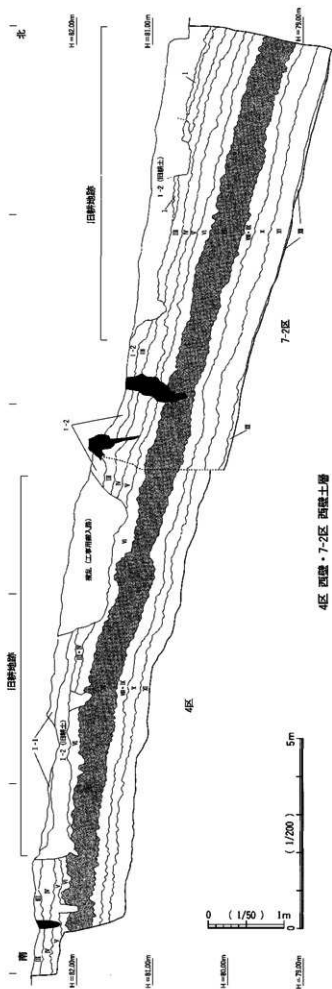
Ⅹ層は、「サツマモドキ」層と呼称したが町内における既往調査の「サツマ1」層であり、従来この層上面での遺構精査では小柱穴などの小さな遺構を見落とす可能性が大きく、もう1層下のⅧ層まで掘り下げる必要があることが判明した。ただし、この遺構検出面については調査地周辺に限った状



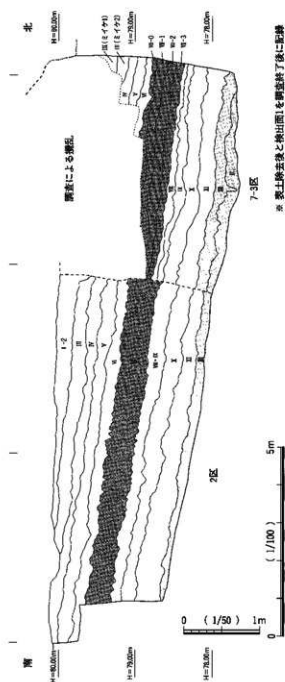
第48図 下堀遺跡 調査区土層 (1)



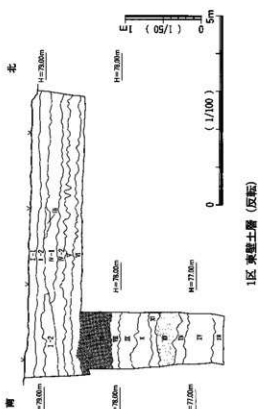
第49図 下掘遺跡 調査区土層 (2)



第50図 下堀遺跡 調査区土層(3)



2区 西壁・7-3区 東壁土層 (反転)



1区 東壁土層 (反転)

第51図 下堀遺跡 調査区土層 (4)

況とも考えられる<sup>3)</sup>。

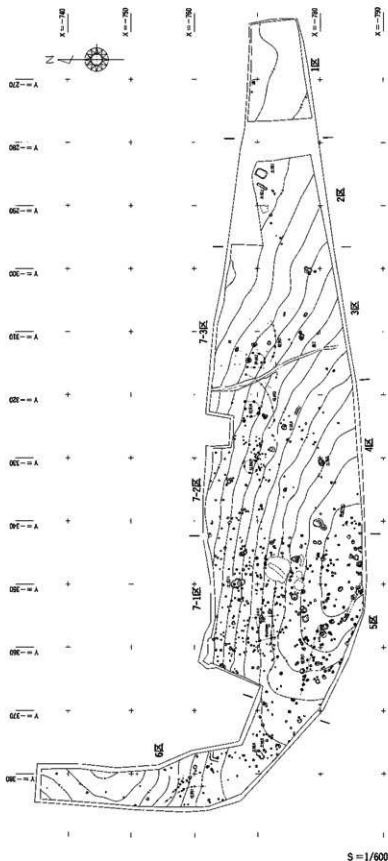
また、各土層の堆積状況としては、小丘状地形のため、標高が高くなるにつれて層厚が薄く、含まれる軽石なども少なくなる。とくに4区西半から5区東半にかけてはイケダ(VI)層が面で確認できない。

その他、基本土層および土色・土質についての詳細は表のとおりである。

### 3. 検出面1の調査成果

VI層上面で遺構を検出したが、4区西半から5区東半にかけてはVII層上面で精査を行なった。





第52図 下堀遺跡 VI層上面 地形と遺構配置

## ア) 遺構

遺構は全体的に調査区西側に集まり、丘の頂上部から北側斜面にあたる5区～7-1区に最も集中する。7-2区～7-3区では等高線79.00～81.00mの間に集まっている。

遺構は溝・土坑・柱穴を検出したが、柱穴が大半を占めており、配列から何らかの施設が想定できる柱列が6基ある。それぞれの平面形態は異なり、円形・馬蹄形・弧状・ラッパ状を呈する。性格については不明であるが、形態から馬蹄形の柱列2～5は牛馬飼育に関するものが<sup>9)</sup>、ラッパ状の柱列1は狩猟に関するものが考えられる<sup>9)</sup>。

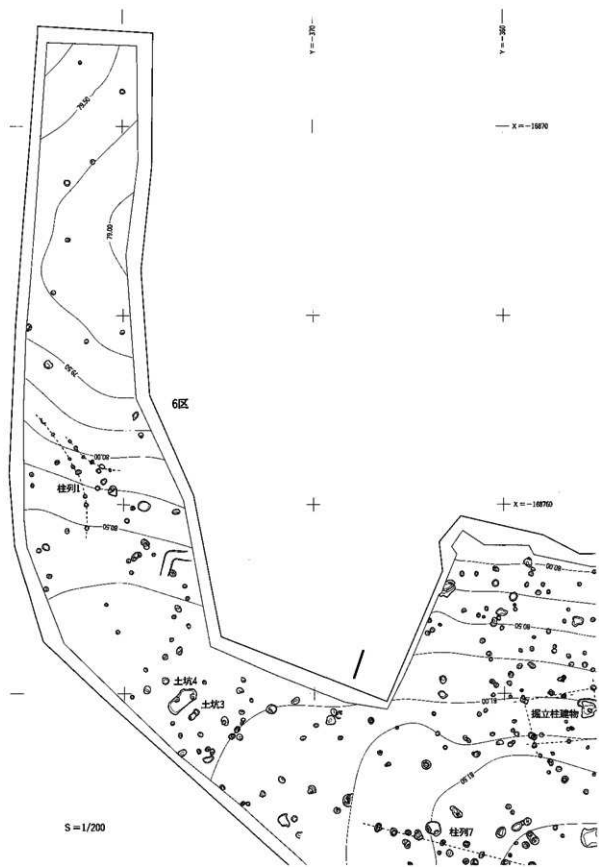
各遺構の詳細な時期及び存続期間の並行関係は不明であるが、おもに縄文時代晩期にあたると思う。ただし、溝1・2とU字状・弧状の柱列などは、縄文時代晩期とは異なる時期と思われるが、断言は出来ない<sup>9)</sup>。

### a. 溝(1・2)

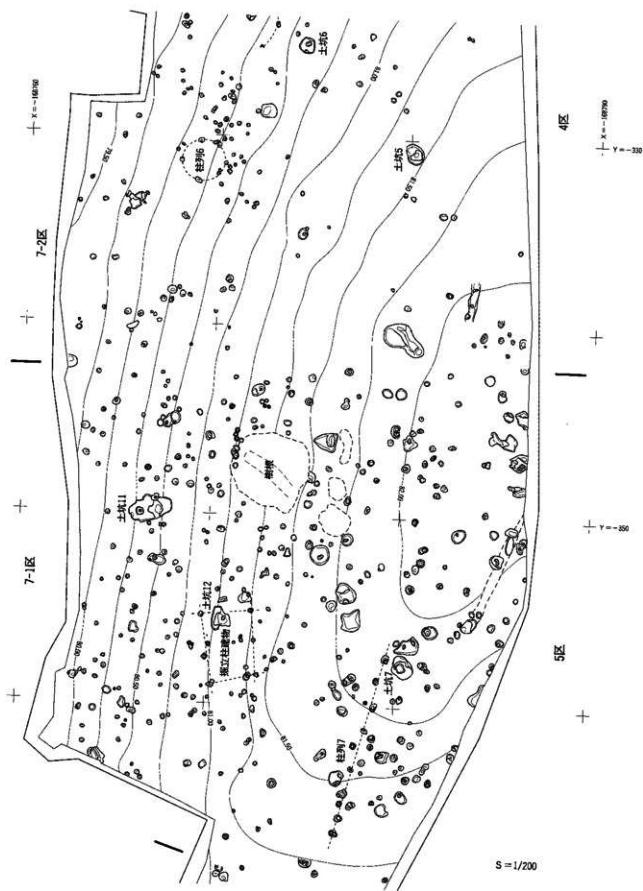
5条の溝を検出したが、1区の溝1と3区～7-1区の溝2以外は擾乱である。これらの擾乱は、耕地利用時のものと思われる。溝1・2はともに硬化層をもち、溝2が帯状に面をなして延びることから道跡と考えられる。時期は不明であるが、硬化層がⅢ層を切り込んだ溝の底面に見られることから縄文時代晩期よりは新しいものと考えられる。

溝1は、1区北壁の土層断面で確認した。溝の底面に硬質層が見られる。溝は幅122cm×深さ25cmを測る。溝2の土層に類似することから道跡と考えられる。

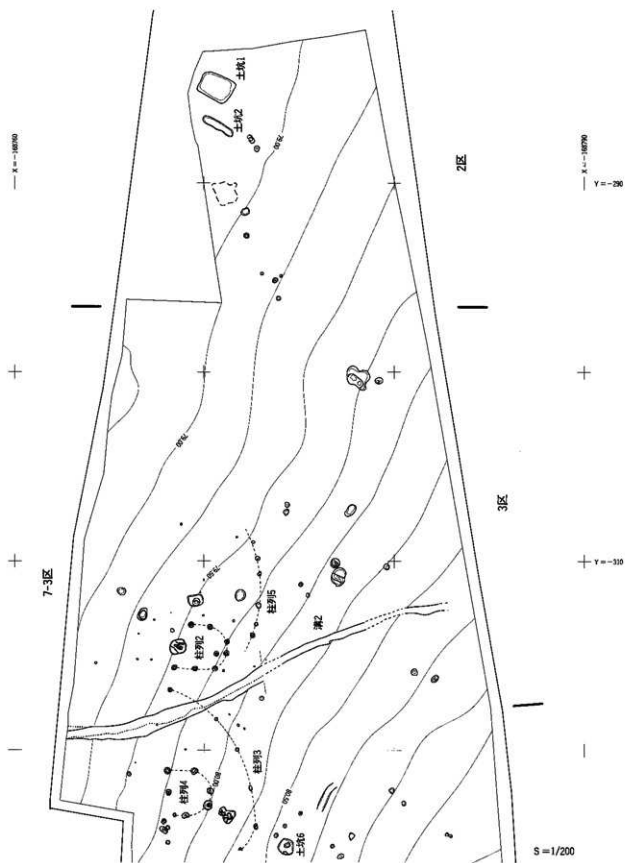
溝2は、幅40cm前後の硬化面が長さ22mにわたって延びており、道跡と考



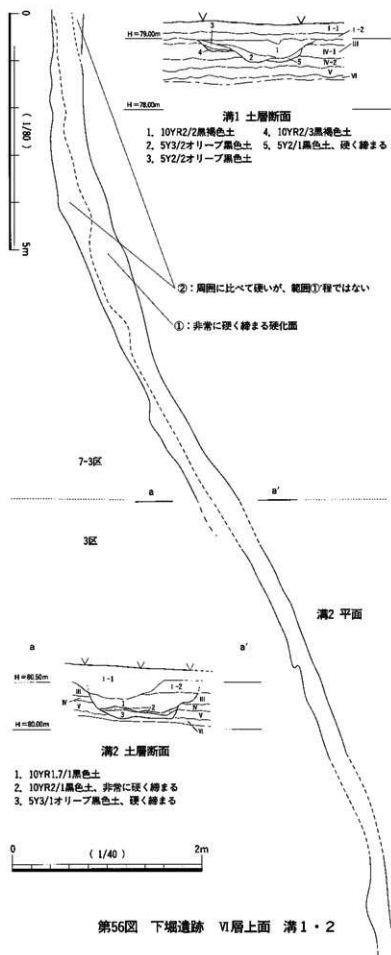
第53図 下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形 (1)



第54図 下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形 (2)



第55図 下堀遺跡 VI層上面 遺構配置と地形(3)



えられる。硬化面の幅は一定ではなく、最小幅24cmから最大幅68cmを測る。硬化面には硬度の違う二つの範囲が見られ、非常に硬く締まった面の脇にやや硬い面が存在する。また、土層断面では硬化面が一段掘り込んだ溝の中にあり、最下層の上面が均一に硬化している。このことから検出時には硬化面のみが見られたが、本来は溝状の掘り方を伴っていたと考えられる。硬化面の層厚は約5cmを測る。

#### b. 土坑 (1~7・11・12)

土坑は大小合わせて約40基を検出したが、いずれも詳細な時期は不明である。土坑8~10は欠番である。

土坑1・2は、IV層上面で検出しており、今回の調査においてクロボク(II~V)層中での唯一の検出例である。

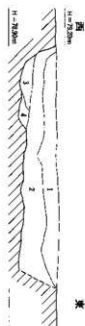
土坑1からは土器・炭化物が出土し、炭化物が長方形に広がる。板材の痕跡であろうか。土器については、土師質であるが碎片のため時期などを特定できない。

土坑2は浅い掘り方をもつが覆土がI-2層土に類似する。時期は近代から現代と考えられる。

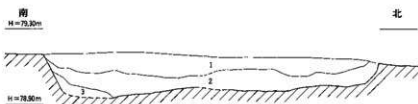
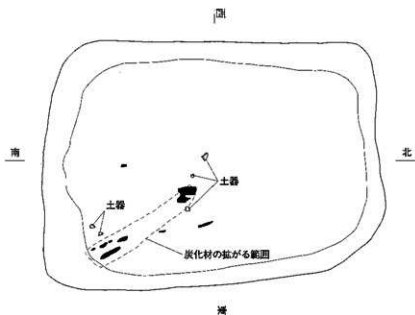
土坑3・4は6区南端の狭い平坦面において並んで検出した。浅い掘り方で底面に柱穴状の凹みが見られる。凹みは深さ約5cmを測る。

土坑5・7は形態の類似した土坑で、円形の平面に二段掘りの掘り方をもつ。

土坑12は歪な底面に中央が大きく窪む。

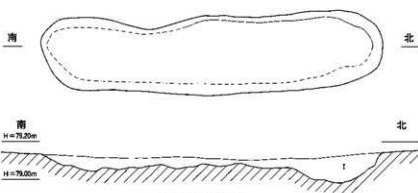


■ は炭化物



- 1 2.5Y4/1黄灰色粘質土
- 2 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 3 2.5Y4/2黄灰色粘質土
- 4 2.5Y4/2暗灰黄色粘質土

土坑1

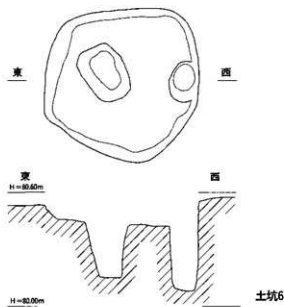
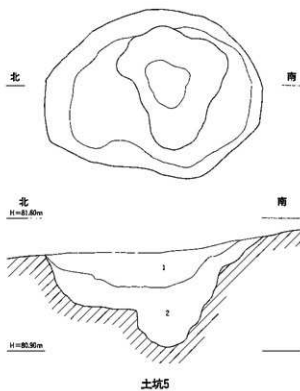
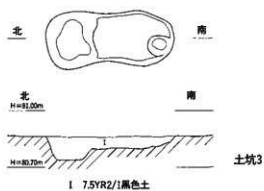
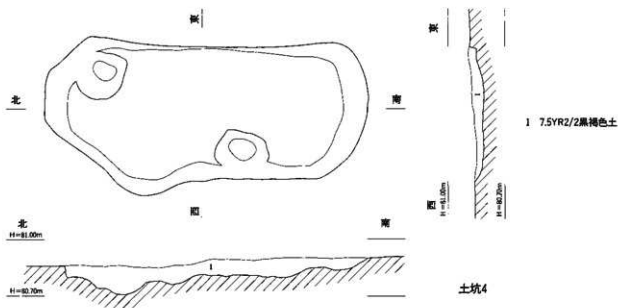


- 1 2.5Y3/1黒褐色粘質土

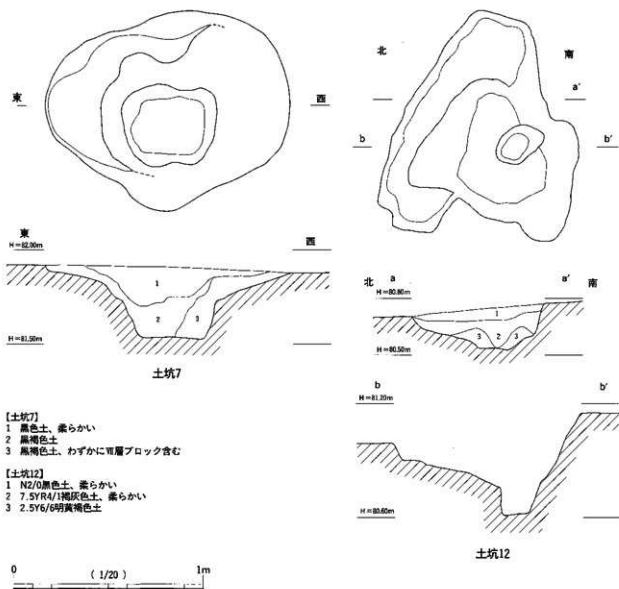
土坑2



第57図 下堀遺跡 VI層上面 土坑1・2



第58圖 下堰遺跡 VI層上面 土坑3·4·5·6

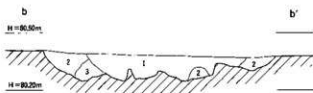
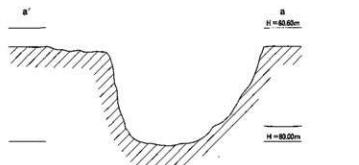
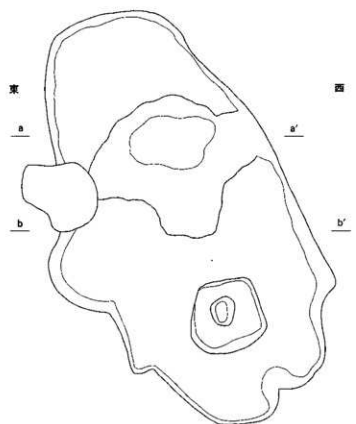


第59図 下堀遺跡 VI層上面 土坑7・12

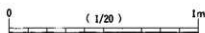
土坑No	地区	形態		規模		備考
		平面	断面	径(cm)	深さ(cm)	
土坑1	2区	長方形	逆台形	178×128	23	炭化材・土器が出土
土坑2	2区	長円形	レンズ状	179×42	4~18	
土坑3	6区	楕円形	レンズ状	169×82	4~14	二段掘り、底面に柱穴状の凹み
土坑4	6区	楕円形	レンズ状	67×27	6~14	底面に柱穴状の凹み2ヶ所
土坑5	4区	円形	逆台形	114×86	29~51	二段掘り
土坑6	4区	円形	逆台形	82	6	底面に柱穴状の凹み2ヶ所
土坑7	5区	円形	逆台形	128×104	5~37	二段掘り
土坑11	7-1区	楕円形	レンズ状	224×135	13~46	二段掘り
土坑12	7-1区	不定形	逆台形	124×94	8~52	二段掘り、底面に柱穴状の凹み

第27表 下堀遺跡 VI層上面 土坑一覽





- 1 N2/0黒色土、柔らかい
- 2 7.5YR2/1黒色土、非常に柔らかい、アカホヤ(珉)層土ブロックが混ざる
- 3 2.5Y6/6明黄褐色土、黒色土ブロックが混ざる、地山の崩移層か



第60図 下堀遺跡 VI層上面 土坑11

c. 柱穴と掘立柱建物(1)・柱列(1~7)

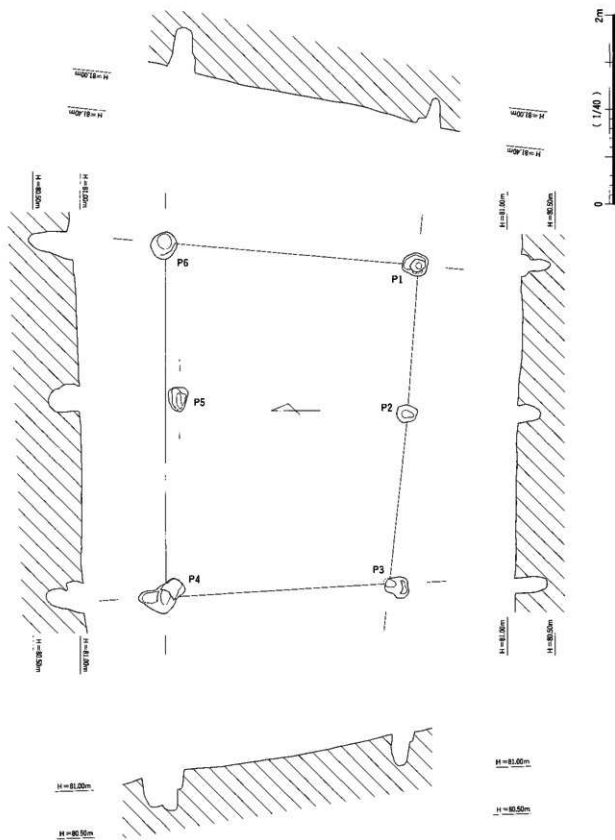
5区・7-1区を中心に多数の柱穴を検出した。明確に上屋を想定・復元できたものは、掘立柱建物1のみである。しかし、柱穴の分布の特徴から、三つの範囲に分けることができる。また、時期は不明であるが、後述する特徴の違いからそれぞれの時期は異なると思われる。以下、遺構密度の多い順に範囲①~③と呼称する。

範囲①は、5区~7-1区にかけての丘の頂上部平坦面から北側斜面にかけて拡がり、最も多くの遺構が集中する範囲である。分布する柱穴は形態が歪なものが多く、規模も一定していない。範囲内で施設が復元できたのは掘立柱建物1のみであるが、多数の柱穴が存在し、柱列7の様に不明確な列状配置が存在することから、本来は複数の施設が復元できるものと考えられる。なお、この範囲は縄文時代晩期に比定する土器11類の分布推定範囲と重なる。

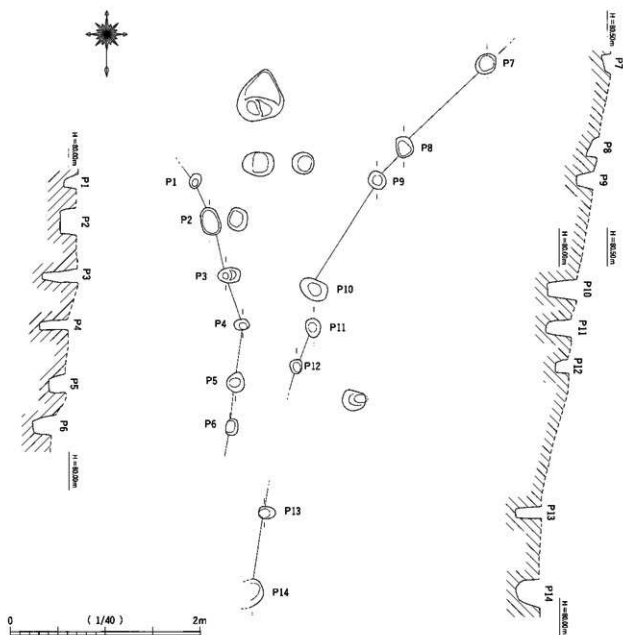
範囲②は、6区中央にあたる北側斜面の遺構密度が疎な範囲であり、ここにはラッパ状に開口した柱列1が見られる。

範囲③は、7-2区~7-3区の等高線79.50~80.50m間である。遺構密度は疎で、円形・U字状・弧状の柱列が複数存在する。柱列2~5は配置関係から同時期のものと考えられる。また、柱列2~5の柱穴は他の柱穴と異なり、比較的規模が同じで形態も一定している。

柱穴群の中で、何らかの施設が想定できたものは掘立柱建物1と柱列1~7がある。それぞれの特徴的であり、柱列1はラッパ状、柱列2~4はU字状、柱列3~5は弧状、柱列6は円形に柱穴が並ぶ。時期・性格は不明である。柱穴の掘り方から掘立柱建物1・柱列6・7、柱列2~5、柱列1の三つに分けることができ、これが時期もしくは性格の差を反映していると考えられる。推測される性格としては、柱列1が狩猟関



第61図 下堀遺跡 VI層上面 掘立柱建物1



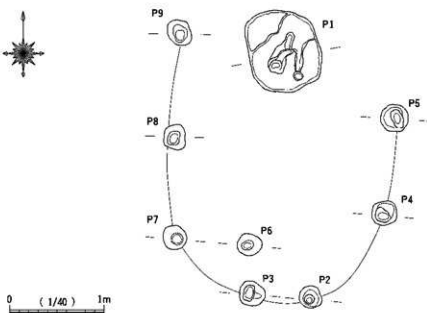
第62図 下堀遺跡 VI層上面 柱列1

柱列1

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)		
P1	32	30	P12	38 28
P2	56	33	P13	25 54
P3	30	55	P14	58 50
P4	24	60	柱間距離 (cm)	
P5	41	45	P1-P2	42
P6	34	48	P2-P3	58
P7	42	19	P3-P4	54
P8	45	22	P8-P9	43
P9	38	53	P4-P5	60
P10	46	53	P5-P6	45
P11	40	54	P7-P8	125
			P9-P10	132
			P10-P11	43
			P11-P12	45
			P12-P13	156
			P13-P14	86

掘立柱建物1

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	25	30	P1-P2 78
P2	18	25	P2-P3 90
P3	17×25	34	P3-P4 118
P4	30×50	40	P4-P5 134
P5	26	33	P5-P6 104
P6	29	45	P6-P1 83

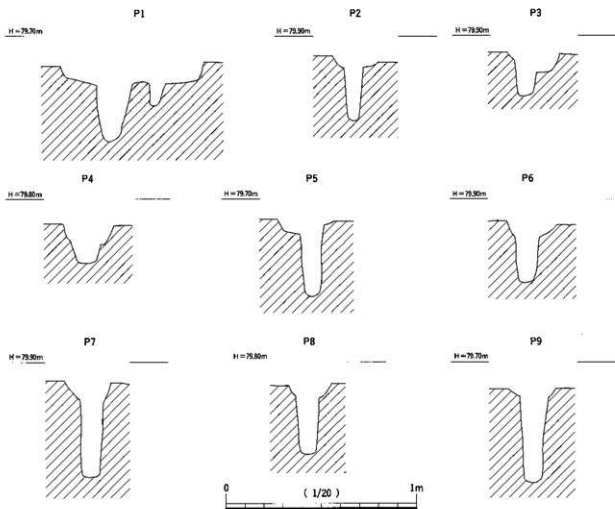


柱列 2

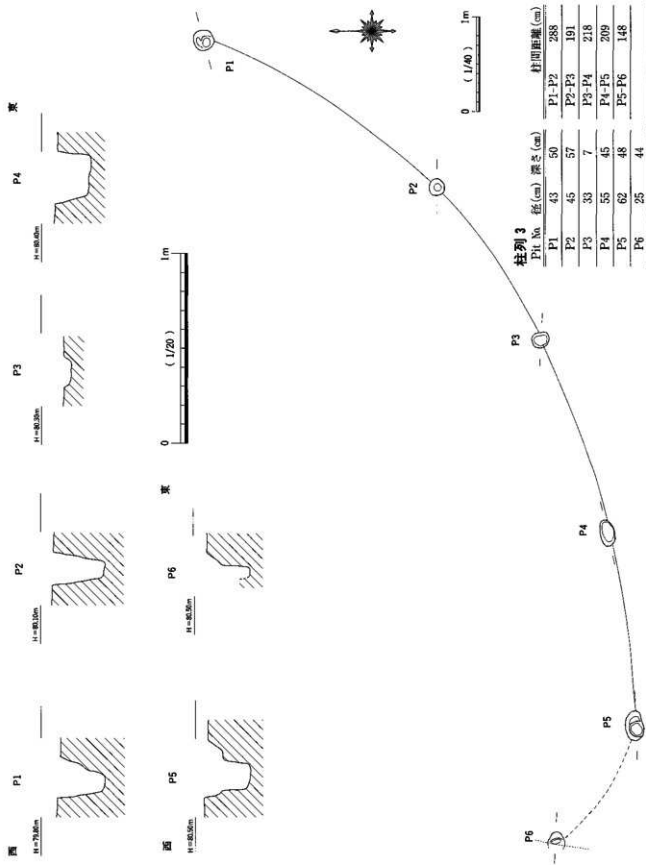
Pit No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	150	13~80
P2	47	68
P3	55	46
P4	52	42
P5	58	82
P6	53	65
P7	49	101
P8	43	74
P9	50	100

柱間距離 (cm)

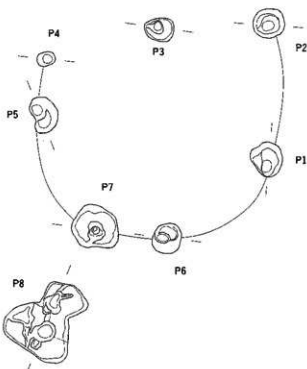
P5-P4	104
P4-P2	113
P2-P3	62
P3-P7	96
P7-P8	106
P8-P9	107
P5-P9	243



第63図 下堀遺跡 VI層上面 柱列2



第64図 下堀遺跡 VI層上面 柱列3

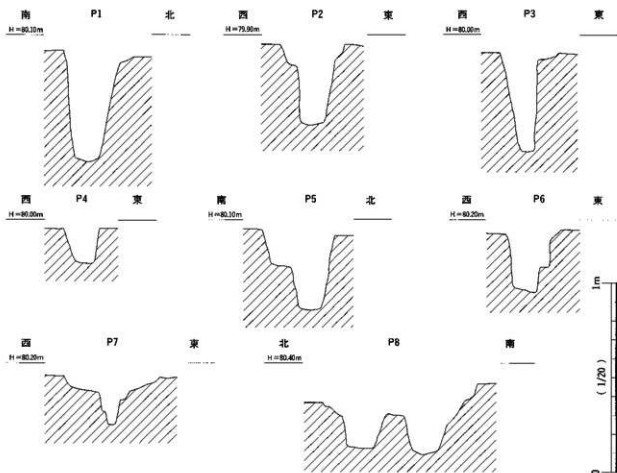


柱列 4

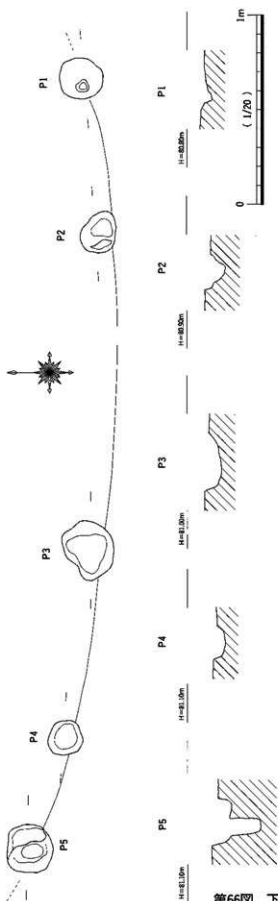
Pit No.	径 (cm)	深さ (cm)
P1	72	11
P2	66	85
P3	62	105
P4	38	36
P5	77	84
P6	58	65
P7	100	52
P8	162	14~73

柱間距離 (cm)

P2-P1	148
P1-P6	132
P6-P7	72
P7-P5	142
P5-P4	56
P2-P4	232



第65図 下堀遺跡 VI層上面 柱列 4



第66図 下堀遺跡 VI層上面 柱列5

柱列 5

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	44	12	P1-P2 75
P2	40	21	P2-P3 172
P3	62	18	P3-P4 98
P4	36	13	P4-P5 62
P5	50	51	

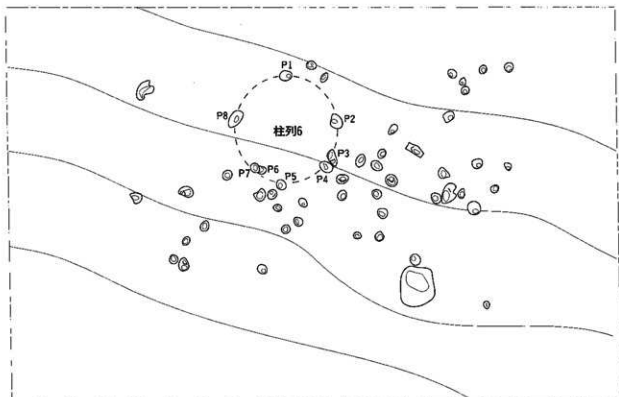
柱列 6

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	26	28	P1-P2 138
P2	32×24	15	P2-P3 73
P3	32×18	27	P3-P4 26
P4	32×18	24	P4-P5 106
P5	18	25	P5-P6 52
P6	(15)	6	P6-P7 17
P7	18	26	P7-P8 108
P8	43×23	35	P8-P1 143

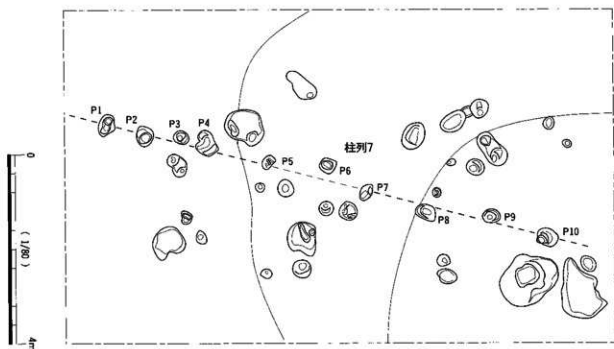
柱列 7

Pit No	径 (cm)	深さ (cm)	柱間距離 (cm)
P1	48×36	54	P1-P2 85
P2	43×38	39	P2-P3 70
P3	36	41	P3-P4 56
P4	53×42	43	P4-P5 132
P5	28	15	P5-P6 128
P6	34	31	P6-P7 98
P7	38×28	8	P7-P8 139
P8	47×28	23	P8-P9 132
P9	28	22	P9-P10 113
P10	42	31	

第28表 下堀遺跡 VI層上面  
柱列5～7の柱穴



柱列6



柱列7

第67図 下堀遺跡 W1層上面 柱列6・7



係、柱列2～5が牛馬の飼育関係などが想像できる。

以下、個別に略述する。

掘立柱建物1は、7-1区と5区のほぼ中央で検出した。桁行2間×梁行1間で長方形を呈する。規模は桁行3.5m×梁行2.5mを測り、総床面積は8.8㎡になる。柱穴は円形を呈するが、掘り方は歪であり規模が一定しない。周囲にも類似する柱穴が広がる。

柱列1は6区で検出した。斜面上方が開いたラッパ状に柱穴を配置する。開口部は3.3mを測るが、約4m奥では0.5mと極端に狭くなる。また、開口部は丘頂上部の平坦面の落ち際にあたり、奥に進むほど傾斜はきつくなる。

柱穴2～5は7-3区で隣接して検出した。U字状に並ぶ柱列2・4と弧状の柱列3・5があり、それぞれセット関係にあるものと思われる。セット関係は柱列2・5、柱列4・3と考えられる。これらの柱列は、柱穴が他のものと異っており、掘り方が端整で規模も一定する。

柱列2はU字状を呈して、開口部が2.4mを測る。開口部には小土坑状のPit1が存在する。奥行きは2.6mになる。

柱列3は弧状に巡り、確認できる全長が約11mを測る。柱列2と同軸上に位置している。

柱列4はU字状を呈して、開口部が2.4m、奥行きが2.3mを測る。開口部には柱穴が存在する。

柱列5は弧状に巡り、確認できる全長が約5mを測る。柱列2の斜面上方に位置する。

柱列6は7-2区で検出した。柱穴が円形に巡り、Pit1・Pit2・Pit4・Pit7・Pit8は五角形に配置する。周囲には斜面上方の南側を中心に東から南西にかけて柱穴が集まる。

柱穴7は5区で検出した。規模の異なる柱穴がほぼ一直線上に並び、全長が約9.5mを測る。Pit3を除けば柱間距離がほぼ1.3mで一定する。柱穴の掘り方は歪つである。

## イ) 遺物

遺物は層位的にはⅠ～Ⅲ層より出土したが、Ⅰ・Ⅱ層は後世の攪拌などによる結果で、本来はⅢ層に包含されていたものと考えられる。包含される土器はいずれも後述するⅪ類に分類できた。なお、一部ではⅣ・Ⅴ層から極めて少量の遺物が出土したが、Ⅺ類の生活面がⅢ層中に推定できるため、遺構などの凹みに落ち込んだものと考えられる。

平面分布としては、確認調査の7T・9T及び5区南東隅に集中するが、聞き取り調査において耕作の邪魔となる礫などを集めたことが確認されている。本来は遺構の集中する頂上部平坦面などに広く分布していたものと考えられる。

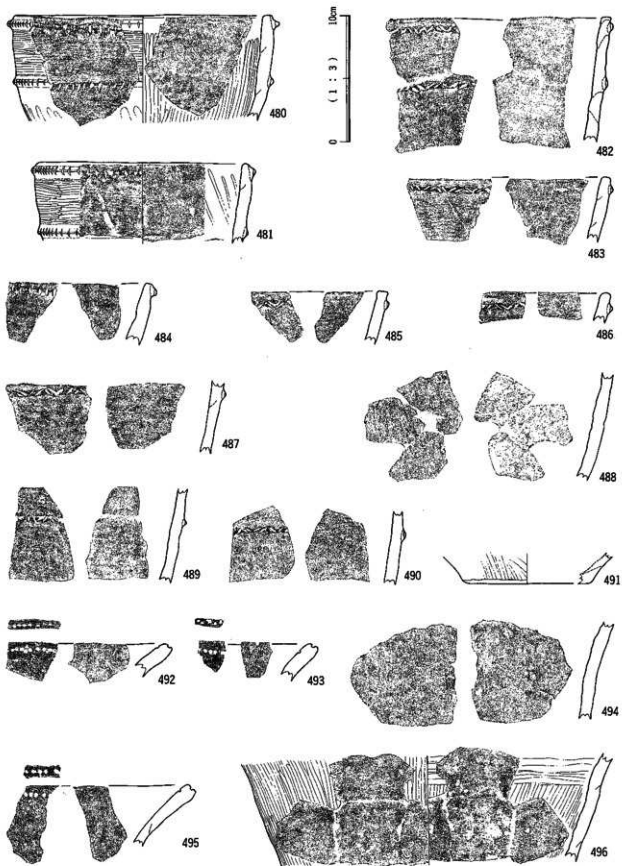
土器は刻目突帯文と無文の碎片が主体となる。出土土器の分類では、刻目突帯文と出土層を特徴にして、土器Ⅺ類に分類した。時期はおもに縄文時代晩期と考え、遺構面が検出面1に対応する。遺物量は少なくパンケース2箱以下である。石器は礫石器がわずかに2点出土している。

その他には、極少量ではあるが薩摩焼609・炭化物の付着する土師器610・板状に磨かれた石器612などが出土している。

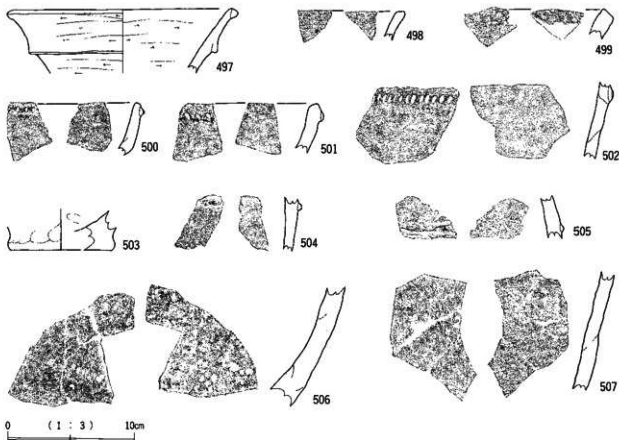
### a. 土器 (480～507)

刻目突帯文がほとんどを占め、これを土器Ⅺ類に分類した。Ⅰ～Ⅲ層出土の土器群であるが、Ⅲ層に由来するものと考えられ、後世の攪乱により原位置を移動したと思われる。刻目突帯文と無文の碎片が見られるが、後者は刻目突帯文土器の胴部片にあたるものと考えられる。

文様・色調・胎土からおもに三つに分けられ、それぞれ1個体に復元できると考えられる。



第68圖 下堀遺跡 土器11類 (1)



第69図 下堀遺跡 土器II類 (2)

挿図番号	遺物番号	出土地点		部位	備考
		地区	層位		
480	—	7T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文1
481	—	7T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文1
482	—	5	I	口縁	先行トレンチ、刻目突帯文2
483	—	9T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文2
484	—	7T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文1
485	—	9T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文2
486	—	9T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文2
487	—	9T	クロボク	胴	確認調査、刻目突帯文2
488	—	5	I	胴	先行トレンチ、刻目突帯文2
489	—	9T	クロボク	胴	確認調査、刻目突帯文2
490	—	9T	クロボク	胴	確認調査、刻目突帯文2
491	—	5	I	底	先行トレンチ、刻目突帯文2
492	—	—	クロボク	口縁	確認調査、円形刺突文
493	—	—	クロボク	口縁	確認調査、円形刺突文
494	—	7T	クロボク	胴	確認調査、円形刺突文?
495	—	—	クロボク	口縁	確認調査、円形刺突文
496	—	7T	クロボク	口縁	確認調査、刻目突帯文1
497	—	4	I	口縁	帯の口縁? 弥4?
498	—	7T	クロボク	口縁	確認調査
499	—	2	III	口縁	
500	—	—	クロボク	口縁	確認調査
501	—	9T	クロボク	胴	確認調査
502	—	5	I	胴	先行トレンチ、外面に炭化物が付着、内面は横のミガキ、外面は縦
503	—	9T	クロボク	胴	確認調査
504	—	5	I	胴	先行トレンチ
505	—	2	III	口縁	
506	—	7T	クロボク	口縁	確認調査、非常に厚手の器壁
507	—	9T	クロボク	胴	確認調査
609	—	6	クロボク	胴	薩摩焼?
610	—	1T	イケダ上面	胴	確認調査、護手の土師器、外面に多量の炭化物
612	—	2	表塚	石器	方形の板状に研磨
613	—	7T	—	柄	481他の一群に類似
614	—	6	クロボク	胴	10YR8/4浅黄橙色の土師質

第29表 下堀遺跡 I~III層 出土遺物

土器480～481・486は一個体と考えられる。二条の刻目突帯文が口縁端部から2mm下と端部下5cmに平行して巡る。突帯の刻目はへら状工具で縦に刻まれている。口唇部は不明瞭な平坦面をもつ。色調は5YR5/6明赤褐色～5YR4/4にふい赤褐色を基本色とし、外面がわずかに黒色を帯びる。内外面は丁寧なミガキを施す。内面の下半には多数の円形剝離が見られる。胎土は密で、混和材には3mm以下の長石・赤褐色砂粒・白色砂粒が多量に見られる。

土器482・483・485～491で一個体と考えられる。二条の刻目突帯文が口縁端部と端部下5cmに平行して巡る。突帯の刻目はへら状工具で二条のキザミを「八字」状に刻まれている。口唇部には平坦面が見られる。基本色は5YR5/4にふい赤褐色になり、全体に黒色を帯びる。器面は内外面ともに摩滅がやや激しいが、内面と外面の口縁部から突帯文下1cmまで横のミガキ、突帯文下1cmから胴部には縦のミガキの痕跡が見られる。底部が存在するが遺存状態が悪く、内面がすべて剝離する。胎土はやや疎、混和材には1mm以下の長石・石英・白色砂粒・黒色砂粒が多量に見られる。

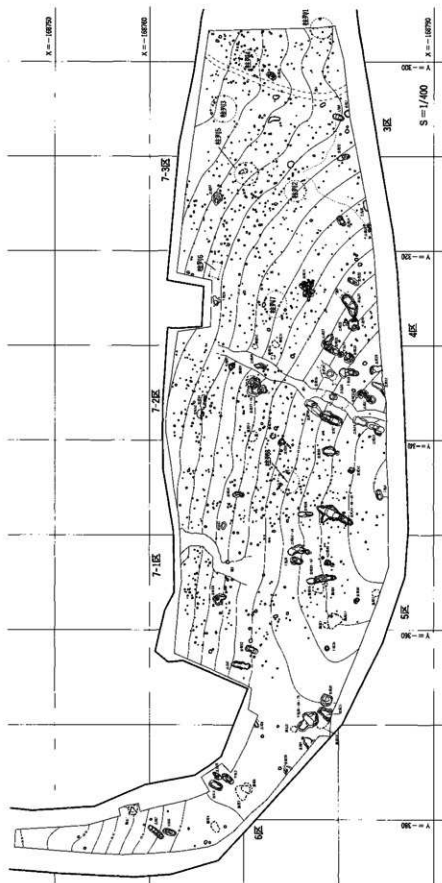
土器492～495は同一個体と考えられる。口縁部は外反して平坦な口唇部をもち、口唇部と口縁端部の内面に棒状工具による円形剝離文が巡る。色調は基本的に5YR4/3にふい赤褐色で、内面がやや黒色化して円形剝離が見られる。器面にはミガキが見られ、内面が左上がりの斜めの方向、外面が縦方向、口唇部が横方向に施される。

その他にも、土器500～502は刻目突帯をもつもの、土器504・505には突帯は見られるが遺存状態が悪く刻目が確認できないものがある。土器487は口唇部で外反する二重口縁に外面に多量の炭化物が付着する。内外面は横のケズリ痕が見られるが、横のミガキが摩滅したものと考えられる。土器498は口縁部で口唇部が平坦で、内外面が黒色を帯びる。土器499は口縁部で口唇部が外側に傾く。土器503は底部で黒色を帯びて摩滅が激しい。土器507は胴部で内面が黒色化して煤の付着が見られる。

## b. 石器 (574・583)

石器は敲石574と石皿の一部と思われる583があり、前述の板状に研磨された612と頁岩の剥片615を含めても少量である。

- 1) 調査区ごとに「調査→埋め戻し」を繰り返したので土層観察ベルトを設ける必要が無かった。
- 2) 事例として、町内蓬原の仕明遺跡第2次調査南区において、堂込秀人氏により確認されている。
- 3) 伊崎田方面などでは「サツマ」層が明瞭に遺存していない。
- 4) 明確な根拠は無く、町内における調査状況の観察からの推測である。
- 5) 元氣師の方からの助言による。
- 6) 覆土の比較などを行ったが丘陵地形によるためか、違いが不明瞭であった。



第70図 下掘遺跡 Ⅲ・Ⅳ層上面 遺構配置と地形

#### 4. 検出面2・3の調査成果

遺構精査を第Ⅲ層（検出面2）・第Ⅳ層上面（検出面3）で行なった。検出面2では土坑・溝を、検出面3では柱穴・溝を検出した。時期は縄文時代早期と考える。

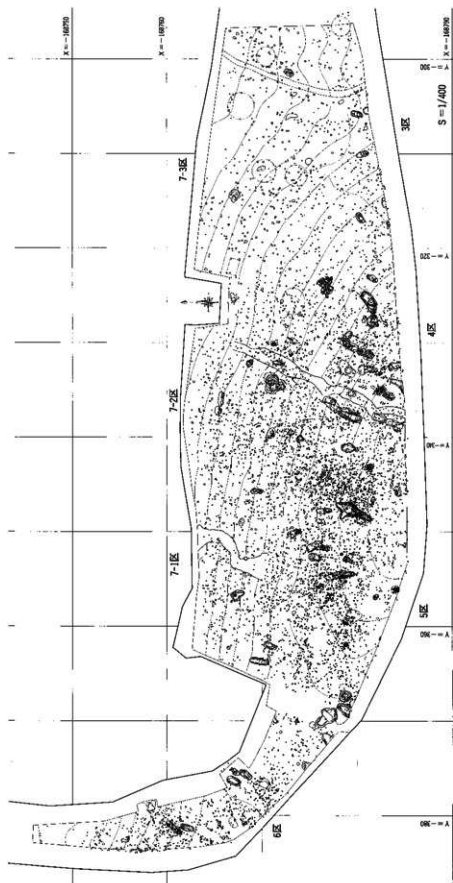
対応する遺物包含層はⅧ～Ⅺ層である。

#### ア) 地形と遺物分布・遺構配置

地形の起伏は、ほぼ検出面1と変わりがなく、丘地形の東側から西側の斜面が調査区内に広がる。細かくは溝1・4を検出した地点などで、浅く緩やかな凹地形が見られる。

検出された遺構は、溝・集石・土坑・柱穴であるが分布に特徴が見られる。溝はわずかな凹地形に見られ、斜面に対して垂直に延びる。集石・土坑は、等高線79.00mから上に集中して、集石が礫の分布と同様に調査区西半分に偏る。土坑は調査区中央に最も集まる。柱穴は、比較的北側から東側の斜面下方に分布している。各遺構のもつ性格違いが分布範囲の相異を生みだしていると考えられる。

一方、遺物の分布は、土坑・集石の分布範囲に



第71図 下堀遺跡 VII～XI層 礫分布状況

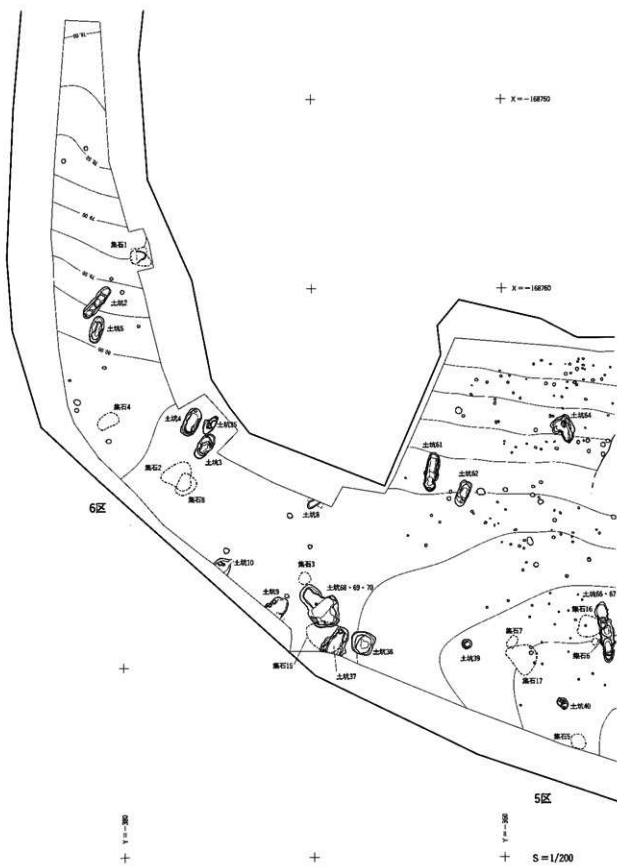
重なっている。とくに包含層中から出土の礫は、グリッドM6～10から西側に集まり、とくにJ・I・9とG・9付近に分布の集中が見られる。この包含層から出土した礫の総重量は約3404kgを測る。グリッドごとの重量は表にまとめてある。

なお、調査範囲は、地点によりやや環境が異なる。田原川に続く小谷に面した西側斜面は、小谷からの谷風が朝夕で風向きを替えて吹きつける。一方で、北側斜面は冬の間に北風が吹きつけ、東側は夏に南風が南東方面から流れ込む。この状況が各遺構の時代にも変わらないとしたら、遺構配置と生活域を考えるうえで重要と思われる。

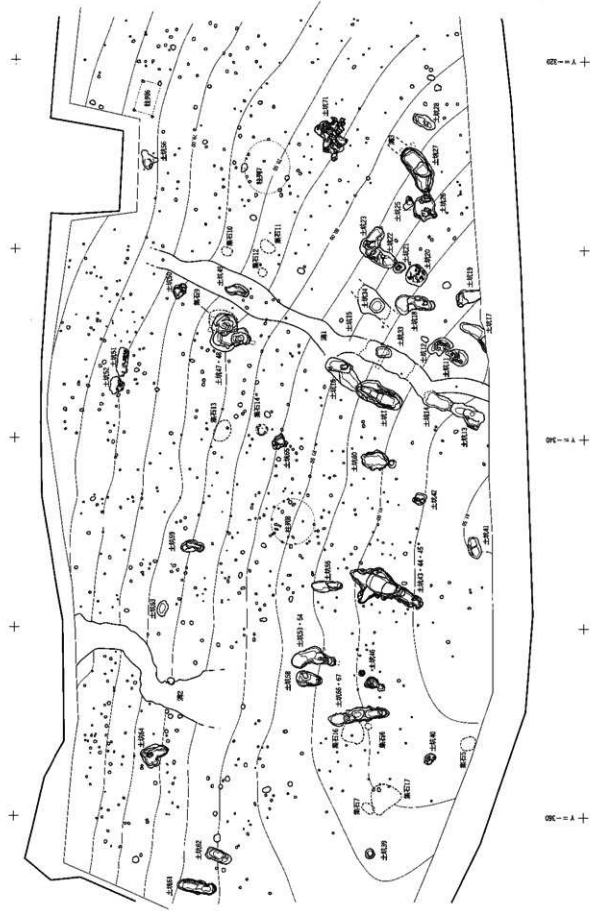
## イ) 遺構

### a. 溝 (1～4)

溝は4条を検出した。しかし、掘り方が明確のものはなく、黄色の皿(サツマ)層上面にシミ状のように黒色の帯びが延びる状態であった。調査に際しては、皿層上面においても確認できたものを記録している。溝1・2は規模も大きく明瞭であるが、他は部分的なものである。これらは自然地形を利用した道跡にあ



第72図 下堀遺跡 II・III層上面 遺構配置と地形(1)



第73図 下組遺跡Ⅱ・加層上面 遺構配置と地形(2)

S=1/200



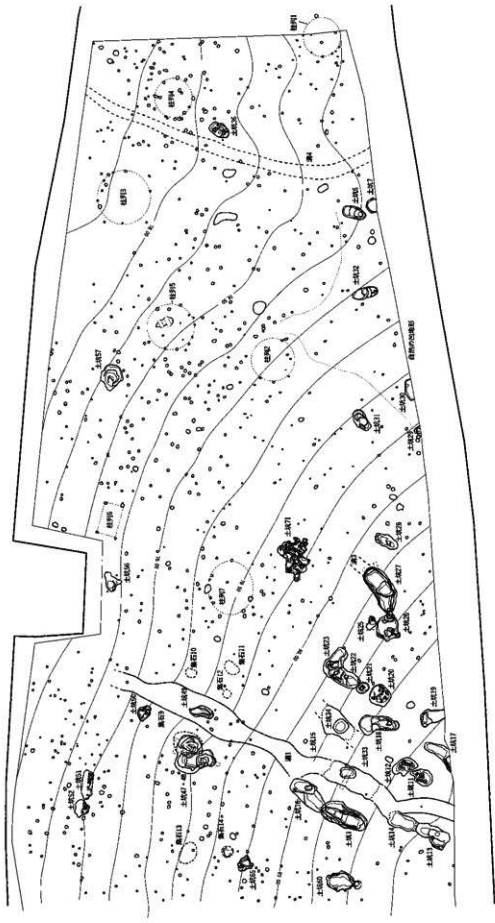
± X = 10070

+

+

+

+



± X = 10070

S = 1/200

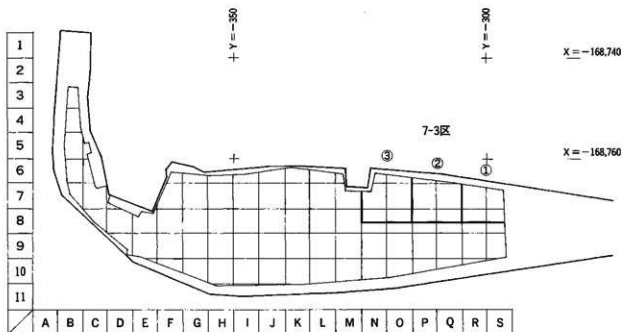
+

±

+

±

第74圖 下場邊路 Ⅱ・Ⅲ層上面 遺構配置と地形 (3)



第75図 下堀遺跡 VII~XI層 グリッド配置

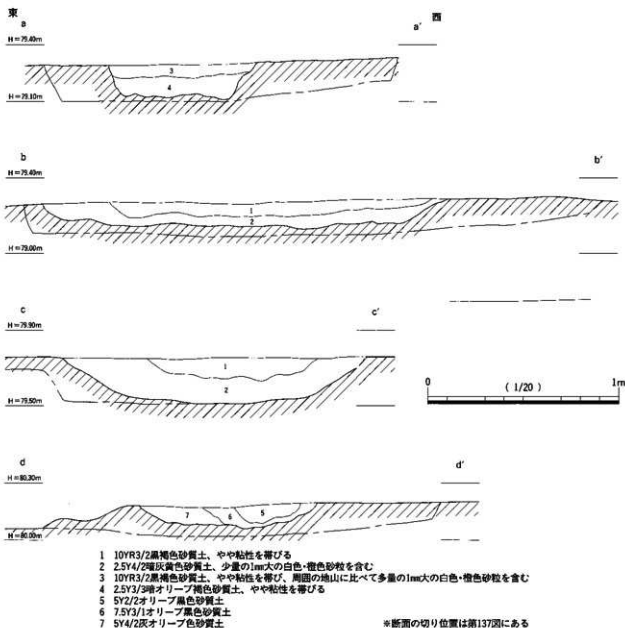
取上げ呼称	層位	重量(kg)	F9	IX~X	77.0	J8	IX~X	74.8	L10・11	IX~X	153.0
B4	IX~X	27.8	F10	IX~X	35.5	J8・9	IX~X	79.5	M8	IX~X	23.9
B5	IX~X	73.5	G8	IX~X	72.5	J9	IX~X	3.9	M8・9	IX~X	77.0
B6	IX~X	74.0	G8・9	Ⅷ	21.8	J10・11	IX~X	25.1	N8	IX~X	4.9
B7	IX~X	72.0	G9	IX~X	53.3	J10・11	Ⅷ	6.9	N9	IX~X	8.9
B-C7	IX~X	16.0	G8-10	IX~X	68.0	J-K6	IX~X	20.9	N10	IX~X	151.0
C6	IX~X	19.3	G10-11	IX~X	72.5	J-K7	IX~X	69.5	O8・9	IX~X	17.8
C7	IX~X	72.5	G10-11	Ⅷ	5.4	J-K8	IX~X	75.5	O9	IX~X	11.4
C8	IX~X	59.1	E-F-G6-7	IX~X	12.1	J-K9	IX~X	22.4	O10	IX~X	46.6
C9	IX~X	0.7	E-F-G6-8	IX~X	15.8	J-K10	IX~X	53.2	P8・9	IX~X	11.4
C-D8	IX~X	4.6	H8	IX~X	147.0	J-K11	IX~X	1.7	P9	IX~X	17.1
C-D9	IX~X	11.6	H8・9	IX~X	77.0	K6	IX~X	4.6	P10	IX~X	24.9
D8	IX~X	72.0	H8-10	IX~X	3.6	K7	IX~X	69.5	Q8・9	IX~X	7.0
D9	IX~X	17.6	H10・11	Ⅷ	38.3	K8・9	IX~X	69.5	Q9	IX~X	6.2
E8	IX~X	73.5	H10・11	IX~X	15.8	K8	IX~X	76.4	Q10	IX~X	21.5
E8-9	Ⅷ	3.8	H9	IX~X	30.2	K9	IX~X	72.0	R8・9	IX~X	4.5
E9	IX~X	2.9	I1-J9	IX~X	19.2	K10	IX~X	31.1	R9・10	IX~X	26.2
E9-10	IX~X	74.0	I8	IX~X	35.4	K10・11	IX~X	70.5	S9・10	IX~X	4.6
E-18	IX~X	8.7	I8・9	IX~X	161.0	L6	IX~X	5.8	7-3区①	IX~X	12.9
F?	IX~X	82.5	I8-10	IX~X	15.1	L7	IX~X	71.5	7-3区②	IX~X	8.3
F8	IX~X	78.5	I10・11	IX~X	106.2	L8	IX~X	72.5	7-3区③	IX~X	19.3
F8-9	IX~X	70.0	I-J7-8	IX~X	32.6	L8・9	IX~X	77.5			3404.3

第30表 下堀遺跡 VII~XI層 グリッド別出土物の重量

る可能性が考えられる。

また、他にも自然地形と考えられるものがあり、3~4区南端の土坑29・30~土坑32にかけては、溝と同様にやや黒色の範囲が見られ、等高線も変化する。土層断面の観察から浅い凹みと考えられる。また、土坑1~27にかけての斜面下方側もやや黒色の範囲が見られ、詳しくは不明であるが、凹みもしくは平坦面が存在していた可能性が考えられる。

溝の分布は、調査区内の北側斜面に10~14mの間隔をあけて並行しており、すべて等高線に対して



第76図 下堀遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 溝1

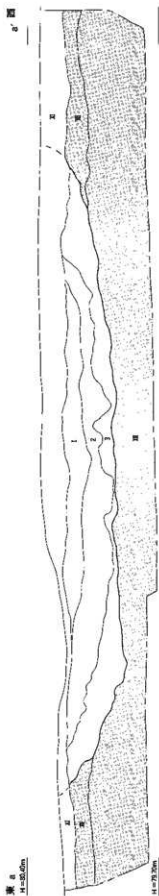
ほぼ垂直に延びる。

溝1は7-2区から土坑47・48の脇を抜けて土坑15を通り過ぎ、土坑13の横を調査区外に延びて、途中で土坑16と土坑14につながる。規模は幅1.0m×全長19.4mを測る。土色・質の違いは、深いところで深さ15cmまで見られる。

溝2は7-1区北の調査区外から斜面上方へ向かって延びており、途中で鍵状に曲がる。斜面平坦面にかかるところでラップ状に開いて見えなくなる。規模は幅0.8~1.4m×全長7.4mを測る。土色・質の違いは深さ30cmまで見られる。

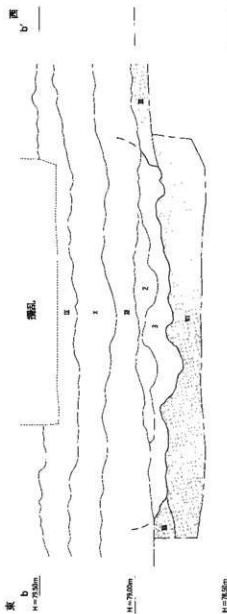
溝3は7-3区から3区にかけて延びており、等高線の変化からやや凹んだ地形内にあることが読み取れる。幅0.8m×全長17mを測る。

溝4は土坑27東端から幅0.7m×長さ2m程が延びるが、浅くやや不明瞭である。



- 1 SPR2/1層の粘質土、やや重い
- 2 75Y2/1層の粘質土、やや重い
- 3 10YR3/2層の粘質土、強く締まる

※断面の切り位置は第137図にある



第77図 下郷遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 横2

### b. 集石 (1~17)<sup>1)</sup>

礫の集中が見られる範囲を集石状の遺構ととらえて、集石と呼称して調査を行った。一般的な「集石遺構<sup>2)</sup>とは異なる。調査は、検出時に周囲と比較して範囲を確定した後、断ち割りを行なって掘り込みの有無を確認した。

平面分布は、調査範囲の西側に偏り、垂直分布では、検出位置がⅢ層中に集中する。集石1~8は田原川に向かう西斜面上に、集石9~14は北側斜面上に存在する。

報告する集石の中で、「集石遺構」の可能性が考えられるのは、集石6、集石8、集石10~12、集石13・14、集石15である。

しかし、覆土に礫をほとんど含まない土坑47・48<sup>3)</sup>が集石9と上下に重なり、集石15に近接する土坑38の覆土内には多量の礫が見られる。このことから、掘り込み内に礫を放置した状態で廃棄したのではなく、掘り込み内を片付けた後にその使用をやめて、埋没した「集石遺構」が存在した可能性も考えられる。今後の調査で注意が必要と考える。

また、集石の調査をおもに担当した松崎は、「包含層出土の礫に比べて、やや大きめの角礫を主体とするも

集石No	秋山位置		縦			横法量 (g, mm)			土坑			備考	
	地区	層位	分考範囲(長さ×幅)		個数	平均法量		横断面	平面形態	径×長さ	径×長さ×高さ		
			全体	集中部		重量	長さ						最小幅
集石1	6区	XI層上面	121×98	78×69	65	5902.84	90.81	51.97	20.62	有	歪んだ円	68×5	遺構下より土器8類413出土
集石2	6区	VI層中	145×145	88×59	138	7623.49	55.24	52.67	19.98	有	楕円?	93×45×31	集石8と重複
集石3	6区	VI層中	—	60×53	29	1618.08	55.80	49.63	23.89	有	歪んだ楕円	54×37×7	
集石4	6区	XI層上面	105×56	84×54	54	3042.73	56.35	55.12	24.47	×	—	—	
集石5	5区	IX層上面	81×63	—	54	1646.92	30.50	42.24	18.56	×	—	—	
集石6	5区	VI層中	—	31×28	17	1620.76	95.34	57.30	28.25	×	—	—	
集石7	5区	VI層中	—	64×28	54	1385.09	25.65	40.16	16.75	×	—	—	壁といっしょに土器(904)・(905)出土、集石17と重複
集石8	6区	XI層上面	107×64	37×28	118	7813.34	66.21	57.13	26.86	×	—	—	集石2の下より検出
集石9	7-1区	VI層中	153×81	—	72	1859.19	25.82	41.67	15.04	×	—	—	土坑47・48と重複、土器586出土
集石10 ~12	7-2区	VI層中	492×284	—	52	3233.25	62.18	46.99	23.05	—	—	—	
集石10	7-2区	VI層小	—	54×36	73	4845.23	66.37	45.21	22.60	×	—	—	
集石11	7-2区	VI層中	—	65×18	19	1571.88	82.73	55.06	27.64	×	—	—	
集石12	7-2区	VI層中	—	38×35	33	1792.22	54.31	49.42	21.70	×	—	—	
集石13	5区	X層中	89×64	51×33	55	8633.97	156.98	69.85	28.90	×	—	—	
集石14	5区	XI層中	—	32×28	6	1248.52	208.09	81.61	36.53	有	歪んだ円	49×12	土器407・411出土
集石15	6区	VI層中	166×109	42×32	52	8689.50	167.11	71.17	30.51	×	—	—	土器片出土
集石16	5区	XI層中	144×84	—	62	1298.62	20.95	39.32	15.60	×	—	—	集石6の下より検出、土坑66と重複
集石17	5区	XI層中	122×106	—	52	4427.01	85.13	64.54	25.48	×	—	—	集石7の下より検出

※分佈状況は観察にもとづく  
※縦の個数は2cm以上のものを数えた

第31表 下層遺跡 集石一覧

のが、集石1・2・8・13・14]、「包含層出土の礫がやや密集して見られるものは、集石4・16・17]と集石が二つに分けることができると指摘している。

なお、当遺跡では台地上であるため、炭化物などの遺存状態が悪い可能性も考えられた。そのため、礫の赤色化と破碎状況をもって被熱を推定する手がかりとした。

以下、各集石について略述する。なお、法量などの詳細については一覧表にまとめている。各語意は下記に記述する。

※「角礫」…角が鋭い礫を呼称した。岩盤などから産出したものと考えられる。

「円礫」…角が丸い礫を呼称した。川などで採取できる川原石と考えられる。

「被熱破碎礫」…割れて角が鋭く、赤色に変色した礫を呼称した。円礫・角礫が加熱を受けて砕けた礫と考えられる。

### 集石1

検出において、礫の平面配置が方形に見られ、中央部には検出面とは異なる覆土が確認できた。礫の上下の重なりはないが、礫上面を揃えている様にも見ており、敷き詰めた可能性が考えられる。遺物・炭化物などは見られない。

掘り込みは平面形が歪んだ円形、断面形がレンズ状を呈する。深さは約8cmと浅い。覆土に遺物・炭化物は含まれない。掘り込み底面では土器412の口縁部を検出した。

土器412は口縁部を上、斜めに立った状態で埋没しており、最上端の口縁部が破損する以外は完形であった。出土状況から集石1構築時に一部を破壊されており、集石には供伴しないと考えられる。また、土器に伴う遺構も確認できなかったことから、包含層に含まれる遺物と思われる。

礫の石材はほぼ同一で、角礫のみで構成されて、赤味を帯びて破碎する。

時期は、押型文期以降と考えられる。

### 集石2

礫密度は疎で周囲に比べて集中する程度であり、平面配置も形がはっきりしない。礫の上下の重なりは数ヶ所確認できるが、礫に伴う遺物・炭化物などは見られない。

掘り込みは、平面形が楕円形を呈すると考えられるが、南端が断ち削りで確認できなかった。断面形は東西方向で逆台形を呈する。覆土には遺物・炭化物は含まれず、集石を構成する礫も掘り込み内には落ち込んでいない。そのため集石と掘り込みは別々の遺構の可能性が考えられる。

なお、集石範囲の下より集石8が検出されている。

礫には様々な石材があり角礫・円礫のいずれも見られ、赤味を帯びて破碎する。

### 集石3

礫密度は疎で周囲に比べて集中する程度であり、平面の配置・形態がはっきりせず、礫の上下の重なりも確認できない。礫に伴う遺物・炭化物などは見られない。

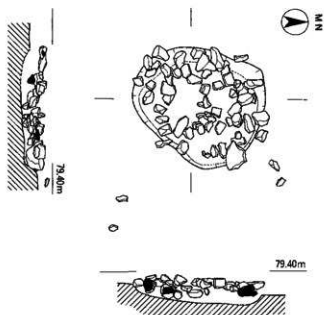
掘り込みは浅くて断面形が逆台形を、平面形は歪んだ楕円形を呈する。覆土に遺物・炭化物は含まれない。上部の集石を構成する礫は掘り込み内には落ち込んでいない。そのため集石と掘り込みは別々の遺構の可能性が考えられる。

礫には、複数の石材が見られ、おもに円礫で構成されるが赤味を帯びて破碎している。

### 集石4

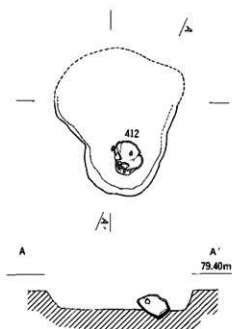
礫密度は疎で、周囲に比べて集中する程度であり、平面配置も形状がはっきりしない。礫の上下の重なりは一部で確認できる。礫に伴う遺物・炭化物などはなく、掘り込みも見られない。

礫には、複数の石材が見られ、円礫と角の丸い角礫で構成される。赤味を帯びて破碎している。

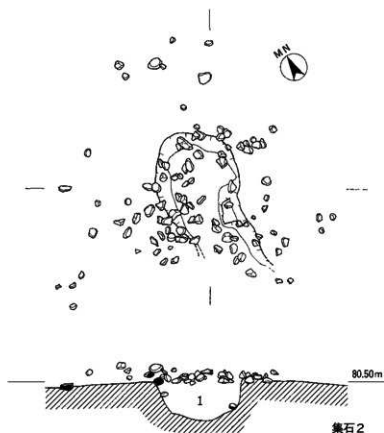


1. 10YR2/2黒褐色粘質土。極少量の1~3mm大の褐色砂粒を含み、硬く締まる

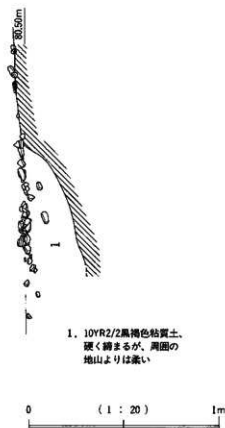
集石 1



土器412出土状況

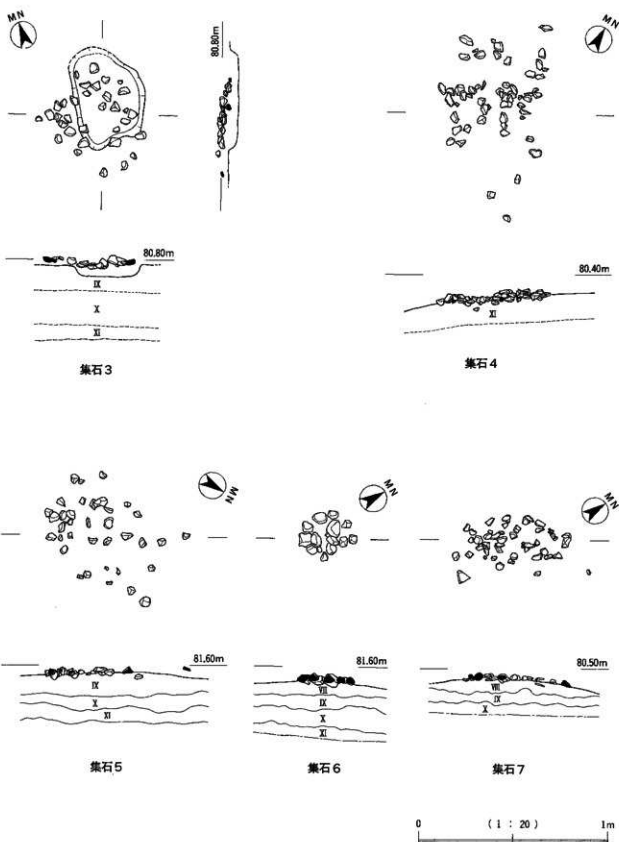


集石 2



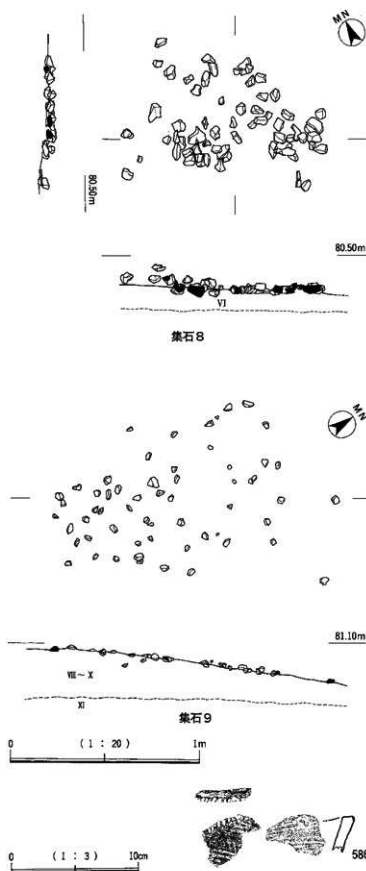
1. 10YR2/2黒褐色粘質土。硬く締まるが、周囲の地山よりは柔い

第78図 下堰遺跡 集石 1・2



第79図 下堀遺跡 集石3~7





第80図 下堀遺跡 集石8・9

### 集石5

礫の密度は疎で、周囲に比べて集中する程度であり、平面配置も形ははっきりしない。礫の上下の重なりが数ヶ所で見られる。礫に伴う遺物・炭化物などはなく、掘り込みも見られない。

礫には、複数の石材が見られ、円礫と角の丸くなった角礫で構成される。

### 集石6

礫密度が密で、狭い範囲に円形に密集する。礫の上下の重なりは確認できない。礫に伴う遺物・炭化物などはなく、掘り込みも見られない。

礫は、複数の石材が見られ、円礫と角の丸くなった角礫で構成されている。

### 集石7

礫密度はやや密であり、平面配置は楕円形を呈する。礫の上下の重なりは一部で確認される。礫に伴う遺物・炭化物などはなく、掘り込みも存在しない。下層より集石17が検出されている。

礫は、複数の石材が見られ、円礫と角の丸くなった角礫で構成されている。

### 集石8

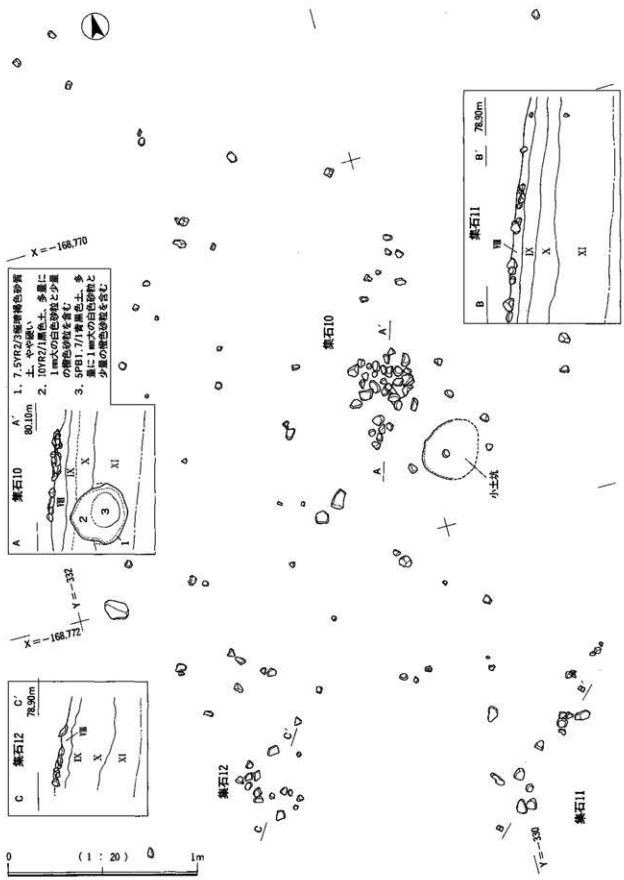
集石2の下より検出した。礫の密度はやや密であるが平面形ははっきりしない。礫の集中する範囲が二ヶ所あり、礫に上下の重なりが見られる。礫に伴う遺物・炭化物はなく、掘り込みも存在しない。

礫は、ほぼ同一石材の角礫で構成されている。

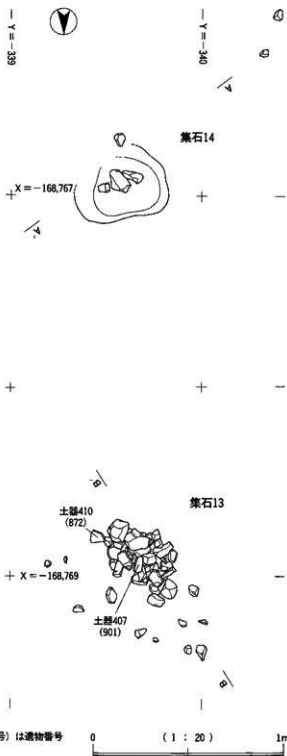
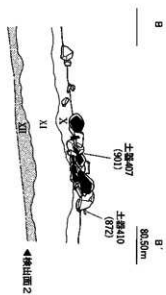
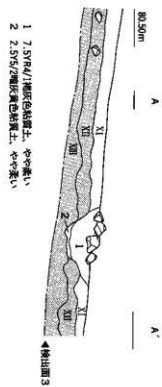
### 集石9

礫密度は極めて疎で、周囲に比べてやや集中する程度であり、平面配置も形ははっきりしない。礫の上下の重なりもなく、掘り込みは見られない。礫に伴う遺物・炭化物なども見られない。

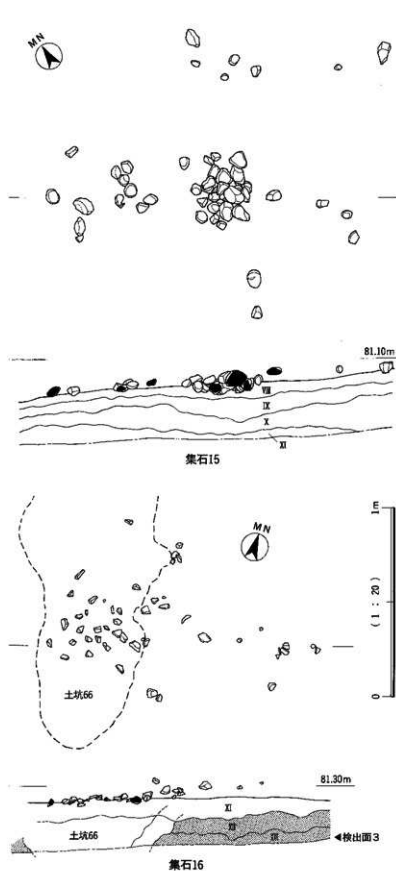
礫は、おもに角の丸くなった角礫で、一部に円礫が含まれる。いずれも赤味を帯びて破砕している。



第81図 下掘遺跡 集石10~12



第82図 下板遺跡 集石13・14



第83図 下堰遺跡 集石15・16

### 集石10~12

7-2区において、Ⅷ層中に礫の広がる範囲が見られた。出土層がⅧ層のみであったため、「集石遺構」の使用状況が把握できる可能性があったが、掘り込みは確認できなかった。集石番号は集中する二つの範囲に振ってある。

なお、集石10付近に黒褐色土に囲まれる範囲が確認された。平面形と断面形は円形を呈しており、内部の土は周囲の土とは明確に異なる。しかし、シミ状痕跡か遺構かの判断ができなかった。土嚢状の遺構の可能性も考えられる。

集石10は、平面配置は歪んだ円形を呈して、礫の上下の重なりが見られる。礫に伴って遺物・炭化物などは出土せず、掘り込みも見られない。

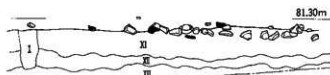
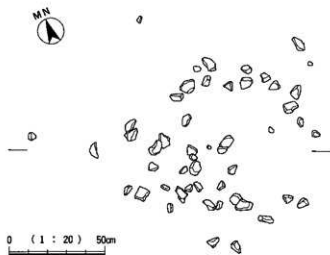
集石11・12は、礫密度が周囲に比べてやや集中する程度であり、平面配置も形がはっきりしない。礫の上下の重なりも見られない。礫に伴う遺物・炭化物などはなく、掘り込みも見られない。

礫には、いずれの集石も複数の石材が見られ、角の丸くなった角礫と円礫で構成される。両者は赤味を帯びて破碎している。

### 集石13・14

Ⅸ・Ⅹ層の掘り下げ時において、土色の黒色がやや強く、ごくわずかに粘性の見られる範囲が見られた。その範囲の下から集石13・集石14を検出した。

両者は検出面が異なるが前述のことに加えて礫が類似しており、同一斜面の上方・下方で近接することから、相関関係のある遺構と考えられる。掘り込みを確認したところ、斜



1 10VR4/1 褐灰色土、硬くしまる

第84図 下堀遺跡 集石17

面上方に位置する集石14で確認することができた。以上のことから「集石遺構」本体が集石14で、集石13は集石14の構成礫を仮置したものの可能性が考えられる。

集石13は、礫密度が極めて密で、平面配置は歪んだ円形を呈する。集石中央に礫の上下の重なりが見られる。礫に伴い土器407・410の一部が碎片として出土しが、炭化物は見られない。掘り込みは見られなかった。

礫は、複数の石材の角礫で構成されており、赤味を帯びて破砕している。量も大小様々な礫が見られる。

集石14は、数点の大きな礫が散在する程度で、平面形もはっきりしない。礫の上下の重なりも見られず、礫に伴う遺物・炭化物なども存在しない。

掘り込みは、平面形が歪んだ円形を、断面形が逆台形を呈している。覆土に礫の落ち込みが見られないが、前述のように遺構上部に土色・土質の変化が見られたことから、本来

は掘り込み内に落ち込んでいたものと考えられる。覆土に遺物・炭化物は含まれない。

礫は、複数の石材の角礫で構成されており、赤味を帯びている。

#### 集石15

周囲に比べて大きめの礫が集まり、最も集中する範囲では円形に密集する。この範囲の礫は上下の重なりが見られて、とくに中央が重なっている。礫に伴って土器片が出土したが、細片で時期は不明である。炭化物は見られず、掘り込みも存在しない。

礫は、複数の石材の円礫で構成されており、いずれも赤味を帯びて破砕が見られる。一部に炭化物・タール状の付着が見られる。

#### 集石16

集石6の下から検出された。礫密度が極めて疎で、礫同士の重なりも見られない。礫に伴った遺物・炭化物も見られない。集石16の下からは、土坑66が検出されている。

礫は、ほぼ同一の石材の角礫で構成されており、赤味を帯びて破砕する。

#### 集石17

集石7の下から検出された。礫密度は疎であるが円形に散在して、環状に巡るように見える。礫の重なりは数ヶ所で見られる。掘り込みはなく、礫に伴う土器・炭化物なども存在しない。

礫は、ほぼ同一の石材の角礫で構成されるが、1点だけ凝灰岩が含まれる。いずれも赤味を帯びて破砕している。





## 集石9

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	合計	平均																						
1	32.53	24.78	15.85	19	16.53	41.51	14.11	38	36.17	48.26	17.78	57	19.12	31.29	13.86	58	32.86	51.70	14.80	59	11.60	38.92	8.10	60	0.22	15.60	7.22	61	4.47	27.32	12.18	62	26.00	39.78	19.78	63	3.10	20.52	6.09	64	5.26	34.38	10.13	65	22.59	47.85	8.87	66	11.92	33.98	17.23	67	5.24	25.45	13.25	68	1.62	15.98	6.78	69	11.63	32.89	10.86	70	13.92	29.94	16.00	71	33.72	53.41	16.33	72	3.49	22.84	10.03	合計	1839.19	—	平均	25.82	41.67	15.04

## 集石10~12

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	14	15 <th>16 <th>17 <th>18 <th>19 <th>20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	16 <th>17 <th>18 <th>19 <th>20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	17 <th>18 <th>19 <th>20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	18 <th>19 <th>20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	19 <th>20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	20 <th>21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	21 <th>22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	22 <th>23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	23 <th>24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	24 <th>25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	25 <th>26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	26 <th>27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	27 <th>28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	28 <th>29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	29 <th>30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	30 <th>31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	31 <th>32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	32 <th>33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th></th>	33 <th>34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th></th>	34 <th>35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th></th>	35 <th>36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th></th>	36 <th>37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th></th>	37 <th>38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th></th>	38 <th>39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th></th>	39 <th>40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th></th>	40 <th>41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th> </th>	41 <th>42</th> <th>43</th> <th>44</th> <th>45</th> <th>46</th> <th>47</th> <th>48</th> <th>49</th> <th>50</th> <th>51</th> <th>52</th> <th>53</th> <th>54</th> <th>55</th> <th>56</th> <th>57</th> <th>58</th> <th>59</th> <th>60</th> <th>合計</th> <th>平均</th>	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	合計	平均																																																														
1	288.78	76.84	50.28	14	47.50	57.86	24.70	28	26.86	37.08	15.33	29	18.63	42.13	13.72	30	16.82	32.46	14.61	31	19.20	38.70	18.78	32	1.61	20.62	9.22	33	2.78	18.43	9.91	34	11.44	35.40	15.65	35	8.78	29.80	14.28	36	5.83	29.37	10.78	37	4.57	24.43	7.53	38	2.56	19.00	9.84	39	3.63	20.03	11.83	40	3.62	21.22	9.19	41	0.63	13.25	7.73	42	96.60	49.88	25.88	43	183.98	68.15	39.62	44	111.71	68.93	39.45	45	99.87	82.83	21.27	46	74.45	54.89	42.14	47	168.52	79.26	32.39	48	172.17	68.51	42.28	49	7.15	26.88	11.74	50	0.83	14.11	4.67	51	7.01	30.55	9.82	52	3.44	23.62	9.67	合計	3233.23	—	平均	62.18	45.99	23.05

## 集石10

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	合計	平均																											
1	243.91	59.62	35.68	19	9.07	30.64	15.29	38	31.29	42.71	20.83	47	56.14	47.32	26.28	48	235.85	73.30	46.39	49	62.10	45.84	29.36	50	86.66	55.37	36.09	51	77.05	53.59	36.50	52	62.34	59.15	22.61	53	134.60	82.23	37.53	54	40.79	39.98	20.43	55	13.68	41.57	16.93	56	63.41	51.13	32.87	57	75.10	64.18	26.32	58	71.62	76.32	29.83	59	26.57	37.48	17.25	60	65.32	46.48	23.97	合計	3233.23	—	平均	62.18	45.99	23.05

## 集石11

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	合計	平均
1	105.34	63.19	28.59	6	92.40	50.56	40.26	12	109.73	74.29	31.10	18	14.80	31.08	18.56	19	3.30	28.17	9.33	合計	1571.88	—	平均	82.73	55.06	27.64																								

## 集石12

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	合計	平均
1	53.46	56.69	28.68	9	94.08	58.08	25.79	18	103.67	65.69	32.95	27	92.66	70.82	25.66	28	2.06	22.88	5.91	29	26.94	37.74	16.55	30	2.44	28.32	5.76	31	6.82	30.85	8.74	32	1.82	17.02	7.18	33	3.27	16.82	11.71	合計	1792.22	—	平均	54.21	49.44	21.70	

## 集石13(1)

番号	重量(g)	長さ(mm)	幅(mm)	2	3	4	5	6	7																		
1	279.04	92.33	59.62	2	150.36	89.99	16.74	4	92.93	65.85	29.51	6	39.38	70.75	12.73	3	754.86	132.63	41.06	5	98.12	67.55	39.37	7	61.77	66.19	19.97

第34表 下堀遺跡 集石構成礫の計測表(3)



## 集石13(2)

8	200.18	82.89	40.18	22	158.69	80.71	35.06	36	175.68	87.40	24.96	50	12.36	43.64	8.92
9	248.21	93.31	28.05	23	178.72	82.63	35.66	37	76.71	34.41	30.39	51	15.85	46.05	8.93
10	77.60	74.23	23.59	24	145.80	87.61	19.67	38	40.86	69.53	15.56	52	23.30	49.08	22.14
11	223.41	93.27	24.67	25	154.60	92.02	22.35	39	54.73	44.15	29.23	53	21.05	52.26	10.89
12	253.76	93.13	36.17	26	173.87	113.92	22.14	40	23.03	49.44	9.03	54	6.56	31.33	13.09
13	78.48	57.40	28.13	27	169.26	78.47	39.19	41	30.08	56.04	12.08	55	2.44	21.83	9.77
14	279.10	89.99	31.33	28	177.57	69.66	38.13	42	12.69	44.24	31.87	合計	8633.97	—	—
15	3.76	28.21	7.32	29	179.95	95.77	40.33	43	54.09	57.74	27.63	平均	156.98	69.85	28.90
16	1.91	15.96	7.54	30	60.57	55.60	28.32	44	42.43	33.73	21.61				
17	647.99	91.23	71.49	31	129.72	70.73	38.19	45	35.77	47.89	18.88				
18	878.58	113.83	60.52	32	234.89	77.83	56.37	46	29.09	60.03	18.34				
19	483.56	104.39	33.67	33	107.87	36.40	34.77	47	45.16	45.83	29.91				
20	432.92	96.61	47.92	34	126.78	63.50	41.36	48	46.41	55.87	26.80				
21	465.61	103.86	56.92	35	115.23	60.66	30.76	49	29.43	57.32	23.32				

## 集石14

番号	長さ(m)	幅(m)	3	4	5	6	合計	平均		
1	534.80	138.30	40.73	4	96.41	58.76	30.54	1268.32	—	40.48
2	133.87	71.98	39.34	5	69.79	50.82	27.47	209.69	81.61	36.53

## 集石15

番号	長さ(m)	幅(m)	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	合計	平均																																																																										
1	115.56	57.86	24.20	14	83.61	51.72	27.22	28	194.78	67.82	40.21	29	766.61	124.24	43.63	30	136.79	63.16	50.76	31	184.33	88.93	20.91	32	173.59	74.68	32.07	33	856.26	130.18	58.10	34	141.29	91.80	34.21	35	184.82	66.59	36.76	36	180.12	96.39	36.75	37	136.44	83.23	29.13	38	110.68	76.99	24.61	39	244.25	92.58	37.49	40	138.65	92.34	34.23	41	94.28	69.30	23.68	42	55.44	50.25	21.33	43	162.68	110.72	23.87	44	4.18	23.37	8.03	45	123.34	65.75	35.16	46	55.07	58.34	15.53	47	11.06	37.84	13.02	48	37.66	58.32	19.36	49	10.95	45.83	15.85	50	49.05	54.91	27.11	51	23.78	46.61	12.04	52	44.10	54.07	21.26	合計	8889.50	—	—	平均	167.11	71.17	30.51

## 集石16

番号	長さ(m)	幅(m)	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	合計	平均																																																																																																																																																													
1	20.43	49.30	14.37	17	43.91	70.10	19.91	18	22.65	40.85	23.26	19	10.76	49.46	19.13	20	12.55	38.98	12.88	21	33.20	53.32	24.12	22	5.19	22.98	11.74	23	63.55	65.83	23.18	24	19.00	25.48	20.23	25	15.16	36.69	18.48	26	11.37	46.34	17.32	27	10.76	49.46	19.13	28	40.18	43.41	22.76	29	26.83	53.59	18.96	30	49.50	51.39	17.10	31	17.04	49.47	17.06	32	50.59	57.90	19.03	33	40.71	58.97	19.65	34	7.10	27.80	11.82	35	10.00	33.51	14.06	36	12.78	38.80	16.85	37	10.20	37.25	14.55	38	6.17	27.82	12.39	39	15.78	33.97	18.85	40	2.77	20.41	8.76	41	6.66	35.92	6.00	42	5.76	23.31	11.34	43	3.56	25.96	9.10	44	1.96	18.50	7.88	45	2.88	19.25	11.29	46	12.33	38.02	14.43	47	8.56	42.60	10.54	48	2.78	19.13	5.34	49	4.90	27.02	9.92	50	52.89	61.90	21.32	51	0.58	13.11	6.28	52	4.00	28.61	7.11	53	4.01	25.65	11.50	54	28.09	46.32	15.72	55	3.78	27.08	1.88	56	0.74	19.75	4.11	57	9.42	30.64	17.16	58	0.41	16.16	5.27	59	1.65	20.97	8.13	60	5.86	24.51	15.79	61	4.10	21.98	13.36	62	6.63	25.12	10.57	合計	1298.62	—	—	平均	20.95	39.32	15.60

## 集石17

番号	長さ(m)	幅(m)	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	合計	平均																																																																																																																														
1	212.11	92.84	33.77	14	34.49	50.21	15.01	15	77.70	83.68	23.09	16	130.87	75.02	40.41	17	11.52	31.85	11.36	18	44.51	45.22	28.61	19	22.50	36.67	21.37	20	8.63	36.27	10.15	21	34.28	47.91	19.50	22	38.09	44.30	29.37	23	107.03	67.31	24.06	24	131.76	76.33	31.84	25	104.46	72.68	26.31	26	137.46	91.89	29.79	27	76.49	77.05	25.21	28	156.37	76.68	45.11	29	136.90	85.64	26.28	30	220.31	79.11	39.13	31	202.62	86.01	34.93	32	34.35	54.53	18.14	33	63.53	71.57	13.94	34	111.59	76.52	28.61	35	89.58	70.15	26.21	36	86.60	63.65	34.76	37	153.05	92.47	24.92	38	212.02	86.24	28.54	39	76.48	56.27	29.14	40	101.82	61.01	31.86	41	72.68	62.31	29.10	42	18.40	45.12	11.10	43	48.88	49.02	25.12	44	25.14	49.07	17.98	45	46.09	47.01	23.63	46	82.55	78.54	22.50	47	81.03	68.78	30.86	48	41.97	49.27	19.45	49	15.15	44.46	11.16	50	49.55	57.46	21.77	51	141.73	83.68	26.84	52	50.63	61.11	25.64	合計	4427.01	—	—	平均	85.13	64.54	25.48

第35表 下掘遺跡 集石構成礫の計測表(4)

c. 土坑 (1~71)<sup>9)</sup>

土坑は71基を数える。分布は、丘の頂上部付近に集まっており、ほとんどが等高線79.50mから上に存在する。しかし、最頂部の平坦面にはなく、北側斜面の最も高い範囲に集中している。また、ほとんどの土坑が等高線に対して垂直に築かれ、各土坑同士が並行している。

土坑には、底面に赤色化範囲が見られても、炭化物が伴わない<sup>9)</sup>ものもあるが、この範囲が「燃焼部」にあたると考える。この「燃焼部」の想定される側は、ほとんど斜面上方に位置している。

また、土坑の調査では、完掘後に断ち割り調査を行なって、遺構下の堆積状況の確認を実施したところ、「燃焼部」と推定される位置の下より土層の変わる範囲が検出された。この土層の変化範囲を肉眼で観察したところ、地山と同じ土層が変色しているものと判断でき、さらに断面での検出状況において上から液体が浸透してきたような特徴が確認できた。この両者の理由から「シミ状痕跡」と呼称した。

「シミ状痕跡」の特徴は、色が青みを帯びた灰白色で、やや粘性を帯びるが色・粘性以外の土質は同じ高さの地山と同じである点が挙げられる。また、形状は断面が逆台形もしくは逆三角形で、痕跡

土坑9

	長さ	幅	高さ
1	85.03	27.13	84.05
2	52.41	24.17	67.25
3	34.96	31.23	49.02
4	52.79	21.82	34.86
5	39.31	21.88	31.95
6	32.45	25.93	24.54
7	43.41	29.30	20.51
8	39.67	29.19	17.91
329.19			

土坑16

	長さ	幅	高さ
1	70.77	48.20	178.25
2	83.18	17.96	63.48
3	49.19	32.63	47.18
4	59.11	22.57	67.15
5	56.09	37.44	81.50
6	51.31	34.23	70.12
7	45.64	19.02	36.00
8	44.55	24.45	40.39
9	55.72	26.66	36.13
10	53.99	13.26	23.61
11	41.39	16.59	24.90
12	43.42	17.12	21.07
13	39.18	23.16	23.65
14	35.96	19.15	8.97
15	36.22	6.77	7.95
16	29.78	10.13	8.36
17	29.78	7.49	4.80
18	27.57	10.43	3.86
19	26.41	8.58	2.65
20	23.35	7.82	3.32
753.44			

土坑27

	長さ	幅	高さ
1	93.77	35.54	252.29
2	84.54	28.44	156.39
3	64.42	23.34	99.75
4	70.14	20.36	68.20
5	47.33	34.15	77.60
6	53.13	29.46	63.60
7	52.38	23.66	47.85
8	51.08	16.80	30.19
9	46.51	16.67	20.69

※単位はすべてcm・g

土坑37

	長さ	幅	高さ
1	89.31	33.98	154.08
2	65.72	35.63	126.60
3	57.64	48.23	119.76
4	63.60	31.23	74.82
5	48.91	23.57	38.76
6	51.90	22.99	56.30
7	46.98	20.95	37.18
8	42.82	7.48	13.33
9	28.85	14.89	8.05
10	26.19	12.26	6.35
11	25.82	8.82	3.40
639.04			

土坑38

	長さ	幅	高さ
1	99.46	51.37	552.41
2	68.47	37.25	105.81
3	83.42	37.71	111.08
4	54.17	40.55	93.31
5	49.99	31.58	92.72
6	57.53	35.52	117.38
7	49.42	33.32	81.29
8	52.18	33.33	60.98
9	36.58	23.72	39.79
10	48.79	22.61	42.48
11	45.48	23.49	35.20
12	46.74	18.79	30.15
13	44.32	17.54	25.88
14	38.37	18.15	21.04
15	32.07	16.83	11.09
16	29.04	14.00	6.29
1406.86			

土坑41

	長さ	幅	高さ
1	115.10	29.26	219.90
2	95.58	30.97	154.18
3	83.30	23.35	121.58
4	72.75	46.92	231.65
5	56.32	29.94	94.10
6	56.75	23.18	46.15
7	56.40	24.56	44.70
8	54.52	29.32	46.20
9	61.00	27.29	53.05
10	33.77	18.34	45.43
11	34.39	13.88	12.30
12	32.88	17.28	8.66
1077.88			

※単位はすべてcm・g

土坑68・69・70

	長さ	幅	高さ
1	78.30	32.73	171.14
2	70.67	31.59	74.00
3	60.32	29.98	88.60
4	66.72	29.86	94.16
5	51.70	28.38	56.70
6	56.56	21.10	33.40
7	52.81	15.58	30.87
8	54.38	20.51	49.65
9	58.93	14.86	28.68
10	49.87	30.07	35.28
11	50.89	20.66	36.83
12	38.79	22.79	26.30
13	49.82	20.73	26.07
14	44.41	15.11	21.70
15	46.79	18.06	18.55
16	37.18	19.78	17.44
17	42.53	16.93	22.05
18	39.11	20.22	21.23
19	39.01	15.41	9.82
20	33.36	10.69	7.10
21	37.38	14.66	12.35
22	32.27	14.60	10.66
23	32.66	19.15	12.99
24	28.19	10.53	6.61
25	25.10	10.81	4.36
26	81.31	27.68	153.34
27	91.32	44.47	324.84
28	69.30	31.42	97.96
29	68.39	19.34	67.98
30	72.36	33.95	103.63
31	72.99	35.10	114.99
32	52.25	25.12	59.76
33	53.56	13.26	29.73
34	39.53	22.63	30.20
35	46.49	21.93	29.78
36	49.59	17.35	24.12
37	35.99	16.49	22.82
38	37.57	20.39	18.89
39	47.40	11.74	15.86
40	49.11	18.16	27.61
41	39.95	21.43	22.74
42	29.27	11.30	8.65
43	33.32	15.64	10.03
44	28.55	18.80	11.14
45	29.51	14.48	9.17
2107.36			

土坑43・44

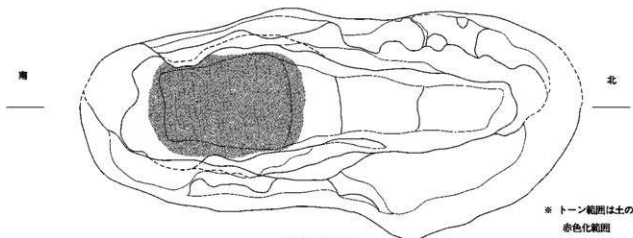
	長さ	幅	高さ
1	63.66	30.56	93.48
2	53.60	37.12	105.13
3	64.16	37.79	123.33
4	50.08	39.53	115.02
5	88.22	17.40	69.73
6	80.19	18.20	56.49
7	79.82	34.21	86.46
8	77.98	8.42	24.51
9	54.34	11.87	22.29
10	43.76	15.77	36.22
11	52.80	20.81	26.45
12	44.36	17.46	32.25
13	45.18	26.60	43.56
14	34.89	18.34	19.99
15	42.75	13.52	16.31
16	27.96	13.62	15.10
17	32.80	13.33	16.70
18	32.15	10.70	9.20
882.22			

※単位はすべてcm・g

第36表 下掘遺跡Ⅱ・Ⅲ層上面 土坑内出土土壌の計測表

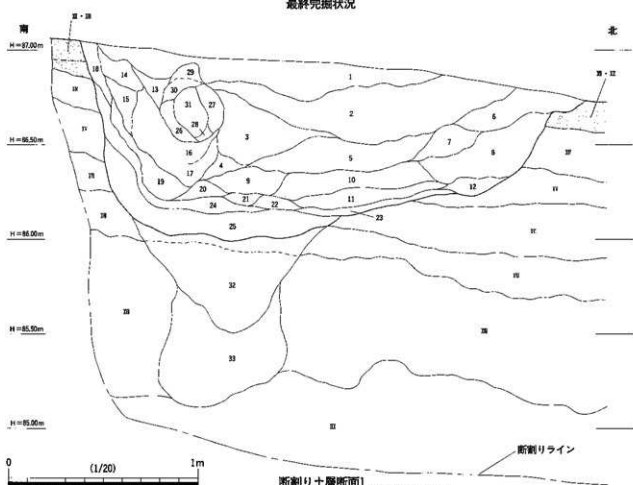
土坑No.	形貌		規模(最高値:cm)			ブリッジ影	赤色化 簡易	シミ状 痕跡	備考
	平面	断面	長軸	短軸	深さ				
土坑 1	楕円形	逆台形	263	118	94	○	○	○	
土坑 2	楕円形	逆台形	210	58	53	△		—	
土坑 3	楕円形	逆台形	147	83	47			—	
土坑 4	楕円形	逆台形	153	77	36			—	
土坑 5	楕円形	レンズ状	144	66	27			—	
土坑 6	楕円形	レンズ状?	123	62	28			—	
土坑 7	円形	逆台形	78	—	21			—	
土坑 8	(楕円形)	逆台形	(58)	38	14			—	
土坑 9	(楕円形)	逆台形	(102)	102	16			—	
土坑10	(円形)	逆台形	(93)	—	23			—	
土坑11	やや歪んだ楕円形	レンズ状	124	81	21			—	
土坑12	やや歪んだ楕円形	レンズ状	148	76	14			—	
土坑13	突出部をもつ楕円形	逆台形	186	92	32		○	○	
土坑14	楕円形	レンズ状	144	86	11			—	
土坑15	やや歪んだ楕円形	レンズ状?	267	117	23			—	
土坑16	軸の異なる楕円形が2つ重なる	逆台形	228	96	35		○	×	
土坑17	(楕円形)	逆台形	(115)	(67)	23		○	—	
土坑18	瓢箪状	逆台形	209	106	28			—	
土坑19	(楕円形)	逆台形?	(132)	74	18			—	
土坑20	円形	レンズ状	106	—	9			×	
土坑21	円形	逆台形	55	—	29			×	土坑22に連結
土坑22	楕円形	逆台形	207	83	38	○	○	×	
土坑23	楕円形	レンズ状	162	68	21			×	
土坑24	やや歪んだ楕円形	レンズ状	207	128	12			—	
土坑25	歪んだ楕円形	逆台形	134	76	24			—	土器状? 痕跡
土坑26	歪んだ円形	レンズ状	144	—	34			—	土坑27に連結
土坑27	突出部をもつ楕円形	逆台形	256	108	87	○	○	○	
土坑28	楕円形	逆台形	128	64	34			—	
土坑29	(円形)	レンズ状	52	—	17			—	
土坑30	(円形)	逆台形	112	—	23			—	
土坑31	楕円形	逆台形	123	65	37			—	
土坑32	楕円形	逆台形	136	54	47			—	
土坑33	円形	逆台形	78	—	17			—	黄褐色砂粒を包含
土坑34	円形	逆台形	74	—	14			—	黄褐色砂粒を包含
土坑35	楕円形	逆台形	113	57	35			—	
土坑36	楕円形	逆台形	118	—	34			—	
土坑37	楕円形	逆台形	164	134	44		○	×	
土坑38	円形	V字状	107	72	17			—	
土坑39	円形	逆台形	52	—	12			—	
土坑40	円形	レンズ状	57	—	9			—	
土坑41	楕円形	逆台形	114	66	24		○	—	
土坑42	円形	レンズ状	64	—	18			—	
土坑43・44・45	突出部をもつ楕円形	逆台形	417	212	104	○	○	○	シミ状痕跡3ヵ所
土坑46	瓢箪状	逆台形	106	57	27	○	○	×	
土坑47・48	楕円形	逆台形	212	109	56	○	○	×	
土坑49	楕円形	逆台形	127	56	21		○	—	
土坑50	楕円形	逆台形	86	64	23			—	
土坑51	楕円形	レンズ状	148	61	18			—	
土坑52	歪んだ円形	レンズ状	93	—	12			—	
土坑53・54	突出部をもつ楕円形	逆台形	182	93	44	○	○	○	シミ状痕跡2ヵ所
土坑55	楕円形	逆台形	162	56	16			—	
土坑56	歪んだ楕円形	逆台形	106	78	21			—	
土坑57	円形	レンズ状	136	—	24			—	
土坑58	楕円形	逆台形	134	84	23	×	○	○	
土坑59	楕円形	逆台形	118	57	24		△	—	
土坑60	楕円形と円形	逆台形	178	111	36	○	○	○	
土坑61	楕円形	逆台形	207	72	74	○	○	○	
土坑62	楕円形	逆台形	136	59	27		○	—	
土坑63	楕円形	逆台形	82	57	32		○	—	
土坑64	歪んだ円形	逆台形	82	—	61			—	
土坑65	歪んだ楕円形	逆台形	152	114	32			—	
土坑66・67	楕円形	逆台形	318	67	37	○	○	○	シミ状痕跡2ヵ所
土坑68・69・70	歪んだ円形	逆台形	257	169	24	×	○	×	
土坑71	不定形	レンズ状?	187	—	17			—	

第37表 下掘遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 土坑一覽



※トーン範囲は土の  
赤色化範囲

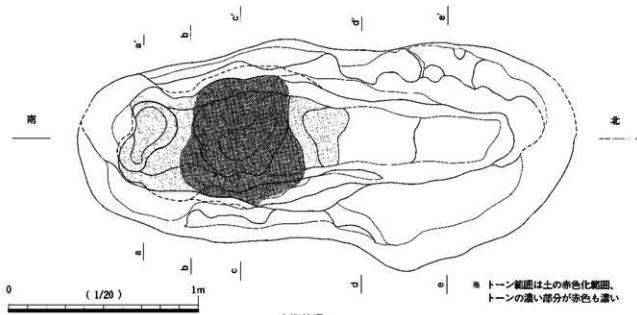
最終穴掘状況



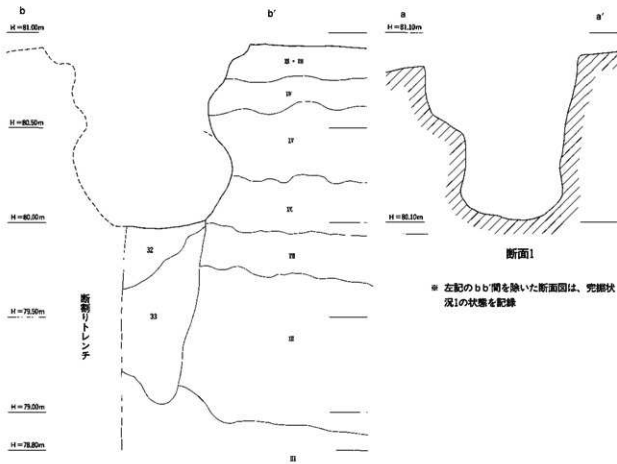
断割り土層断面1

- |   |  |
|---|--|
| 1 10YR2/1黒色土。多量の白色・褐色砂粒を含む。                           | 18 2.5Y3/1黒褐色土。硬く締まる。  |
| 2 2.5Y2/1黒褐色土。非常に多量の白色・褐色砂粒と多量の2.5Y4/2オリーブ褐色土ブロックを含む。 | 19 10YR2/1黒色土。少量の2-6mmの白色・褐色砂粒を含む。                                 |
| 3 5Y2/2オリーブ黒色土。非常に多量の白色・褐色砂粒を含む。                      | 20 10YR5/1黒色土。   |
| 4 10YR2/1黒色土。少量の白色・褐色砂粒を含む。                           | 21 10YR2/1黒褐色土。やや粘りを帯びる。   |
| 5 2.5Y2/1黒色土。非常に多量の白色・褐色砂粒を含む。                        | 22 2.5Y2/1黒褐色土。非常に硬く締まる。   |
| 6 5Y2/1黒色土。多量の白色・褐色砂粒を含む。                             | 23 2.5Y2/2黒褐色土。1層と類似して、より硬く締まる。                                    |
| 7 8Y3/2オリーブ黒色土。多量の白色・褐色砂粒を含む。                         | 24 2.5Y3/2黒褐色土。2.5YR5/3に似た褐色土(Fe <sup>2+</sup> ?)と混じりあった土。比較的柔らかい。 |
| 8 8Y3/2オリーブ黒色土。多量の灰色・褐色土ブロックを含む。                      | 25 10YR3/2黒褐色土。少量の2-3mmの白色・褐色砂粒を含む。硬く締まる。                          |
| 9 1.5Y2/1黒色土。非常に多量の白色・褐色砂粒を含む。                        | 26 5Y3/2オリーブ黒褐色土。極少量の白色・褐色砂粒を含む。                                   |
| 10 2.5Y3/2黒褐色土。やや締まるブロックと多量の白色・褐色砂粒を含む。               | 27 10YR6/3に似た黒褐色土。やや硬く締まる。   |
| 11 2.5Y2/1黒褐色土。1層と類似して硬く締まる。                          | 28 10YR5/1黒褐色土。少量の2-3mmの白色・褐色砂粒を含む。硬く締まる。                          |
| 12 2.5Y2/1黒褐色土。多量の白色・褐色砂粒を含む。非常に硬く締まる。                | 29 10YR2/1黒褐色土。少量の2-3mmの白色・褐色砂粒を含む。硬く締まる。                          |
| 13 2.5Y3/1黒褐色土。多量の白色・褐色砂粒を含む。                         | 30 10YR4/1黒褐色土。少量の2-3mmの白色・褐色砂粒を含む。硬く締まる。                          |
| 14 7.5Y3/1黒褐色土。少量の白色・褐色砂粒を含む。                         | 31 10YR4/1黒褐色土。サツマ(黒・細)土ブロックを含む。硬く締まる。                             |
| 15 10YR4/1黒褐色土。10Y3/1黒褐色土ブロックと多量の白色・褐色砂粒を含む。          | 32 10YR6/3に似た黒褐色土。粘りを帯びる。  |
| 16 2.5Y3/1黒褐色土。多量の2-6mmの白色・褐色砂粒を含む。硬く締まる。             | 33 10YR6/1黒褐色土。粘りを帯びる。   |
| 17 10YR2/1黒色土。極少量の白色・褐色砂粒を含む。                         |  |

第85図 下堀遺跡 II層上面 土坑1(1)

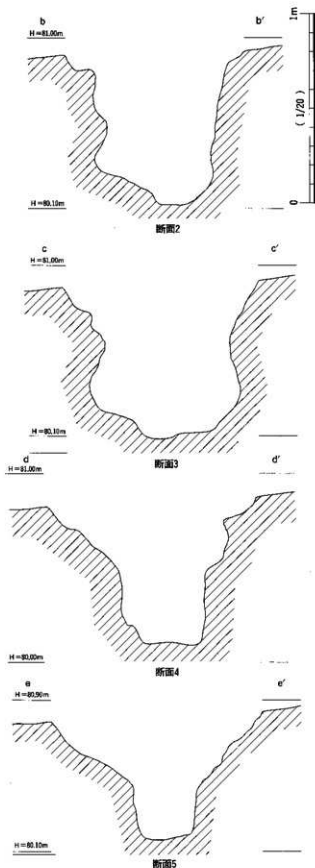


完掘状況1



断割り土層断面2

第86図 下堀遺跡 VII層上面 土坑1(2)



第87図 下掘遺跡 Ⅷ層上面 土坑1(3)

はⅢ層に到達すると見えなくなる特徴も存在する。

地山と相違がない点は、自然科学分析の結果により追認されている。しかし、この現象の正体については、今回実施した自然科学分析においてもつかめなかった。今後、同様の調査例の蓄積が必要と考える。

なお、土坑は「連穴土坑」と考えられる土坑を中心に、規模・形態の点などで6類に分けられる。

1類が「ブリッジ部」痕跡が明瞭で「連穴土坑」とほぼ断定できる土坑：土坑1、土坑21・22、土坑26・27、土坑43・44・45、土坑46、土坑47・48、土坑53・54、土坑60、土坑61、土坑66・67。

2類が形態・「燃焼部」跡などから「連穴土坑」と推測される土坑：土坑2、土坑13、土坑16、土坑18、土坑37、土坑55。

3類が小型の「連穴土坑」の可能性がある土坑：土坑3、土坑4、土坑5、土坑6、土坑28、土坑31、土坑32、土坑36、土坑41、土坑49、土坑58、土坑59、土坑62。

4類が道跡と考えられる土坑：土坑14、土坑15、土坑24。

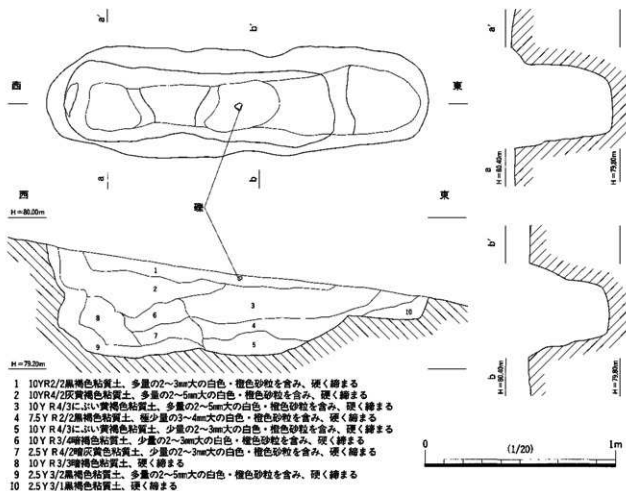
5類が自然地形と考えられる土坑：土坑29、土坑30。

6類が集石の可能性のある土坑：土坑38、土坑48-2。

以上、おもな各土坑の特徴について略述する。なお、法量などについては表にまとめている。

#### 土坑1

「煙穴」は遺存しないが「連穴土坑」と考えられる。形態は平面形が長い楕円形を呈して、断面形が二段掘りの逆台形である。底面には斜面上方の南側に赤色化した範囲が見られ、この範囲は底面幅があって空間が広い。一方で北側底面は幅25cmと極端に狭く、「足場」と考えられるが作業するには不十分な広さである。なお、底面は北側において、25層を挟んで二面が確認されており、使用段階を示すものと考えられる。壁



第88図 下垣遺跡 XI層上面 土坑2

面は、北側が「ブリッジ部」の痕跡に従って反り返り、南側は垂直もしくは外側に開いている。南側壁面は左右で違いが見られ、凹凸の激しい西側壁面に対して、東側は比較的平坦な面をもっており、この東側は「昇降口」の可能性も考えられる。

土層には「ブリッジ部」の痕跡（26~31層）が見られ、わずかに崩落している程度と遺存状態が良好であった。使用面は赤色化層・硬質層などを理由に最終底面（古段階）と23・25層上面中段階と11・21・22・24層上面終段階のおもに3面が想定される。その他は自然堆積による埋没と考えられる。

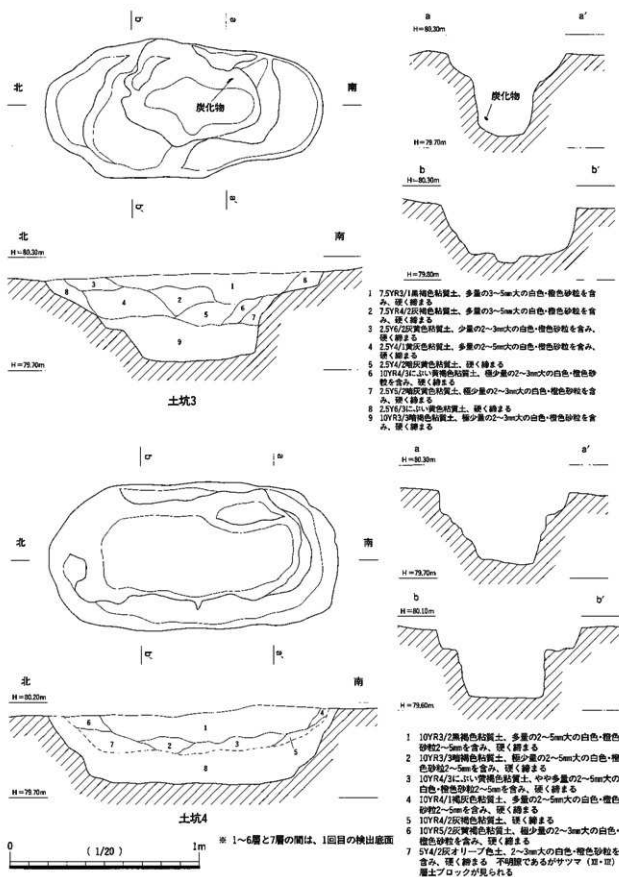
また、断ち割り調査を行なったところ、「燃焼部」下層より断面形がフラスコ状の「シミ状痕跡」を検出している。

### 土坑2

形態から「連穴土坑」の可能性が考えられる。形態は平面形が長い楕円形を呈して、断面形は二段掘りの逆台形である。底面には2ヶ所の凹みが存在する。斜面下方の東側底面は緩やかな段をもったスロープ状となる。土層から二つの使用段階が考えられ、古段階（6~9層）と古段階の埋没後に再掘削した新段階（1~5層）とを想定される。また、10層の存在と長軸方向が長いことから古段階以前にもう一段階存在する可能性が考えられる。

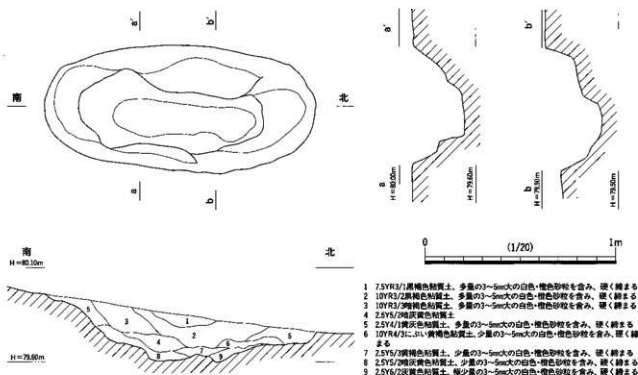
### 土坑3

形態は、平面形が楕円形で、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部が一段低くなってお



第89図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑3・4





第90図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑5

り、底面付近で極少量の炭化材が見られた。斜面下方の北側が緩やかな段をもったスロープ状になっている。

#### 土坑4

形態は、平面形が楕円形で、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部が一段低くなる。斜面下方の北側壁面から底面にかけて緩やかな段をもったスロープ状になる。調査に際しては破線部をもって底面としたが、地山のサツマ(Ⅱ・Ⅲ)層に類似する土層が堆積しているのを確認したため、これを掘り下げ構築当初の底面を検出している。

#### 土坑5

形態は、平面形が楕円形で、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部が一段低くなる。斜面下方の北側が緩やかな段をもったスロープ状になる。土層からは4層が他の覆土に比べてやや柔らかいなど異なることから、「ブリッジ部」の痕跡の可能性も考えられる。

#### 土坑6

形態は、平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面は南側が一段低くなっており、斜面下方の北側は緩やかな段をもったスロープ状となっている。覆土中には1点の礫が見られた。

#### 土坑8

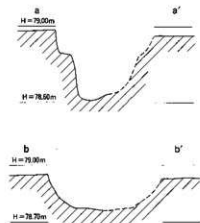
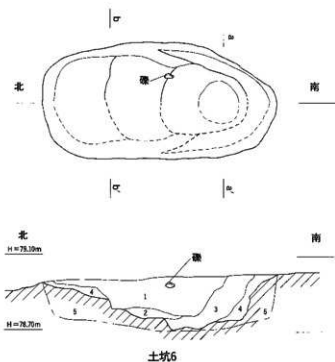
調査区の北壁外に続く土坑で、楕円形を呈すると考えられる。詳細は不明である。

#### 土坑9・10

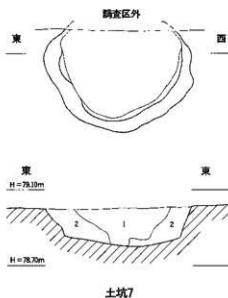
調査区の南壁外に続く土坑で、長い楕円形を呈すると考えられる。詳細は不明である。

#### 土坑11・12

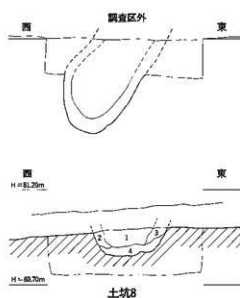
浅いレンズ状の掘り込みに、小さな凹凸が多く見られる底面をもっている。底面の凹凸は1つあたりの規模が幅10~15cm×深さ3cmを測る。掘削時の掘り具痕の可能性が考えられる。平面形は不定形



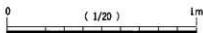
- 1 N2/0黒色土、非常に多量の1mm大以下の白色砂粒と1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 2 2.5Y3/2黒褐色土、1層土を含み、やや多量に1mm大以下の白色砂粒と1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 3 2.5Y3/2黒褐色土、多量に1mm大以下の白色砂粒と1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 4 5Y3/2オリブ黒色土、白色・褐色砂粒を含む
- 5 5Y4/4暗オリブ色土、(埴山)



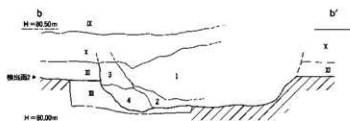
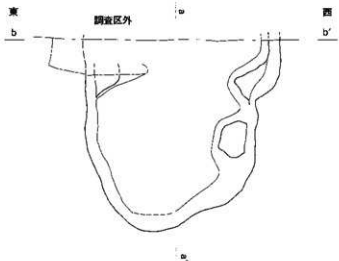
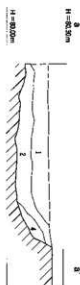
- 1 5Y3/1オリブ黒色土、少量の白色・褐色砂粒を含む
- 2 5Y4/2灰オリブ黒色土



- 1 7.5YR2/2黒褐色粘質土、少量の3~5mm大の白色・褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 2 7.5YR4/1焼灰色粘質土、少量の3~5mm大の白色・褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 3 10YR4/1焼灰色粘質土、少量の3~5mm大の白色・褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 4 10YR4/2灰青褐色粘質土、少量の3~5mm大の白色・褐色砂粒を含み、硬く締まる

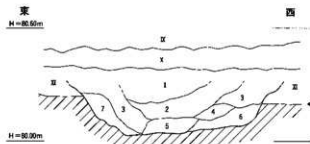
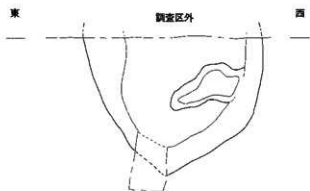


第91図 下堀遺跡 II層上面 土坑6・7・8



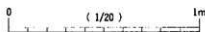
土坑9

- 1 10YR2/1黒色粘質土、極少量の3~5mm白色・褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 2 7.5YR4/1褐色粘質土、硬く締まる
- 3 10YR5/3にふい黄褐色粘質土
- 4 10YR5/3にふい黄褐色粘質土、硬く締まる

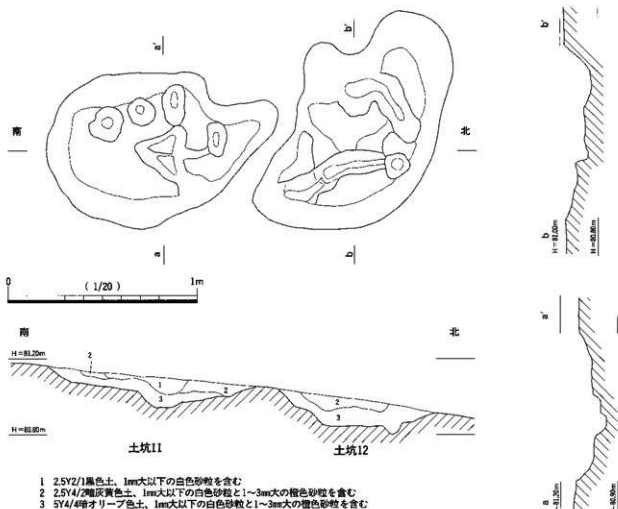


土坑10

- 1 10YR3/1黒褐色粘質土、極少量の2~3mm次の白色・黄褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 2 10YR2/1黒色粘質土、硬く締まる、極少量の2mm大以下の炭化物が混じる
- 3 10YR4/1褐色粘質土、極少量の2~3mm次の白色・黄褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 4 10YR5/1褐色粘質土、硬く締まる
- 5 2.5Y5/3黄褐色粘質土、硬く締まる
- 6 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土、硬く締まる
- 7 2.5Y5/1黄灰色粘質土、硬く締まる



第92図 下堀遺跡 XII層上面 土坑9・10



第93図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑11・12

であり、掘り具痕が明瞭であることに、検出面が想定される生活面から30cm近く低いことを合わせると、楕円形の土坑を掘削途中で廃棄したものの可能性が考えられる。「連穴土坑」の造りかけであろうか。

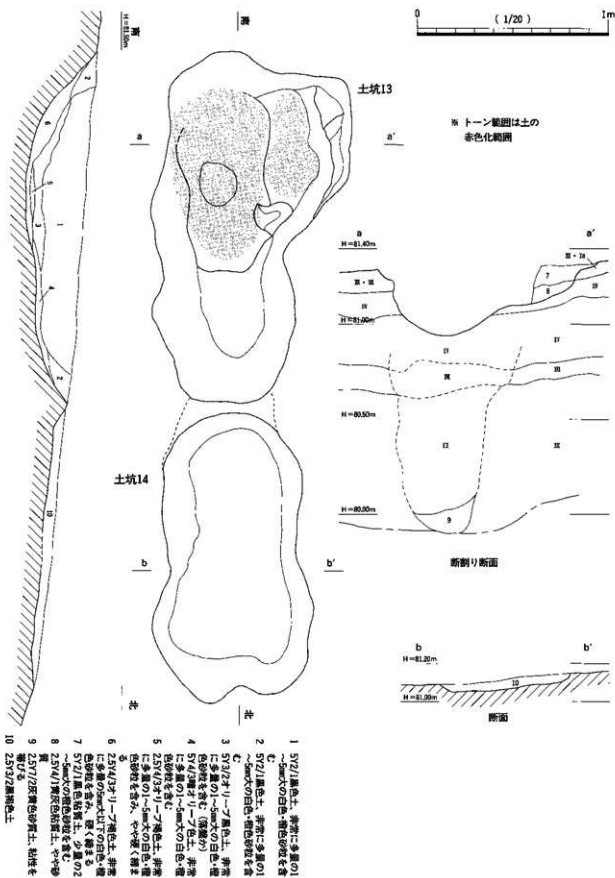
### 土坑13

形態・赤色化範囲の存在から「連穴土坑」の可能性が考えられる。形態は平面形が長い楕円形で斜面上方の南西側が張り出している。断面形は逆台形である。底面には2ヶ所の赤色化範囲があり、斜面上方の南側に偏っている。斜面下方の北側の底面から壁面にかけては緩やかな段をもったスロープ状となる。また、底面の南半分から南側の壁面にかけてが非常に硬質化している。張り出し部は、底面が赤色化して一段高い底面をもっている。

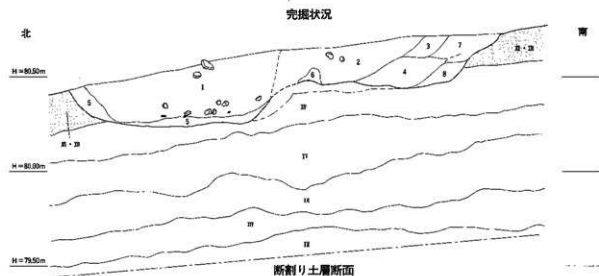
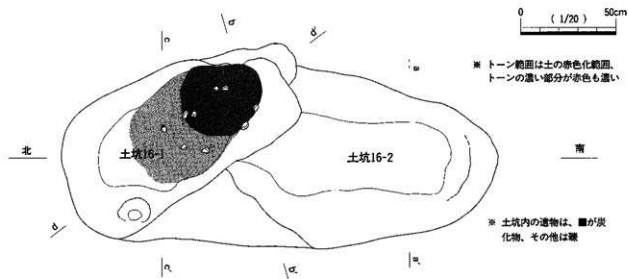
以下、南北軸の土坑を土坑13-1、張り出し部を土坑13-2と呼称する。

形態と底面の赤色化範囲土層の堆積状況から崩落後の再構築が考えられ、土坑13-1（古段階）から、土坑13-2（新段階）への変遷が考えられる。

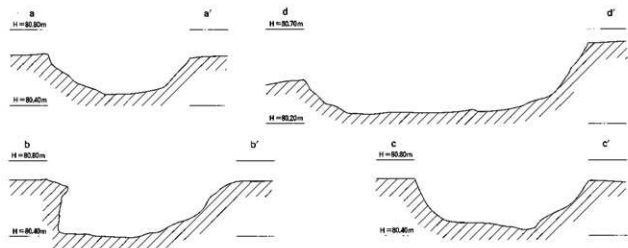
また、断ち割り調査を行なったところ、土坑13-1「燃焼部」下層より「シミ状痕跡」が検出されている。ただし、断ち割り位置が悪かったため、記録では不明瞭である。



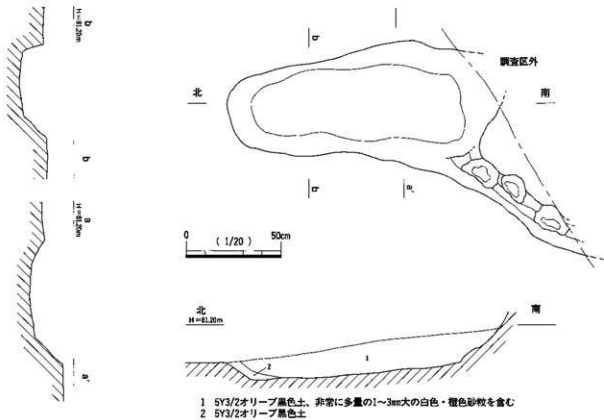
第94図 下堀遺跡 II層上面 土坑13・14



- 1 2.5Y2/1黒色土、非常に多量の1~3mm大の白・橙色砂粒を含み、2~3mm大の炭化物も含む  
 2 2.5Y2/1黒色土、多量の1~3mm大の白・橙色砂粒を含み、2~3mm大の炭化物も含む  
 3 2.5Y2/1黒色土、やや多量の白・橙色砂粒を含む  
 4 5Y3/2オリーブ黒色土、やや多量の白・橙色砂粒を含む  
 5 2.5Y4/3オリーブ褐色土、白・橙色砂粒を含み、硬く締まる



第95図 下堀遺跡 II層上面 土坑16



第96図 下堀遺跡 II層上面 土坑17

#### 土坑14

土坑13の北側にはほぼ同軸上に近接する。掘り方は不明瞭であり、深さは5cmにも満たない。土坑13との間も周囲に比べると黒色に濁っており、前述の溝1～4に類似している。これらのことから道跡と考えられる。

#### 土坑16

形態や赤色化範囲・炭化物の存在から「連穴土坑」の可能性が考えられる。形態は平面形が長い楕円形を呈するが、深い掘り方(断面 dd'間)と浅い掘り方(断面南北間)に分かれており、断面はいずれも逆台形である。以下、前者を土坑16-1、後者を土坑16-2と呼称する。

土坑16-1の斜面下方側である北側はスロープ状となっている。覆土には礫・炭化物がやや多く見られるが、おもに土坑16-1の底面付近に集中している。これらの遺物下の底面には赤色化範囲が広がっている。土坑16-2は土坑16-1より一段高い底面と北側に低い底面をもっている。

形態と底面の赤色化範囲から崩落後の再構築が考えられ、土坑16-1(古段階)から、土坑16-2(新段階)への変遷が考えられる。

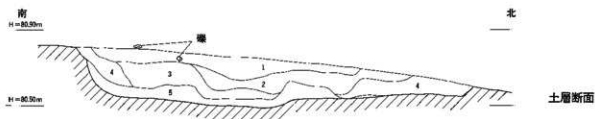
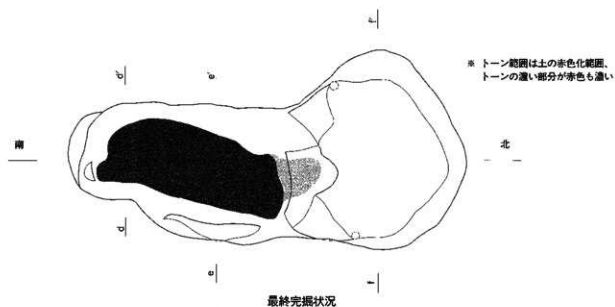
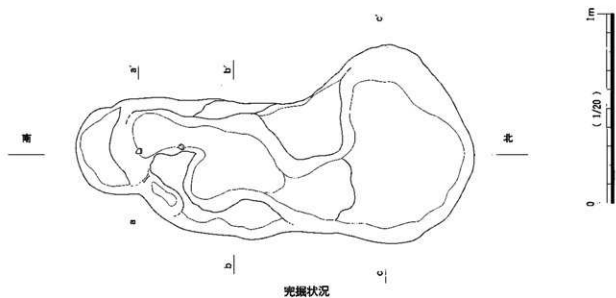
また、断ち割り調査を行なったが「シミ状痕跡」はいずれからも検出されなかった。

#### 土坑17

調査区の北壁外に続く土坑で、平面形が楕円形を呈すると考えられる。底面は調査区内で完結するが、掘り具痕の見られる底面が一段高くなって南西側に続いている。詳細については不明である。

#### 土坑18

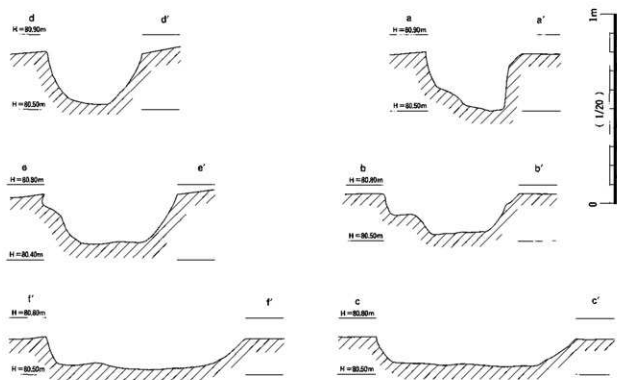
形態や赤色化範囲・炭化物の存在から「連穴土坑」の可能性が考えられる。形態は平面形が鍵穴状



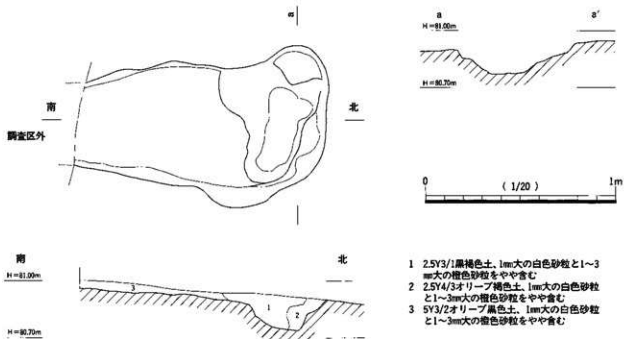
- 1 7.5YR1.7/1黒色土、多量の1mm大の白色砂粒と1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 2 10YR2/1黒色土、非常に多量の1mm大の白色砂粒と非常に多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 3 10YR3/1黒褐色土、多量の1mm大の白色砂粒と多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 4 2.5YR4/3オリーブ褐色土、多量の1mm大の白色砂粒と多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 5 2.5YR4/4オリーブ褐色土、多量の1mm大の白色砂粒と多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む

第97図 下堀遺跡 XII層上面 土坑18 (1)

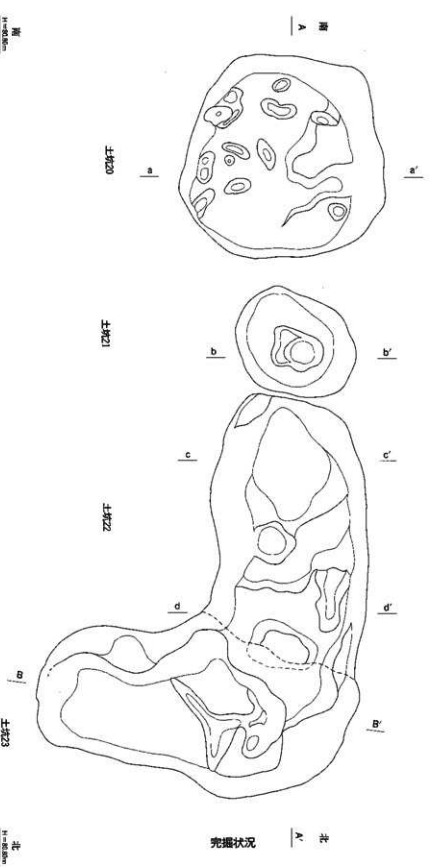
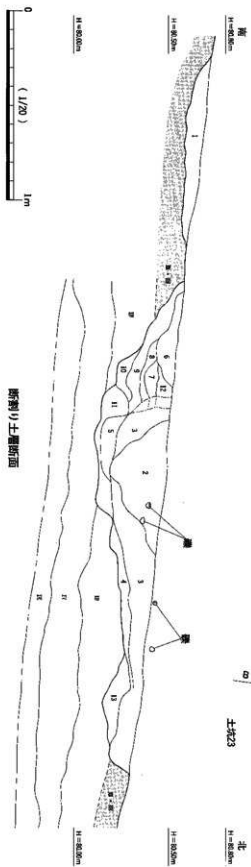




第98図 下堀遺跡 XII層上面 土坑18 (2)



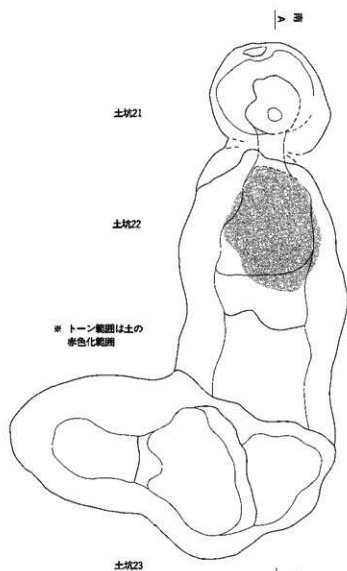
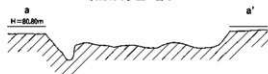
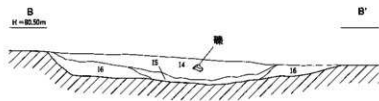
第99図 下堀遺跡 XII層上面 土坑19



第100図 下堰遺跡 XII層上面 土坑20・21・22・23 (1)

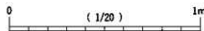
- 1 7.5Y3/2オリーブ黒色土
- 2 N2/0黒色土、非常に多量の1~3mm大の橙色・白色砂粒を含む、1~3mm大の炭化物を含む
- 3 2.5Y3/2黒褐色土、非常に多量の1~3mm大の橙色・白色砂粒を含む、1~3mm大の炭化物を含む
- 4 5Y4/3暗オリーブ色土、3種が混じる
- 5 7.5Y6/3オリーブ黄色土、硬く締まる、極少量の焼土と炭化物が混じる
- 6 5Y2/2オリーブ黒色土、1~3mm大の白色・橙色砂粒を含む
- 7 2.5Y3/1黒褐色土、多量の白色・橙色砂粒を含む
- 8 5Y4/4暗オリーブ色土
- 9 5Y2/1黒色粘質土、少量の2~3mmの橙色砂粒を含む、硬く締まる、また、極少量のサツマ(Ⅲ・Ⅳ)層土ブロックが混じる
- 10 2.5Y5/7暗灰黄色粘質土、やや砂質、硬く締まる
- 11 5YR5/2灰褐色土、やや柔い、極少量の炭化物が混じる
- 12 7.5Y4/2灰オリーブ色土、1~3mm大の白色・橙色砂粒を含む

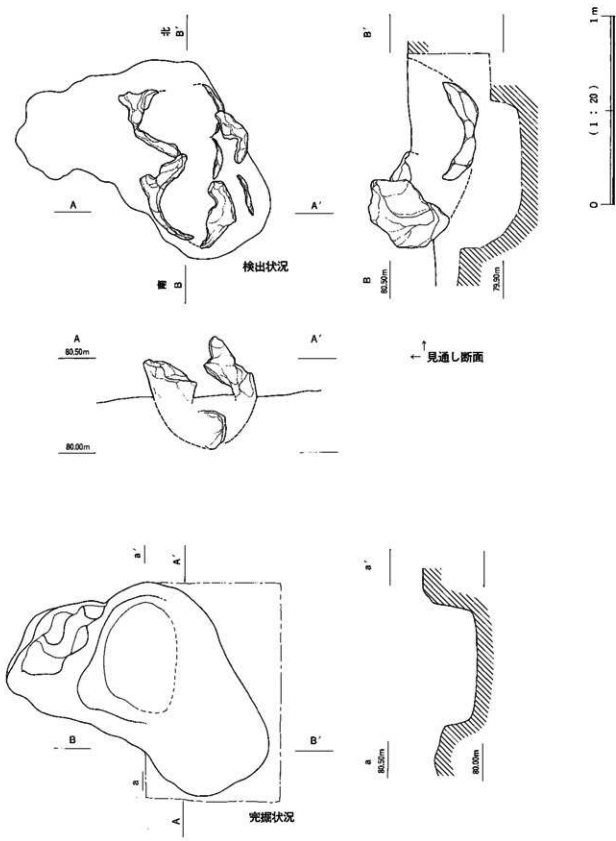
- 13 2.5YR4/3オリーブ褐色土、1mm大の白色砂粒と1~3mm大の橙色砂粒を非常に多量に含む
- 14 10YR2/1黒色土、1mm大の白色砂粒と1~3mm大の橙色砂粒を非常に多量に含む、2~3mm大の炭化物を多量に含む
- 15 2.5YR4/3オリーブ褐色土、1mm大の白色砂粒と1~3mm大の橙色砂粒を非常に多量に含む、2~3mm大の炭化物を多量に含む
- 16 2.5YR4/2暗灰黄色土、1mm大の白色砂粒と1~3mm大の橙色砂粒を非常に多量に含む、2~3mm大の炭化物を多量に含む



最終完燥状況

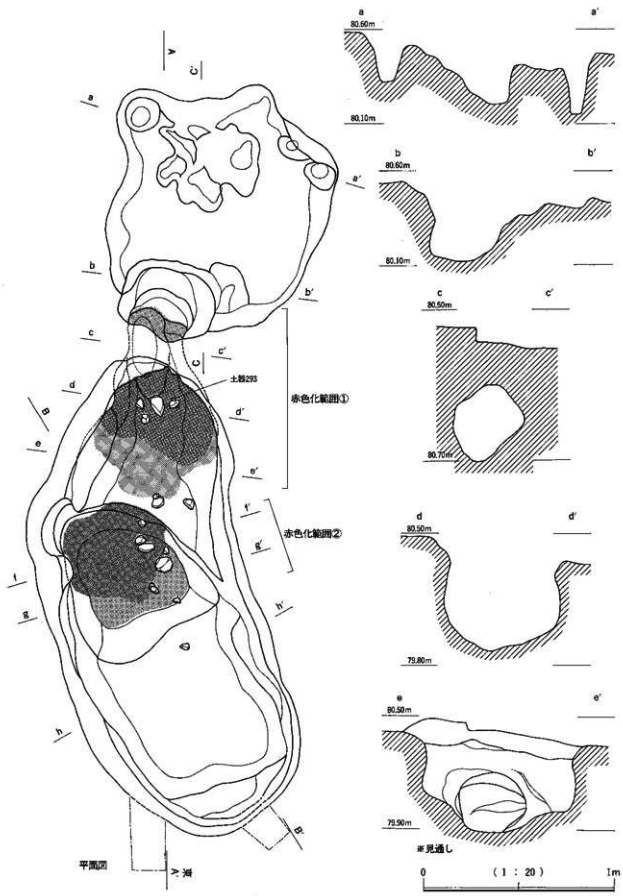
第101図 下掘遺跡 Ⅲ層上面 土坑20・21・22・23 (2)



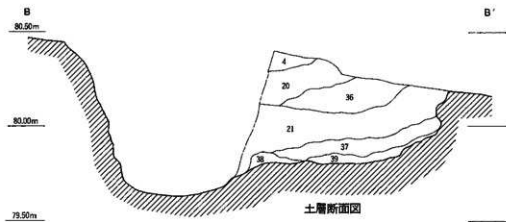


第102図 下堀遺跡 XI層上面 土坑25



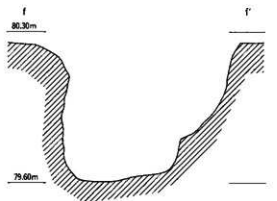


第104図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑26・27 (2)



- 36. 30Y2/1黒色土、2.5Y4/3暗灰褐色土層と、多数の赤褐色粘層を含む
- 37. 5Y2/1黒色土、非常に少量の白色砂層を含む、砂粒は礫粒になてつた層に見られる
- 38. 5Y2/1黒色土、30Y4/6暗褐色粘層を含む
- 39. 5Y2/1黒色土、非常に硬く締まる

土層断面図



を呈しており、斜面下方側の平面形が幅広い円形で、斜面上方側には幅が狭くて細長くなる。覆土には全体的に微量の炭化物が含まれる。底面は2面あり、構築当初とそれ以降の使用面と考えられる。最終底面には赤色化範囲が見られる。

#### 土坑19

今回、検出された土坑の中では珍しく斜面下方が一段低い底面をもっている。覆土に炭化物などは見られず、詳細は不明である。

#### 土坑20・21・22・23

土坑が同軸上に並んで検出されており、一連のものであると考えられる。とくに土坑21・22は「連穴土坑」と考えられる。また、土坑20は「煙穴」に対する作業場の空間である可能性が考えられる。なお、土坑22と土坑23は切りあい関係が不明瞭である。

土坑20は底面に多数の小さな凹凸の見られる円形の浅い土坑である。断面形は深さの浅いレンズ状で、底面は全体的には平坦である。

土坑21・22は地下で連結しており、土坑21には、二つの底面が存在している。構築当初とそれ以降の使用面と考えられる。底面の赤色化範囲は不明瞭である。

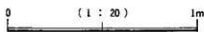
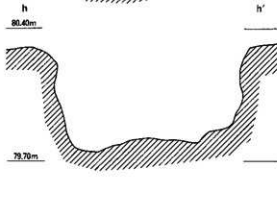
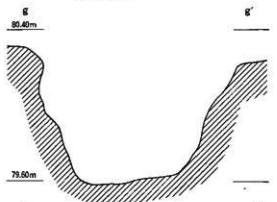
土坑23は他の土坑に対して、90度直角に軸を変える。切り合い関係にあるのか、拡張にあたるのかは把握できなかった。覆土には炭化物が見られる。

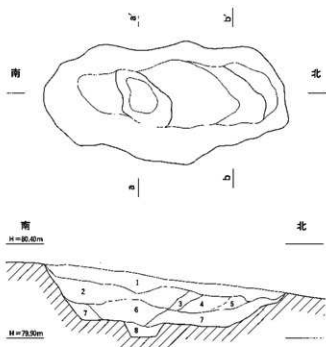
また、断ち割り調査を行なったが「シミ状痕跡」はいずれも検出されなかった。

#### 土坑25

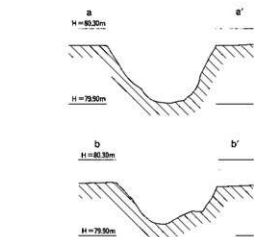
10YR4/1褐灰色粘質土の覆土に、硬質化した7.5

第105図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑26・27 (3) YR3/1黒褐色～7.5YR4/3褐色の赤い変色が見られ、

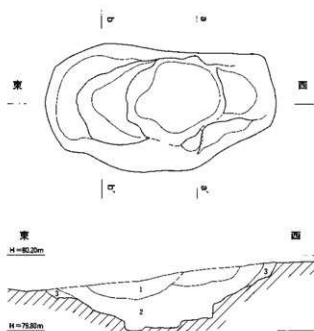




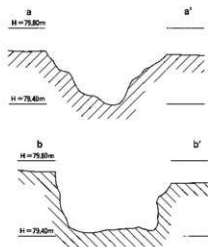
土坑28



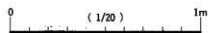
- 1 10YR2/1黒色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 2 2.5Y4/3オリーブ褐色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 3 10YR6/6明黄褐色砂質土、非常に多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む
- 4 N2/0黒色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 5 10Y2/1黒色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 6 2.5Y4/6オリーブ褐色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 7 5Y4/3暗オリーブ色土



土坑31

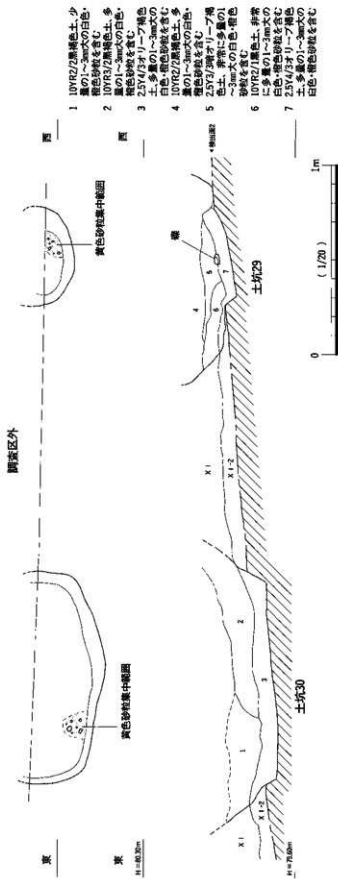


- 1 10YR1.7/1黒色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 2 10YR2/2黒褐色土、多量の1~3mm大の白色・褐色砂粒を含み、炭化物も多量を含む
- 3 2.5Y3/3暗オリーブ褐色土



第106図 下堀遺跡 II層上面 土坑28・31





第107図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑29・30

土器を思わせる形状を呈する。内部には10YR2/1黒色土が堆積するが、土器片・礫などは含まれない。この変色部は土坑周辺などにおいても碎片状で見られ、袋状を呈していたと考えられる。

形態は平面形が不定形、断面の一段目が皿状、二段目は逆台形を呈する。ただし、変色部は掘り込み底面の直下に存在する。

バインダーで固定処理を施して土ごと取り上げて洗浄したが、土器ではなく、鉄・マンガンなどが袋状に巡って凝結したものと考えられる。繊維状の袋が埋納された痕跡とも思われるが、詳細は不明である。なお、類似のものが集石10付近でも検出されている。

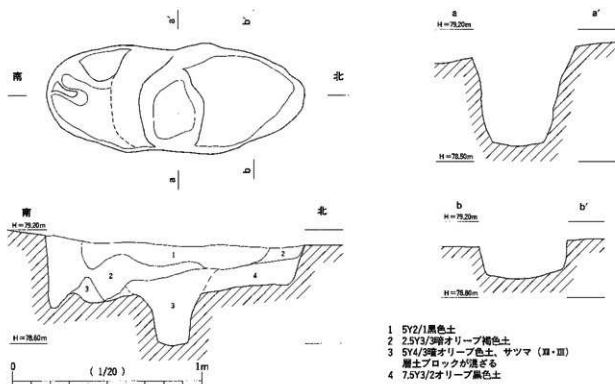
#### 土坑26・27

遺存状態の良い「連穴土坑」であり、「ブリッジ部」が見られる。土坑内には複数の柱穴・土坑が見られ、「連穴土坑」に伴う施設の可能性が考えられる。また、土坑27にはブリッジ部崩落後の再構築のあとが見られ、底面の低い土坑27-1と高い土坑27-2に分かれる。

全体的には土坑配置が弓状に並んでいるが、土坑27に二つの軸が見られ、土坑27-1の長軸方向と土坑27-2・土坑26の長軸方向に分けられる。いずれも斜面に対してはほぼ直行している。

土坑26は2つに分けることができ、土坑27と地下で連結する土坑26-2とそれ以外の土坑26-1に分けられる。後者の底面には土坑26-3が掘り込まれる。土坑26-3はPit1・2と合わせて、何らかの施設になる可能性が考えられる。また、土坑27-1の底面には掘り具痕と思われる痕跡が多数見られる。

土坑27は、二つの軸をもっており、底面にはいずれも赤色化範囲が見られる。土坑27-1の底面は一段高くなる。覆土には礫・炭化物が含まれており、土器293も出土



第108図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑32

している。土層の堆積状況からは、土坑27-1使用時には土坑27-2が埋没していたと考えられる。また、出土した礫のほとんどが、土坑27-1の埋没過程に落ち込んだものと考えられる。

前述のとおり、形態などから、土坑27-2(古段階)から土坑27-1(新段階)への変遷が考えられる。土坑26は土坑27-1に伴うものと考えられる。

断ち割り調査を行なったところ、土坑27-1「燃焼部」の下より断面が逆台形の「シミ状痕跡」を検出した。

#### 土坑28

形態は平面形が楕円形、断面形が逆台形を呈する。底面中央部のやや南側が一段低くなっており、斜面下方にあたる北側が緩やかな段をもったスロープ状になっている。覆土には6~8層にかけて多量の橙色砂粒が見られたが、覆土中で橙色砂粒が最も多かったのは3層であった。

#### 土坑29・30

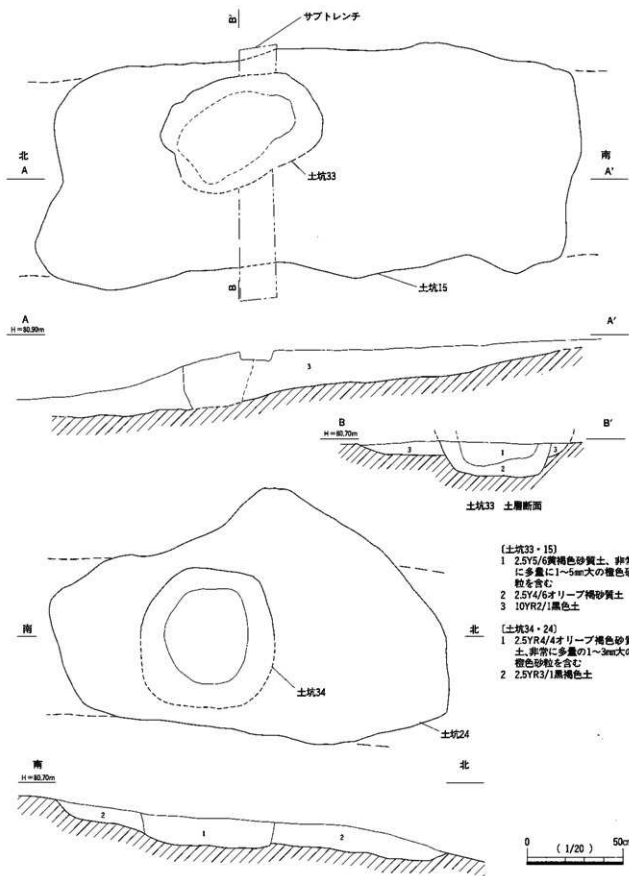
掘り方が不明瞭であるが、黄橙色砂粒が周囲に比べてやや集中しており、覆土には集中する範囲が見られる。自然地形の落ち込みの可能性が考えられる。

#### 土坑31

形態は、平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部のやや西側が一段低くなっており、斜面下方の東側が緩やかな段をもったスロープ状になっている。

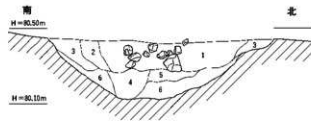
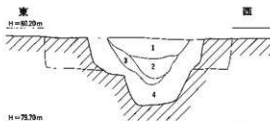
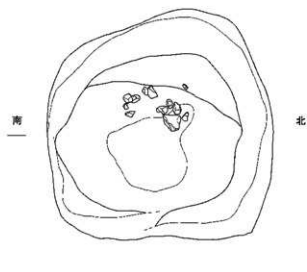
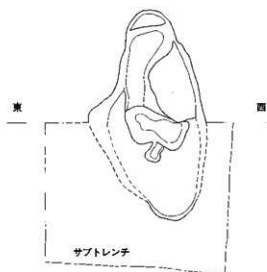
#### 土坑32

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部が一段低くなっており、深さ26cmと深い、斜面下方の北側がややスロープ状になっている。



- [土坑33・15]
- 1 2.5Y5/6黄褐色砂質土、非常に多量に1~5mm大の褐色砂粒を含む
  - 2 2.5Y4/6オリーブ褐砂質土
  - 3 10YR2/1黒色土
- [土坑34・24]
- 1 2.5YR4/4オリーブ褐色砂質土、非常に多量の1~3mm大の褐色砂粒を含む
  - 2 2.5YR3/1黒褐色土

第109図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑33 (15)・34 (24)

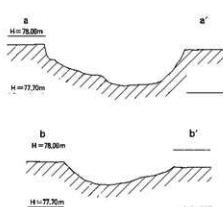
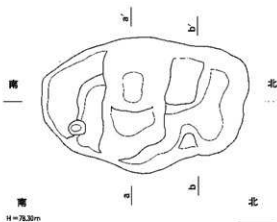


土坑35

土坑38

- 1 7.5YR2/1黒色土、硬く締まる
- 2 2.5Y3/1黒褐色粘質土、硬く締まる
- 3 10YR4/1褐色灰色粘質土、硬く締まる
- 4 2.5Y4/1黄灰色粘質土、硬く締まる

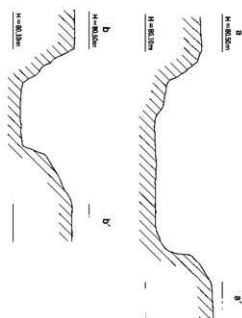
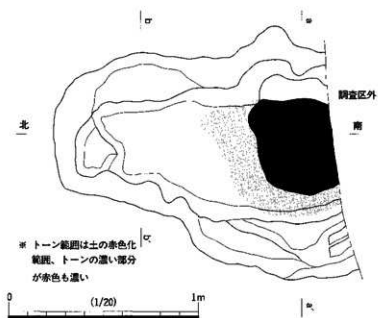
- 1 N2/0黒色粘質土
- 2 2.5Y3/1黄灰色粘質土
- 3 2.5Y6/2灰黄色粘質土
- 4 2.5Y5/2暗灰黄色粘質土
- 5 10YR3/1黒褐色粘質土
- 6 2.5Y6/2灰黄色粘質土



- 1 2.5Y2/1黒色土、多量の1~3mmの白色・褐色砂粒を含む
- 2 5Y3/2オリーブ黒色土、サツマ? (Ⅱ) 層土ブロックを含む
- 3 5Y3/1オリーブ黒色土、1~3mm次の白色・褐色砂粒を含む
- 4 5Y4/3暗オリーブ色粘質土、サツマ? (Ⅱ) 層土ブロックを含む

土坑36

第110図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑35・36・38



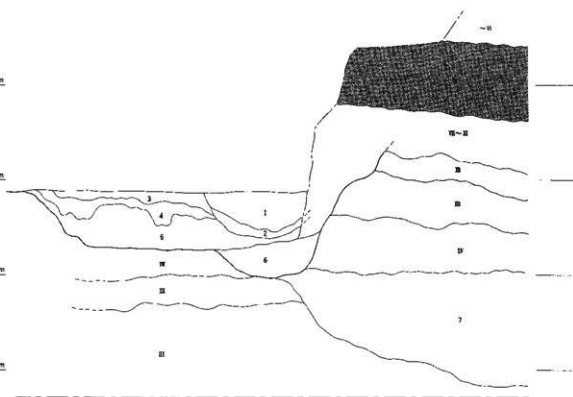
H = 81.50m

H = 81.50m

H = 80.50m

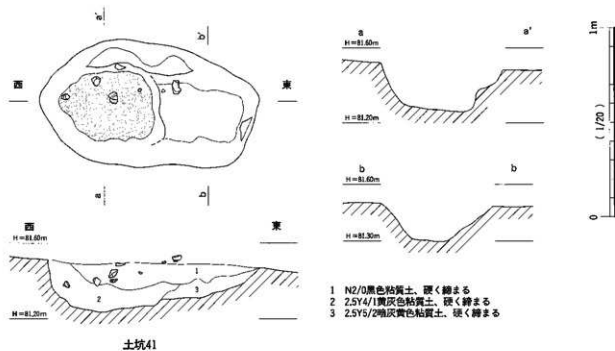
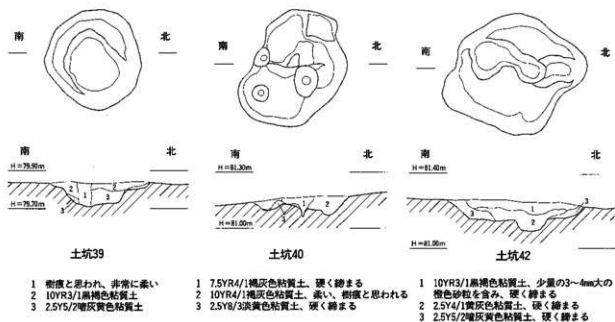
H = 80.50m

H = 79.50m



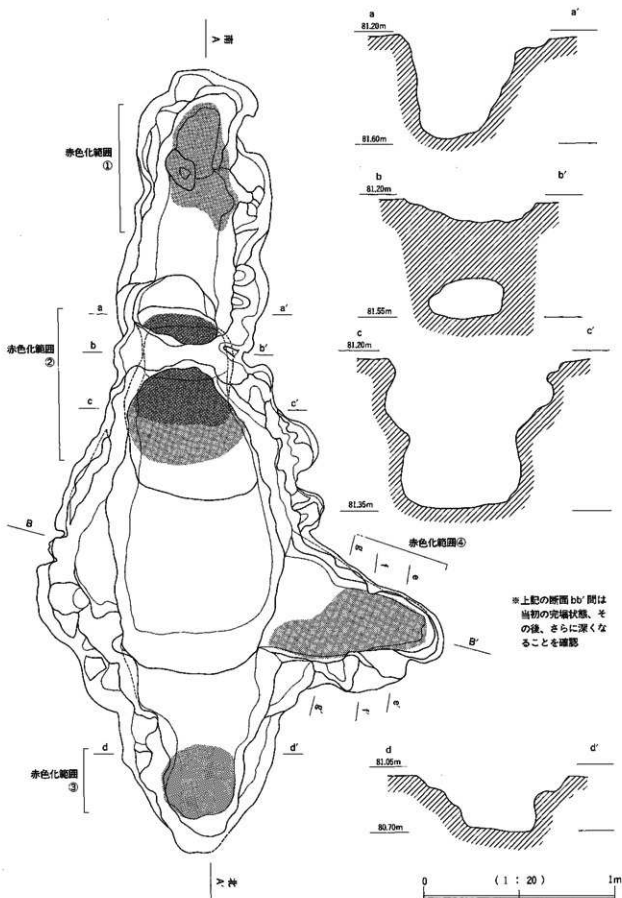
- 1 N2/0黒色粘質土、3~5cm次の角礫を多量に含み、硬く締まる
- 2 N3/0暗灰色粘質土、硬く締まる
- 3 N5/0灰色粘質土、硬く締まる
- 4 2.5Y6/2灰黄色粘質土、硬く締まる
- 5 2.5Y7/3淡黄色粘質土、地山と上の4層土が混ざった土、硬く締まる
- 6 5YR4/3いぶい赤褐色土、粘性を帯びる
- 7 5Y6/6オリーブ色砂質土

第111図 下堀遺跡 II層上面 土坑37



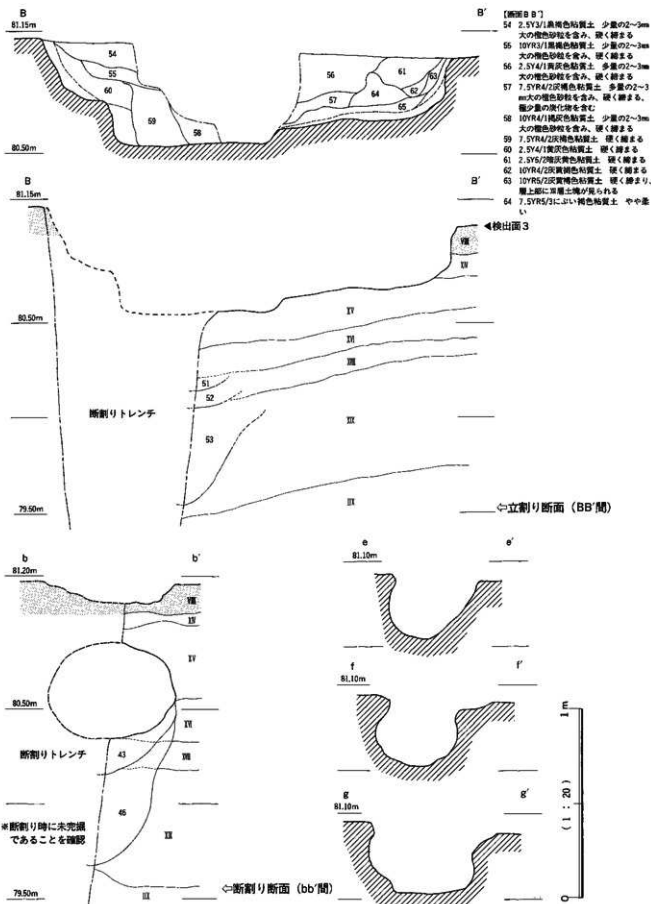
第112図 下堀遺跡 II層上面 土坑39・40・41・42



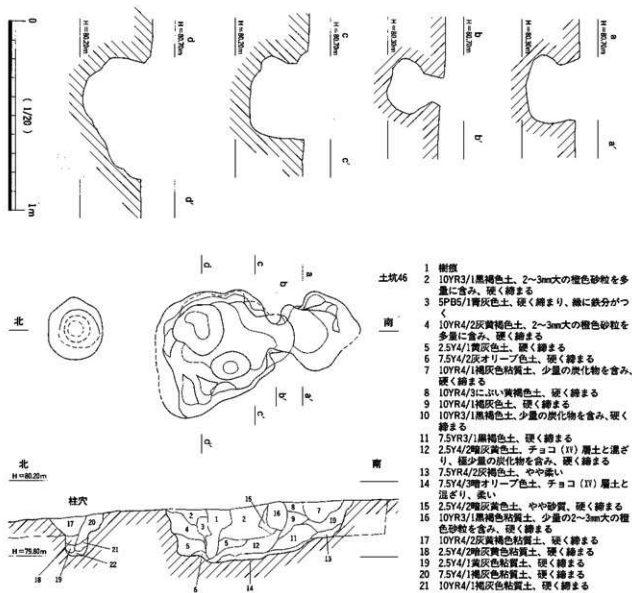


第114図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑43・44・45 (2)





第115図 下堀遺跡 II層上面 土坑43・44・45 (3)



第116図 下堀遺跡 III層上面 土坑46

土坑33 (15)・土坑34 (24)

土坑15・24は、土坑14と同様に道跡の痕跡と考えられ、溝1の中に見られた。その中でも黒色の強い範囲を土坑と誤認して調査したものである。

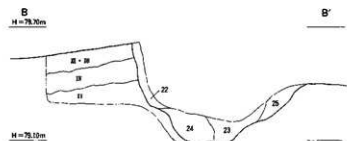
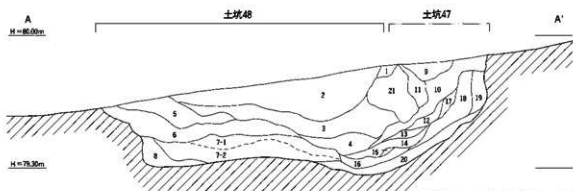
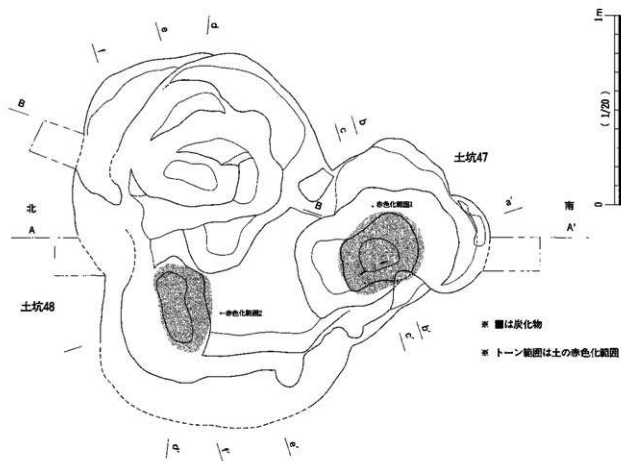
土坑33・34は、道跡と考えられる範囲内で検出した。非常に多量の黄橙色砂粒を含んだ覆土をもっているが、詳細は不明である。

土坑35

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面中央部が一段低くなっており、斜面下方の北側がややスロープ状になっている。

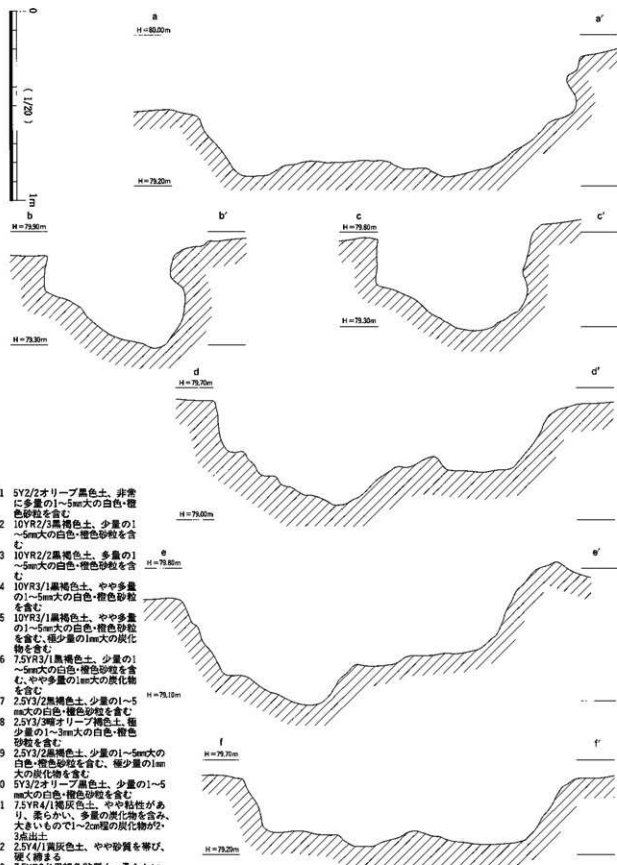
土坑36

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面には複数の浅い凹みが見られて、底面中央部が一段低くなる。斜面下方の北側の底面から壁面がややスロープ状になっている。

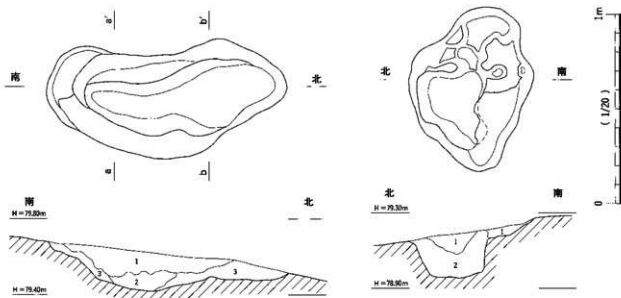


- 1 2.5Y3/1黒褐色土、やや粘性を帯び、1m以下の白色・橙色砂粒を含む
- 2 2.5Y2/1黒色土、多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 3 2.5Y2/1黒色土、非常に多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 4 2.5Y2/1黒色土、やや多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 5 2.5Y3/1黒褐色土、多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 6 5Y3/1オリーブ褐色土、やや多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 7-1 5Y3/2オリーブ褐色土、やや多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 7-2 5Y3/2オリーブ褐色土、やや多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む、2.5Y4/4オリーブ褐色粘質土ブロックを含む
- 8 2.5Y3/2黒褐色土、ブロック状に見える
- 9 5Y2/1黒色土、多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む
- 10 5Y3/1オリーブ黒色土、多量の1~5mm次の白色・橙色砂粒を含む

第117図 下堀遺跡 VII層上面 土坑47・48 (1)

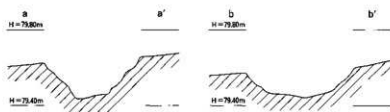


第118図 下堰遺跡 Ⅱ層上面 土坑47・48 (2)



土坑49

土坑50

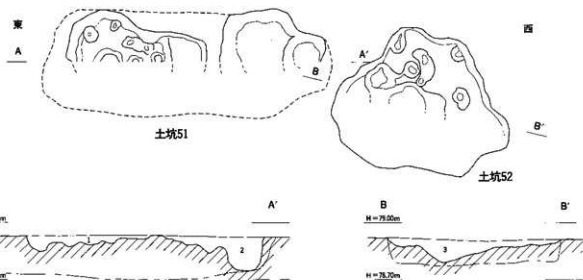


〔土坑49〕

- 1 2.5Y2/1黒色土、粘性を帯び、多量の1~5mm大の白色・褐色砂粒を含む
- 2 10YR4/4褐色土
- 3 10YR3/2黒褐色土、少量の1~2mm大の白色・褐色砂粒を含む

〔土坑50〕

- 1 2.5Y2/1黒色粘質土、多量の白色・褐色砂粒を含む
- 2 2.5Y3/2黒褐色粘質土、多量のサツマ(■)層土ブロックを含む



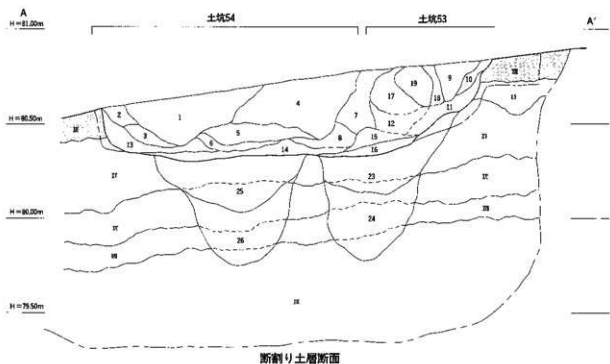
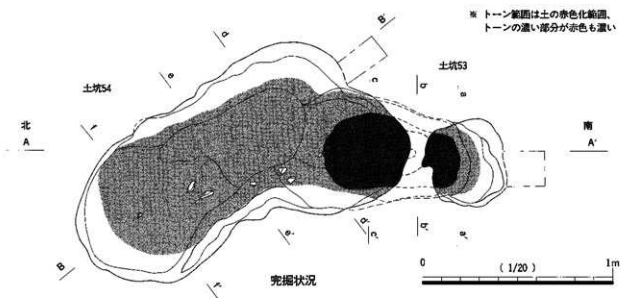
土坑51

土坑52

- 1 10YR4/1褐灰色砂質土
- 2 10YR3/1黒褐色砂質土、サツマ(■)層土ブロックを含む

- 3 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土

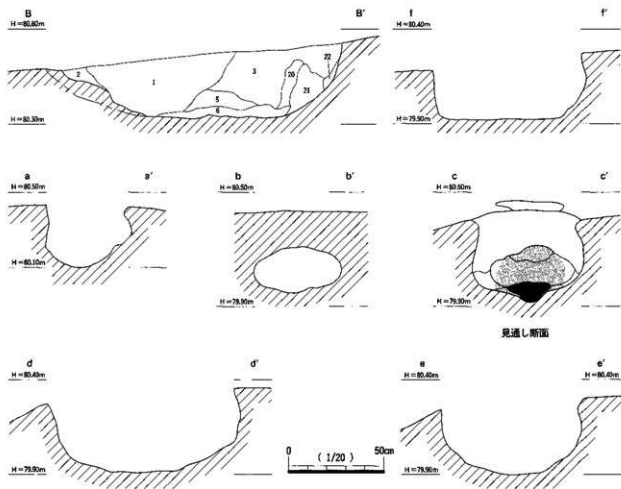
第119図 下堀遺跡 XII層上面 土坑49・50・51・52



【土坑53・54】

- |  |                                       |
|--|---------------------------------------|
| 1 10YR3/1黒褐色粘質土、多量に3~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる  | 14 7.5YR5/2灰褐色粘質土、やや赤い                |
| 2 10YR3/2黒褐色粘質土、硬く締まる                    | 15 5YR4/1褐灰色粘質土、赤い、少量の炭化物を含み、わずかに赤化する |
| 3 7.5YR5/2灰褐色粘質土、硬く締まり、少量の炭化物を含む         | 16 2.5YR4/4にぶい赤褐色粘質土、赤い、多量の炭化物を含む、礫土  |
| 4 7.5YR3/1黒褐色粘質土、多量に3~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる | 17 2.5Y3/1黒褐色粘質土、硬く締まり、やや砂質           |
| 5 7.5YR5/2灰褐色粘質土、多量に3~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる | 18 堆山 (Ⅱ・Ⅲ層)、掘りすぎ                     |
| 6 5YR6/4にぶい橙褐色粘質土、赤い                     | 19 堆山 (Ⅱ・Ⅲ層)                          |
| 7 7.5YR3/1黒褐色粘質土、硬く締まる                   | 20 7.5Y4/1灰色粘質土、硬く締まる                 |
| 8 5YR4/2灰褐色粘質土、赤い、少量の炭化物を含み、わずかに赤化する     | 21 10YR5/2灰褐色粘質土、硬く締まる                |
| 9 7.5Y4/1灰色粘質土、硬く締まる                     | 22 7.5Y4/2灰オリブ色粘質土、硬く締まる              |
| 10 10YR3/3暗褐色粘質土、硬く締まり、少量の炭化物を含む         | 23 5Y6/6褐色粘質土                         |
| 11 10YR4/3にぶい黄褐色粘質土、やや赤く、少量の炭化物を含む       | 24 2.5YR6/3にぶい褐色粘質土、粘性を帯びる            |
| 12 10YR4/1褐灰色粘質土、やや赤い                    | 25 5YR5/3にぶい赤褐色粘質土、粘性を帯びる             |
| 13 10YR5/3にぶい黄褐色粘質土、硬く締まる                | 26 7.5YR7/2明赤褐色砂質土、粘性を帯びる             |

第120図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑53・54 (1)



第121図 下堀遺跡 II層上面 土坑53・54 (2)

### 土坑37

形態から「連穴土坑」と考えられる。当初、平坦な底面の南側に赤色化範囲が広がるように見えたが、断ち割り調査を行なったところ赤色化範囲が一段低くなることが分かった。赤色化範囲の埋土は焼土と考えられるが、炭化物は見られない。

断ち割り調査を行なったが「シミ状痕跡」は検出されなかった。

### 土坑38

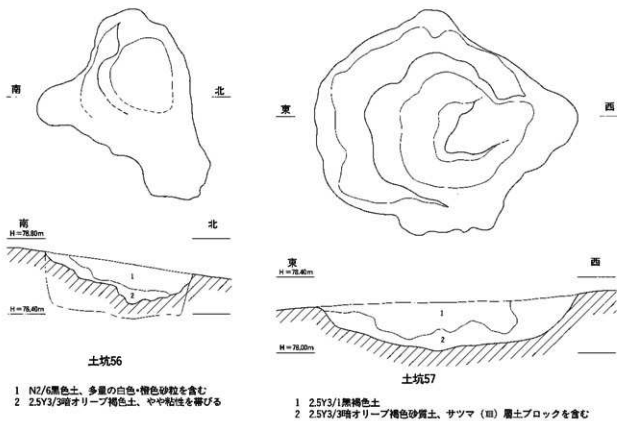
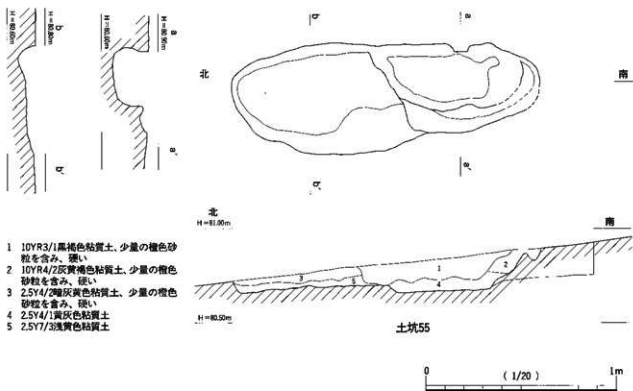
平面形が円形で、断面形が逆三角形を呈しており、他の土坑と形態が異なる。覆土にはやや多くの礫が含まれ、4～6層に橙色砂粒が多く見られる。

### 土坑41

形態から小型の「連穴土坑」の可能性が考えられる。形態は平面形が楕円形で、断面形が逆台形を呈する。底面は斜面上方の西側が一段低くなり、斜面下方の東側がスロープ状になる。覆土1層には礫がやや多く見られた。底面は最も低い底面が赤色化している。

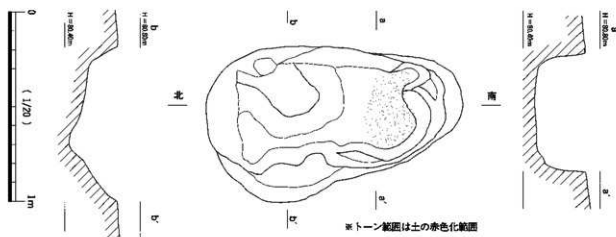
### 土坑43・44・45

「連穴土坑」と考えられ、今回の調査では最も大きな規模である。形態は平面全体では土坑44を中心に南・西・北がそれぞれ張り出しており、拳銃を横にしたような形状に見える。これはブリッジ部崩落後の再構築の結果と考えられる。張り出した範囲はいずれも土坑44の底面より一段高い。また、

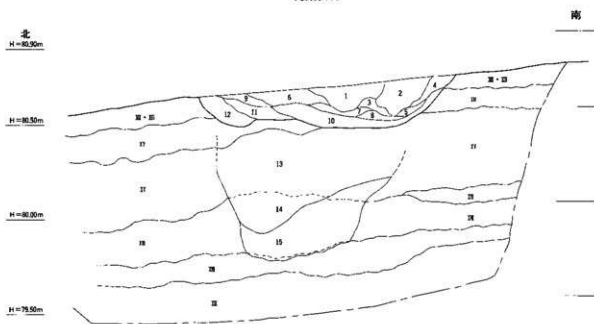


第122図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑55・56・57





完掘状況



断割り土層断面

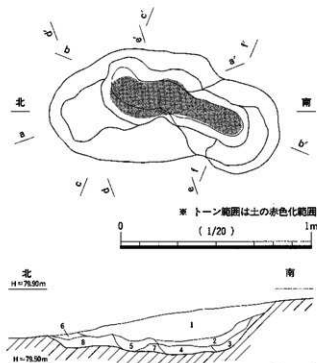
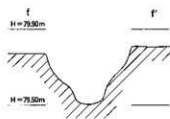
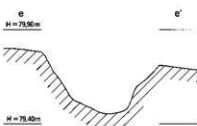
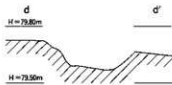
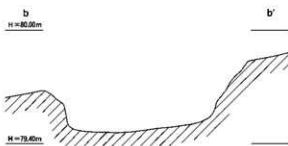
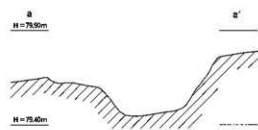
- |  |                          |
|--|--------------------------|
| 1 10YR2/1黒色粘質土、多量の2~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる   | 9 7.5YR4/1褐灰色粘質土、硬く締まる   |
| 2 10YR3/1黒褐色粘質土、多量の2~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる  | 10 7.5YR4/1褐灰色粘質土、やや柔い   |
| 3 10YR4/1褐灰色粘質土、硬く締まる                    | 11 7.5YR5/2灰黄褐色粘質土、硬く締まる |
| 4 10YR3/2黒褐色粘質土、少量の2~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる  | 12 7.5YR5/3にぶい褐色粘質土、やや柔い |
| 5 10YR4/2灰黄褐色粘質土、少量の2~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる | 13 7.5YR5/3にぶい褐色粘質土      |
| 6 7.5YR3/2黒褐色粘質土、硬く締まる                   | 14 7.5YR6/4にぶい褐色粘質土      |
| 7 2.5Y4/1黄灰色粘質土、少量の2~4mm大の橙色砂粒を含み、硬く締まる  | 15 7.5YR7/4にぶい褐色粘質土      |
| 8 7.5YR4/3にぶい黄褐色土、チョコ (IT) 層混じり、やや柔い     |                          |

第123図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑58

底面には四ヶ所の赤色化範囲が見られ、赤色化範囲上の層では炭化物も見られる。なお、土層40・41は底面の赤色化範囲と考えていたが、断ち割り時に焼土層であることが判明した。土坑44にのみ「ブリッジ部」が遺存している。

また、断ち割り調査を行ない土坑43中央部と土坑44「燃焼部」下、土坑44北側の3箇所より、断面が逆台形と逆三角形の「シミ状痕跡」を検出した。

前述のとおり、複数の拡張が考えられる。まず、土坑44底面北側の「シミ状痕跡」上を燃焼部にしたものから、「ブリッジ部」の遺存する土坑44南側に再構築し、その後、西側と北側の張り出し部に再



- 1 7.5YR3/1黒褐色粘質土、多量の3~5mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 2 10YR3/2黒褐色粘質土、少量の3~5mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる
- 3 2.5Y4/1黄灰色粘質土
- 4 2.5Y4/2暗灰色粘質土
- 5 10YR4/1褐灰色粘質土、やや砂質
- 6 10YR5/2灰黄褐色粘質土
- 7 2.5Y5/2暗灰色粘質土
- 8 10YR6/3にぶい黄褐色粘質土、やや砂質

第124図 下堀遺跡 Ⅱ層上面 土坑59

構築する。それらが埋没途中もしくは埋没した段階で土坑43が構築されたと考えられる。

#### 土坑46

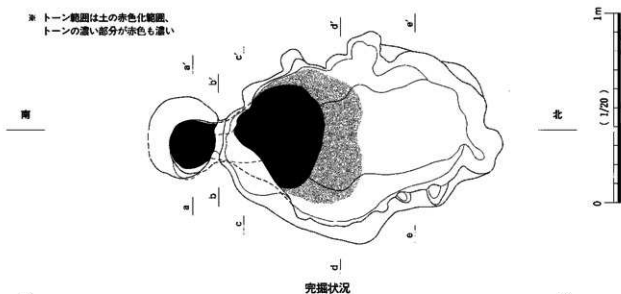
「連穴土坑」と考えられ、今回の調査で最も小さな規模のものである。赤色化範囲は見られないが、明瞭な「ブリッジ部」の痕跡が残っている。底面北側の凹みは浅く、底面は平坦に近い。

断ち割り調査を行なったが「シミ状痕跡」は見られなかった。

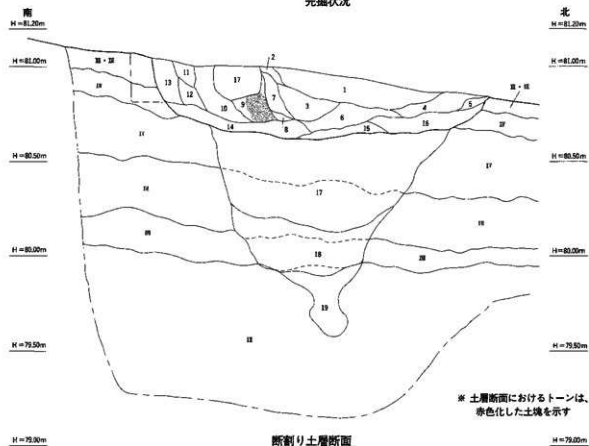
#### 土坑47・48

「連穴土坑」と考えられる。検出時は平面形が瓢箪状であったが、掘り下げたところ土坑47・48-1(断面aa')と土坑48-2(断面BB')の二つの土坑であることが判明した。両者が切りあっていたかは不明であるが、検出写真における検証では土坑48-2が後から掘り込まれたことが確認された。

※ トーン範囲は土の赤色化範囲、  
トーンの濃い部分が赤色も濃い



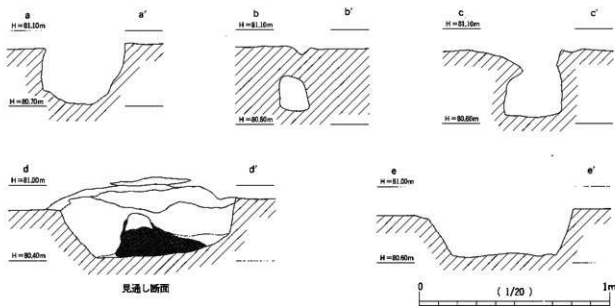
完掘状況



断割り土層断面

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 5Y2/1黒色粘質土。多量に3~6mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる</p> <p>2 5Y5/1灰色粘質土。やや砂質。硬く締まる</p> <p>3 10YR2/1黒色粘質土。少量の2~6mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる</p> <p>4 10YR4/1褐色粘質土。少量の2~6mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる。やや砂質</p> <p>5 2.5Y5/4黄灰色粘質土。硬く締まり。やや砂質</p> <p>6 7.5YR3/1黒褐色粘質土。少量の2~6mm次の褐色砂粒を含み、硬く締まる</p> <p>7 2.5Y5/2黄灰色粘質土。硬く締まり。やや砂質</p> <p>8 7.5Y4/1褐色粘質土。硬く締まる</p> <p>9 2.5Y4/1黄灰色粘質土。トーン範囲は7.5Y6/6褐色焼土塊。これと混じった土</p> <p>10 10YR4/1褐色粘質土。硬く締まる</p> | <p>11 2.5Y5/2黄灰色粘質土。硬く締まる</p> <p>12 2.5Y5/1黄灰色粘質土。硬く締まる</p> <p>13 7.5YR5/1褐色粘質土。硬く締まり。やや砂質</p> <p>14 7.5Y4/2灰褐色粘質土。極少量の炭化物を含み、比較的柔らかい</p> <p>15 5YR4/3にぶい赤褐色粘質土。粘性が強く、堆山のチョコ (IV) 層と上層が混じった土。比較的柔らかい</p> <p>16 10YR5/2灰黄褐色粘質土。やや砂質。硬く締まる。極少量の炭化物を含む</p> <p>17 7.5YR5/3にぶい褐色粘質土</p> <p>18 7.5YR7/3にぶい褐色粘質土。粘性あり</p> <p>19 5YR/2灰白色砂質土。粘性あり</p> |
|---|---|

第125図 下堀遺跡 XII層上面 土坑60(1)



第126図 下堀遺跡 XII層上面 土坑60(2)

土坑47・48-1は、斜面上方の南側にやや多くの炭化物が見られる赤色化範囲1と「ブリッジ部」の痕跡が存在する。「ブリッジ部」の痕跡はわずかに崩落するのみで遺存状態は良好であった。「ブリッジ部」下の土層には土が徐々に流れ込んで埋没した形跡が明瞭に見られた。また、斜面下方の北側にも赤色化範囲2が見られたが不明瞭である。

土坑48-2は、平面形が円形で、断面形が角度の開いた逆三角形を呈する。覆土中には礫・炭化物が見られなかったが、集石9と平面的に重なっており、両者は一つであった可能性も考えられる。

断ち割り調査を行ったが「シミ状痕跡」は見られなかった。

#### 土坑49

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。斜面下方の北側がややスロープ状になっている。

#### 土坑51・52

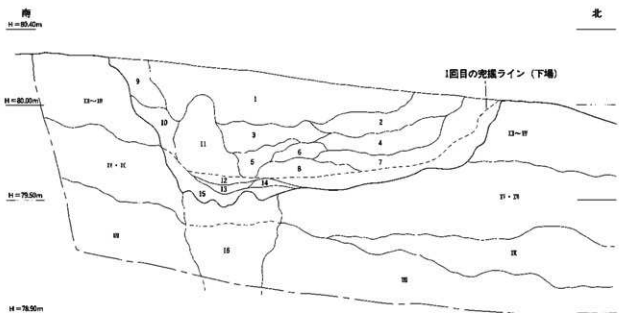
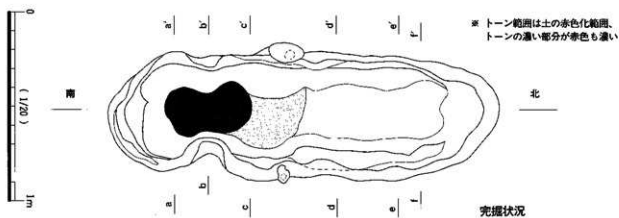
東西方向に並んだ土坑で、ほぼ同一の軸をもっている。いずれも掘り方が浅く、底面には掘り具痕が多く見られる。形態的には「連穴土坑」に近いと思われるが、詳細は不明である。

#### 土坑53・54

「連穴土坑」と考えられる。検出時には楕円形の土坑の一部が張り出して、その先に円形の小土坑(土坑53)が存在する形で確認した。両者の間には遺存状態の良い「ブリッジ部」であり、地下で連結する。赤色化範囲はほぼ底面全体に見られるが、「ブリッジ部」下が最も赤い。この範囲の上の層には炭化物が含まれる。以下、土坑54の張り出し部を土坑54-2と呼称する。

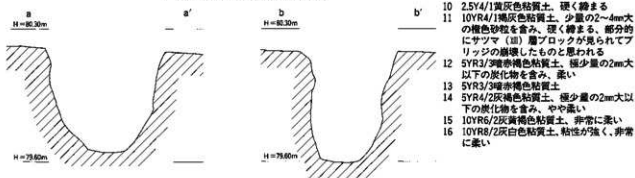
形態と底面の赤色化範囲からブリッジ崩落後の再構築が考えられ、土坑54-1(古段階)から土坑54-2・土坑53(新段階)への変遷が考えられる。

断ち割り調査を行なったところ、土坑54-1と土坑54-2の「燃焼部」下から「シミ状痕跡」を検出した。



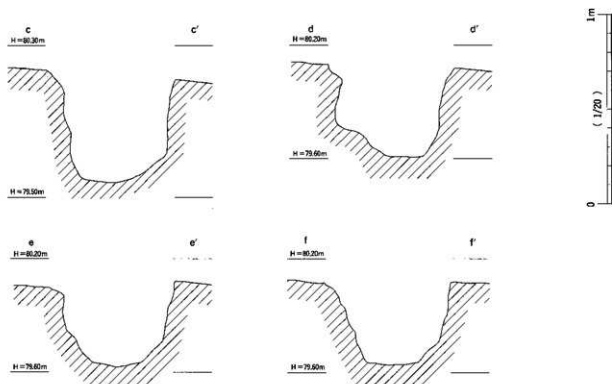
断割り土層断面

- 1 N2/O黒色粘質土、多量の橙色砂粒 (2~4mm、3~5mm程の細かい粒と大きめの粒) を含み、硬く締まる
- 2 10YR2/1黒色粘質土、多量の3~6mm次の橙色砂粒を含み、硬く締まる
- 3 10YR3/2黒褐色粘質土、少量の3~6mm次の橙色砂粒を含み、硬く締まる
- 4 10YR2/1黒色粘質土、少量の3~6mm次の橙色砂粒を含み、硬く締まる
- 5 2.5Y3/1黒褐色粘質土、硬く締まる
- 6 10YR3/2黒褐色粘質土、硬く締まる
- 7 N2/O黒色粘質土、硬く締まる
- 8 7.5YR3/1黒褐色粘質土、硬く締まる
- 9 10YR4/1褐色粘質土、硬く締まる



- 10 2.5Y4/1黄灰色粘質土、硬く締まる
- 11 10YR4/1褐色粘質土、少量の2~4mm次の橙色砂粒を含み、硬く締まる、部分的にサツマ (団) 層ブロックが見られてブリッジの崩壊したものである
- 12 5YR3/3暗赤褐色粘質土、極少量の2mm大以下の炭化物を含み、柔い
- 13 5YR3/3暗赤褐色粘質土
- 14 5YR4/2灰褐色粘質土、極少量の2mm大以下の炭化物を含み、やや柔い
- 15 10YR6/2灰黄褐色粘質土、非常に柔い
- 16 10YR8/2灰白色粘質土、粘性が強く、非常に柔い

第127図 下堀遺跡 XII層上面 土坑(1)



第128図 下堀遺跡 II層上面 土坑61(2)

#### 土坑55

形態から「連穴土坑」の可能性が考えられる。平面形が楕円形、断面形が逆台形を呈する。斜面上方の南側底面が一段低く、反対の北側は浅い掘り込みがスロープ状に延びている。この北側底面には図化してないが、浅く小さな凹凸が多数見られた。

#### 土坑57

平面形が円形で、断面形がU字状を呈する。掘り方は不明瞭で、覆土の土質が地山の砂質土に近いが、土色は地山と異なり黒褐色になる。性格などの詳細は不明である。

#### 土坑58

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。斜面上方の南側底面に赤色化範囲が広がるが、炭化物は見られない。

断ち割り調査を行なったところ、逆台形の「シミ状痕跡」を検出した。

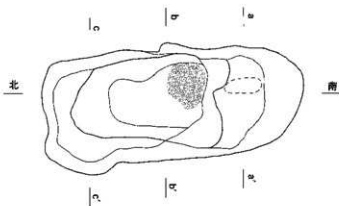
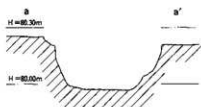
#### 土坑59

形態は平面形が楕円形、断面形が二段掘りの逆台形を呈する。底面には段差が見られ、一段低い底面には炭化物を含んだやや赤色化する範囲が広がる。

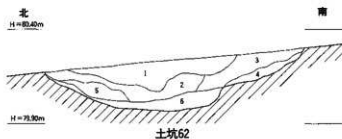
#### 土坑60

「連穴土坑」と考えられる。「ブリッジ部」が良好な状態で遺存しており、「ブリッジ部」下には赤色化範囲が広がって、覆土に炭化物が含まれる。9層には赤色化した土層が見られて非常に硬質化していることから、焼成を受けた「ブリッジ部」や壁面が崩落した痕跡と考えられる。

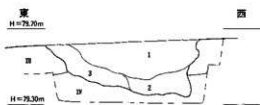
断ち割り調査を行なったところ、逆三角形の「シミ状痕跡」を検出した。



※ トーン範囲は土の赤色化範囲

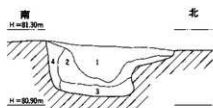
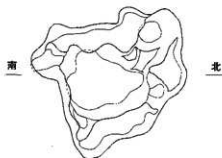


- 1 2.5Y3/1黒褐色粘質土、少量の2~5mm次の橙色砂粒を含み、破砕部には2.5Y5/1黄灰色土ブロックを含み、硬く締まる
- 2 10YR4/2灰黄褐色粘質土、硬く締まる
- 3 2.5Y4/1黄灰色粘質土、硬く締まる
- 4 2.5Y5/2暗灰色粘質土、やや砂質、硬く締まる
- 5 10YR4/3にふい黄褐色粘質土、やや紫い
- 6 10YR5/2灰黄褐色粘質土、やや紫い



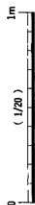
土坑63

- 1 2.5Y3/1黒褐色粘質土、やや砂質、硬く締まる
- 2 10YR3/2黒褐色粘質土、硬く締まる
- 3 10YR3/1黒褐色粘質土、サツマ? (Ⅱ) 層土ブロックに混ざり、硬く締まる

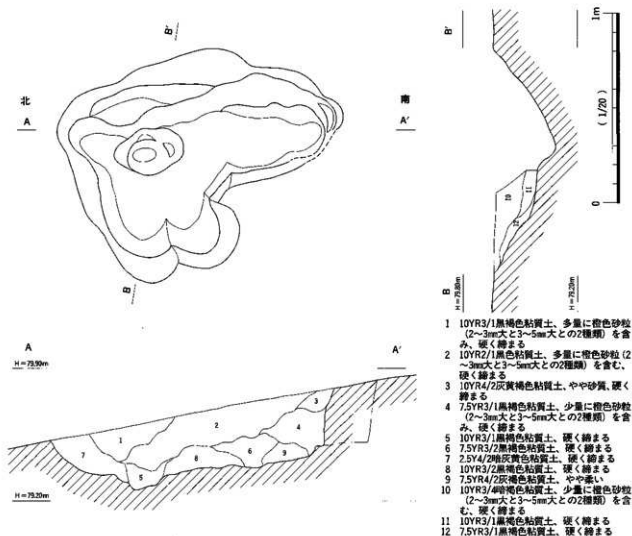


土坑65

- 1 10YR3/1黒褐色粘質土、やや砂質、硬く締まる
- 2 10YR4/1暗灰色粘質土、硬く締まる
- 3 5YR4/1暗灰色粘質土、やや紫い
- 4 2.5Y4/1黄灰色粘質土、硬く締まる



第129図 下堀遺跡 II層上面 土坑62・63・65



第130図 下堀遺跡 III層上面 土坑64

### 土坑61

「連穴土坑」と考えられる。形態は平面形が長い楕円形を呈して、断面形が二段掘りの逆台形である。底面には斜面上方の南側に赤色化範囲が見られる。底面幅は全体的に狭く、北側底面は幅20cmとさらに狭い。壁面と土層には、「ブリッジ部」の痕跡が見られる。「ブリッジ部」痕跡の下の底面には、赤色化範囲が広がっている。

断ち割り調査を行なったところ「燃焼部」下層より「シミ状痕跡」が検出した。

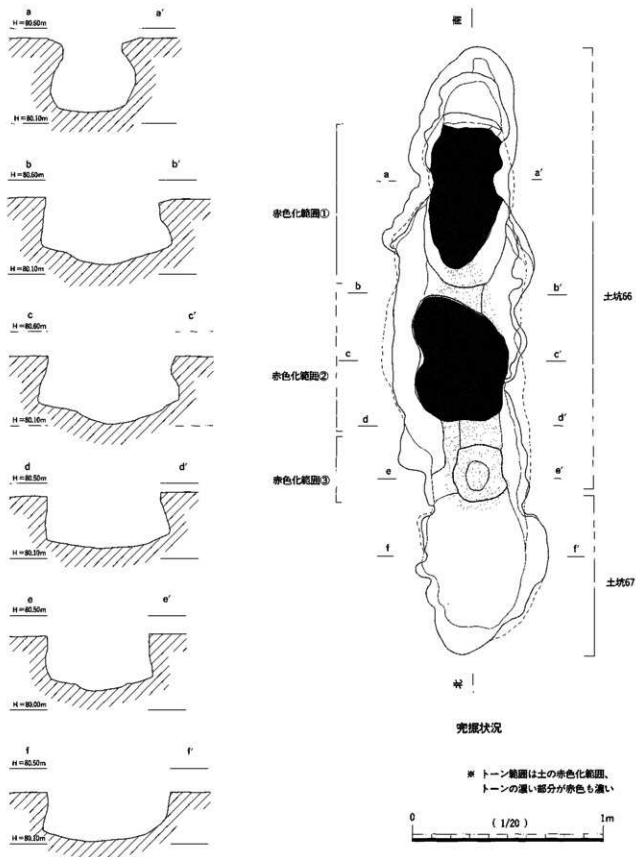
### 土坑62

形態は平面形が楕円形、断面が二段掘りの逆台形を呈する。底面には段差が見られ、斜面上方の南側が一段高くなる。反対の斜面下方の北側はスロープ状となっている。底面にはやや不明瞭な赤色化範囲と、一段高い底面に炭化物が広がる範囲(図中に破線で表現)が見られる。

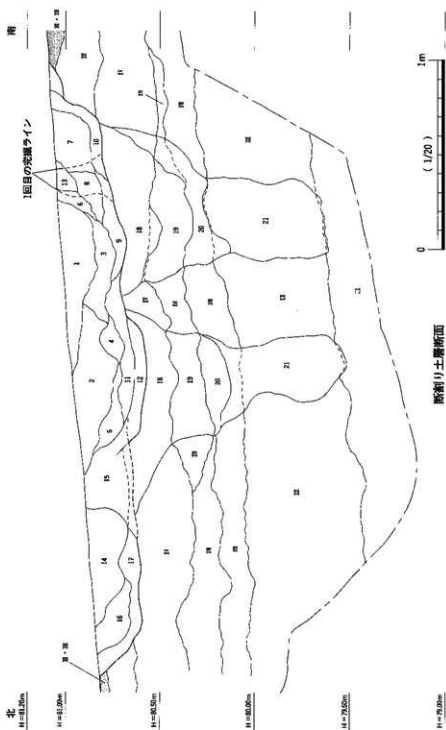
### 土坑64

形態は不定形で、断面もAA'間が逆台形、BB'間が逆三角形と形態が定まらない。底面は中央北よりに一段深くなる。赤色化範囲は見られない。





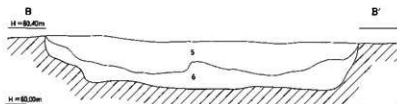
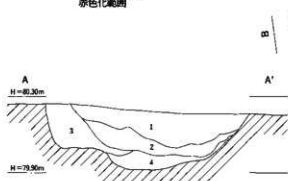
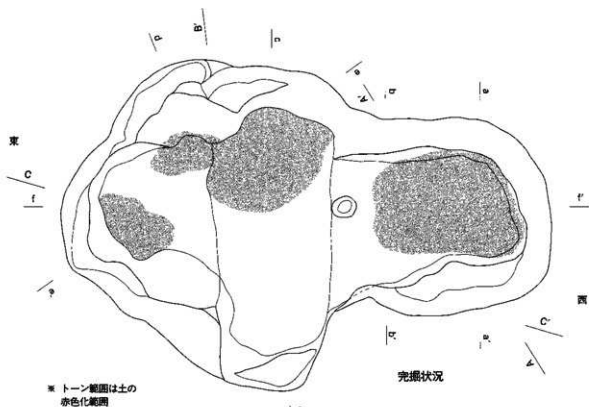
第131図 下堀遺跡 XII層上面 土坑66・67(1)



- 11 75FR5/2区褐色粘質土、やや硬い  
 12 75FR3/4区褐色粘質土、少量の6mm次の炭化物を含む  
 13 10FR4/1区灰色粘質土、少量のツツア(X山)層土ブロックが入り、硬く締まる  
 14 10FR4/2区灰色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 15 10FR4/3区灰色粘質土、硬く締まる  
 16 10FR5/1区褐色粘質土、硬く締まる  
 17 25FR/2区灰色粘質土、硬く締まる  
 18 75FR4/1区褐色粘質土、硬く締まる  
 19 75FR5/3区に多い褐色粘質土、粘性を帯びる  
 20 10FR7/4区に多い黄褐色砂質土、粘性を帯びる  
 21 25FR/1区白色粘質土、粘性を帯びる

- 1 10FR3/1区褐色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 2 25FR3/1区褐色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 3 10FR4/2区灰色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 4 10FR4/3区灰色粘質土、硬く締まる  
 5 10FR3/2区褐色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 6 10FR3/3区褐色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 7 10FR3/4区褐色粘質土、少量に3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 8 10FR3/1区褐色粘質土、少量の3~6mm次の褐色砂粒を含む、硬く締まる  
 9 75FR4/1区灰色粘質土、少量の炭化物が混ざり、硬く締まる  
 10 10FR5/2区褐色粘質土、硬く締まる

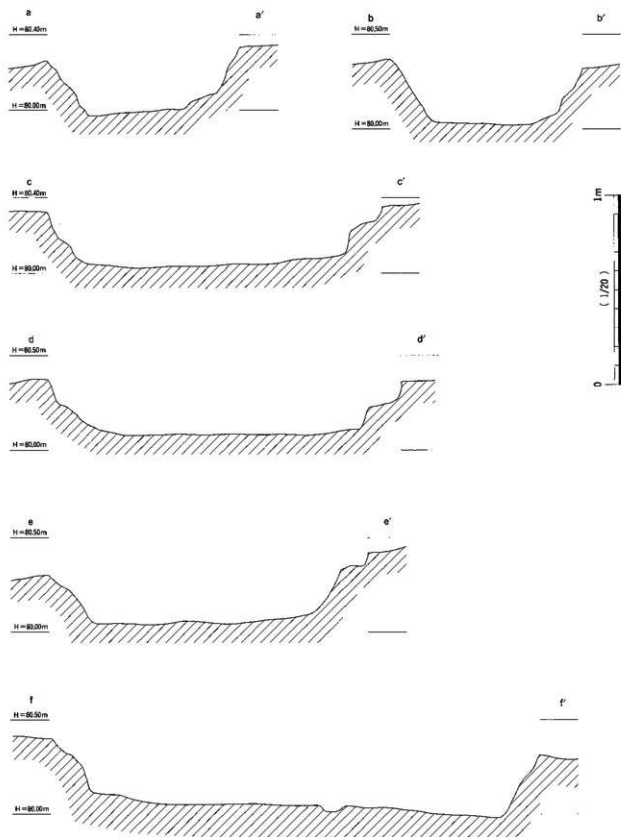
第132図 下堀遺跡 II層上面 土坑66・67(2)



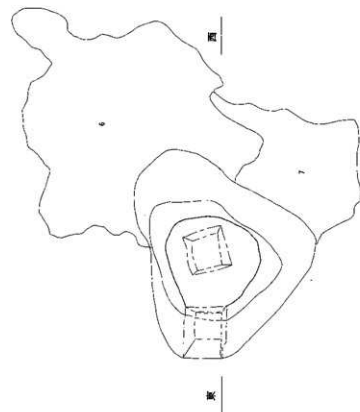
- 1 N2/6黒色粘質土、硬く締まる
- 2 2.5Y5/1黄灰色粘質土、硬く締まり、やや多量の7.5YR7/6橙色砂粒を含む
- 3 10YR6/2灰黄褐色粘質土、硬く締まり、多量の4~6mm大の5YR6/6オリーブ色火山灰土ブロックを含む
- 4 5YR5/2灰褐色粘質土、硬く締まる
- 5 10YR3/1黒褐色粘質土、多量に2~4mm大の橙色砂粒を含む、硬く締まる
- 6 2.5Y4/1黄灰色粘質土、多量に2~4mm大の橙色砂粒を含む、硬く締まる
- 7 10YR2/1黒色粘質土、多量に2~4mm大の橙色砂粒を含む、硬く締まる
- 8 2.5Y4/1黄灰色粘質土、多量に2~4mm大の橙色砂粒を含む、硬く締まる



第133図 下堀遺跡 II層上面 土坑68・69・70 (1)



第134図 下堀遺跡 XII層上面 土坑68・69・70 (2)



検出状況

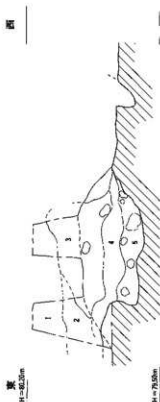
東  
0m  
10m



発掘状況

- 1 N2/0黒色土、1~3m次の白色・褐色砂粒を含む。(X層土)
- 2 5Y2/1黒色土、1~3m次の白色・褐色砂粒を含む。(X層土?)
- 3 5Y4/2黄オリーブ色砂質土、50cm次の5Y5/4オリーブ色砂質土ブロックを含む。
- 4 2.5Y3/1黒褐色土、1~3m次の白色・褐色砂粒を含む。
- 5 2.5Y2/1黒色土、5~10m次の5Y5/4オリーブ色砂質土 (X層土) ブロックを含む。
- 6 2.5Y4/1黄灰色土、多量の10cm以下の5Y5/4オリーブ色砂質土 (X層土) ブロックを含む。
- 7 2.5Y2/1黒色土、少量の10cm以下の5Y5/4オリーブ色砂質土 (X層土) ブロックを含む。

0  
1m  
(1/20)



土層断面

東  
0m  
10m

第135図 下堀遺跡 X層上面 土坑71

#### 土坑66・67

「連穴土坑」と考えられる。形態は平面形が細長い楕円形を呈して、断面形が二段掘りのフラスコ状である。底面には赤色化範囲が広く見られて、赤色の濃淡の異なる範囲が3ヶ所存在している。この3ヶ所の範囲はいずれも底面より一段低くなる。赤色化範囲とその上の層には炭化物が含まれ、壁面と土層には「ブリッジ部」の痕跡が見られる。

断ち割り調査を行なったところ、赤色化範囲①・②の下より「シミ状痕跡」を検出した。

以上のことから、同軸方向に少なくとも3回のブリッジ部崩落後の再構築が考えられる。赤色化範囲③が古段階の「燃焼部」、赤色化範囲②が中段階の「燃焼部」、赤色化範囲①が新段階の「燃焼部」と想定され、古段階から新段階への変遷が考えられる。

#### 土坑68・69・70

平面形が不定形の土坑に、少なくとも三つの土坑の重複が考えられた。底面には3ヶ所の赤色化範囲が見られる。調査者<sup>9)</sup>は土坑の主軸をAA'間(土坑68)、BB'間(土坑69)、CC'間(土坑70)と想定した。しかし、その他にもee'間・dd'間・ff'間西側などが土坑主軸となる可能性も考えられる。

断ち割り調査を行なったが、「シミ状痕跡」は検出されなかった。

#### 土坑71

掘り下げ時にサツマ(Ⅻ・Ⅲ)層土ブロックの集中する範囲が見られ、その範囲を残して掘り下げたところ盛土状に検出できた。土層を調査すると、この範囲が浅い土坑であることが判明した。土坑の底面には、掘具痕が無数に見られて凹凸が激しい。

#### d. 柱穴(1~1130)

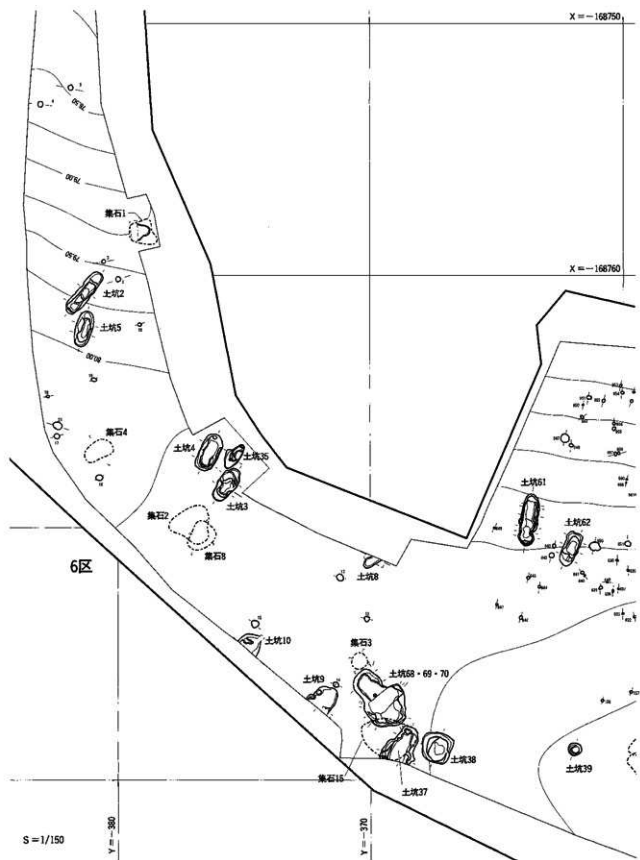
当初、Ⅻ層上面において遺構の精査を行っていたところ、柱穴が散在するのを確認した。土坑の規模・数量に対して検出される柱穴が少ないことから、見落としを考慮して再度掘り下げを行なった。結果、Ⅻ層上面において、径の小さな柱穴を多数検出することができた。

調査は平面検出後に半分に断ち割り、遺構であるかどうかを判断した上で、遺構と考えられるものについてのみ記録を行なった。報告書作成に際しては、十分な検討が行なえないまま、刊行に至っており、7-2区付近には、疑問を感じる柱穴も存在する。なお、6区については、調査期間の都合上<sup>9)</sup>、Ⅲ層上面で検出を行っていない。また、3区は土層の記録を怠っている<sup>9)</sup>。

柱穴のほとんどは径が小さく、掘り込みをもたないことから、杭状に地面に突き刺したものと考えられる。しかし、中には掘り方を持ち、深さが50cmを超えるものもある。

これらの柱穴は、何らかの施設を構成していたものと考えられるが、詳細は不明である。しかし、調査に際しては、不明確ながら柱穴が集まる範囲や並ぶ範囲が見られた。これらの範囲は、柱穴の規模や柱間は一定していないのが特長である。並ぶ範囲については図中に破線で表現しており、確認順に柱列番号を付けている。柱列はほとんどの平面形が円形に巡っており、規模は約2.5~3mを測る。掘り込みは検出面及び包含層中でも確認されなかった。

柱穴の詳細については一覧表に述べている。



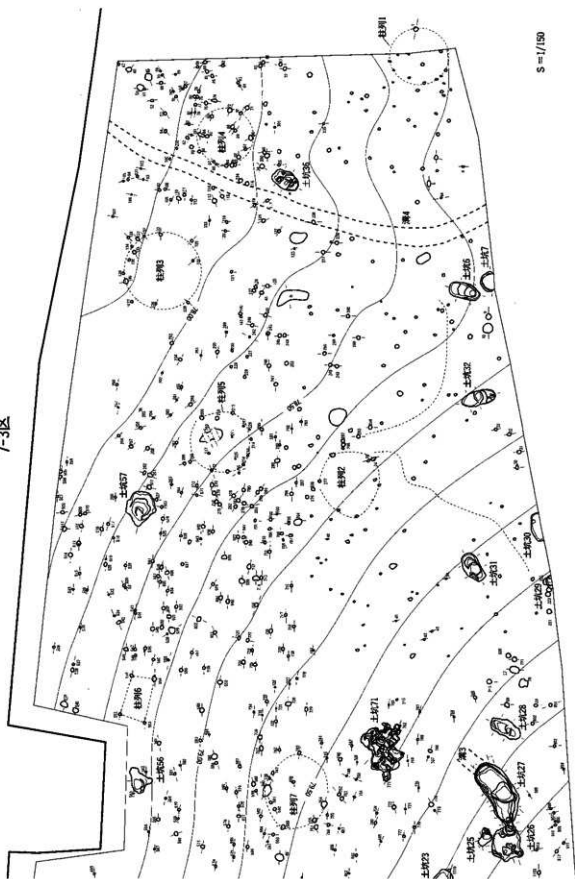
第136图 下掘遺跡 XII・XIII層上面 柱穴配置(1)



第137图 下壇遺跡Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴位置(2)

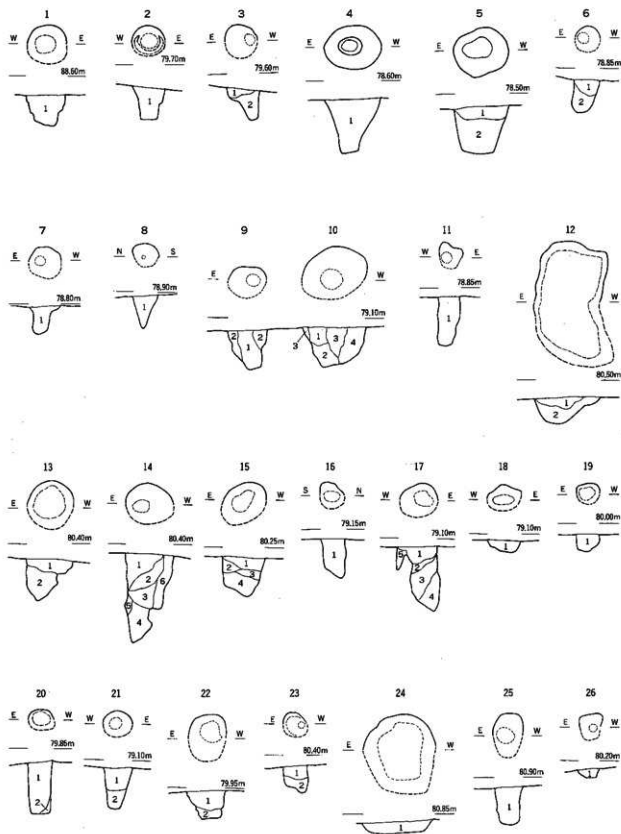


7-3区

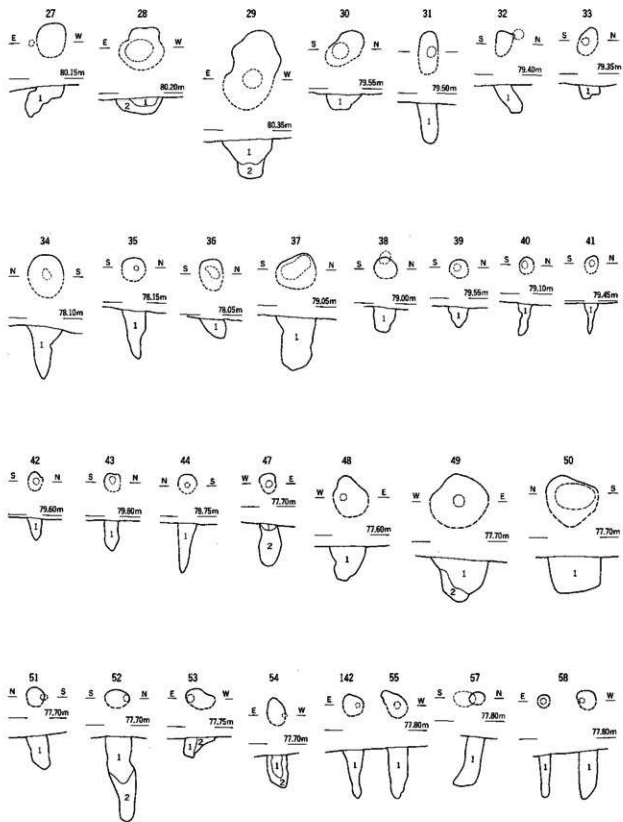


1:100

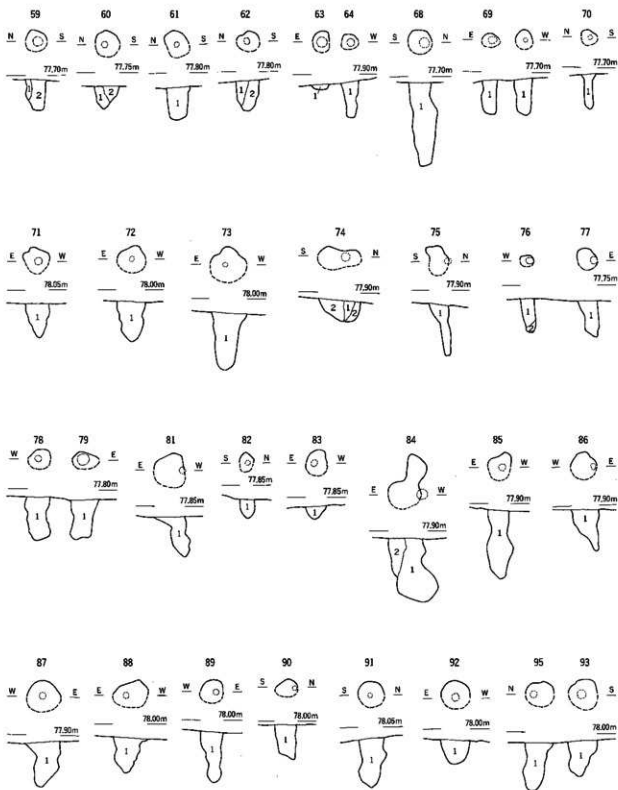
第138图 下塘遺跡Ⅱ·Ⅲ層上面 柱穴位置(3)



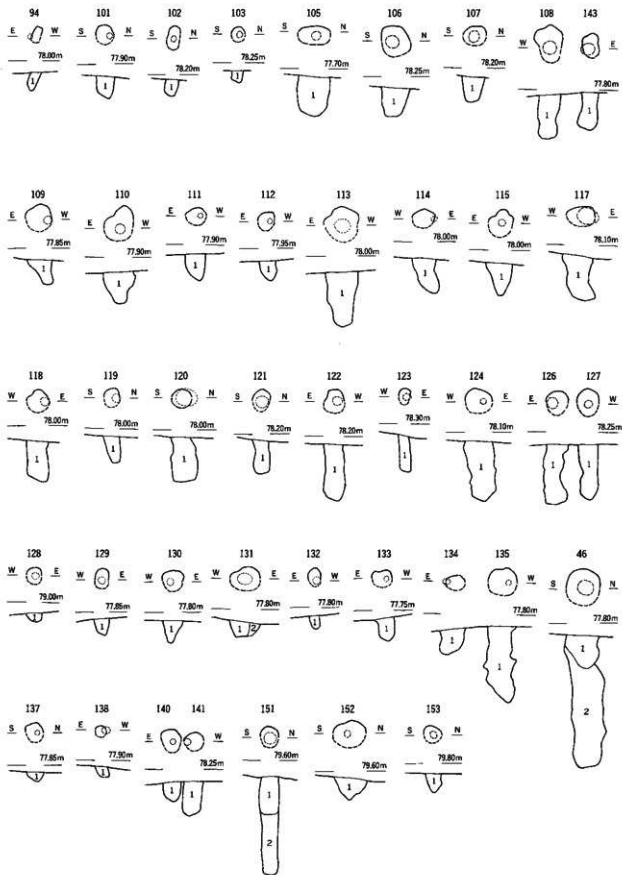
第139図 下層遺跡 II層・III層上面 柱穴1~26



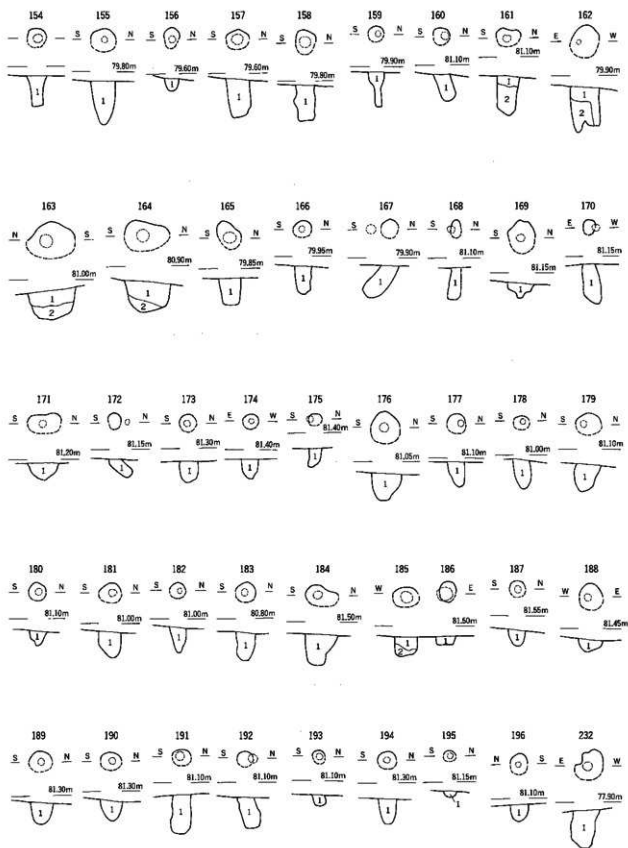
第140図 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴27~58



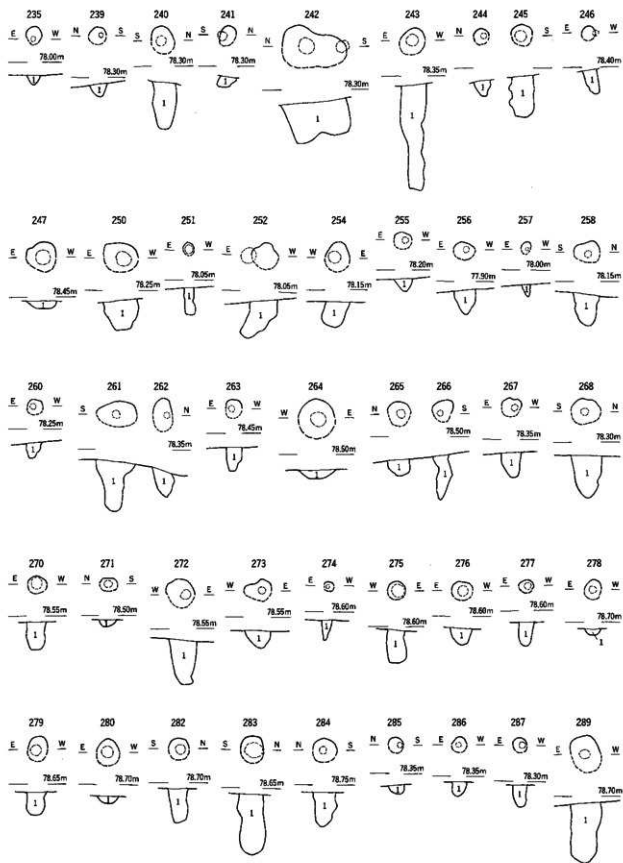
第141图 下堰遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴59~95



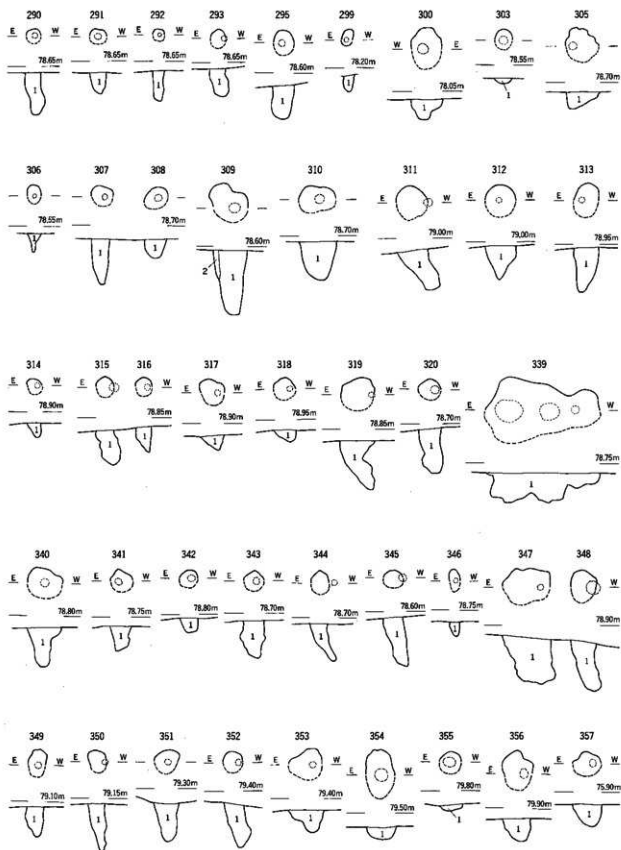
第142圖 下堀遺跡 XI層・XIII層上面 柱穴94~153



第143圖 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴154~232

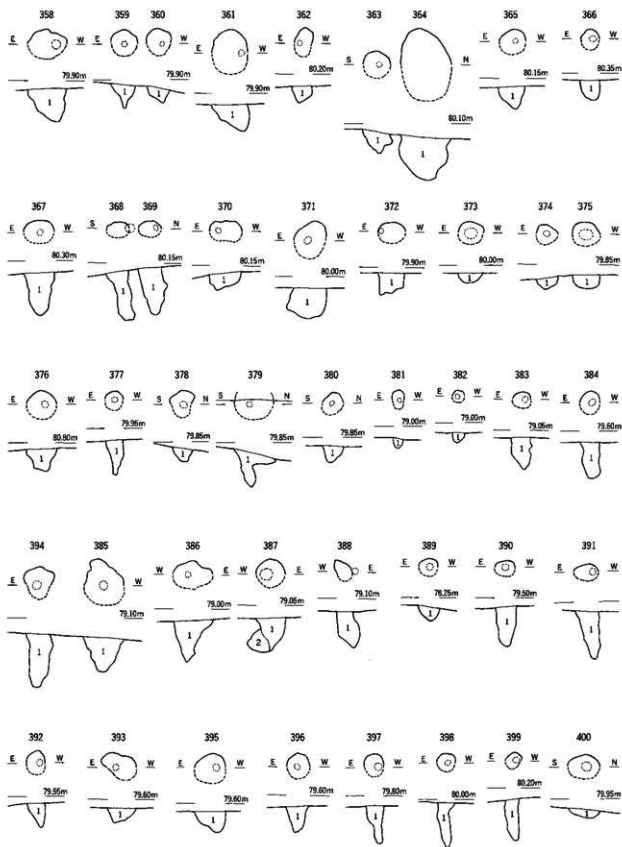


第144图 下堰遺跡 II層・III層上面 柱穴235~289

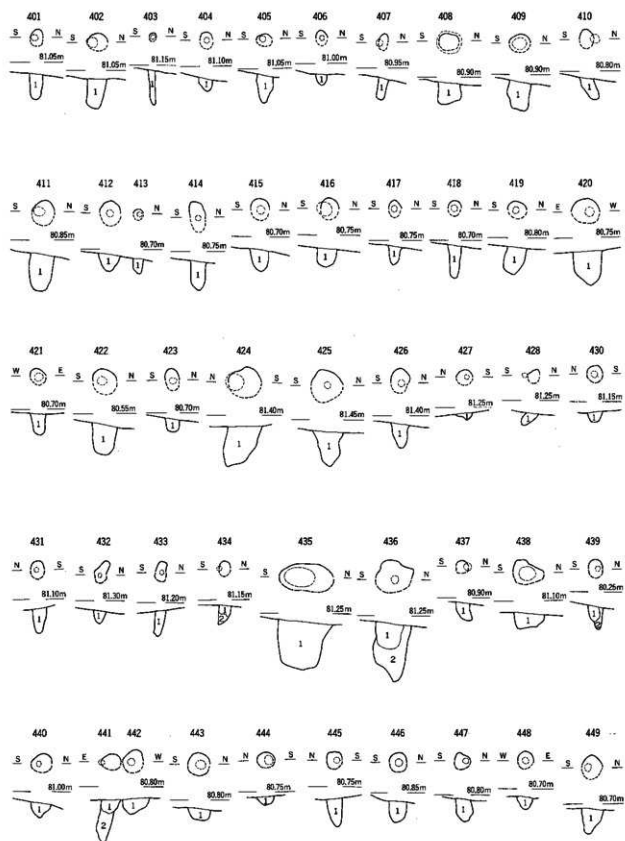


第145圖 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴290~357

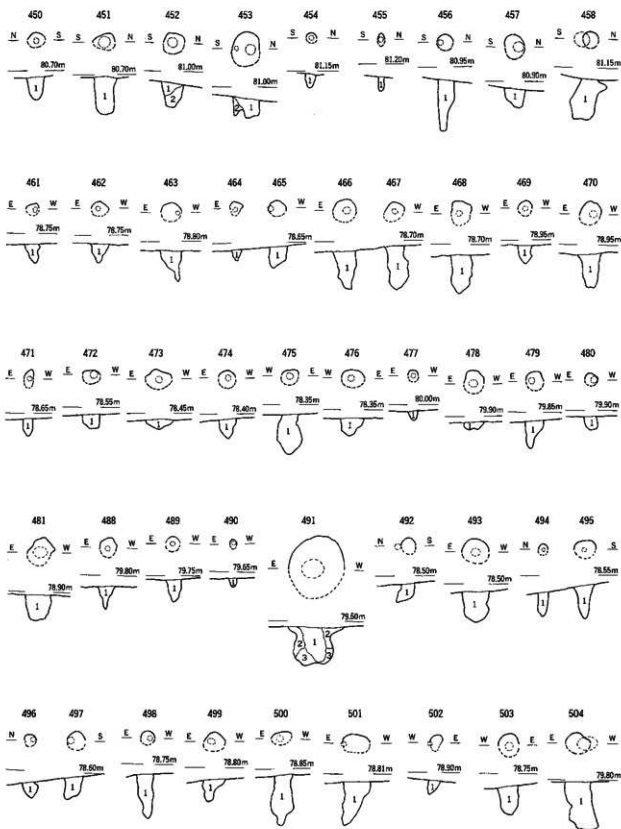




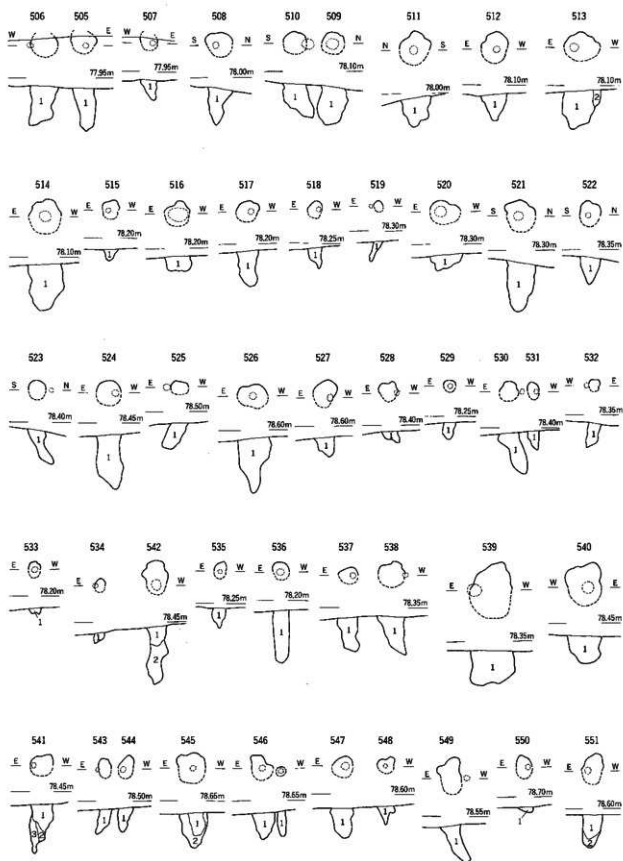
第146图 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴358~400



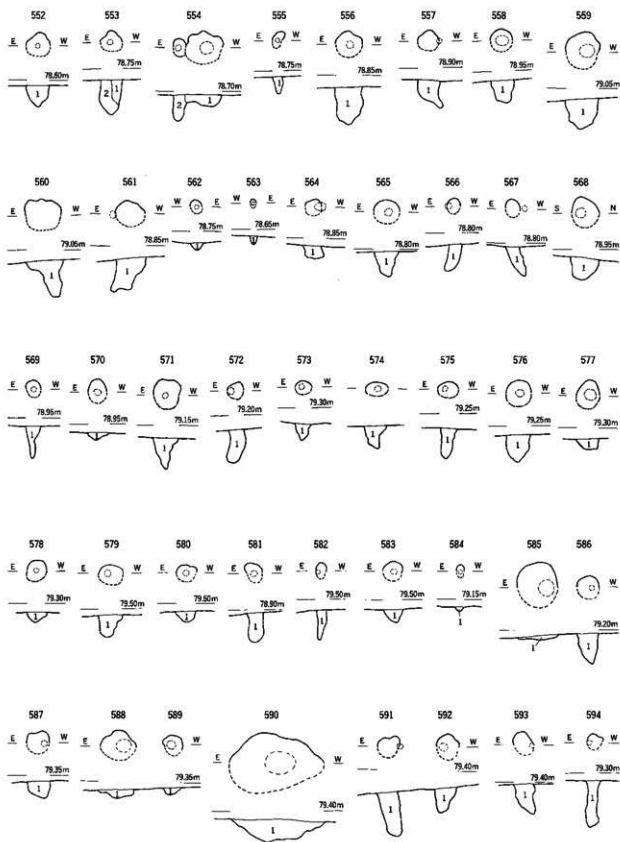
第147图 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴401~449



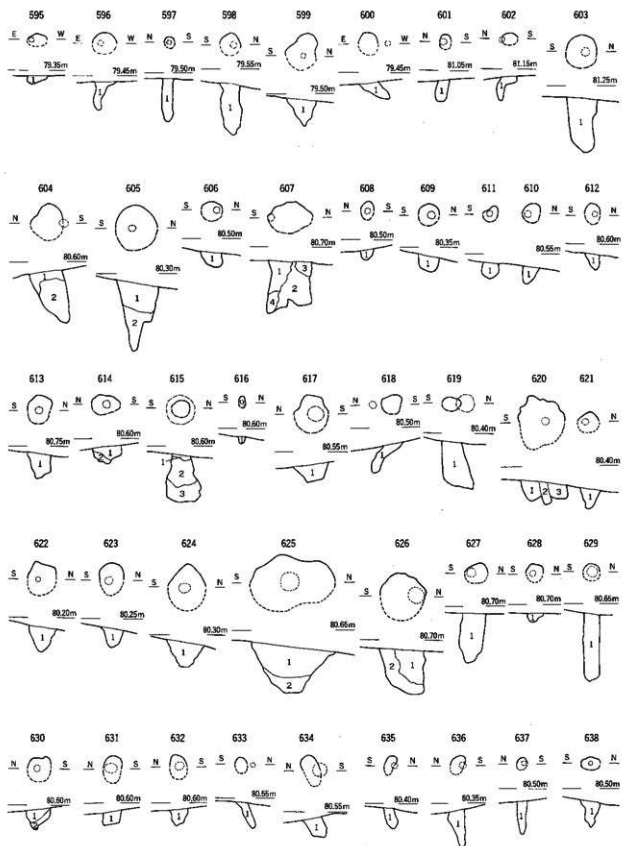
第148图 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴450~504



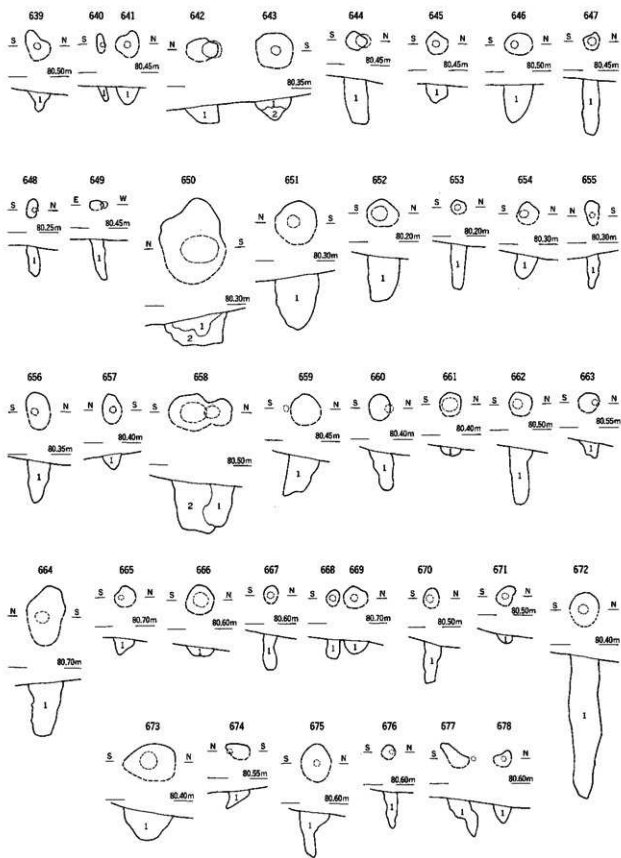
第149圖 下堰遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴505~551



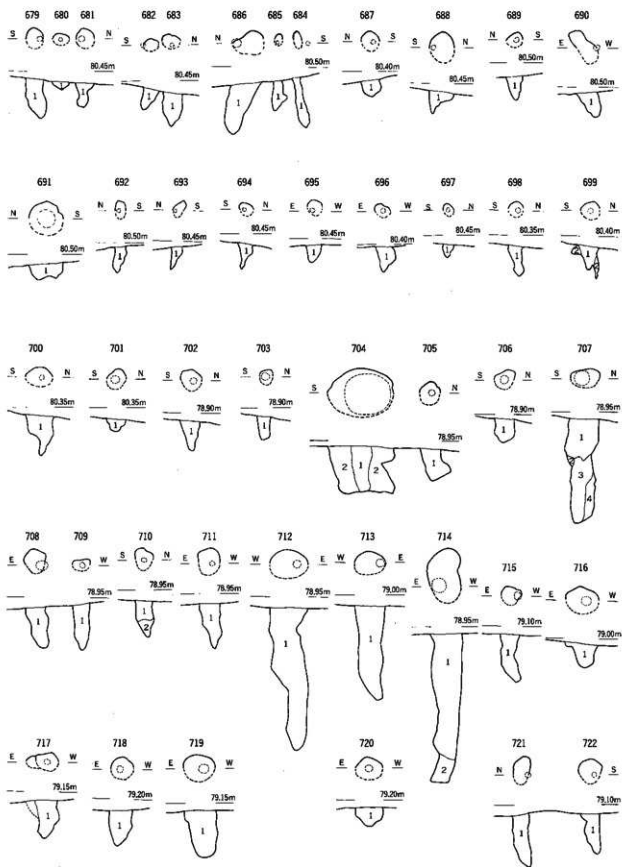
第150図 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴552~594



第151圖 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴595~638

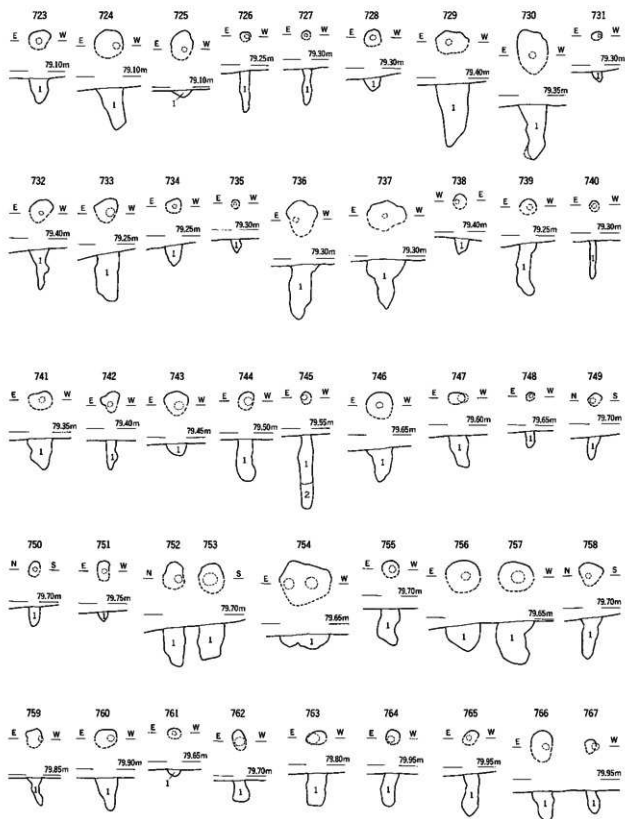


第152図 下堀遺跡 XII層・III層上面 柱穴639~678

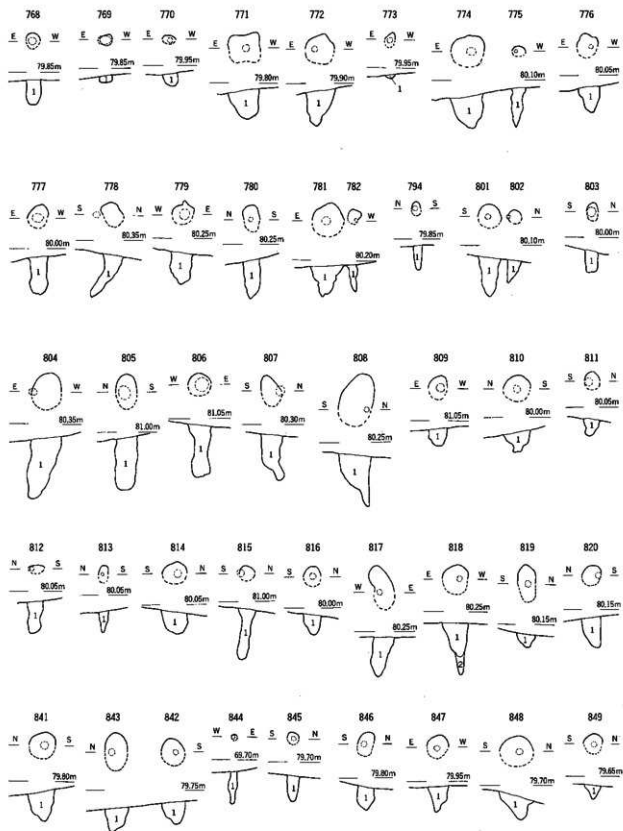


第153圖 下掘遺跡 XII層・III層上面 柱穴679~722

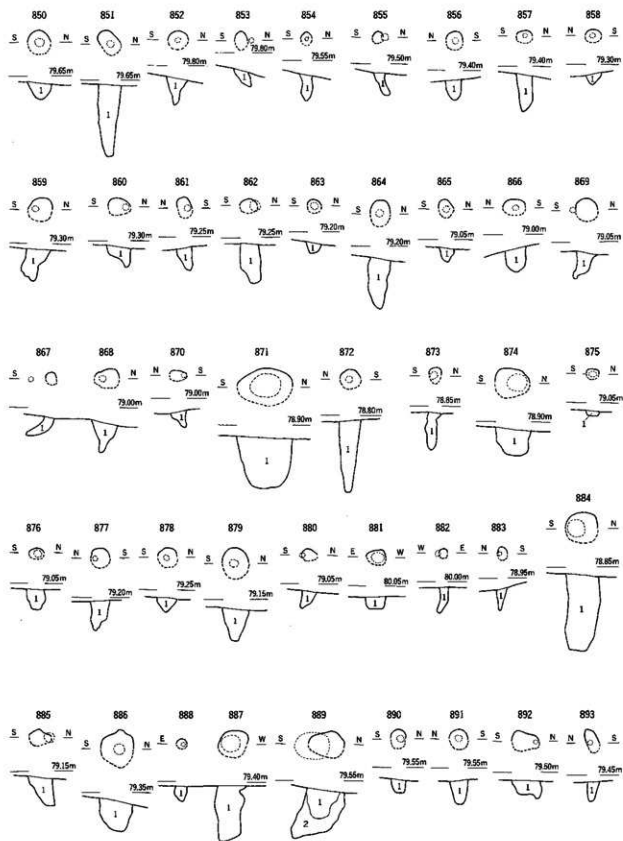




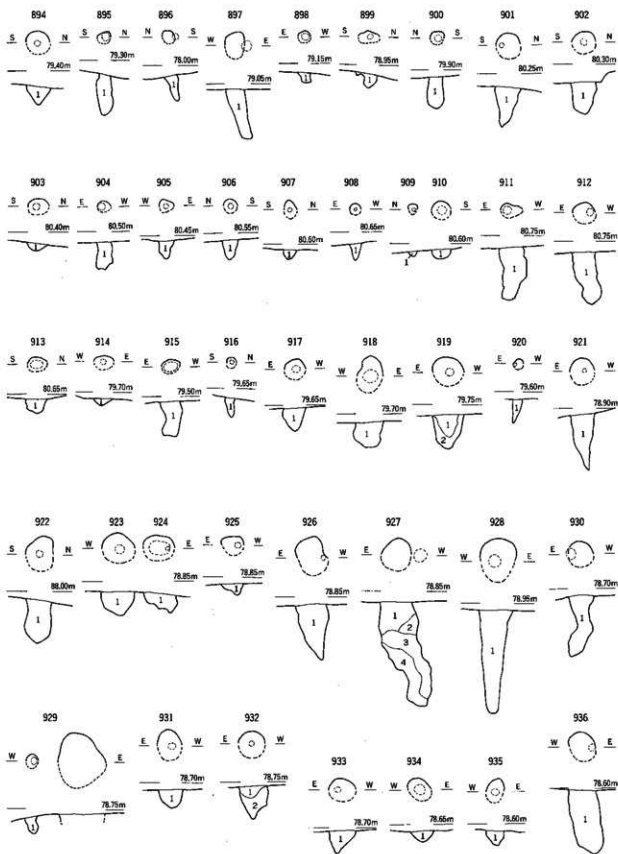
第154圖 下掘遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴723~767



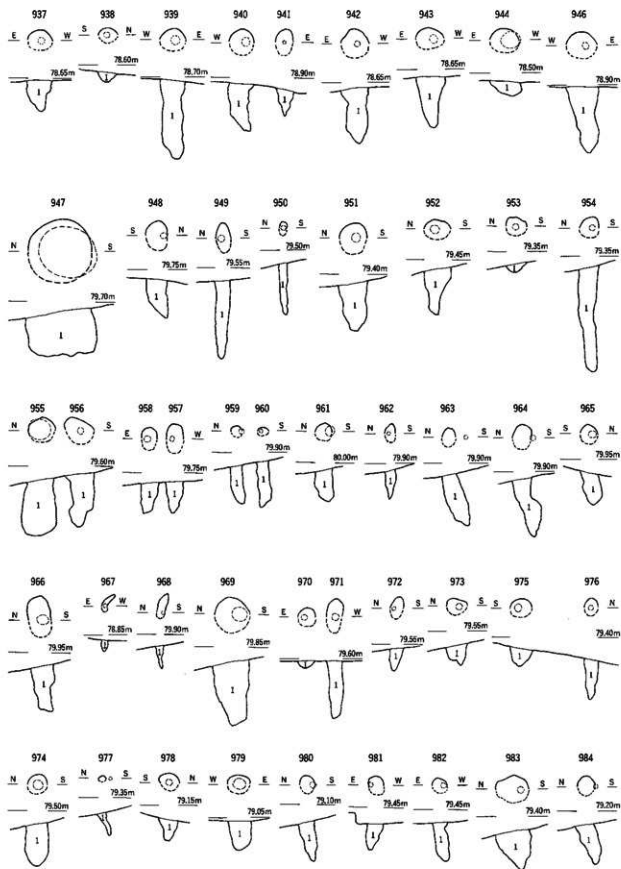
第155図 下堀遺跡 XII層・III層上面 柱穴768~849



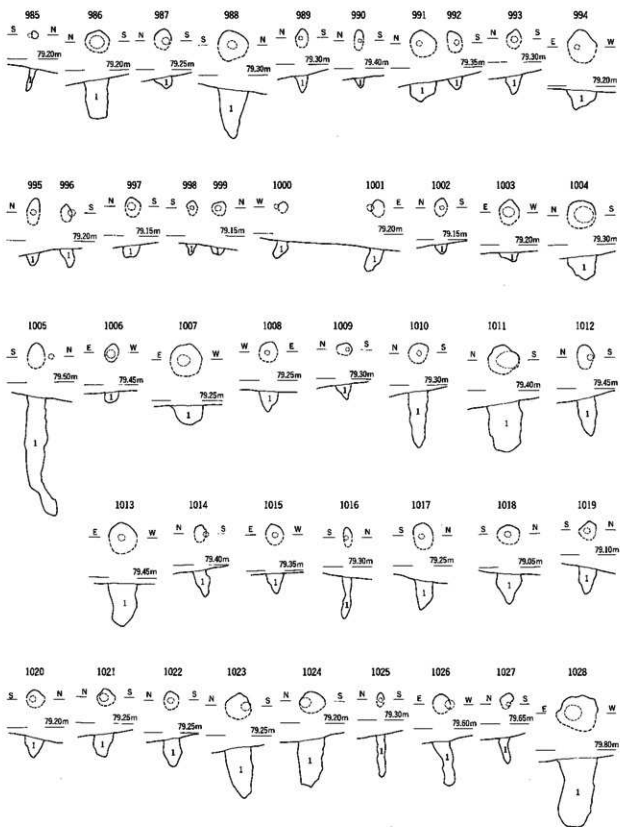
第156图 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴850~893



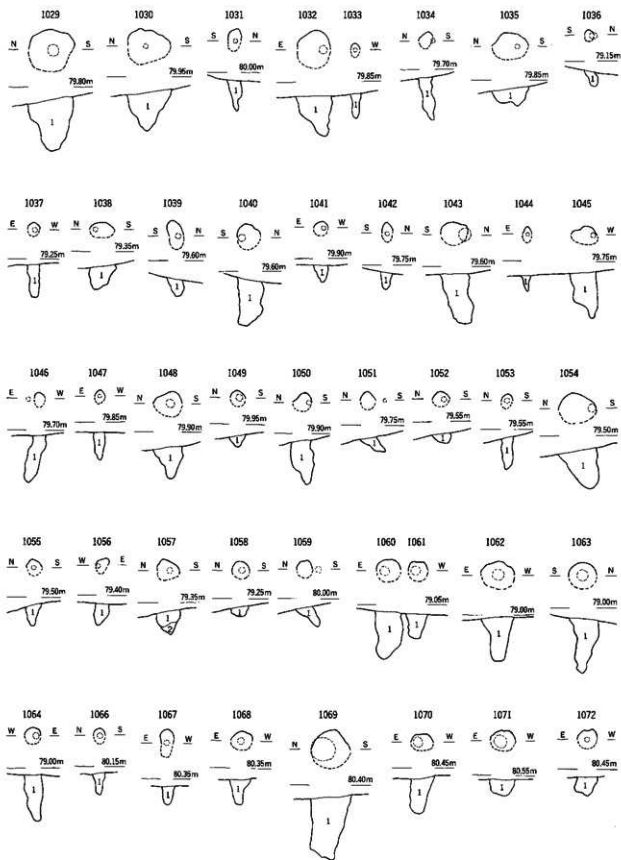
第157圖 下欄遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴894~936



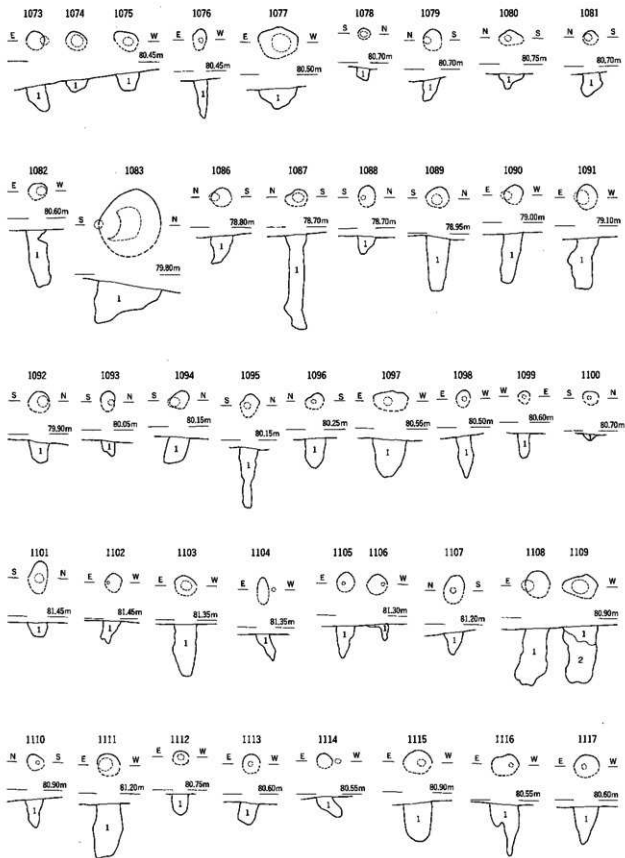
第158圖 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴937~984



第159圖 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴985~1028

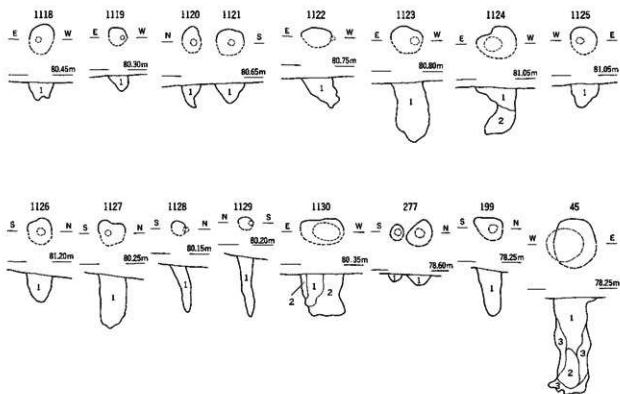


第160圖 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴1029~1072

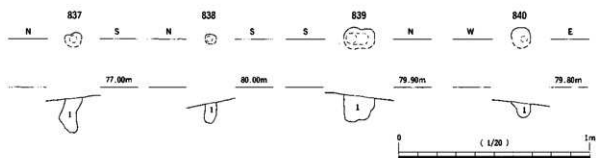


第161圖 下掘遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴1073~1117

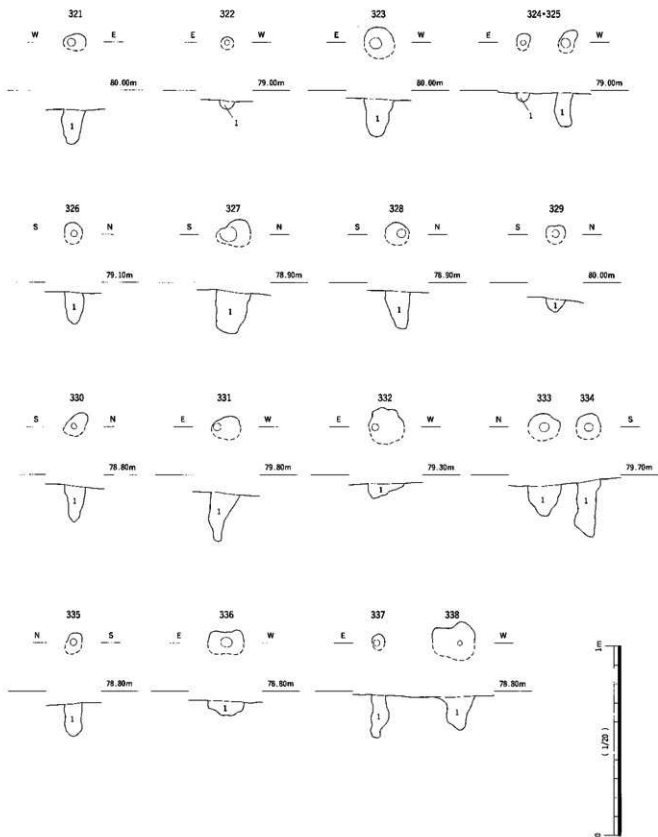




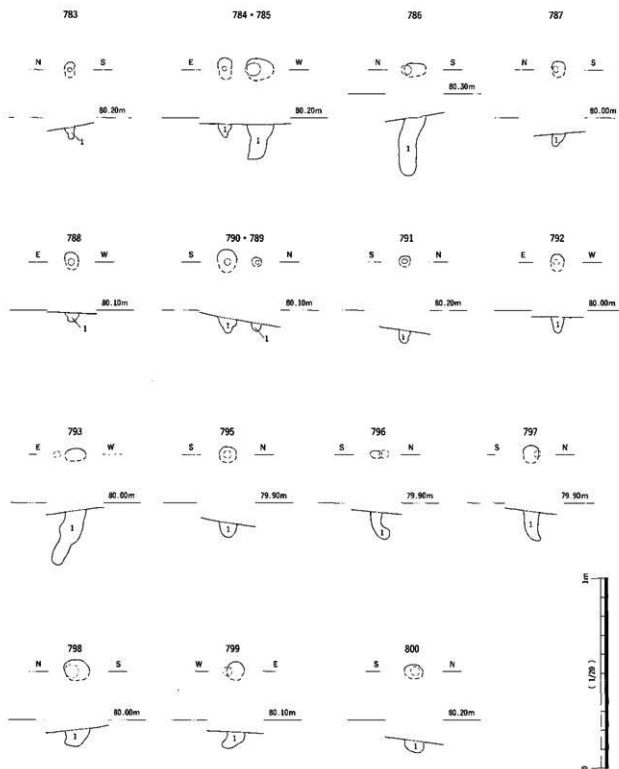
第162図 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴1118~1130・277・199・45



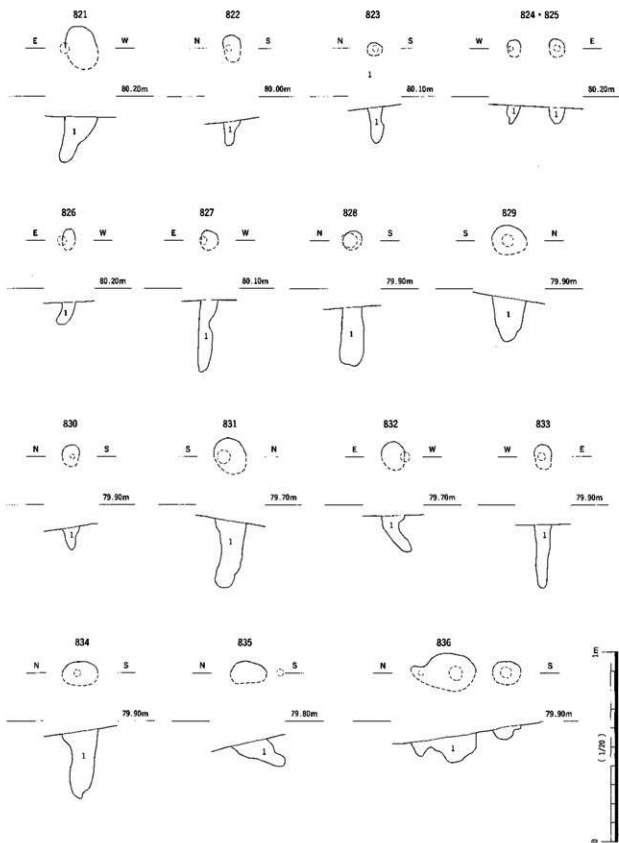
第163図 下堀遺跡 Ⅱ層・Ⅲ層上面 柱穴837~840



第164图 下堀遺跡 II層・III層上面 柱穴321~338



第165図 下堀遺跡 XII層・III層上面 柱穴783~800



第166図 下掘遺跡 II層・III層上面 柱穴821~836

柱穴番号	上層 番号	上色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)	
1	1	10YR4/1	黒灰色	粘質土	硬くしまる	20	17
2	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる	17	17
3	1	10YR3/2	暗褐色	粘質土	硬くしまる	17	18
4	1	10YR3/3	暗褐色	粘質土	硬くしまる	30	30
5	1	10YR3/3	暗褐色	粘質土	硬くしまる	29	27
	2	10YR4/1	黒灰色	粘質土	硬くしまる		
6	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む	13	18
	2			1層と7.5Y4/2灰オリーブ色土との混合土			
7	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む	17	16
8	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む	13	18
9	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む	20	22
	2	2.5Y3/2	黒褐色	土	柱穴の第2層に類似		
10	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む		
	2			1層と7.5Y4/2灰オリーブ色土との混合土			
	3			1層と7.5Y4/3灰オリーブ色土との混合土			
	4	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色	土	地山か?		
11	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土	1m大の白色、褐色砂粒を含む	11	27
12	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	黄褐色粒3-5mmを少量含む、硬くしまる		
	2	2.5Y6/3	にじい黄色	粘質土	やわらかくしまる		
13	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	黄褐色粒2-3mmをごく少量含む、硬くしまる		
	2	2.5Y4/1	黄灰色	粘質土	やや硬くしまる		
	3	10YR5/6	黄褐色	粘質土	やや硬くしまる		
14	4	10YR4/6	褐色	粘質土	やや硬くしまる		
	5	10YR5/6	黄褐色	粘質土	音室にやわかい		
	6	2.5Y5/1	黄灰色	粘質土	やや硬くしまる		
15	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	黄褐色粒2-3mmをごく少量含む、硬くしまる		
	2	10YR4/2	灰褐色	粘質土	硬くしまる		
	3	2.5Y5/3	暗灰黄色	粘質土	硬くしまる		
	4	2.5Y6/3	にじい黄色	粘質土	硬くしまる		
16	1	7.5YR2/1	黒色	粘質土	やわかい	12	21
17	1	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる		
	2	10YR3/3	暗褐色	粘質土	硬くしまる		
	3	10YR4/2	灰褐色	粘質土	硬くしまる		
	4	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土	やや硬くしまる		
	5	10YR4/2	灰褐色	粘質土	硬くしまる、ややらかい		
18	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる	17	6
19	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる	12	10
20	1	10YR2/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる		
	2	2.5Y6/3	にじい黄色	粘質土	硬くしまる		
21	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	硬くしまる		
	2	2.5Y5/3	黄褐色	粘質土	硬くしまる		
22	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む		
	2	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む		
23	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む		
	2	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む		
24	1	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む	37	8
25	1	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白褐色砂粒を含む	15	21
26	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	12	6
27	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	15	16
28	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の白、褐色砂粒を含む		
	2	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白、褐色砂粒を含む		
29	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の白、褐色砂粒を含む		
	2	5Y4/2	灰オリーブ色	土	1-2m大の白、褐色砂粒を含む		
30	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	18	8
31	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	19	21
32	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	7	17
33	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む	9	16
34	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	1-2m大の褐色白褐色砂粒を含む、若干1-3m大のサツマ?がブロック状に見られる	11	8
35	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	少量の1-3m大の白、褐色砂粒を含む	19	29
36	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	少量の1-3m大の白、褐色砂粒を含む	12	27
37	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	12	27
38	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	21	28
39	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	10	11
40	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	7	17
41	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	7	16
42	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	8	12
43	1	10YR1.7/1	黒色	土	1-3m大の多量の白、褐色砂粒を含む、若干サツマ?の1m大のブロックが見られる	8	16
44	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	多量の1-3m大の白、褐色砂粒を含む、若干1-3m大でサツマ?がブロック状に見られる	19	27
	2	2.5Y3/2	黒褐色	土			
45	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	第1層と10YR4/4褐色粘土塊を多く含む	23	52
	2	2.5Y3/2	黒褐色	土			
46	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	第1層と10YR4/4褐色粘土塊を多く含む	17	68
	2	2.5Y3/2	黒褐色	土			
47						9	23

第38表 下堀遺跡 Ⅷ・Ⅸ層上面 柱穴一覧表(1)

柱穴番号	十層 番号	十色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (m)	
48	1	10YR2/1	黒色	土		19	18
49	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	白色・褐色砂粒を非常に多く含む	30	24
50	1	2.5Y3/1	黒褐色	土		28	19
51	1	2.5Y2/1	褐色	土		10	18
52	1	2.5Y3/1	黒褐色	土		13	45
53	2	2.5Y2/1	褐色	土			
53	1	10GY3/1	暗緑灰色	粘質土		15	12
54	1	10GY3/1	暗緑灰色	粘質土		19	18
54	2	10G3/1	暗緑灰色	粘質土	やや多く黒層土塊を含む		
55	1	5Y2/1	褐色	土	黒層土塊を含む	11	29
56	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土			
57	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土		9	22
58	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土			
59	1	2.5Y3/1	黒褐色	土		11	17
59	2	2.5Y3/1	黒褐色	土			
60	1	2.5Y3/1	黒褐色	土		13	12
60	2	2.5Y3/1	黒褐色	土			
61	1	2.5Y2/2	黒褐色	土	黒層土塊を含む	12	18
62	1	5Y4/1	灰色	土		12	16
62	2	7.5Y2/1	褐色	土			
63	1	5Y4/2	灰オリーブ色	土		9	3
64	1	5Y3/2	オリーブ黒色	土	黒層土塊を多く含む	9	20
65	1	7.5Y4/1	灰色	土			
66	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土			
67	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	土			
68	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土		12	44
69	1	5Y3/2	オリーブ黒色	土			
70	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土		7	19
71	1	10B42/1	青黒色	土		13	18
72	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
73	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
74	1	10G3/2/1	緑黒色	土			
74	2	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
75	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
76	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土	表面近くに黒層土塊を含む	7	18
77	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土		19	20
78	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土		12	23
79	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土		15	22
80	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
81	1	2.5Y3/2	黒褐色	土		16	22
82	1	2.5Y3/2	黒褐色	土		7	30
83	1	5G2/1	緑黄色	砂質土		10	8
84	1	10B2/1	青黒色	土	やや粘質あり		
84	2	10B2/1	青黒色	砂質土	黒層土と第1層との混合土	18	34
85	1	5Y4/2	灰オリーブ色	土			
86	1	5Y2/1	オリーブ黒色	粘質土			
87	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土	黒層土塊との混合土		
88	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
89	1	5Y3/1	オリーブ黒色	土			
90	1	10YR2/2	黒褐色	土			
90	2	N2/0	黒色	土	黒層土上か		
91	1	10YR3/2	黒褐色	土	灰付面に白色・褐色砂粒が混ざる		
92	1	10YR3/2	黒褐色	土			
93	1	10B3/1	青黒色	土		15	20
93	2	2.5YR3/1	暗褐色	粘質土			
94	1	5G2/1	緑黄色	砂質土		5	30
95	1	10B2/1	青黒色	粘質土		15	26
96	1	10YR2/1	褐色	粘質土			
97	1	10YR2/1	褐色	粘質土			
98	1	10YR2/1	褐色	粘質土			
99	1	10YR2/1	褐色	粘質土			
100	1	10B2/1	青黒色	土			
101	1	10YR3/1	黒褐色	土			
102	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり	7	9
103	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり	7	6
104	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり		
105	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり	16	22
106	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり	15	36
107	1	10YR3/1	黒褐色	土		12	14
108	1	5G2/1	緑黄色	土		11	24
109	1	10YR3/2	黒褐色	土		13	13
110	1	10YR3/2	黒褐色	土		15	17
111	1	10G3/1	暗緑灰色	粘質土	やや粘質あり	19	15
112	1	10G3/1	暗緑灰色	粘質土	やや粘質あり	9	10
113	1	10YR2/2	黒褐色	土		17	20
114	1	7.5Y2/1	褐色	土	黒層土塊を含む	12	19

第39表 下塚遺跡 XII・XIII層上面 柱穴一覧表(2)

柱穴番号	土層番号	上層	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)	
115	1	2.5Y3/2	黒褐色	土		13	18
116	1	2.5Y2/2	オリーブ褐色	土			
117	1	10YR3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	15	24
118	1	10YR3/2	黒褐色	砂質土		11	22
119	1	10YR3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	8	14
120	1	10BG3/1	暗青灰色	土		10	23
121	1	10YR3/2	黒褐色	土		9	18
122	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土		10	30
123	1	10BG2/1	青黒色	砂質土		6	20
124	1	10BG2/1	青黒色	土		14	32
125	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土			
126	1	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	土	厚層土塊を含む	11	30
127	1	2.5GY3/1	暗オリーブ灰色	土	厚層土塊を含む	10	29
128	1	10BG2/1	青黒色	土		8	5
129	1	10BG2/1	青黒色	土		7	9
130	1	10Y R 3/2	黒褐色	土		10	12
131	1	10Y R 3/1	黒褐色	土		16	9
132	1	10Y R 3/1	黒褐色	粘質土		6	7
133	1	10Y R 3/1	黒褐色	土		10	13
134	1	10BG2/1	青黒色	土		13	14
135	1	10BG2/1	青黒色	土		15	41
136	1	10B2/1	青黒色	土			
137	1	10Y R 3/1	黒褐色	粘質土		9	5
138	1	10Y R 3/2	黒褐色	粘質土		6	6
139	1	10Y R 3/2	黒褐色	土		17	70
140	1	5Y3/2	オリーブ褐色	土		9	10
141	1	5Y3/2	オリーブ褐色	土	厚層土塊を含む	10	18
142	1	5Y3/1	オリーブ褐色	土	多数の白色・褐色砂粒、厚層土塊を含む	10	26
143	1	5G2/1	緑褐色	土		9	30
144～150は記録なし							
151	1	10YR6/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む、やや中か		
151	2	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、やや中か	9	57
152	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	17	12
153	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	8	10
154	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	10	17
155	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	13	23
156	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	7	8
157	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	12	20
158	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	10	18
159	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	8	19
160	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	9	15
161	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む		
161	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	12	21
162	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む		
162	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	25	24
163	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり		
163	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	25	17
164	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり		
164	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	23	17
165	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり		
166	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり		
167	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり		
168	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	5	18
169	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	14	13
170	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	6	21
171	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	17	9
172	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	6	20
173	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	9	13
174	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	9	19
175	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	6	30
176	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	15	15
177	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	14
178	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	8	16
179	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	15
180	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	8
181	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	14
182	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	9	14
183	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、厚層土塊を含む	10	15
184	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	17	16
185	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり		
185	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	12	11
186	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	10	5
187	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	9	9
188	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	12	7
189	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	12	12
190	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	12
191	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	10	21

第40表 下掘遺跡Ⅲ・Ⅳ層上面 柱穴一覧表(3)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特産・備考	深さ (cm)	
192	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中々粘性あり	
193	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中々粘性あり	
194	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	中々粘性あり	
195	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中々粘性あり	
196	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中々粘性あり	
197-200は記録なし						
201	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		
202	1	5Y2/1	黒色	砂質土		
203	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
204	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土		
205	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
206	1	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土		
207	1	2.5Y2/1	黒色	土	中々粘性あり	
208	1	2.5Y2/1	黒色	土	中々粘性あり	
209	1	2.5Y2/1	黒色	土	中々粘性あり	
210	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土		
211	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土		
212	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土		
213	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土		
214	1	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土		
215	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	中々粘性あり	
216	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	中々粘性あり	
217	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
218	1	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土		
219	1	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土		
220	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土		
221	1	2.5Y3/3	暗オリーブ灰色	砂質土		
222	1	2.5Y4/1	黄灰色	土		
223-230は記録なし						
231	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	中々粘性あり	
232	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	中々粘性あり	
233	1	2.5Y3/2	黒褐色	土	中々粘性あり	
234	1	2.5Y3/1	黒褐色	土		
235	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
236	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
237	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
238	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
239	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	中々粘性あり	
240	1	10YR3/3	暗褐色	土	12 25	
241	1	10YR3/3	暗褐色	土	8 6	
242	1	10YR2/2	黒褐色	砂質土	34 25	
243						
		1	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土	
		2	2.5Y4/2	暗灰青色	土	13 54
244						
		1	10YR4/3	にじみ黄褐色	砂質土	8 9
		2	10YR4/3	にじみ黄褐色	砂質土	11 25
		3	7.5YR3/1	黒褐色	砂質土	7 14
		4	7.5YR3/1	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		5	2.5Y2/1	黒色	土	16 3
		6	2.5Y2/1	黒色	土	
		7	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	18 17
		8	2.5Y2/1	黒色	土	5 25
		9	2.5Y3/1	黒褐色	土	14 21
		10	5Y2/1	黒色	土	1層土塊を多く含む
		11	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	12 14
		12	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	9 6
		13	10Y R3/2	黒褐色	砂質土	11 14
		14	10Y R2/1	黒色	粘質土	5 7
		15	2.5Y3/2	黒褐色	粘質土	13 27
		16	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	1層土塊を多く含む
		17	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	8 9
		18	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	21 28
		19	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	10 16
		20	10Y 2/1	黒色	砂質土	8 12
		21	5Y2/2	オリーブ色	砂質土	中々粘性あり
		22	10Y R3/2	黒褐色	砂質土	29 5
		23	10Y R3/2	黒褐色	砂質土	12 10
		24	10Y R3/2	黒褐色	砂質土	8 24
		25	10Y R3/1	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		26	10Y R3/1	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		27	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		28	10YR4/1	褐色	砂質土	15 22
		29	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	36 37
		30	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	10 15
		31	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		32	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	9 4
		33	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	15 24
		34	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	中々粘性あり
		35	10YR2/1	黒色	粘質土	14 9
		36	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	3 11
		37	10YR3/3	暗褐色	砂質土	9 18
		38	2.5Y3/2	暗褐色	砂質土	中々粘性あり
		39	2.5Y3/2	暗褐色	砂質土	12 10
		40	2.5Y3/2	暗褐色	砂質土	8 13

第41表 下堀遺跡 XI・III層上面 柱穴一覧表(4)



柱穴番号	十層 番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)
278	1	5Y2/2	オリーブ色 砂質土	やや粘性あり	7	4
279	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	10	11
280	1	10YR3/1	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	11	4
281	1	5Y2/2	オリーブ色 砂質土	やや粘性あり		
282	1	10YR3/1	黒褐色 土		10	19
283	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 土		12	31
284	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	12	18
285	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	8	5
286	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	8	8
287	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	7	11
288	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土			
289	1	2.5Y2/1	黒色 砂質土	粘性あり	15	32
290	1	2.5Y2/1	黒色 砂質土	粘性あり、厚層土塊を含む	7	23
291	1	2.5Y2/1	黒色 砂質土	粘性あり	9	12
292	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	粘性あり	6	10
293	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	粘性あり	9	15
294	1	5Y3/2	オリーブ色 砂質土	やや粘性あり		
295	1	5Y3/2	オリーブ色 砂質土	やや粘性あり	11	29
296	1	10YR3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり		
297	1	10YR3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり		
298	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 土			
299	1	2.5Y3/1	黒褐色 土		8	10
300	1	5YR2/3	暗褐色 砂質土	硬くしまる	3	15
301	1	10YR3/2	黒褐色 砂質土			
302	2	10YR3/2	黒褐色 砂質土	第1層が塊状に堆積する		
303	1	10Y2/1	黒色 砂質土	厚層土塊を含む		
304	1	10Y2/1	黒色 砂質土	厚層土塊を含む	10	3
305	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	多くの厚層土塊を含む		
306	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	粘性あり	18	9
307	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	厚層土塊を含む	7	10
308	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土		10	34
309	1	10Y2/1	黒色 砂質土	やや粘性あり、多くの白色・褐色砂粒を含む		
310	2	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	17	35
311	1	5Y4/4	暗オリーブ色 砂質土	シミの可能性あり	19	21
312	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	16	22
313	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土		16	18
314	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	粘性あり	13	24
315	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	7	8
316	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含む	9	19
317	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土		8	14
318	1	2.5Y5/3	黄褐色 砂質土		12	9
319	1	10YR4/3	にぶい黄褐色 砂質土	やや粘性あり	11	7
320	1	2.5Y4/1	黄灰色 砂質土	厚層土塊を含む	18	26
321	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	12	25
322	1	2.5Y5/1	黄灰色 砂質土	厚層土塊を含む	12	19
323	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土		8	3
324	1	10YR4/1	暗灰色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	16	21
325	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土		7	5
326	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	8	18
327	1	10YR4/3	にぶい黄褐色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	9	7
328	1	2.5Y3/5	黒褐色 土	やや粘性あり	18	34
329	1	2.5Y3/2	黒褐色 土	やや粘性あり	13	20
330	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土		10	8
331	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	厚層土塊を含む	11	20
332	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	厚層土塊との混合	15	27
333	1	2.5Y3/1	黒褐色 土		19	8
334	1	10YR3/1	黒褐色 土	厚層土塊を含む	17	17
335	1	2.5YR4/2	灰赤色 砂質土	厚層土塊を含む、やや粘性あり	13	31
336	1	10YR4/2	灰黄褐色 砂質土	やや粘性あり	9	18
337	1	10YR4/2	灰黄褐色 砂質土	やや粘性あり	19	8
338	1	2.5Y4/1	黄灰色 砂質土		7	23
339	1	2.5Y4/1	黄灰色 砂質土	厚層土塊を含む	21	19
340	1	2.5Y5/1	黄灰色 砂質土	厚層土塊を含む	60	16
341	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	18	21
342	1	2.5Y4/1	黄灰色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	11	13
343	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	9	8
344	1	10YR5/2	灰黄褐色 砂質土	やや粘性あり	11	20
345	1	10YR5/2	灰黄褐色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	9	20
346	1	10YR4/1	暗灰色 砂質土	やや粘性あり	10	26
347	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	やや粘性あり	5	8
348	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	25	27
349	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	13	27
350	1	2.5Y5/2	暗灰黄色 砂質土		9	16
351	1	10YR4/2	灰黄褐色 砂質土	やや粘性あり	9	25
352	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	13	21
352	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	厚層土塊を含み、やや粘性あり	19	24

第42表 下堀遺跡 III・IV層上面 柱穴一覧表(5)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)	
353	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	やや粘性あり	19	12
354	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	15	7
355	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	12	4
356	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	やや粘性あり	15	12
357	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	15	12
358	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土		20	18
359	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		13	13
360	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		12	9
361	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	層上土を含む、やや粘性あり	19	11
362	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	19	9
363	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	14	13
364	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	層上土を含む、やや粘性あり、パミスをやや多く含む	26	24
365	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	層上土を含む、やや粘性あり	13	13
366	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	やや粘性あり	19	11
367	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	層上土を含む、やや粘性あり	16	23
368	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	12	26
369	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	12	26
370	1	10YR4/3	黄灰色	土		17	10
371	1	10YR4/1	褐灰色	土	層上土を含む	18	16
372	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	14	12
373	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	14	5
374	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	11	7
375	1	10YR5/3	黄褐色	砂質土	やや粘性あり	14	8
376	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	16	13
377	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		9	19
378	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層上土を含む、やや粘性あり	10	7
379	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		20	20
380	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	11	10
381	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土		5	5
382	1	10YR2/1	黒色	土		6	6
383	1	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	やや粘性あり	10	18
384	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土		10	19
385	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土		22	19
386	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり、1mm大の炭化物を含む	21	23
387	1	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	やや粘性あり	15	19
388	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり、1mm大の炭化物を含む	9	19
389	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	11	7
390	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	11	22
391	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土		12	25
392	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり、1mm大の炭化物を含む	9	13
393	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	1mm大の層上土を含む	15	18
394	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	13	29
395	1	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	やや粘性あり	16	11
396	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	11	14
397	1	2.5Y3/3	暗オリーブ色	砂質土	10YR2/1黒色土塊を含む	9	20
398	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土		9	24
399	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土		7	22
400	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	16	5
401	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	7	14
402	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、SP13/1の黄灰色土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	10	16
403	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	層上土を含む	4	19
404	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	層上土を含む	7	7
405	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	層上土を含む	8	15
406	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	6	8
407	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	5	12
408	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	11	12
409	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	層上土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	17
410	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層上土を含む	8	7
411	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、層上土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	12	20
412	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	11	10
413	1	10YR5/1	褐灰色	砂質土		5	7
414	1	10YR5/3	黄褐色	砂質土		8	15
415	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、層上土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	10	11
416	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、層上土を含む	10	10
417	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、層上土を含む	7	17
418	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	層上土を含む	7	10
419	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	層上土を含む	10	14
420	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、炭化物粒を少量含む、黄褐色砂粒を少量含む	15	18
421	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	やや粘性あり	8	12
422	1	5P12/1	汚黒色	粘土	粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	13	17
423	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	やや粘性あり	7	8
424	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、非常にやわい、(樹皮?)	17	22
425	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	16	19
426	1	2.5Y6/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	9	13
427	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		9	4
428	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		6	7

第43表 下堀遺跡Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表(6)

柱穴番号	土層番号	十色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)
429	1	2.5V6/4	にじい黄色	砂質土		
430	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	層間土塊を含む	8
431	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	層間土塊を含む	7
432	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	6
433	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	5
434	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	やや粘粒あり	6
	2	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	層間土塊を含む	10
435	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	28
436	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	29
	2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土		32
437	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土		7
438	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	16
439	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	7
	2	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	13
440	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	やや粘粒あり	10
441	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	やや粘粒あり	10
	2	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり	23
442	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	14
443	1	2.5Y/3	黄褐色	砂質土	層間土塊を含む	12
444	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	層間土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	18
445	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	8
446	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	8
447	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	12
448	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	8
449	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	11
450	1	2.5Y/3	黄褐色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9
451	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり	12
452	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土		12
	2	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土		14
453	1	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	かたくしめる	14
	2	2.5Y/1	黄灰色	砂質土	かたい	11
454	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土		5
455	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土		3
456	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	8
457	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	11
458	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	8
459	1	5Y/2	灰オリーブ色	砂質土		11
460	1	5Y/1	灰色	砂質土		11
461	1	5Y/3	暗オリーブ色	砂質土		7
462	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	9
463	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	11
464	1	2.5Y/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	5
465	1	2.5Y/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	10
466	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	12
467	1	3Y/1	黒色	土	層間土塊が強まる	10
468	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり、層間土塊を含む	19
469	1	10YR3/2	黒褐色	土	層間土塊を含む	8
470	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	11
471	1	5Y/2	灰オリーブ色	砂質土	やや粘粒あり	5
472	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり	8
473	1	2.5Y/3	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり	14
474	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘粒あり	9
475	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	8
476	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	12
477	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり、炭化物を含む	5
478	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	10
479	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり、炭化物を含む	10
480	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり、炭化物を含む	6
481	1	2.5Y/2	暗褐色	砂質土	やや粘粒あり	6
482	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり、炭化物を含む	13
483	1	7.5YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	13
484	1	10YR3/2	黒褐色	土	層間土との混合土	
485	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり、炭化物を含む	
486	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	
487	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	
488	1	10YR2/1	黒色	砂質土	やや粘粒あり	18
489	1	2.5Y/2	暗褐色	砂質土	やや粘粒あり	13
490	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	4
491	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	層間土塊を含む	30
492	1	2.5Y/3	暗オリーブ褐色	粘質土	炭化物が強まる	7
493	1	10YR3/2	黒褐色	土	粘りあり、炭化物が強まる	14
494	1	2.5Y/3	暗オリーブ褐色	土	粘りあり	5
495	1	2.5Y/2	暗褐色	砂質土		10
496	1	2.5Y/1	黒色	粘りあり		6
497	1	2.5Y/2	暗灰黄色	砂質土		10
498	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	9
499	1	2.5Y/1	黒褐色	砂質土	やや粘粒あり	11

第44表 下掘遺跡 III・Ⅲ層上面 柱穴一覧表(7)

柱状番号	土層 番号	七色	土質	特徴・備考	厚 (cm)	深さ (cm)		
500	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土		10	27	
501	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	塊状に見える		14	24
502	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土				
503	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土				
504	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土				
505	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む			
506	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む			
507	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む			
508	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	13	20	
509	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	11	20	
510	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	12	18	
511	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	15	17	
512	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり	14	14	
513	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	19	21	
514	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む、少量の3-5mm程度のバミスを含む	17	24	
515	1	7.5Y4/1	灰色	砂質土		8	6	
516	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	13	8	
517	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	11	19	
518	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり	7	11	
519	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり	5	11	
520	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	17	9	
521	1	2.5Y4/2	暗黄褐色	砂質土	やや粘性あり、下層に層間土塊を含む	15	22	
522	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土		11	15	
523	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	9	18	
524	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	13	29	
525	1	2.5Y5/2	暗黄褐色	砂質土		9	24	
526	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	16	29	
527	1	10YR4/1	褐色	砂質土		13	11	
528	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		8	8	
529	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層間土塊を含む	6	4	
530	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり			
531	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	6	10	
532	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	6	13	
533	1	N3/0	暗灰色	砂質土	やや粘性あり	6	3	
534	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり	5	6	
535	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり	6	11	
536	1	10YR4/1	褐色	砂質土	やや粘性あり	8	28	
537	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	10	18	
538	1	2.5Y4/2	暗黄褐色	砂質土	やや粘性あり、層間土塊を含む	14	20	
539	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		22	19	
540	1	10YR5/1	褐色	砂質土	層間土塊を含む	18	15	
	1	5R2/1	青黒色	土	白色・褐色砂粒を含む			
541	2	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		12	26	
	3	5R2/1	青黒色	土				
542	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		11	31	
	2	5Y4/1	灰色	砂質土	層間土塊を含む			
543	1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり	6	14	
544	1	5Y2/1	黒色	砂質土	やや粘性あり	7	13	
545	1	10R62/1	青黒色	砂質土	白色・褐色砂粒を含む			
	2	7.5Y2/2	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり	14	19	
	1	2.5G2/1	黒色	砂質土				
546	2	7.5Y2/2	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり	12	15	
	3	7.5Y2/1	黒色	粘質土				
547	1	7.5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり	10	16	
548	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		9	10	
549	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		10	20	
550	1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		8	3	
551	1	10R62/1	青黒色	土	白色・褐色砂粒を含む			
	2	7.5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		10	17	
552	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土	やや粘性あり	12	11	
553	1	10R62/1	青黒色	土				
	2	5Y2/2	オリーブ黒色	砂質土				
554	1	10Y3/1	黒褐色	土	炭化物が混ざる	25	14	
	2	10Y2/1	黒色	砂質土				
555	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土		5	10	
556	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土		14	20	
557	1	10Y2/1	黒色	砂質土	やや粘性あり	11	16	
558	1	7.5Y2/1	黒色	砂質土		12	12	
559	1	7.5Y2/1	黒色	砂質土	白色・褐色砂粒を含む	17	16	
560	1	5Y2/1	黒色	砂質土	白色・褐色砂粒を含む	19	20	
561	1	N2/0	黒色	土	炭化物を含む	16	18	
562	1	2.5Y2/1	黒褐色	土	やや粘性あり	7	4	
563	1	N2/0	黒色	土	白色・褐色砂粒を含む	3	4	
564	1	2.5Y3/1	黒褐色	土	層間土塊を含む	9	7	
565	1	2.5Y4/2	暗黄褐色	砂質土		13	13	
566	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土	やや粘性あり、層少量の1mm以下の炭化物を含む	7	14	
567	1	5Y2/2	オリーブ黒色	土	やや粘性あり、極少量の1mm以下の炭化物を含む	7	15	

第45表 下堀遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 柱六一覧表(8)

柱穴番号	土層番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)	
368	1	5Y2/2	オリブ黒色	砂質土		14	12
369	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	8	17
370	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土		11	4
371	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土	白色・褐色砂粒を含む		
372	1	5Y2/2	オリブ黒色	土	やや粘性あり、1mm以下の炭化物を含む	8	18
373	1	5Y2/2	オリブ黒色	土	やや粘性あり、1mm以下の炭化物を含む	8	19
374	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土		12	13
375	1	10YR3/2	黒褐色	砂質土		9	17
376	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	1mm以下の炭化物を含む	13	14
377	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	1mm以下の炭化物を含む	12	6
378	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	1mm以下の炭化物を含む	11	5
379	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	1mm以下の炭化物を含む	13	12
380	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	1mm以下の炭化物を含む	10	6
381	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土	黒層土壌を含む	8	16
382	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	5	15
383	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土	黒層土壌を含む	10	7
384	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	4	2
385	1	10Y2/1	黒色	砂質土		21	3
386	1	5Y3/2	オリブ黒色	砂質土		11	16
387	1	5Y3/2	オリブ黒色	砂質土		12	9
388	1	5Y3/1	オリブ黒色	砂質土		19	5
389	1	5Y3/1	オリブ黒色	砂質土		16	4
390	1	5Y3/1	オリブ黒色	砂質土		10	12
391	1	2.5Y3/2	黒褐色	砂質土		11	24
392	1	5Y3/1	オリブ黒色	砂質土		12	14
393	1	5Y3/2	オリブ黒色	砂質土	やや粘性あり	10	16
394	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	白色・褐色砂粒を含む	7	25
395	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土		10	5
396	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり、炭化物を含む	11	25
397	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり、炭化物を含む	5	22
398	1	10YR3/1	黒褐色	土		11	28
399	1	10YR3/1	黒褐色	土		15	15
400	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土	やや粘性あり	10	8
401	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	黒層土壌を含む	6	11
402	1	10YR4/2	灰黄色	砂質土	やや粘性あり	8	13
403	1	10YR5/2	灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	16	29
404	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む		
404	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	7	28
405	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む		
405	2	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、下部に白層土が混じる	22	38
406	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	黒層土壌を含む	11	9
406	2	10YR4/1	褐灰色	砂質土	黒層土壌を含む		
407	1	10YR4/2	灰黄色	砂質土	黒層土壌を含む		
407	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		23	28
407	3	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土			
408	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	黒層土壌を含む	7	6
409	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	11	19
410	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	9	9
411	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり	8	9
412	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	8	9
413	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	黒層土壌を含む	12	14
414	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	15	9
414	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土			
415	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		10	26
415	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土			
415	3	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり		
416	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		4	4
417	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	黒層土壌を含む	18	10
418	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	10	16
419	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	10	25
420	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土			
420	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		23	18
420	3	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土			
421	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	11	12
422	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	15	14
423	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	12	11
424	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり	20	14
425	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり		
425	2	10YR4/2	灰黄色	砂質土	やや粘性あり	44	28
426	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む、黄褐色砂粒を少量含む		
426	2	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黄褐色砂粒を少量含む	23	24
427	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	やや粘性あり	12	26
428	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		8	5
429	1	10YR4/2	灰黄色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	8	36
430	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘性あり、黒層土壌を含む	12	12
430	2	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	やや粘性あり		
431	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土		9	8

第46表 下掘遺跡 Ⅳ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表(9)

柱穴番号	土層番号	土色	土質	特徴・備考	楼 (cm)	深さ (cm)	
632	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	9	9
633	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	9	14
634	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	9	11
635	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	5	11
636	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土		7	20
637	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	黒層上端を含む	5	18
638	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	10	14
639	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	12	11
640	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり	4	8
641	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり	12	10
642	1	10YR2/1	赤褐色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	18	10
643	2	2.5Y4/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	19	11
644	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	11	24
645	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		11	10
646	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	15	20
647	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	8	29
648	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		5	16
649	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり、下部に黒層土を含む	7	21
650	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	33	16
651	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	22	29
652	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む、黄褐色砂粒を少量含む	16	24
653	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	8	24
654	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	11	14
655	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	6	18
656	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	12	22
657	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	10	8
658	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	33	20
659	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、SP10/1の有無土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	15	22
660	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黒層土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	22
661	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		11	5
662	1	7.5YR4/2	灰褐色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	13	32
663	1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土		19	10
664	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	18	29
665	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		11	9
666	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		15	6
667	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		6	19
668	1	10YR6/3	にぶい黄褐色	砂質土		6	11
669	1	10YR6/3	にぶい黄褐色	砂質土		13	8
670	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	8	22
671	1	2.5Y5/4	黄褐色	砂質土		8	5
672	1	5PB7/1	青色	粘質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	15	77
673	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黒層土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	27	17
674	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	11	10
675	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	16	24
676	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	7	20
677	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	11	21
678	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	9	10
679	1	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黒層土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	22
680	1	10YR4/1	褐色色	砂質土		9	6
681	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	10	13
682	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	黒層上端を含む	8	12
683	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり、黒層土を含む、黄褐色砂粒を少量含む	10	19
684	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり、黒層土を含む	4	23
685	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	4	17
686	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	16	29
687	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土		10	10
688	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		13	13
689	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		9	14
690	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	11	14
691	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	18	10
692	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	黒層上端を含む	6	14
693	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	6	12
694	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土		8	14
695	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	8	9
696	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土	中~粘粒あり	8	14
697	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	6	8
698	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中~粘粒あり、黒層上端を含む	8	18
699	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	中~粘粒あり	10	18
700	2	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	中~粘粒あり	15	22
701	1	2.5Y5/2	暗灰青色	砂質土	少許の粗目土塊、中~粘粒あり	10	7
702	1	2.5Y2/1	灰色	砂質土	多くの黒層土塊を含む	10	16
703	1	5Y2/2	オリーブ灰色	砂質土		7	18

第47表 下掘遺跡 Ⅲ・Ⅳ層上面 柱穴一覧表 (10)

柱穴番号	土層 番号	七色	土質	特徴・備考	径 (cm)	高さ (cm)
704	1	2.5G2/1	黒色 砂質土	やや粘性あり	34	25
	2	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり		
705	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土		11	17
706	1	2.5G2/2	黒色 砂質土	少量の層層土塊を含む	10	13
	2	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土			
707	1	10Y2/1	黒色 土	多くの頁層土塊を含む	15	35
	2	10Y2/1	黒色 土	少量の頁層土塊を含む		
	3	10Y2/1	黒色 土			
708	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	10	22
709	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	10	25
710	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	層層土塊を含む	9	20
	2	2.5Y2/1	黒褐色 土	区～区層土か?		
711	1	5Y4/2	灰オリーブ色 砂質土		11	34
712	1	5Y3/2	オリーブ黒色 土	やや粘性あり	20	75
	2	5Y2/1	黒色 土	頁層土塊を含む		
713	1	5Y4/2	灰オリーブ色 砂質土		16	50
	2	5Y3/1	オリーブ黒色 土	少量の頁層土塊を含む		
	3	10Y2/1	黒色 土	多くの頁層土塊を含む		
714	1	10YR2/2	黒褐色 土		17	78
	2	10YR2/1	黒色 土	多くの頁層土塊を含む		
715	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	10	26
716	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	粘性あり	17	14
717	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	層層土塊を含む	12	31
718	1	2.5Y2/1	黒色 土		12	19
719	1	2.5Y3/1	黒褐色 土		17	26
720	1	2.5Y3/1	黒褐色 土		14	10
721	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		9	29
722	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		10	22
723	1	5Y4/2	灰オリーブ色 砂質土		10	13
724	1	5Y2/1	黒色 土	層層土塊を含み、しまる	15	22
725	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		10	3
726	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	粘性あり	5	22
727	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	粘性あり	5	20
728	1	5Y3/2	オリーブ黒色 土	1m大の炭化物を含む	8	7
729	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	やや粘性あり、1cm大の炭化物を含む	18	33
730	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土	1m大の炭化物を含む	15	30
731	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	粘性あり	5	6
732	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	1m大の炭化物を含む	10	22
733	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	1m大の炭化物を含む	12	26
734	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	1m大の炭化物を含む	8	12
735	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	1m大の炭化物を含む	4	8
736	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		15	29
737	1	2.5Y3/2	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	20	26
738	1	10YR3/1	黒褐色 土	粘性あり	7	9
739	1	2.5Y3/1	黒褐色 土	少量の層層土塊を含む	9	28
740	1	2.5Y3/1	黒褐色 粘質土		3	20
741	1	5Y3/1	オリーブ黒色 粘質土	1m大の炭化物を含む	13	17
742	1	5Y3/2	オリーブ黒色 土	層層土塊を含む	5	16
743	1	5Y2/1	オリーブ黒色 砂質土		10	7
744	1	7.5Y2/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	7	32
745	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色 粘質土	1m大の炭化物を含む	5	29
746	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	14	19
747	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		9	18
748	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	4	9
749	1	5Y3/1	オリーブ黒色 粘質土	1m大の炭化物を含む	6	8
750	1	5Y4/2	灰オリーブ色 砂質土	やや粘性あり	6	11
751	1	5Y3/1	オリーブ黒色 粘質土		5	5
752	1	5Y2/2	オリーブ黒色 砂質土		11	21
753	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土		13	20
754	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土		26	8
755	1	7.5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		9	20
756	1	5Y3/2	オリーブ黒色 土	層層土塊を含む	18	15
757	1	5Y3/1	オリーブ黒色 土	層層土塊を含む	19	23
758	1	5Y4/2	灰オリーブ色 土	層層土塊を含む	10	22
759	1	5Y3/1	オリーブ黒色 土	層層土塊を含む	7	15
760	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土		11	18
761	1	2.5Y4/3	オリーブ黒色 砂質土		7	4
762	1	2.5Y4/2	暗灰黄色 砂質土		6	12
763	1	2.5Y3/1	黒褐色 砂質土	やや粘性あり	10	18
764	1	2.5Y3/2	黒褐色 粘質土		7	18
765	1	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色 砂質土		8	23
766	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり	11	16
767	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり、1m大の炭化物を含む	5	12
768	1	5Y3/1	オリーブ黒色 砂質土	やや粘性あり、1m大の炭化物を含む	7	13
769	1	5Y3/2	オリーブ黒色 砂質土		6	4
770	1	10Y2/1	黒色 土	層層土塊を含む	6	7
771	1	5Y3/1	オリーブ黒色 土	やや粘性あり	7	7
772	1	5Y4/3	暗オリーブ色 砂質土		15	20

第48表 下掘遺跡Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表(11)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特徴・備考	厚 (cm)	高さ (cm)	
773	1	5V4/1	灰色	砂質土	中～粘粒あり	5	3
774	1	5V4/2	灰オリーブ色	砂質土		17	18
775	1	5V5/2	オリーブ色	砂質土	中～粘粒あり	8	22
776	1	5V4/2	灰オリーブ色	砂質土		11	14
777	1	5V4/3	緑オリーブ色	砂質土		10	20
778	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	11	23
779	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	11	17
780	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	9	21
781	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり		
782	1	2.5V5/2	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり		
783	1	2.5V5/2	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	6	7
784	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	7	8
785	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	14	19
786	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	31
787	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土		7	7
788	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		7	5
789	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		5	5
790	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	10	9
791	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	6	7
792	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	7	9
793	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	11	29
794	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	5	14
795	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	9	9
796	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	厚層土塊を含む	6	15
797	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	8	16
798	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		14	10
799	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		9	9
800	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	19	7
801	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	12	22
802	1	5PB2/1	青灰色	粘質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	7	13
803	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	6	12
804	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	16	33
805	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	11	29
806	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	12	29
807	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	11	25
808	1	5PB2/1	青灰色	粘質土	厚層土塊を含む	12	29
809	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		19	10
810	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	14	12
811	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	8	30
812	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	8	17
813	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	5	12
814	1	2.5V4/2	暗灰黄色	砂質土	厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	13
815	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	27
816	1	2.5V5/3	黄褐色	砂質土		9	11
817	1	2.5V4/1	黄灰色	粘質土	黄褐色砂粒を少量含む	11	21
818	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	13	28
819	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	9	8
820	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	10	17
821	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	18	24
822	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土		9	13
823	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	9	20
824	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	7	10
825	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	8	9
826	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	7	11
827	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	10	20
828	1	10YR6/2	灰黄褐色	砂質土	厚層土塊を含む	10	32
829	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	18	25
830	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	13
831	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	17	27
832	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	12	20
833	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	9	34
834	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土		19	27
835	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	19	15
836	2	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土	粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	35	16
837	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	9	39
838	1	2.5V4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり	6	31
839	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	16	14
840	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土		10	9
841	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	14	17
842	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む	12	13
843	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	12	13
844	1	2.5V5/2	暗灰黄色	砂質土		3	18
845	1	10YR5/3	にじみ黄褐色	砂質土	中～粘粒あり	6	15
846	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、厚層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	8	14
847	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む	11	15
848	1	2.5V4/2	暗灰黄色	砂質土			

第49表 下堀遺跡 III・III層上面 柱穴一覽表 (12)



柱穴番号	土層番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)
849	1	10YR4/1	褐色色	砂質土		
850	1	2.5Y1/1	黄灰色	砂質土	やや粘質あり、黄褐色砂粒を少量含む	
851	1	2.5Y1/1	黄灰色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	
852	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり	11 15
853	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	黄褐色砂粒を少量含む	7 30
854	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	6 15
855	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土		7 3
856	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土		8 11
857	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土		8 21
858	1	2.5Y5/3	黄褐色	砂質土		8 7
859	1	10YR4/3	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	13 17
860	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		12 12
861	1	10YR5/0	にぶい黄褐色	砂質土		8 13
862	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	9 21
863	1	10YR4/1	褐色色	砂質土		8 6
864	1	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む、5P10/1の青黒色土を含む	10 27
865	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土	黒層土壌を含む	8 8
866	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土		11 14
867	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土		5 10
868	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土		13 17
869	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	11 15
870	1	2.5Y5/0	にぶい黒色	砂質土		8 10
871	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土	やや粘質あり	29 28
872	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	12 39
873	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土		7 20
874	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	18 15
875	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	
876	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	9 11
877	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	やや粘質あり、5P10/1の青黒色土を含む	10 16
878	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土		10 18
879	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	黄褐色砂粒を少量含む	
880	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	やや粘質あり	8 10
881	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり	19 7
882	1	10YR3/2	黒褐色	粘質土	ややい	5 14
883	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	6 12
884	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む、5P10/1の青黒色土を含む	16 42
885	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	12 16
886	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり、黄褐色砂粒を少量含む	17 18
887	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	5 39
888	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	黒層土壌を含む	13 9
889	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含み、黄褐色砂粒を少量含む	19 26
890	2	10YR3/1	黒褐色	砂質土	黒層土壌を含む	
890	1	2.5Y5/2	暗灰紫色	砂質土		7 8
891	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	9 14
892	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		14 16
893	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	黒層土壌を含む	6 11
894	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	黒層土壌を含む	12 12
895	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	6 23
896	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり	7 15
897	1	7.5YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	10 27
898	1	10YR4/1	褐色色	砂質土		6 6
899	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	黒層土壌を含む	11 9
900	1	10YR4/1	褐色色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	7 17
901	1	2.5Y3/2	暗褐色	土	1mm大の炭化物を含む	13 22
902	1	2.5Y3/1	暗褐色	砂質土	1mm大の炭化物を含む	
902	2	2.5Y4/1	暗灰紫色	砂質土	やや粘質あり	13 17
903	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		11 5
904	1	2.5Y3/2	暗褐色	砂質土	やや粘質あり	7 16
905	1	7.5Y2/1	黒色	土	黒層土壌を含む	8 11
906	1	5Y3/2	オリーブ黒色	土	1mm大の炭化物を含む	8 6
907	1	3Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		7 6
908	1	5Y3/2	オリーブ黒色	土	1mm大の炭化物を含む	6 10
909	1	3Y3/2	オリーブ黒色	土	1mm大の炭化物を含む	4 4
910	1	5Y3/2	オリーブ黒色	土	1mm大の炭化物を含む	16 6
911	1	5Y3/2	オリーブ黒色	砂質土		12 29
912	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		12 28
913	1	5Y3/1	オリーブ黒色	砂質土		11 8
914	1	10YR4/2	灰黄褐色	土		10 3
915	1	2.5Y3/2	暗褐色	土		10 19
916	1	2.5Y3/2	暗褐色	土	1mm大の炭化物を含む	5 11
917	1	2.5Y3/1	暗褐色	土		12 13
918	1	5Y4/4	暗オリーブ黒色	土		14 14
919	1	2.5Y3/1	暗褐色	土	1mm大の炭化物を含む	17 19
920	1	2.5Y3/1	暗褐色	土	やや粘質あり	5 13
921	1	2.5Y3/1	暗褐色	砂質土	黒層土壌を含む	13 21
922	1	2.5Y3/1	暗褐色	砂質土	やや粘質あり、黒層土壌を含む	14 24
923	1	2.5Y2/1	黒色	砂質土	やや粘質あり	12 13

第50表 下堀遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表 (13)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特徴・備考	深 (cm)	深さ (m)
924	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	17	11
925	1	2.5Y5/2	黄褐色	砂質土	12	6
926	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	16	30
927	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	16	55
	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		
	3	5Y2/1	灰色	砂質土		
	4	2.5Y4/4	オリーブ褐色	粘質土		
928	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	19	51
929	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	6	10
930	1	2.5Y4/2	黄灰色	砂質土	13	33
931	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	13	11
932	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	15	18
	2	2.5Y6/4	灰黄色	砂質土		
933	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	14	13
934	1	10YR3/1	暗褐色	砂質土	12	7
935	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	9	9
936	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	14	34
937	1	N10/0	暗灰色	砂質土	13	17
	2	2.5Y5/2	黄褐色	砂質土		
938	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	10	6
939	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	13	42
940	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	13	26
	2	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土		
941	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	10	15
	2	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土		
942	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	15	30
943	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	15	27
944	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土	15	8
945	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	10	4
946	1	2.5Y4/3	オリーブ褐色	砂質土	17	35
947	1	5Y4/1	灰色	砂質土	34	26
948	1	7.5Y3/1	オリーブ灰色	砂質土	11	22
949	1	7.5Y3/1	オリーブ灰色	砂質土	8	42
950	1	7.5Y3/1	オリーブ灰色	砂質土	4	28
951	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	15	28
952	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	14	25
953	1	5Y2/1	オリーブ灰色	砂質土	11	5
954	1	5Y4/1	灰色	砂質土	10	56
955	1	7.5Y3/1	オリーブ褐色	砂質土	14	51
956	1	5Y4/1	灰色	砂質土	15	29
957	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	9	17
958	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	9	17
959	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	6	21
960	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	6	25
961	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	9	18
962	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	5	15
963	1	5Y4/2	灰オリーブ色	砂質土	7	28
964	1	5Y4/1	灰色	砂質土	10	51
965	1	5Y4/1	灰色	砂質土	9	18
966	1	5Y4/1	灰色	砂質土	12	25
967	1	5Y4/1	灰色	砂質土	3	6
968	1	5Y4/1	灰色	砂質土	4	12
969	1	5Y3/1	オリーブ褐色	砂質土	19	34
970	1	5Y4/1	灰色	砂質土	9	3
971	1	5Y4/1	灰色	砂質土	8	30
972	1	5Y4/1	灰色	砂質土	7	7
973	1	5Y4/1	灰色	砂質土	11	12
974	1	5Y4/1	灰色	砂質土	11	24
975	1	5Y4/1	灰色	砂質土	12	11
976	1	5Y4/1	灰色	砂質土	7	22
977	1	5Y2/1	黒色	砂質土	4	13
978	1	5Y4/1	灰色	砂質土	10	13
979	1	5Y4/1	灰色	砂質土	12	16
980	1	2.5Y2/1	黄褐色	砂質土	8	22
981	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	8	9
982	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	8	21
983	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	18	22
984	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	9	22
985	1	10YR3/1	暗褐色	砂質土	4	12
986	1	10YR6/3	にじみ黄褐色	砂質土	13	22
987	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	9	8
988	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	16	26
989	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	6	10
990	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	5	6
991	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	14	11
992	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	7	7
993	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	8	11

第51表 下堀遺跡 Ⅲ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表 (14)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (cm)	
994	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		16	11
995	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		7
996	1	10YR2/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		7
997	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土			9
998	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		6
999	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		8
1000	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	中～粘粒あり		5
1001	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		7
1002	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土			6
1003	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土			11
1004	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり		15
1005	1	10YR2/1	黒褐色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		10
1006	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土			7
1007	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	黄褐色砂粒を少量含む		17
1008	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり		10
1009	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり		8
1010	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		10
1011	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		16
1012	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		9
1013	1	10YR2/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む		15
1014	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		7
1015	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		9
1016	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む		5
1017	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		10
1018	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		12
1019	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		9
1020	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		10
1021	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を多く含む		10
1022	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む		8
1023	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		14
1024	2	2.5YR4/2	赤褐色	砂質土	中～粘粒あり		13
1024	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		13
1025	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	層層土塊を含む		4
1026	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		9
1027	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	層層土塊を含む		5
1028	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		21
1029	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		21
1030	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		23
1031	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む		7
1032	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		17
1033	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	層層土塊を含む		5
1034	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		7
1035	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を多く含む		19
1036	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	中～粘粒あり、中～粘		5
1037	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		6
1038	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む		13
1039	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土			8
1040	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を多く含む		15
1041	1	2.5Y4/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり		8
1042	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	層層土塊を含む		6
1043	1	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む、5P10/1の青黒色土を含む		14
1044	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		3
1045	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		13
1046	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		6
1047	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		6
1048	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		15
1049	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土			8
1050	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		10
1051	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		7
1052	1	10YR3/1	黒褐色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む		9
1053	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		6
1054	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		19
1055	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む		8
1056	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		7
1057	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		13
1057	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり		13
1058	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		9
1059	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり		9
1060	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		14
1061	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		11
1062	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		17
1063	1	10YR4/1	褐灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		14
1064	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		9
1065	1	2.5Y3/1	黒褐色	砂質土			5
1066	1	2.5Y6/3	にじみ黄色	砂質土	中～粘粒あり		6
1067	1	2.5Y6/3	にじみ黄色	砂質土	中～粘粒あり、層層土塊を含む		7
1068	1	2.5Y5/1	黄灰色	砂質土	中～粘粒あり、黄褐色砂粒を少量含む		11

第52表 下堀遺跡 Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表 (15)

柱穴番号	土層 番号	土色	土質	特徴・備考	径 (cm)	深さ (m)
1069	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	22	34
1070	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	11	31
1071	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	9
1072	1	10YR4/1	褐色	砂質土	10	10
1073	1	7.5YR4/1	褐色	砂質土	10	15
1074	1	7.5YR4/1	褐色	砂質土	11	7
1075	1	7.5YR4/1	褐色	砂質土	12	11
1076	1	2.5Y4/1	黄灰色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	7	21
1077	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	20	12
1078	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	6	7
1079	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む	9	13
1080	1	10YR4/1	褐色	砂質土	15	8
1081	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む	8	13
1082	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	11	30
1083	1	Nz/0	黒色	粘質土	33	23
1084						
1085	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土		
1086	1	10YR5/1	暗灰色	砂質土	11	16
1087	1	10YR5/1	暗灰色	中粘性あり、珪層土塊を含む	11	31
1088	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	10	11
1089	1	10YR4/1	褐色	砂質土	12	30
1090	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	10	27
1091	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	12	28
1092	1	10YR5/2	灰黄褐色	砂質土	11	13
1093	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり	7	9
1094	1	10YR4/1	褐色	珪層土塊を含む	10	15
1095	1	10YR4/1	褐色	珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	32
1096	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む	16	16
1097	1	2.5Y3/1	黄褐色	砂質土	6	14
1098	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	7	23
1099	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	18	21
1100	1	10YR4/1	褐色	砂質土	7	4
1101	1	2.5Y7/3	淡紫色	砂質土	16	8
1102	1	10YR4/1	褐色	砂質土	9	13
1103	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む	12	28
1104	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	7	15
1105	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む	9	18
1106	1	10YR4/1	褐色	砂質土	10	19
1107	1	2.5Y7/3	淡紫色	砂質土	19	13
1108	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	31
1109	1	5PB2/1	青黒色	粘質土	18	32
1110	2	10YR4/1	褐色	黄褐色砂粒を少量含む		
1111	1	10YR4/1	褐色	砂質土	9	15
1111	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む、5P10/1の青黒土を含む	12	30
1112	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	8	12
1113	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	9	12
1114	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	8	11
1115	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	15	22
1116	1	10YR4/1	褐色	砂質土	15	27
1117	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	30
1118	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	13	10
1119	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	10	16
1120	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	10	12
1121	1	10YR4/1	褐色	砂質土	15	12
1122	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり	15	17
1123	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土	16	33
1124	1	2.5Y5/2	暗灰黄色	砂質土		
1124	2	2.5Y5/2	黄灰色	砂質土	21	25
1125	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	14	13
1126	1	10YR5/1	暗褐色	砂質土	13	15
1127	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む	14	29
1128	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	8	25
1129	1	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	8	32
1130	1	10YR4/1	褐色	中粘性あり、珪層土塊を含む、黄褐色砂粒を少量含む		
1130	2	2.5Y4/1	黄灰色	砂質土	23	22

第53表 下掘遺跡Ⅱ・Ⅲ層上面 柱穴一覧表(16)

## ウ) 遺物

出土した遺物は、縄文時代早期に比定でき、検出面2・3に対応するものと考えられる。

### a. 遺物の分布・出土状況

遺物の平面分布は、図に示したとおりで土器分類ごとに偏りが見られる。1～4類は調査区中央部の東側斜面と北側斜面の上方に、それぞれ比較的集まる小さな範囲をもつが、5類になると範囲が大きく広がり、同じ等高線の範囲を広く利用している。とくに東側と西側に比較的集まる範囲が存在する。6類になると分布の広がる範囲は狭くなり、出土量も少なくなるが、分布域は5類とほぼ同じ傾向を示す。しかし、一方で5類の分布があまり見られない地点である調査区中央の北側斜面に比較的集まる範囲が存在している。7類は極端に集中する範囲を2ヶ所もつが、調査区南側の最頂部付近の範囲は8・10類の集中範囲と重なっている。なお、石器は広く散在しているが、土器7・8・10類の集中部に比較的剥片が集まっている。

水直分布及び層位的には、遺物はおもにⅨ・Ⅹ層に集中するが、土器では1～9類がⅩ層、10類がⅧ層より出土する傾向が見られる。Ⅺ層からはⅨ・Ⅹ層に包含される土器が出土するが、出土量は極めて少なく、1～9類の生活面がⅨ・Ⅹ層中に推定されることから遺構などの門みに堆積したものと思われる。

なお、今回、チョコ(Ⅳ)層から黒曜石が1点のみ出土しており、縄文時代草創期の遺物の可能性が考えられる。しかし、断ち割り調査などで下層を確認したが他に遺物が見られなかった。そのため、落ち込みの可能性も考えられる。

### b. 土器

すべての土器を特徴から11類に分類して、諸説<sup>9)</sup>に従い形式の古い順に並べている。なお、11類は縄文時代晩期にあたり、前節に記述している。

#### 土器1類 (131～147)

口縁端部に縦の刻目が巡り、胴部外面に横位の貝殻条痕文を全面に施したものを1類とした。形式は前平式に比定される。推定される個体数は1類-1が1個体、1類-2が2個体である。

1類は1類-1(141～150)と1類-2(151～157)に分けられる。1類-1は口唇部が上を向いた面をもち、浅い刻目が施される。胴部には横位の貝殻条痕文の上から縦位に流水文が施される。

1類-2は口唇部がなく、外側斜上向きに面をもった口縁端部に刻目が横位に巡る。体部には流水文は見られない。ただし、残存状況が悪く確実ではない。また、いずれの土器片も全体的に摩滅しており、とくに胴部146は河川堆積に見られるローリングを受けた土器に酷似する。

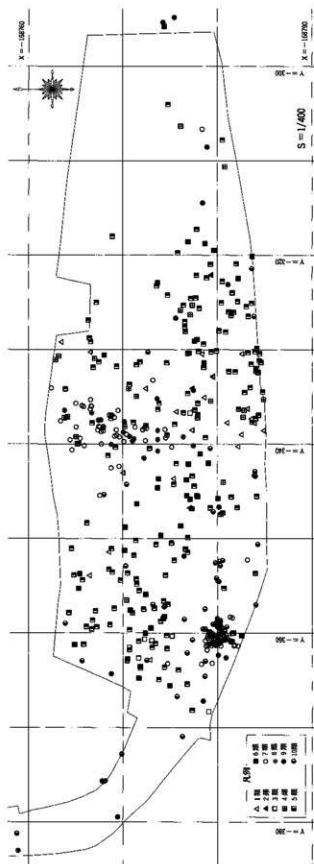
その他、胴部147は上記と異なり、横位の貝殻条痕文の単位幅が4本/cmと狭い。また、角筒形の可能性<sup>1)</sup>も考えられる。

#### 土器2類 (148・149)

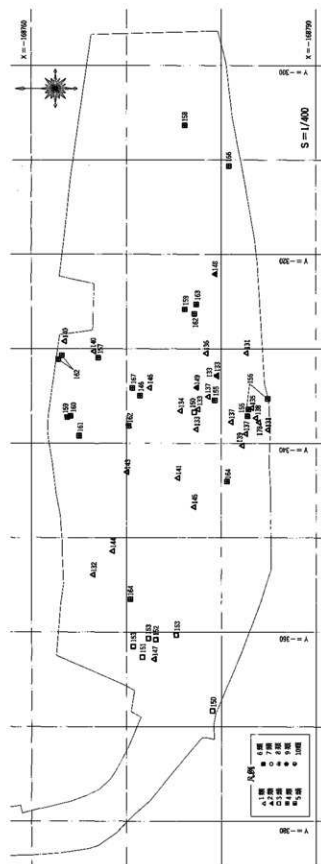
押引文が施されたものを2類とした。形式は吉田式に比定される。出土量はわずかで図化した2点のみである。推定される個体数は1個体である。口縁部148には外面から施した2ヶ所の穿孔が見られる。

#### 土器3類 (150～154)

口縁端部に横位の貝殻刺突文と胴部に横位の貝殻条痕文が施されたものを3類とした。形式は倉重B式に比定される。出土量は少なく、図化した5点のみである。推定される個体数は1個体であるが、

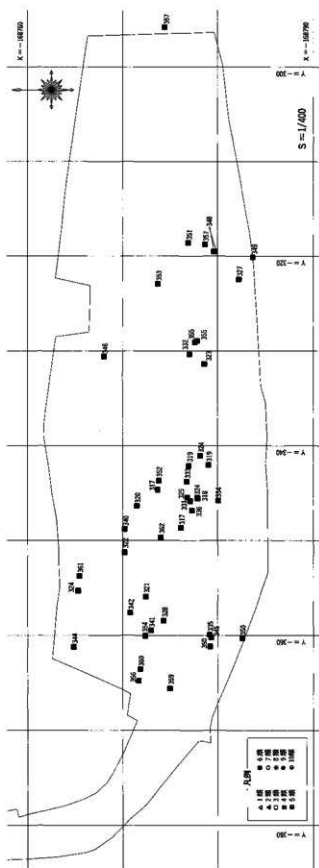
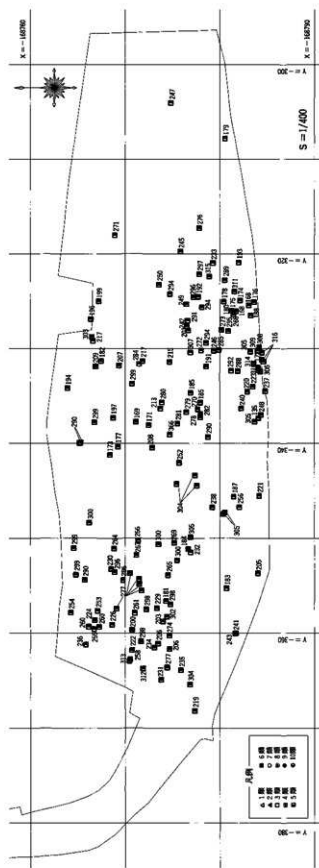


土器 1~10類

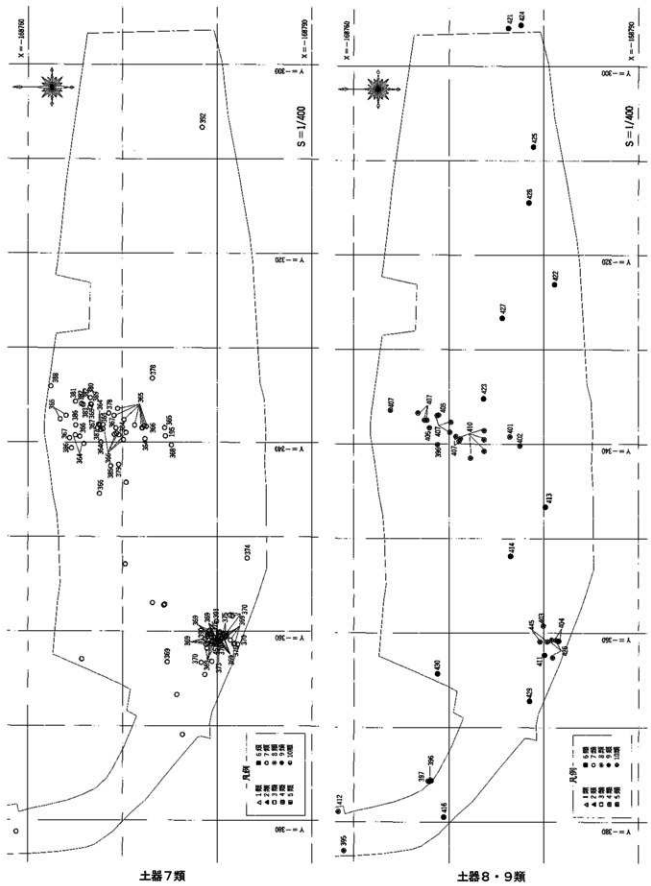


土器 1~4類

第167図 下堀遺跡 VII~XI層 遺物分布状況 (1)

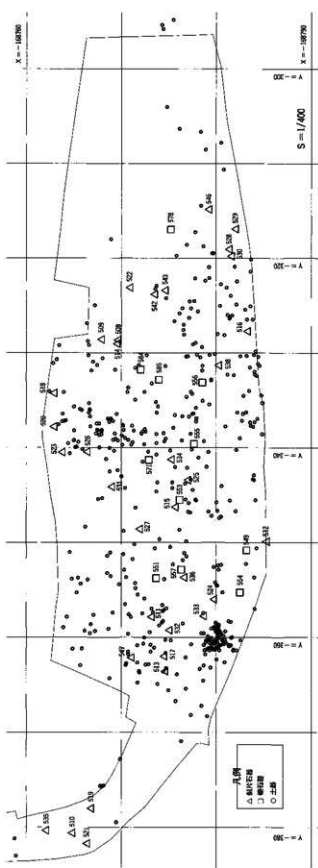
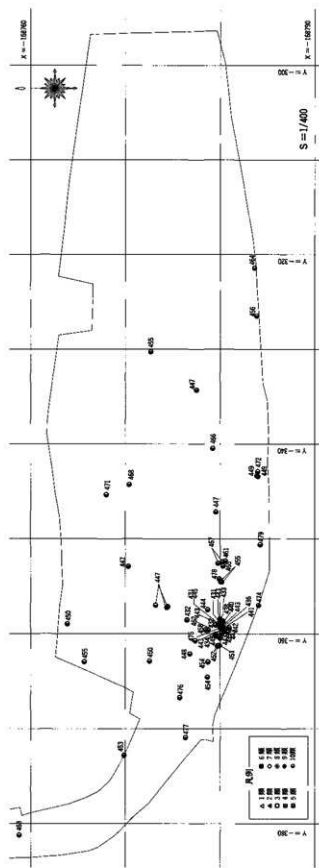


第168図 下堰遺跡 VII～XI層 遺物分布状況 (2)

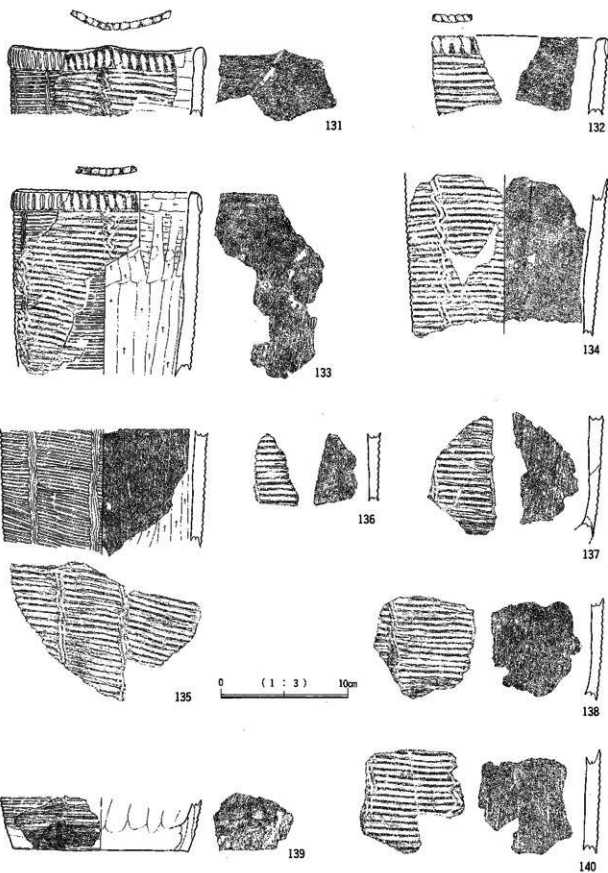


第169図 下堰遺跡 VII～XI層 遺物分布状況 (3)

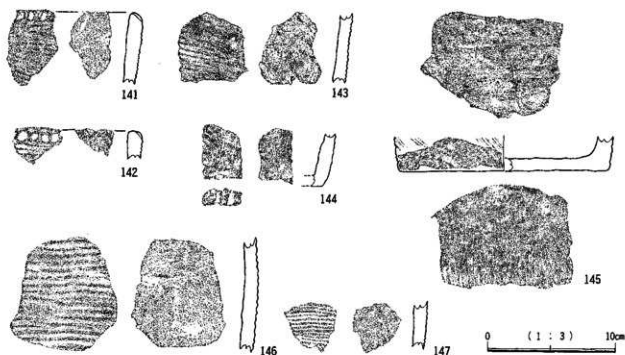




第170図 下堀遺跡 VII~XI層 遺物分布状況(4)



第171圖 下堀遺跡 土器1類(1)



第172図 下堀遺跡 土器1類(2)

底部154は別個体の可能性がある。色調が灰白色である点が他の土器と大きく異なる。

#### 土器4類(155~167)

胴部外面に綾杉状の貝殻条痕文が施されるものを4類とした。形式は石坂式に比定される。出土量は少なく、図化した13点と未掲載の4点である。4類-1(155~163)と4類-2(164~167)に分けられる。推定される個体数は4類-1が1個体、4類-2が2個体である。

4類-1には、内面に黒斑を思わせる黒色化範囲が見られる。

4類-2の4点は類似するが、口縁部164は、他の3点に比べて器壁が薄く、胴部の綾杉条痕文の深さが深く、施文も粗いなど異なる点が見られる。

#### 土器5類(168~316)

外向きに真っ直ぐ延びた口縁がやや内に傾く口縁をもち、貝殻刺突文で文様を構成するものを5類とした。形式は下斜釜式に比定される。出土量が最も多い。推定される個体数も少なくとも完全形・底部で10個体になり、細片も加えればそれ以上であると考えられる。

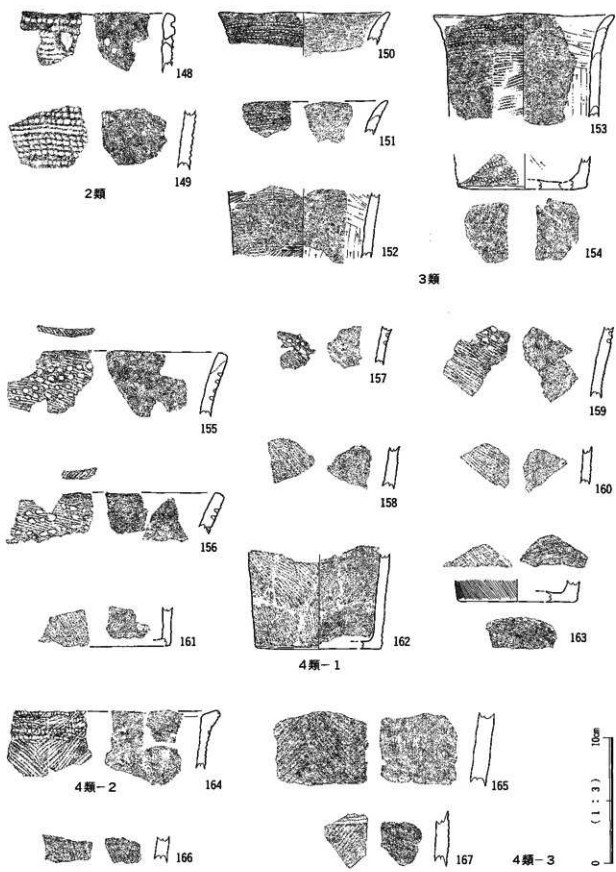
5類は、刺突文の施文原体の種類からおおまかに三つに分けられる。

- 5類-1：貝殻腹縁の刺突文 — アナガラ属の貝殻の腹縁文
- 5類-2：貝殻腹縁の刺突文 — それ以外の細く細かな波状の腹縁文
- 5類-3：貝殻の腹縁文以外の刺突文

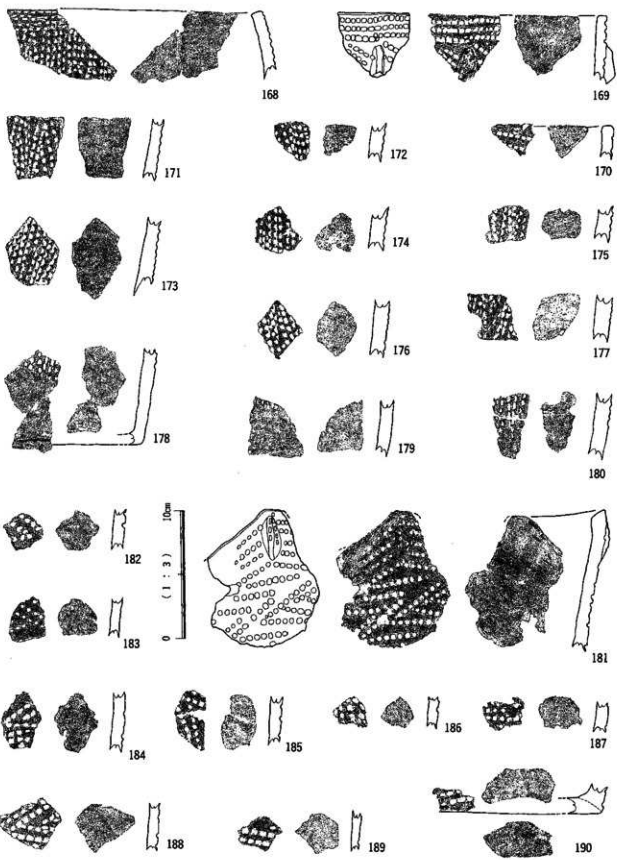
5類-1は、完形に近い304~316と比較的個体を復元できる168・171~180がある。後者は推定される器形の中で最も内湾する口縁をもつ。

5類-2は、265~303で5つの口縁部に4つの底部が見られる。266・267には突帯状に口縁に沿った突起が見られる。底部295・胴部296・底部299はレモン形の器形の可能性が考えられる。

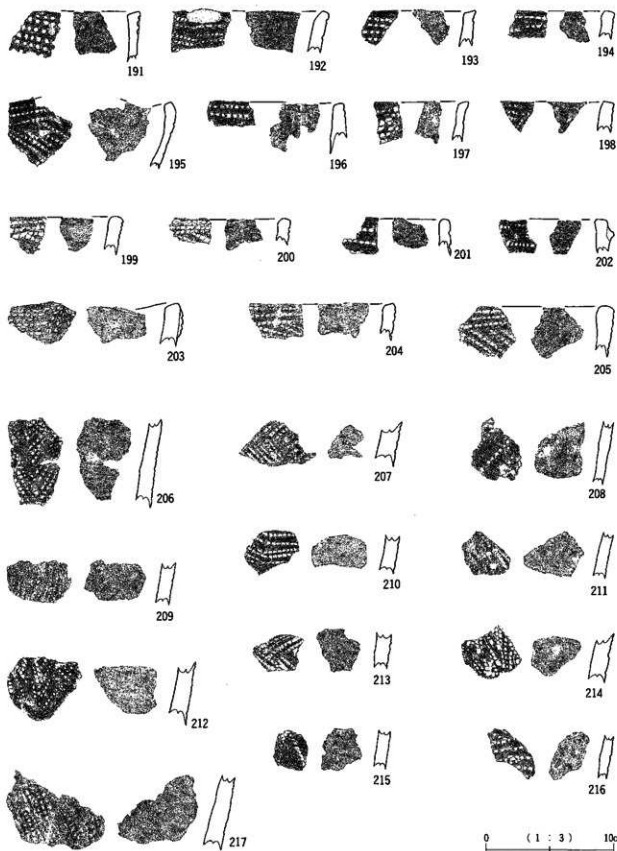
5類-3は、文様は口縁端部に横位の刺突文を、胴部には山形や「>」状に刺突を施す。口縁端部には楕円形の瘤状突起をもつものがある。



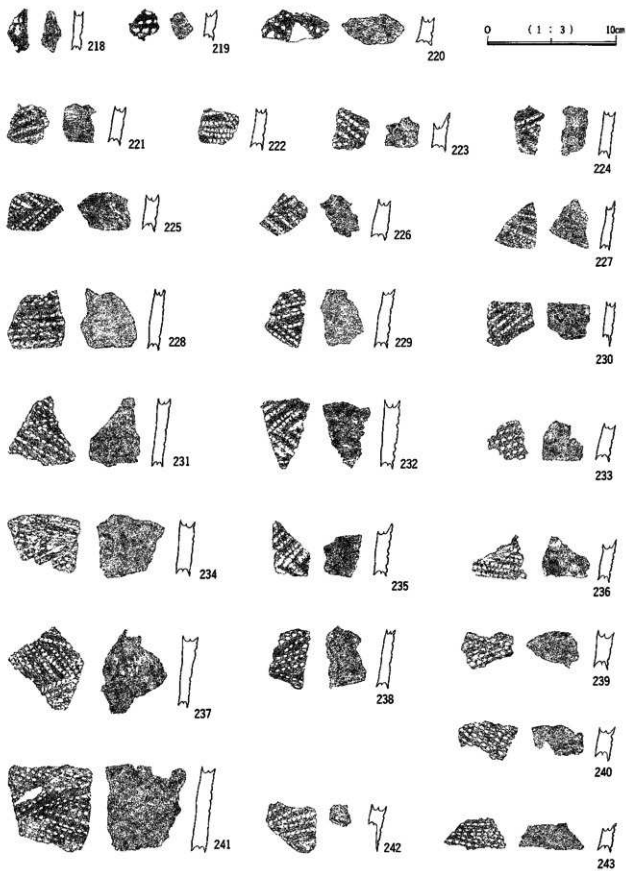
第173図 下堰遺跡 土器2・3・4類



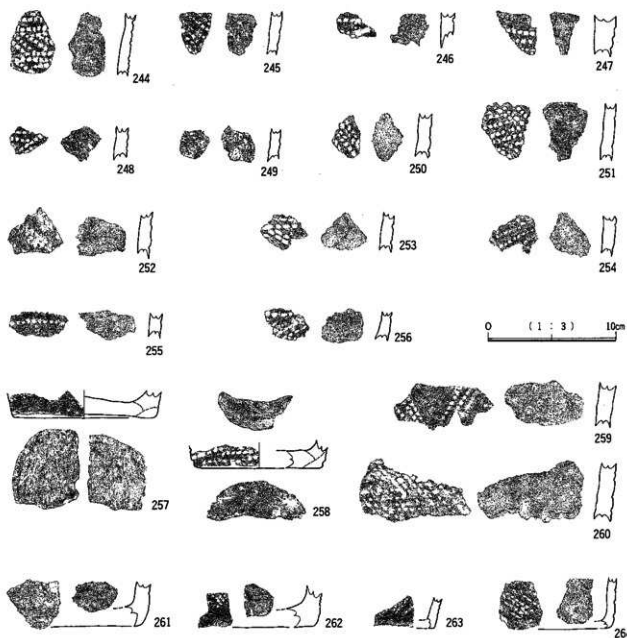
第174圖 下堀遺跡 土器5類 (1)



第175図 下堀遺跡 土器5類(2)



第176図 下堀遺跡 土器5類(3)



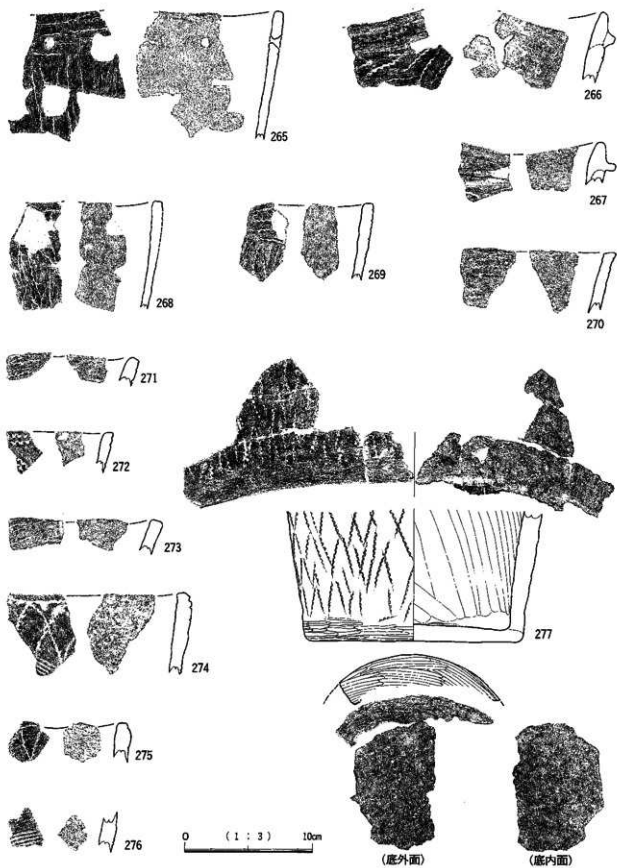
第177図 下堀遺跡 土器5類 (4)

#### 土器6類 (317~363)

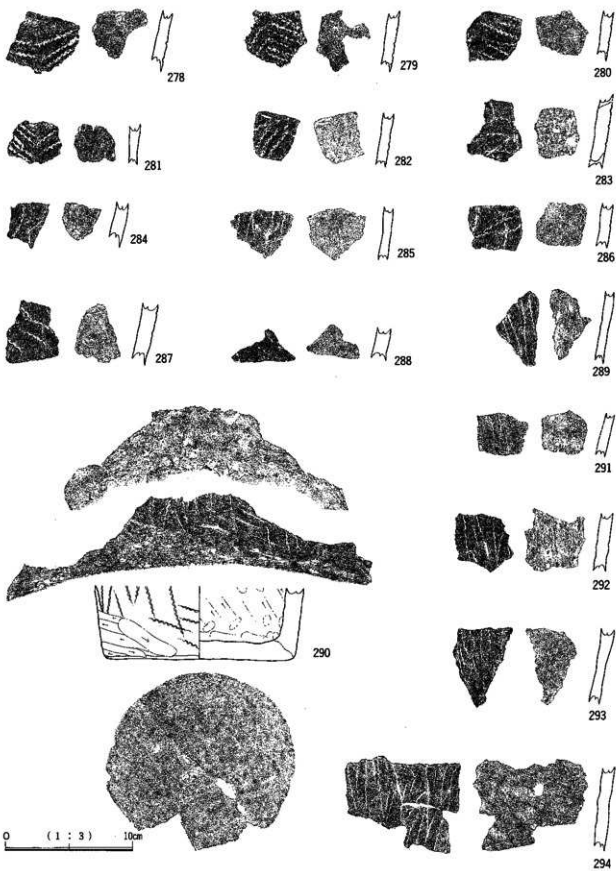
バケツ形の器形に肥厚した口縁端部をもち、胴部外面に密度が疎の綾杉文文様を只殻条痕文で施文するものを6類とした。形式は桑ノ丸式に比定される。文様の違いから6類-1 (317~343)、6類-2 (344~363) の二つに分けられる。

出土量は少ないが、推定される個体数は約3個体分と考えられ、6類-1が2個体、6類-2が1個体と推定される。

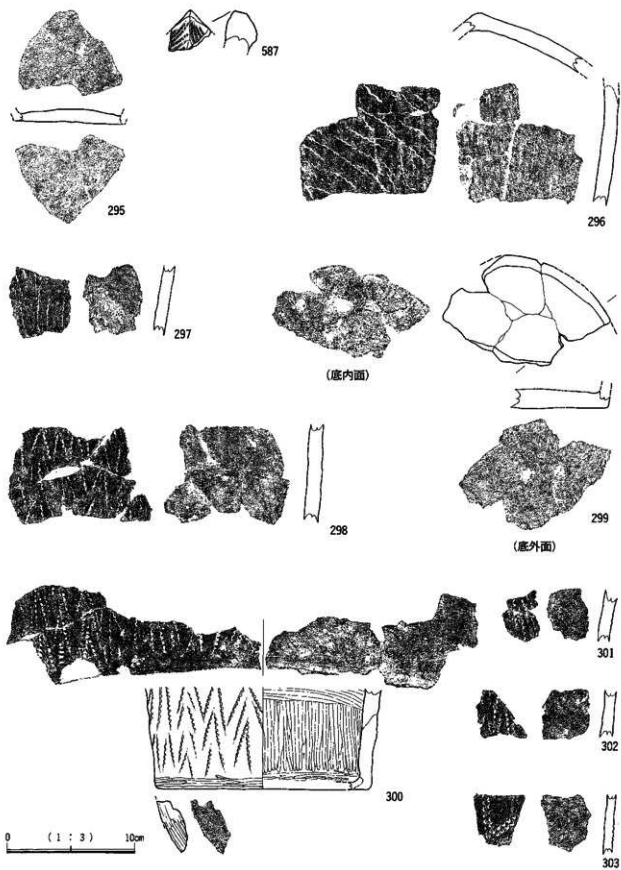




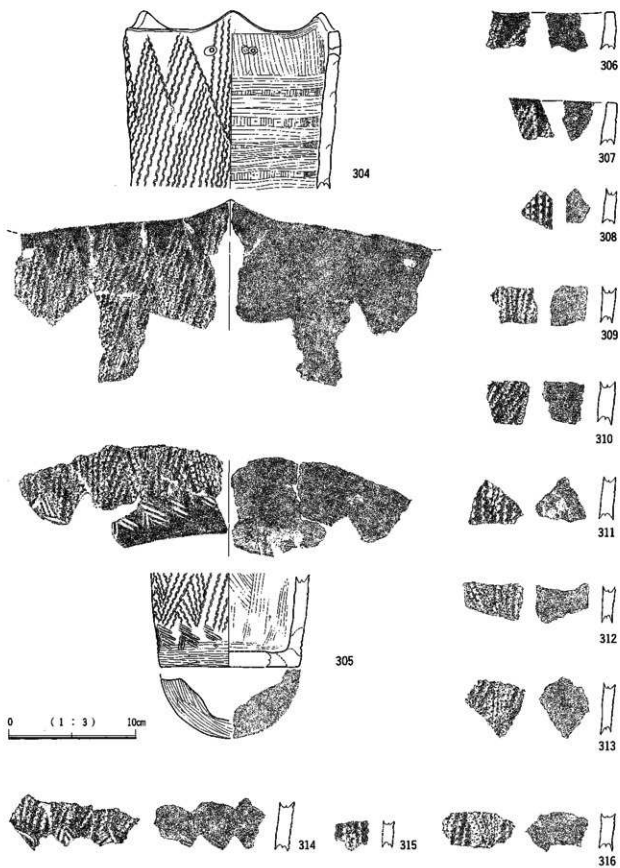
第178図 下堀遺跡 土器5類 (5)



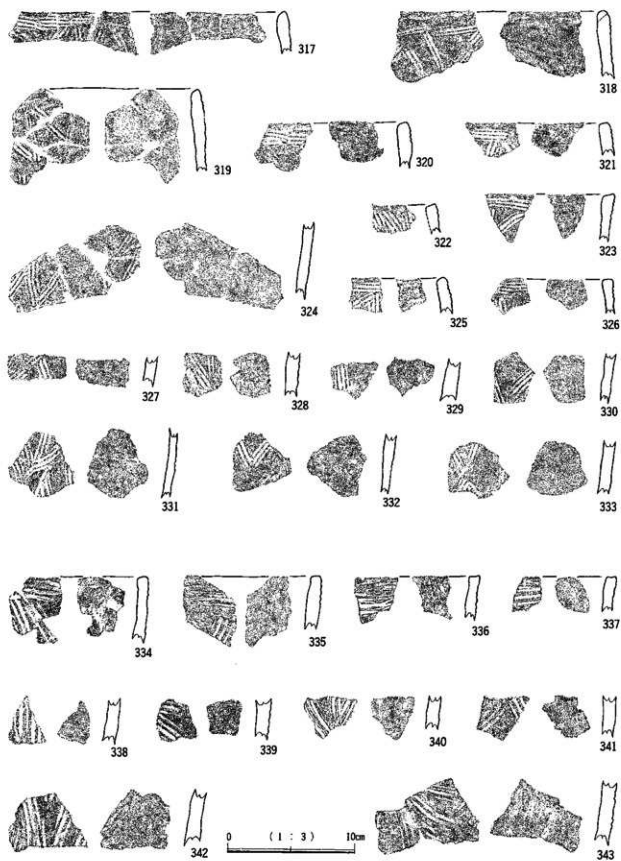
第179圖 下掘遺跡 土器5類(6)



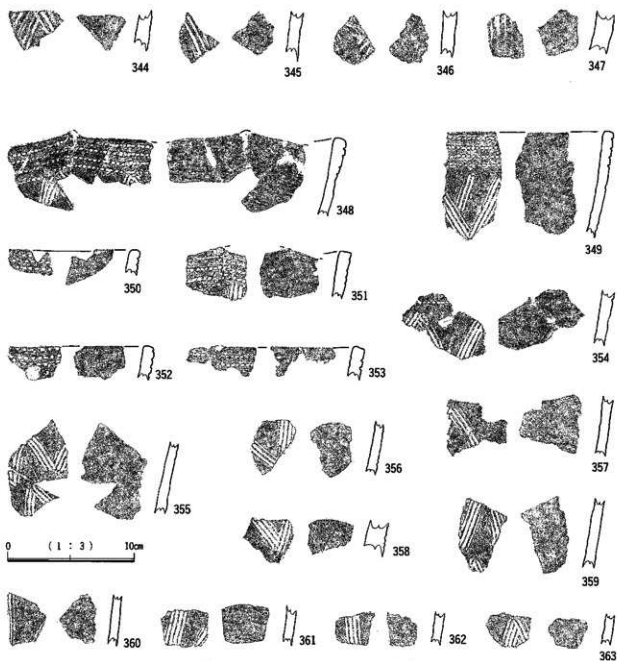
第180图 下堀遺跡 土器5類(7)



第181圖 下堀遺跡 土器5類(8)



第182図 下堀遺跡 土器6類(1)



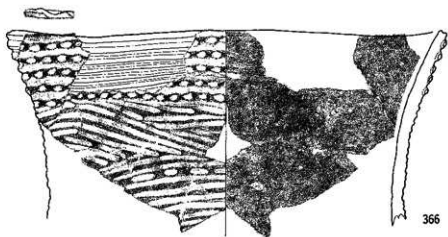
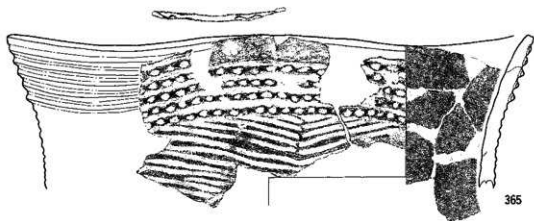
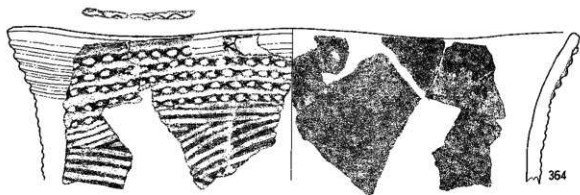
第183図 下堀遺跡 土器6類(2)

土器7類 (364~392)

波状口縁に数状の刻目突帯文があり、胴部に沈線文で幾何学文様を施文するものを7類とした。形式は手向山式と考える。推定される個体数は5個体と考えられる。

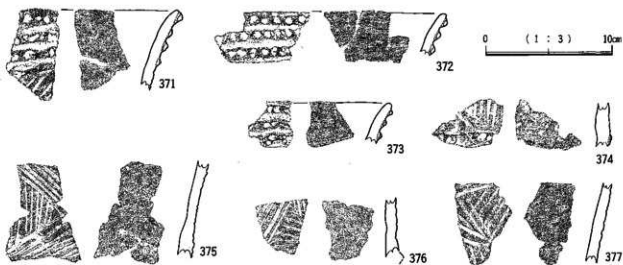
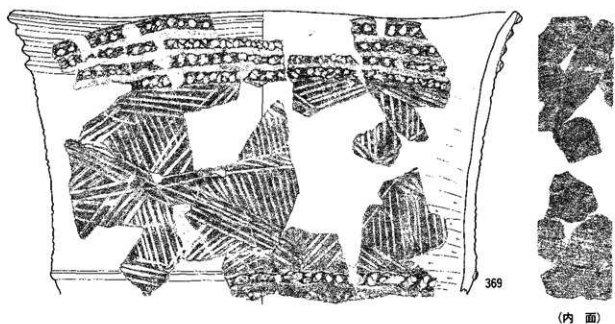
土器はそれぞれ個体差ともいえる違いが見られる。突帯数は4条のもの(369~371)と5条のもの(364~367)がある。刻目の施文原体は先端の丸いもの(364~368)と先端がいくつかの節に分かれているもの(369~373)がある。胴部の沈線は掘りの浅く幅の広いもの(364~369・378~389)と狭く浅いもの(370~377)とがある。また、口縁部366は最も上位の突帯が赤色であり、断面も赤いことから粘土が異なる可能性が考えられる。

また、土器369の残存部下端には、不明瞭ながら山形の押型文の痕跡が見られる。8類の押型文とは



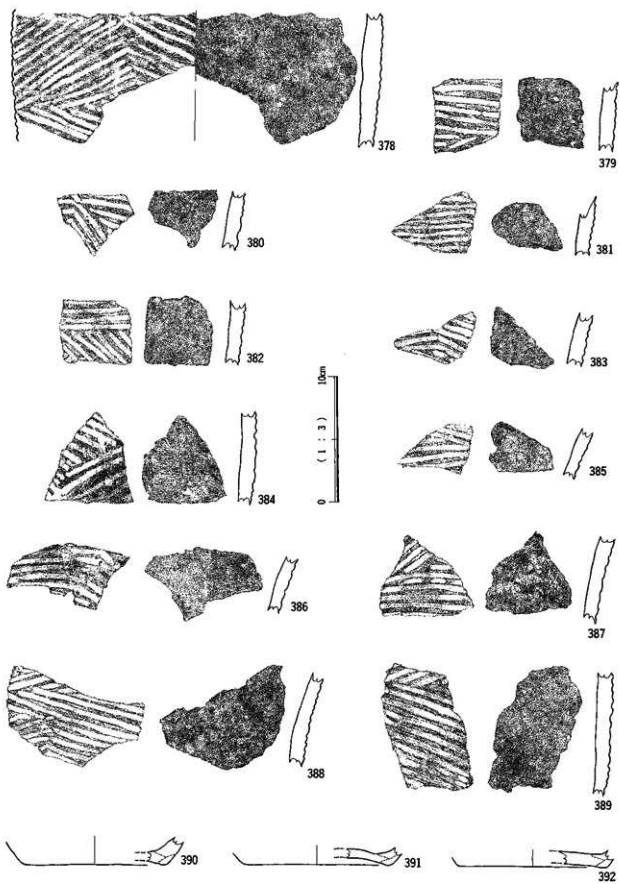
0 ( 1 : 3 ) 10cm

第184図 下堀遺跡 土器7類 (1)

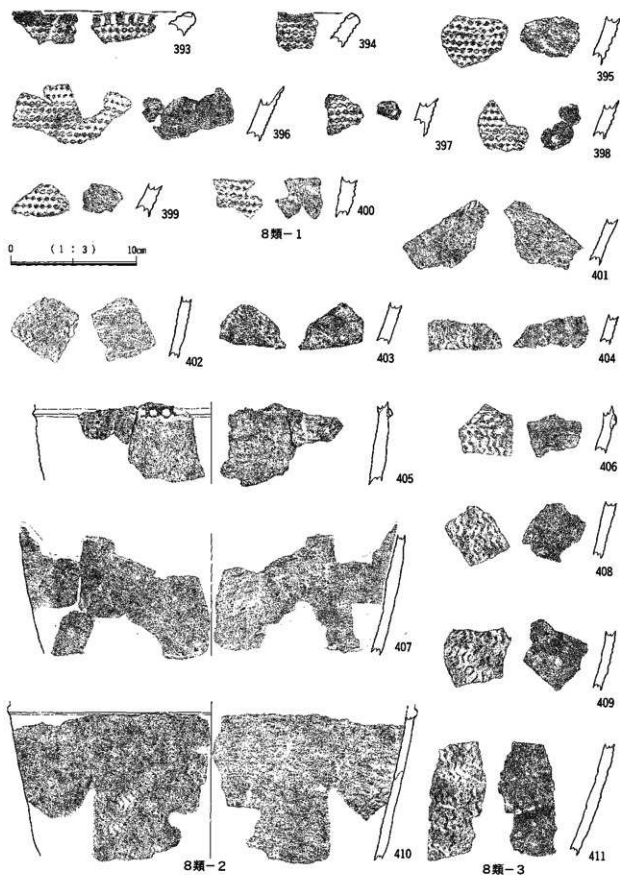


第185図 下堀遺跡 土器7類(2)

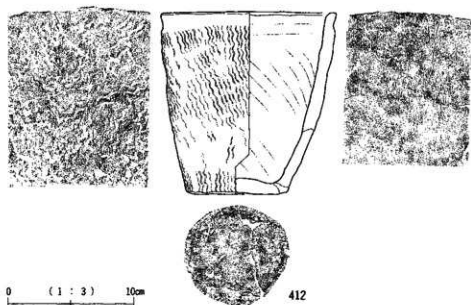




第186図 下堀遺跡 土器7類 (3)



第187圖 下塚遺跡 土器8類(1)



第188図 下堀遺跡 土器8類(2)

分布域も重なることから、土器369と8類-2は、本来、同一個体の可能性が考えられる。

その他に底部390~392があり底面が上げ底となる。

#### 土器8類 (393~412)

外面に押型文が施されるものを8類とした。器形・文様などから三つに分けられ、8類-1 (393~400)、8類-2 (401~411)、8類-3 (412)になる。推定される個体数は3個体と考えられる。

8類-1は、楕円形の押型文で破片の状態出土している。

8類-2は、山形の押型文が浅く不明瞭な401~404・407・410と深く明瞭な406~411に分かれる。

この土器群は、前述のとおり、7類の土器群と同一個体の可能性が考えられる。

8類-1の412は、ほぼ完形の個体で、器高は約3cmと小型である<sup>10)</sup>。

#### 土器9類 (413~430)

Ⅸ~Ⅺ層において、わずかに出土が確認された土器を9類としてまとめている。その中でも土器413~415・417・418は塞ノ神様式に比定される。詳細については表に述べている。

#### 土器10類 (431~479)

胴部の外面を貝殻条痕で整えて、わずかに外反した口縁部の口唇部に刻目を施すものを10類に分類した。おもに第Ⅷ層より出土している。形式は右京西式と呼ばれる土器群に比定される。

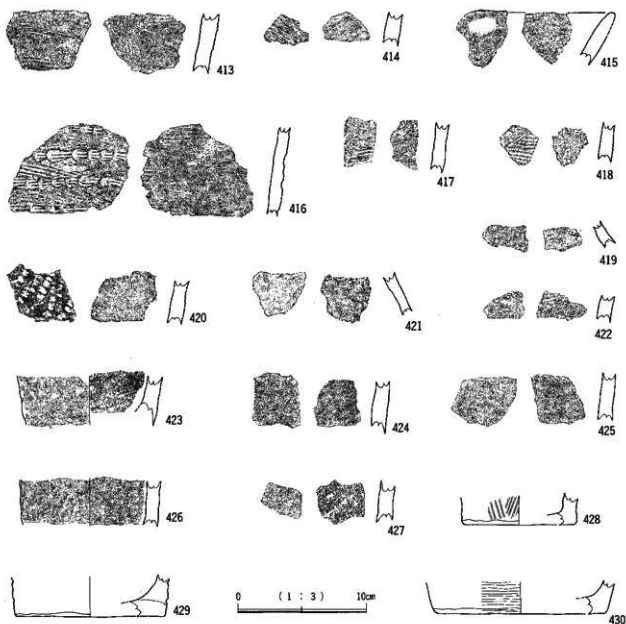
10類は口縁部に貼り付け突帯のある10類-1 (431~447)と突帯のない10類-2 (448~457)に分けられる。推定される個体数は10類-1が2個体、10類-2が3個体程度を考えられる。

ほとんどの土器は外面が煤けて炭化物の付着が見られる。

土器431~445は同一個体と考えられ、外面に多量の煤・炭化物が見られて全体が摩滅する。

土器446・447は同一個体と考えられる。遺存状況は個体の3分の1であり、出土状況が外面を上にして、横に倒れた状態であった。また、この土器は突帯上とその上の刺突に、繊維状の組織をもった原体を用いている。口唇部のキザミも棒状の施文原体を使用する。

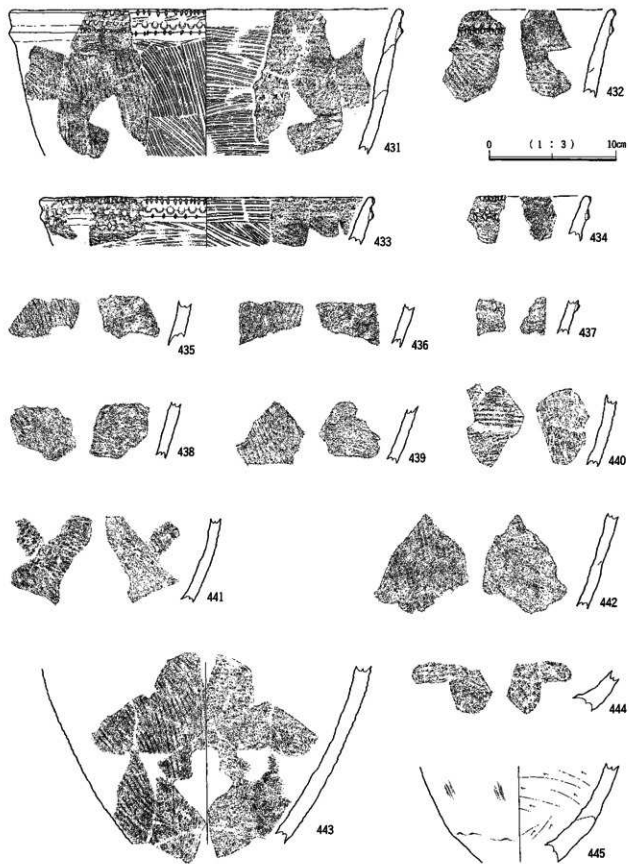
10類-2に分けられる口縁部448~457は、貼り付け突帯をもたずに口唇部のみキザミを施している。刻目の原体は、454が繊維状組織のある工具、455・457がへら状工具、その他が棒状工具により施



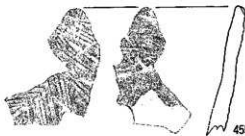
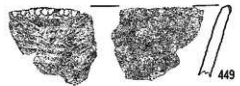
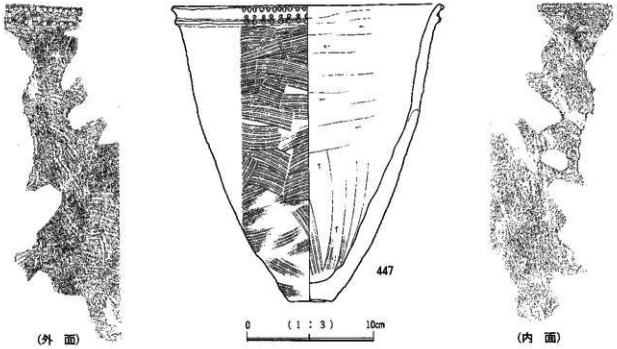
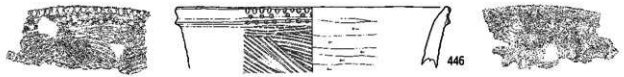
第189図 下堀遺跡 土器9類

される。

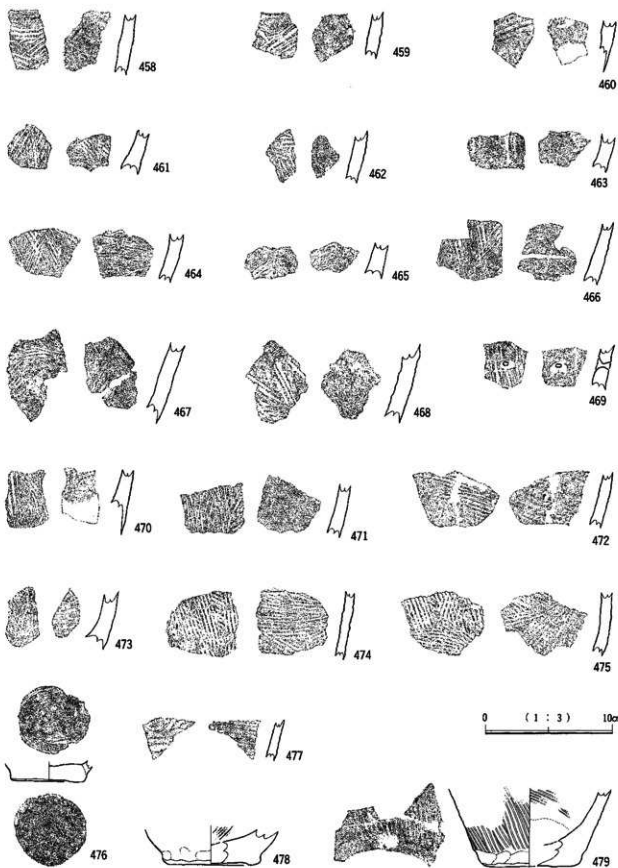
その他に、多数の胴部458～475がある。胴部469には穿孔が見られて全体が摩滅する。底部は476～479の3点があり、いずれも平底である。



第190図 下場遺跡 土器10類(1)



第191圖 下掘遺跡 土器10類 (2)



第192圖 下壩遺跡 土器10類(3)

分類	細分	神号 番号	形態	文様と器面装飾		色調	胎土と泥和材		備考
				外面	内面		含有量・種類・粒度	胎土	
1類	-1	131 140	円筒形、やや波状の口縁 口縁が湾曲し直ぐ延びて、 肩部が平坦面をもつ	口唇部：幅広く浅い肩目 口縁端部：長く湾曲し直ぐ 肩部：横の具紋並文を密に、横位で直文、2 条の沈線で、縦に波水文 を描く	口縁部：横のケズリ後、 ナテ 胴部：上へのケズリ、一 部、上半のケズリ下、 左側の横へのケズリが見 える	外面：5YR5/6黄 内面：7.5YR5/3cにぶい 黄褐 断面：2.5Y5/5黄褐	胎土：粘質 含有量：適度 泥和材：石英・黒色砂粒・ 炭屑・クサレ塵 粒度：1mm大を中心に2mm 大の砂粒も見られる	粘土接合は 内側	
				口唇部：横の具紋並文 胴部：斜の具紋並文	口唇部：湾曲し直ぐ延び、 口唇部が外向きに斜めの 直をもつ	外面：7.5Y R 浅黄赤 断面：7.5Y R/3黒褐	胎土：粘質・厚層 含有量：適度 泥和材：石英・炭石・雲 母・黒色砂粒・クサレ塵 粒度：3mm大以下を中心 に、5mm大の砂粒も見ら れる		
2類	148 149	円筒形 やや外反する口縁部に外 縁する口唇部をもつ	口縁端部：1条の具紋列 突文胴部：具紋の埋り込 み	口唇部：左向きのケズリ 後、ナテ 胴部：上向きのケズリ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR3/1黒褐 断面：10YR3/1黒褐	胎土：やや粗い 含有量：多量 泥和材：長石・石英・赤 褐色砂粒・雲母 粒度：1mm以下			
			ナテで整えた器面に 口縁端部：横位に3条の 具紋列突文が並行する 胴部：密に横位の具紋並 文直 底部：横位の具紋列突文 が並ぶ	口唇部：横のナテ 胴部：左向きのケズリ 底部：ナテ	外面：5Y5/2灰オリーブ 内面：5Y7/3灰黄 断面：2.5Y4/1黄灰	胎土：粘質 含有量：やや少ない 泥和材：石英・炭石・雲 母・クサレ塵 粒度：1～2mm以下	粘土接合は 内側		
3類	150 154	円筒形、やや波状 外反する口唇部、口唇部は なく、丸く整える	斜めの具紋並文で調整器 面に 口唇部：斜めの条線をキ ズミ状に並ぶ 口縁端部：横位に4条の 具紋列突文が並行 胴部：密に斜めの具紋並 文直 底部：ナテ	口唇部：左向きのケズリ 後、横のナテ 胴部：右よりのケズリ 後、ナテ？ 底部：横位に沿った粗い ナテ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR6/4cにぶい黄 褐 断面：2.5Y3/1黒褐	胎土：やや粘質 含有量：少量 泥和材：石英・黒色砂 粒・炭石・クサレ塵 粒度：1mm以下	粘土接合は 内側縁合か		
			口唇部：1条の具紋列突 文 口縁端部：横位に4条の 具紋列突文が並行 胴部：具紋並文による装 飾文	口唇部：横のナテ 胴部：上：芯状のナテ ケズリ 下：内よりのケズリ	外面：5Y6/2灰オリーブ 内面：10YR5/3cにぶい黄 褐 断面：2.5Y3/1黒褐	胎土：やや粗い 含有量：多量 泥和材：長石・石英・雲 母・黒色砂粒・クサレ塵 粒度：1mm大以下			
4類	-1	155 163	円筒形 外反する口縁部に、口唇 部が円をもつ	斜めの具紋並文で調整器 面に 口唇部：斜めの条線をキ ズミ状に並ぶ 口縁端部：横位に4条の 具紋列突文が並行 胴部：密に斜めの具紋並 文直 底部：ナテ	口唇部：横のナテ 胴部：上：芯状のナテ ケズリ 下：内よりのケズリ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR6/4cにぶい黄 褐 断面：2.5Y3/1黒褐	胎土：粘質 含有量：やや多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下	粘土接合は 内側縁合か	
				口唇部：1条の具紋列突 文 口縁端部：横位に4条の 具紋列突文が並行 胴部：具紋並文による装 飾文	口唇部：横のナテ 胴部：上：芯状のナテ ケズリ 下：内よりのケズリ	外面：5YR7/8黄 内面：7.5YR7/8黄褐 断面：7.5YR4/1黄灰	胎土：粘質 含有量：やや多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下	補綴孔あり 内面に凹形	
5類	-1	168- 171- 180	バツツ形？ 口縁部が内 側して、口唇部が内側す る平坦面をもつ	口唇部：ミガキ 口唇部-胴部：ナテ後、 具紋列突文 底部：横のミガキ	口縁部-底部：横のミガ キ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：5YR5/6明赤褐 断面：2.5Y6/4にぶい黄 褐	胎土：粘質 含有量：やや多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下		
				口唇部：ミガキ 口唇部-胴部：ナテ後、 具紋列突文を山形に 突出 底部：具紋並文を山形に 突出	口唇部-胴部：横の「赤 なミガキ 底部：横の「草なミガキ とナテ	外面：5YR7/8黄 内面：7.5YR7/8黄褐 断面：7.5YR4/1黄灰	胎土：粘質 含有量：少量 泥和材：雲母・黒色砂粒・ 長石・石英・クサレ塵 粒度：0.5mm以下	補綴孔あり 内面に凹形	
2	265- 269	バツツ形？ 口唇部 波状口縁、やや 外反するに、真直ぐ延び た口縁がやや内側に反る 口唇部が平坦面をもつ	ナテで整えた器面に 口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の直文を3条 胴部：横位の具紋並文の 斜交文	口縁部-胴部：工具によ る「草なナテを口唇部や 縦、胴部を横に	外面：2.5Y3/1黒褐 内面：2.5Y3/2暗赤褐 断面：10YR5/4cにぶい黄 褐	胎土：やや粘質 含有量：やや多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：2mm以下	補綴孔あり 内面に凹形		
			口唇部：波状口縁、やや 外反するに、真直ぐ延び た口縁がやや内側に反る 口唇部が平坦面をもつ	口唇部：ミガキ 口唇部-胴部：ナテ後、 具紋列突文を山形に 突出 底部：具紋並文を山形に 突出	口唇部-胴部：横の「赤 なミガキ 底部：横の「草なミガキ とナテ	外面：5YR7/8黄 内面：7.5YR7/8黄褐 断面：7.5YR4/1黄灰	胎土：粘質 含有量：少量 泥和材：雲母・黒色砂粒・ 長石・石英・クサレ塵 粒度：0.5mm以下	補綴孔あり 内面に凹形	
266- 267	バツツ形？ 口縁部 波 状口縁、外向きに真直ぐ 延びた口縁、口唇部は 不明確	口唇部：高部凸の部分 が口縁に沿って張り付け る 胴部：斜位の具紋並文の 斜交文	口唇部-胴部：左向きの ケズリ	外面：2.5Y4/2暗黄灰 内面：10YR4/3cにぶい黄 褐 断面：10YR4/2灰黄褐	胎土：やや粗い 含有量：やや多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：2mm以下				
		口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	口唇部：左内よりのケズ リ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR4/2灰黄褐 断面：7.5YR5/3cにぶい 黄褐	胎土：やや粗い 含有量：多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下				
274- 276	口唇部 波状口縁のみ 厚手の器縁が肥厚しなが ら延びて、内湾する	口唇部：高部凸の部分 が口縁に沿って張り付け る 胴部：斜位の具紋並文の 斜交文	口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	口唇部：左内よりのケズ リ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR4/2灰黄褐 断面：7.5YR5/3cにぶい 黄褐	胎土：やや粗い 含有量：多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下			
		口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	口唇部：左内よりのケズ リ	外面：10YR5/3cにぶい黄 褐 内面：10YR4/2灰黄褐 断面：7.5YR5/3cにぶい 黄褐	胎土：やや粗い 含有量：多量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下			
277- 300	円筒形、直形	胴部：帯子状の具紋並文 の斜交文 底部：ミガキ	胴部：へう状工具による 「草なナテ(277)とミガ キ(300) 底部：ナテ	外面：10YR6/4cにぶい黄 褐 内面：10YR5/3cにぶい黄 褐 断面：10YR6/4cにぶい黄 褐	胎土：やや粘質 含有量：やや少量 泥和材：長石・石英・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下				
		口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	胴部：へう状工具による 「草なナテ(277)とミガ キ(300) 底部：ナテ	外面：7.5YR7/4cにぶい黄 褐 内面：2.5Y5/3黄褐 断面：10YR6/4cにぶい黄 褐	胎土：やや粘質 含有量：非常に多量 泥和材：石英・長石・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：3mm以下				
290	円筒形、直形	胴部：帯子状の具紋並文 の斜交文 底部：ナテと右向きのケ ズリ	胴部：左内よりのケズリ 後、ナテ 底部：ナテ	外面：7.5YR7/4cにぶい黄 褐 内面：2.5Y5/3黄褐 断面：10YR6/4cにぶい黄 褐	胎土：やや粘質 含有量：非常に多量 泥和材：石英・長石・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：3mm以下				
		口唇部：ナテ 口縁端部：横位の具紋並 文の斜交文、その下を斜 交文で替り、その下を斜 位の具紋並文	胴部：左内よりのケズリ 後、ナテ 底部：ナテ	外面：7.5YR7/4cにぶい黄 褐 内面：2.5Y5/3黄褐 断面：10YR6/4cにぶい黄 褐	胎土：やや粘質 含有量：非常に多量 泥和材：石英・長石・雲 母・赤褐色砂粒 粒度：3mm以下				

第54表 下塚遺跡 VII～XI層 土器観察表(1)

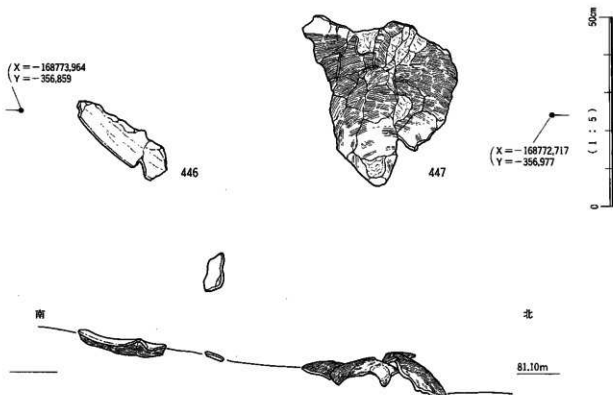


分類	細分	押図番号	形態	文様と彫面調整		色調	胎土と混粉料 含有量・種類・粒度	備考
				外面	内面			
-3	181 12カ		口縁部底状口縁	口唇部：ナデ 口縁部：楕円形の彫状突起、負数削突文を嵌合 胴部：負数削突文を1>、次に施す	口縁部：胴部：楕円のミガキ	外面：10YR5/3に多い黄褐色 内面：10YR4/2灰黄褐色 断面：10YR6/4に多い黄褐色	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・雲母・赤褐色砂 粒度：3mm以下	
8類	-1	317 333	バケツ形？、やや底状の口縁？ 口縁がやや内向きに内折し、口唇部がやや不明瞭な平直面をもつ。口縁部ははや凹厚する	口縁部：楕圓に一直線の負数削突文 胴部：縁なし直線彫を楕圓状に、全面に施す	口縁部：負数7によるケズリ後、楕ナデ 胴部：5向きのケズリ後、楕に負数を原体にミガキ	外面：2.5Y7/3浅黄 内面：10YR7/4に多い黄褐色 断面：N3/暗灰	胎土：細い 含有量：やや多量 混粉料：長石・石英・黒色砂粒 粒度：2mm以下を中心に5mm	
		334 347	バケツ形？、底状の口縁 口縁部がやや内向きもしくは直立、口唇部の平直面をもつ。やや口縁部が厚 口縁部ははや凹厚する	口縁部：楕圓に一直線の負数削突文 胴部：縁なし直線彫を楕圓状に、全面に施す	口縁部：上向きのケズリ後、楕にナデ 胴部：上向きのケズリの後、楕に楕ナデ	外面：2.5Y7/4浅黄 内面：10YR7/6暗黄褐色 断面：N3/暗灰	胎土：やや精微 含有量：やや多量 混粉料：長石・石英・黒色砂粒 粒度：1mm以下を中心に5mm	
	-2	348 363	バケツ形？、底状の口縁 口縁がやや内向きに内折し、口唇部が平直面をもつ 口縁部ははや凹厚する	口縁部：楕圓に四角の負数削突文 胴部：縁なし直線彫を楕圓状に、全面に施す	口縁部：方向きのケズリ後、楕に負数を原体にミガキ 胴部：7向きのケズリの後、楕にミガキ	外面：2.5Y4/7暗灰褐色 内面：7.5Y3/4に多い黄褐色 断面：7.5YR4/4暗	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・赤褐色砂粒・雲母 粒度：1mm大	
7類		364	やや大きく外反する底状口縁 口唇部は面をもつ	ナデで整えた器面に 口唇部：ジグザクの押形文 口縁部：5条の刻目突帯文 胴部：沈線で幾何学文様刻目の原体を先端の丸いもの	すべて丁寧な楕ナデ	外面：5Y6/3オリーブ黄褐色 内面：2.5Y7/6黄褐色 断面：2.5Y5/1黄灰	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・黒色砂粒・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下	二次焼成を受ける？ 外面に炭酸に割れたものと思われる層が観察で見られる
		365	やや大きく外反する底状口縁 口唇部は面をもつ	ナデで整えた器面に 口唇部：ジグザクの押形文 口縁部：5条の刻目突帯文 胴部：沈線で幾何学文様刻目の原体を先端の丸いもの	すべて丁寧な楕ナデ	外面：5Y6/3オリーブ黄褐色 内面：2.5Y7/3浅黄褐色 断面：2.5Y5/1黄灰	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・黒色砂粒・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下	二次焼成を受ける？
		366	やや大きく外反する底状口縁 口唇部は面をもつ	ナデで整えた器面に 口唇部：ジグザクの押形文 口縁部：5条の刻目突帯文 胴部：沈線で幾何学文様刻目の原体を先端の丸いもの	すべて丁寧な楕ナデ	外面：10YR7/4に多い黄褐色 内面：10YR7/6暗黄褐色 断面：10YR3/1黒褐色 突帯：5YR6/6橙	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・黒色砂粒・赤褐色砂粒・雲母 粒度：1mm以下	最も上位の器面は赤く染色して、他の器面とは胎土が異なる
		369	やや大きく外反する底状口縁 口唇部は面はたすに、丸く整える	ナデで整えた器面に 口縁部：4条の刻目突帯文 胴部：沈線で幾何学文様刻目の原体を先端の丸いもの つかの跡に分かれるものか	すべて丁寧な楕ナデ たすにケズリ痕がわずかに見られる	外面：7.5YR7/6暗 内面：2.5Y6/3に多い黄褐色 断面：2.5Y5/1黄灰	胎土：やや精微 含有量：やや少量 混粉料：石英・黒色砂粒・長石・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下、一部に5mm大	外面に炭酸が付着 内面には凹形彫痕が見られる
		370 377	やや大きく外反する底状口縁 口唇部は面はたすに、丸く整える	ナデで整えた器面に 口縁部：4条の刻目突帯文 胴部：沈線で幾何学文様刻目の原体を先端の丸いもの つかの跡に分かれるものか	すべて丁寧な楕ナデ	外面：10YR7/4に多い黄褐色 内面：10YR6/2灰黄褐色 断面：10YR5/2灰黄褐色	胎土：やや精微 含有量：やや少量 混粉料：石英・黒色砂粒・長石・赤褐色砂粒 粒度：1mm以下、一部に3mm大	刻目に赤痕が見られる 外面には炭酸が付着 他に比べて、沈線の掘りが深い
8類	-1	393 400	底平状態が強く彫形は不明 口唇部は内傾か	口唇部：楕円の厚いへう状上向き兩翼状方形のキズ 口縁部：楕円の押形文 胴部：楕圓形の押形文	口縁部：楕圓形の押形文 胴部：ケズリ	外面：2.5Y2/1黒褐色 内面：7.5YR4/6暗 断面：7.5YR5/6暗褐	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：長石・雲母・石英・黒色砂粒 粒度：2mm以下	外面がぼける
	-2	401 411	胴部のみ	胴部：楕圓の山形の押形文、刻目突帯文	胴部：左向きケズリ	外面：10YR7/6暗黄褐色 内面：2.5Y7/4浅黄褐色 断面：2.5Y5/2暗灰黄	胎土：やや精微 含有量：やや多量 混粉料：長石・黒色砂粒・赤褐色砂粒・雲母 粒度：2mm以下	
	-3	412	バケツ形 裏へ口縁がぼけて、口縁部が凹厚する。 口唇部は面をもつ	口唇部：楕のナデ 口縁部：楕のナデ 胴部：山形の山形の押形文 底部：ミガキ	口縁部：胴部：ケズリ後、丁寧なナデ 底部：ナデ	外面：2.5Y7/8黄 内面：2.5Y3/1黒褐色 断面：2.5Y2/1黒	胎土：やや精微 含有量：多量 混粉料：石英・長石・黒色砂粒 粒度：2mm以下	二次焼成により炭酸が濃い
9類		413 414 417	胴部	3条の細く鋭い沈線が文様帯として彫る	負数削突文	すべて10YR7/6暗黄褐色	やや精微な胎土、少量の2mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色砂粒を含む	三方代等式
		416	胴部	ナゲ調整の沈線を押し文が平行する	負数削突文	10YR5/4に多い黄褐色を基調に、外角がぼけて黒化する	やや精微な胎土、やや多量の1mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色砂粒を含む	外面に炭酸が付着

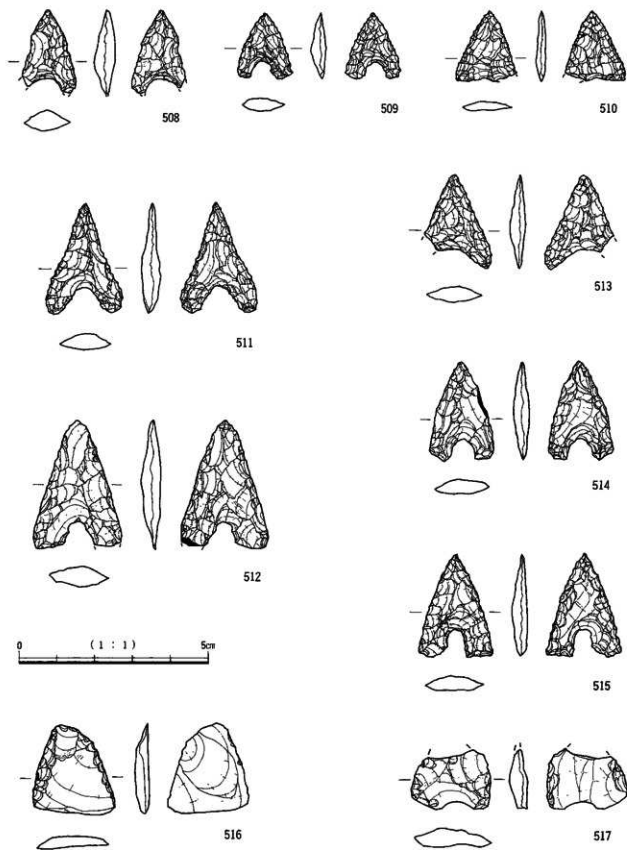
第55表 下埴遺跡 VII~XI層 土器観察表(2)

分類	種別	押出番号	形態	文様と基面形状		色調	胎土と泥和材 含有量・種類・粒度	備考
				外面	内面			
		418	胴部	捺承文が沈痛で区画される	ケズリ			墓ノ形式
		420	胴部	具敷刺突	ケズリ			
		421-427	小型の円筒形、胴部	ケズリ後にナデ	左向きのケズリ後、斜いナデ	外：10YR5/4にふい黄褐内・筋：明褐 外：5YR5/4にふい赤褐内：5YR3/1黒褐	やや精緻な胎土、やや多量の1mm以下の長石・石英・雲母を含む やや精緻な胎土、やや多量の1mm以下の長石・石英・赤褐色砂粒・雲母を含む	
		430	底部	雷に丁寧なミガキ	上向きのケズリ後、縦のミガキ	外内：5YR5/4にふい赤褐断面：2.5Y6/3にふい黄	やや精緻な胎土、やや多量の1mm以下の長石・石英・赤褐色砂粒・雲母を含む	
		428-429	底部	ナデ後、具敷染織文風雷はミガキ	ナデ	外内：5YR5/4にふい赤褐断面：2.5Y6/3にふい黄	やや精緻な胎土、やや多量の2mm以下の長石・長石・石英・赤褐色砂粒を含む	
10期	1	431-446	壺状の器形 わずかに外反する口縁部	口唇部：ヘラ状工具による割目 口縁部：割目と円形刺突の施された貼り付け突帯が1条出る 胴部：斜めの具敷染織	口縁部：極めて狭い範囲を横ナデ 胴部：上；横の具敷染織文 下；左向きのケズリ	基本：7.5YR7/4にふい黄 外面：2.5Y3/1黒褐 内面：5Y3/1オリーブ黒 断面：10YR6/2灰黄褐	胎土：粗い含有量：やや多い 泥和材：石英・黒石・砂粒・雲母 粒度：1mm以下	
		446-447	壺状の器形 わずかに外反する口縁部	口唇部：棒状工具による割目 口縁部：2条の円形刺突の施された貼り付け突帯が1条出る 胴部：横の具敷染織 底部：ナデ	口唇部：横のナデ 胴部：上向きのケズリ 底部：ナデ	外面：7.5Y3/1黒褐 内面：5YR4/2灰褐 断面：7.5YR5/2灰黄褐	胎土：やや粗い含有量：多い 泥和材：長石・クワレ砂・石英・黒石・赤褐色砂粒 粒度：2mm以下	
	-2	448-452	口縁部、外向きに延びた口縁が底部でやや外反する	口唇部：棒状工具でキザミ	具敷染織	2.5Y3/2黒褐10YR7/8黄緑	やや精緻な胎土、少量の1mm以下の長石・石英・雲母を含む	
		453-457	口縁部、外向きに延びた口縁が底部でやや外反する	口唇部：ヘラ状工具でキザミ	具敷染織	7.5YR7/4にふい黄	やや精緻な胎土、少量の2mm以下の長石・石英・雲母・赤褐色砂粒を含む	

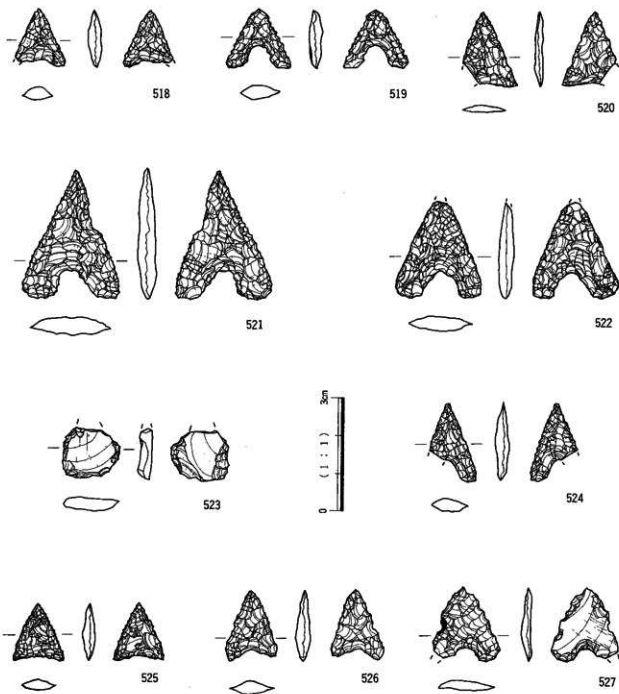
第56表 下堀遺跡 VII~XI層 土器観察表(3)



第193図 下堀遺跡 VII層 土器446・447出土状況



第194図 下堀遺跡 石器 (1)



第195図 下掘遺跡 石器(2)

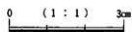
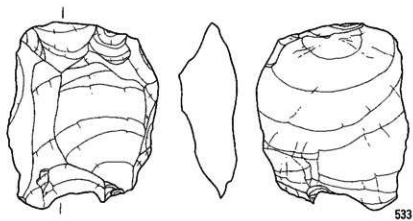
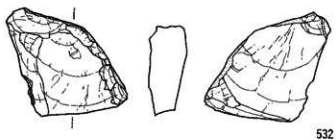
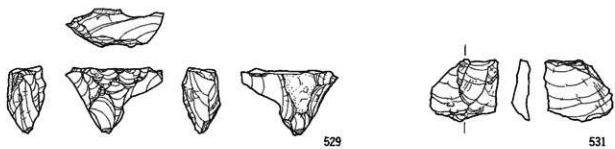
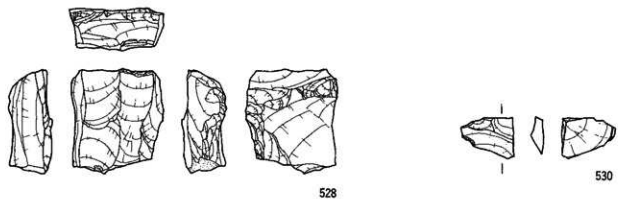
### c. 石器類 (508~585)

石器は、石鏃を中心にして剥片・打製石斧・磨製石斧などが出土した。出土遺物の中には、数種類の花崗岩や軽石なども含まれる。石器類の平面分布は調査区内に散在している。

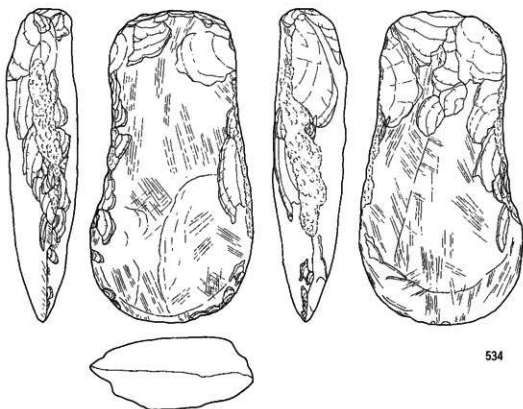
なお、器種・石材の鑑定には利用のみ子氏にご協力いただき、結果を一覧表に記述している。

#### 剥片石器

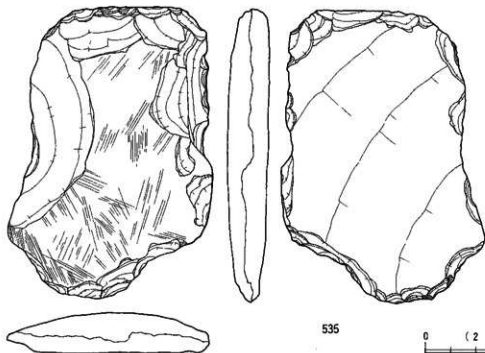
石鏃は、器面の風化が激しい黒色安山岩製の石鏃が最も多い。この石材は石鏃製品・石鏃未製品・フレイク・石核があることから、石鏃を製作していた可能性が考えられる。しかし、調査においては



第196図 下堀遺跡 石器 (3)



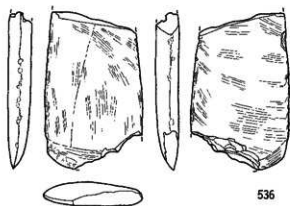
534



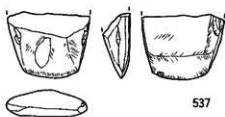
535



第197圖 下堀遺跡 石器 (4)



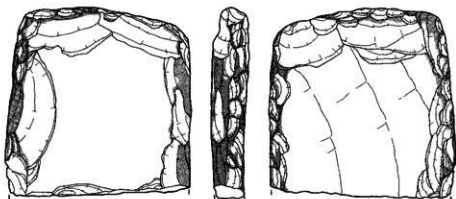
536



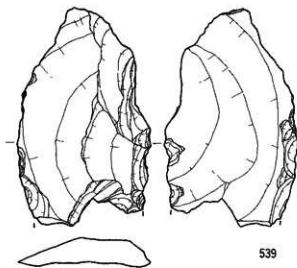
537

0 (2:3) 5cm

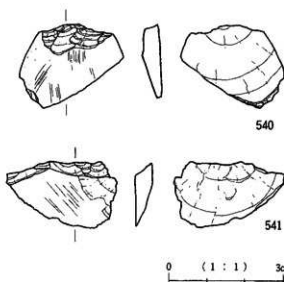
※536~539は上記の縮尺



538



539

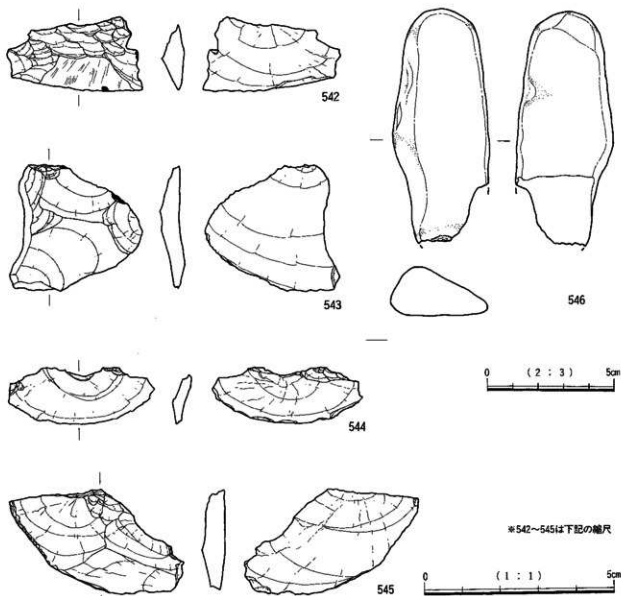


540

541

0 (1:1) 3cm

第198図 下場遺跡 石器(5)



第199図 下堀遺跡 石器 (6)

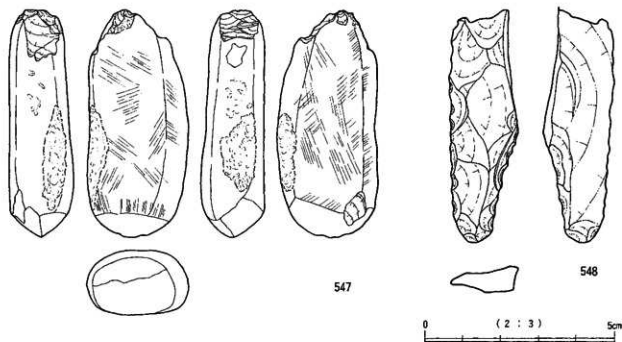
同石材の剥片が集中する範囲も確認されず、剥片の量も5点と少ない。このことから調査区近辺において作業が行なわれていたと考えられるが、調査区内ではなく石核528の出土した3区南端の南側に存在する可能性が考えられる。なお、風化の状態は色調で示すと、風化した器面が5BG6/1青灰色～5B4/1暗青灰色で、新しい傷に見える断面は10BG2/1青黒色になる。

その他に石鏃製品には石材が黒曜石のものは見られるが、チャート製がひとつも存在しない。また、石鏃524は石材が水晶である。

石斧については、石材が安山岩の磨製石斧536・537と打製石斧538・539があり、同じ石材のフレイクが21点 52.63gが出土している。剥片には磨き面が見られるものもある。出土位置はフレイク542・543の出土地点からグリッドM8・9にかけて集まる。磨製石斧と打製石斧に再加工・再調整を施していた可能性が考えられる。

磨製石斧534は、器面の磨きの後、側面に細かな敲打痕が施される。磨製石斧535は横割ぎの主要剥





第200図 下堰遺跡 石器（7）

離面が残り、刃部が剥離を繰り返す。石器547は形態からは磨製石斧の未製品にも見えるが詳細は不明である。石器548は器面の摩滅が激しい。

#### 礫石器（549～584）

礫石器は残りの良いものが少ない。磨石・敲石がほとんどであるが、磨き・敲打の痕跡が見られないものでも形状が類するものを凶化している。花崗岩の1種と思われる石器567～570は表面が非常にもろい石材で作られる。

詳しくは表に記述している。

#### 軽石製品（584・585）

包含層より、個数18点×重量約1.3kgの軽石が出土した。584・585に見られるように使用痕跡か、加工痕跡かは不明であるが、拳大の大きさである程度の形が整ったものが存在する。

採掘 番号	遺物 番号	出土位置		種類	器種	石材	法量 (cm, g)			備考	
		地区	層位				長さ	幅	厚さ		重さ
508	628	7-2	X	剥片石器	石鏃未製品	黒色安山岩	(2.20)	(1.40)	0.50	1.20	
509	442	7-2	IX-XI	剥片石器	石鏃	黒色安山岩	1.75	1.45	0.40	0.60	
510	502	6	X	剥片石器	石鏃	チャートB	1.85	1.60	0.30	0.70	脚部欠損
511	723	5	IX-XI	剥片石器	石鏃	黒色安山岩	2.90	2.05	0.50	1.70	
512	454	5	IX-XI	剥片石器	石鏃	黒色安山岩	3.40	2.30	0.50	2.60	
513	481	5	IX-XI	剥片石器	石鏃未製品	黒色安山岩	2.50	(1.80)	0.40	1.10	
514	627	5	X	剥片石器	石鏃	黒色安山岩	2.60	1.70	0.40	1.60	
515	463	4	IX-XI	剥片石器	石鏃	黒色安山岩	2.75	2.00	0.40	1.70	
516	316	5	IX-XI	剥片石器	石鏃未製品	黒色安山岩	2.40	2.15	0.35	1.80	
517	478	5	IX-XI	剥片石器	石鏃未製品	黒色安山岩	(1.60)	2.10	0.50	1.30	
518	437	7-2	IX-XI	剥片石器	石鏃	チャートE	1.55	(1.35)	0.35	0.50	
519	504	6	IX	剥片石器	石鏃	チャートD	2.05	1.70	0.35	0.50	
520	577	7-2	X	剥片石器	石鏃	チャートC	2.00	(1.40)	0.25	0.50	脚部欠損
521	503	6	VIII	剥片石器	石鏃	チャートA	3.40	2.60	0.60	3.10	一部補修
522	632	7-3	IX	剥片石器	石鏃	チャートA	2.55	2.25	0.40	1.80	
523	829	4	VIII	剥片石器	石鏃未製品	黒曜石F	(1.35)	1.50	0.35	0.90	
524	656	5	IX-XI	剥片石器	石鏃	水風	2.05	(1.20)	0.35	0.60	脚部欠損
525	655	5	IX-XI	剥片石器	石鏃	黒曜石B	1.50	1.35	0.30	0.40	
526	833	4	IX-XI	剥片石器	石鏃未製品	黒曜石G	1.85	1.40	0.35	0.60	
527	776	7-1	IX-XI	剥片石器	石鏃未製品	黒曜石G	1.95	(1.75)	0.30	0.70	
528	350	3・4	IX-XI	剥片石器	石核	黒色安山岩	2.80	2.45	1.20	10.10	
529	364	3・4	IX-XI	剥片石器	二次加工剥片	黒曜石B	1.75	2.60	1.00	3.30	
530	345	4	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	1.10	1.40	0.30	0.40	
531	907	5	XV	剥片石器	切断剥片	黒曜石B	1.65	1.80	0.40	1.20	
532	290	5	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	2.90	3.30	1.00	9.10	
533	494	5	IX-XI	剥片石器	フレイク	硬質頁岩	4.95	4.00	1.60	28.70	
534	861	4 ベルト	IX-XI	剥片石器	磨製石斧	硬質頁岩	12.45	6.45	2.80	400.00	※
535	501	6	IX	剥片石器	打製石斧	粘板岩	11.60	8.10	1.70	192.70	ホルンヘルズ?
536	474	5	IX-XI	剥片石器	磨製石斧	安山岩	(6.25)	3.85	0.90	35.20	※
537	-	7-2	IX-XI	剥片石器	磨製石斧	安山岩	(2.60)	(3.25)	1.05	10.70	※ グリッドJ・K8一括
538	151	4	IX-XI	剥片石器	打製石斧	安山岩	(7.50)	7.35	1.50	145.20	
539	-	4	IX-XI	剥片石器	打製石斧	安山岩	(8.65)	5.20	1.30	48.20	※ グリッドK8一括
540	-	4	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	2.20	2.75	0.50	2.40	※ グリッドL10・11一括
541	-	4	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	1.75	2.90	0.45	1.90	※ グリッドM8・9一括
542	643	7-3	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	2.00	3.60	0.60	3.90	
543	593	4	X	剥片石器	フレイク	安山岩	3.40	3.60	0.60	7.10	
544	-	4	IX-XI	剥片石器	フレイク	安山岩	1.50	3.95	0.50	2.00	※ グリッドL10・11一括
545	-	4	IX-XI	剥片石器	使用痕剥片	安山岩	2.80	4.60	0.60	6.70	※ グリッドM8・9一括
546	366	3	IX-XI	礫石器	敲石?	頁岩					※
547	709	5	IX-XI	剥片石器	敲石?	頁岩	9.05	4.00	2.50	152.40	※
548	-	7-1	IX-XI	剥片石器	打製石斧?	頁岩					※ グリッドJ8・9一括

注: 備考に※の記しものは和田氏の鑑定後、それを参考に東が鑑定したものである。

第57表 下堀遺跡 剥片石器一覧

## 安山岩

遺物番号	出土位置		器種	石材	重量 (g)	最大長 (mm)	備考
	地区	層位					
595	4	X	フレイク	安山岩	1.72	27.38	
596	4	X	フレイク	安山岩	0.34	17.03	
642	7-3	IX~XI	フレイク	安山岩	0.58	15.69	※
(K8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	2.37	30.75	※
(L10-11)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	3.78	36.05	※
(L7)	7-2	IX~XI	フレイク	安山岩	1.12	24.93	※
(L8)	7-2	IX~XI	フレイク	安山岩	2.05	27.50	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	5.77	41.90	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	2.89	34.45	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	2.50	37.99	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	1.25	21.04	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	0.75	27.46	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	1.29	22.57	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	1.47	30.03	※
(M8-9)	4	IX~XI	フレイク	安山岩	0.75	17.22	※

注意：備考に※の記しのは和用氏の鑑定後、それを参考に東が鑑定したものである。

※遺物番号の(アルファベット+数字)はグリッドごとの一括取り上げ遺物

## 黒色安山岩ほか

遺物番号	出土位置		器種	石材	重量 (g)	最大長 (mm)	備考
	地区	層位					
343	4	IX~XI	チップ	黒色安山岩	0.15	13.34	
346	4	IX~XI	フレイク	黒色安山岩	0.41	16.41	
347	4	IX~XI	フレイク	黒色安山岩	1.23	26.89	
478	5	IX~XI	フレイク	黒色安山岩	1.1	25.76	
95	4	IX~XI	フレイク	硬質頁岩	14.53	42.67	

## 黒曜石

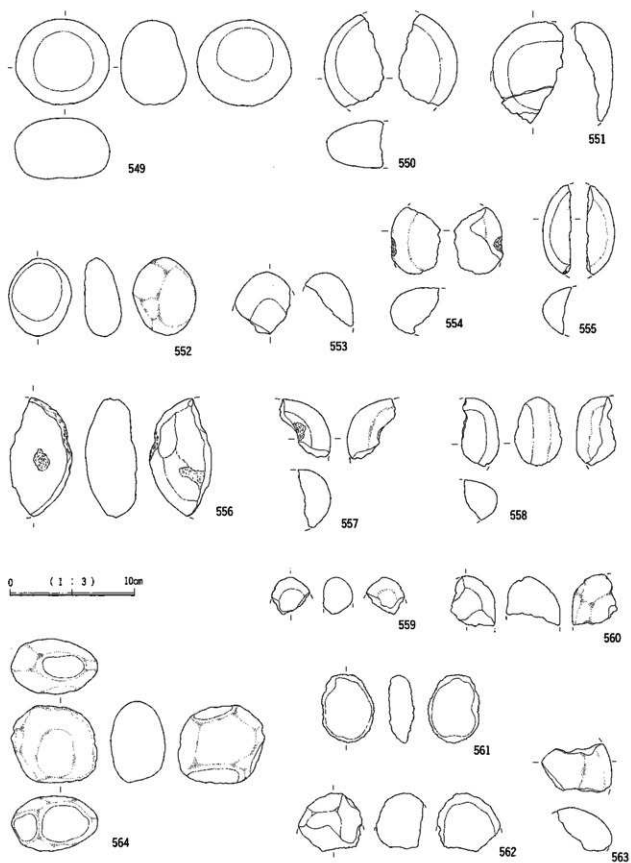
遺物番号	出土位置		器種	石材	重量 (g)	最大長 (mm)	備考
	地区	層位					
36	4	Ⅷ	チップ	黒曜石B	0.12	11.09	
126	—	IX~XI	フレイク	黒曜石B	0.24	11.89	
150	—	IX~XI	フレイク	黒曜石B	0.22	14.87	
468	5	IX~XI	フレイク	黒曜石B	0.23	12.44	
655	5	IX~XI	石鏃	黒曜石B	0.02	8.70	
125	—	IX~XI	フレイク	黒曜石C	0.39	11.57	
626	7-2	X	フレイク	黒曜石C	0.19	12.17	
832	4	Ⅷ	フレイク	黒曜石E	0.48	13.02	
74	5	IX~XI	フレイク	黒曜石F	0.39	15.98	
76	5	IX~XI	チップ	黒曜石F	0.05	12.73	
172	5	IX~XI	チップ	黒曜石F	0.21	14.38	
176	5	IX~XI	フレイク	黒曜石F	0.30	17.21	
177	5	IX~XI	フレイク	黒曜石F	0.22	12.74	
263	5	IX~XI	フレイク	黒曜石F	0.28	13.34	
278	5	IX~XI	チップ	黒曜石F	0.03	7.03	
476	5	Ⅷ	フレイク	黒曜石F	2.29	22.09	
511	6	Ⅷ	フレイク	黒曜石F	0.19	9.68	
514	5	IX~XI	チップ	黒曜石F	0.09	11.20	
515	5	IX~XI	フレイク	黒曜石F	0.39	16.81	
807	7-1	Ⅷ	フレイク	黒曜石F	0.17	24.69	
489	4	X~XI	チップ	チャートA	0.38	14.95	

## 黒石材注記

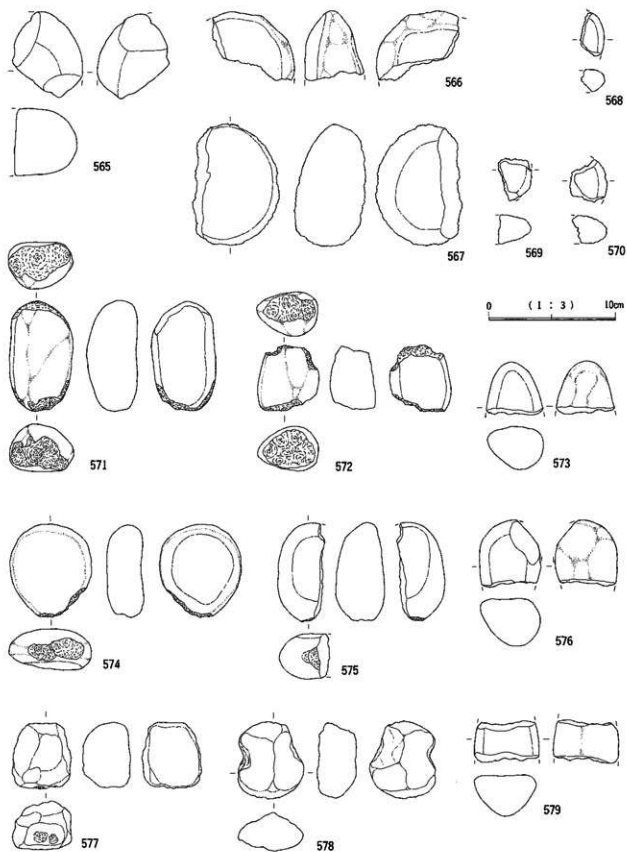
黒曜石A：上牛鼻  
 黒曜石B：三船(竜ヶ水)  
 黒曜石C：桑ノ木津留  
 黒曜石D：長谷  
 黒曜石E：腰岳  
 黒曜石F：針尾  
 黒曜石G：椋島

チャートA：淡緑色  
 チャートB：  
 淡灰色で黒色の線が入る  
 チャートC：淡赤茶色  
 チャートD：乳白色  
 チャートE：墨色

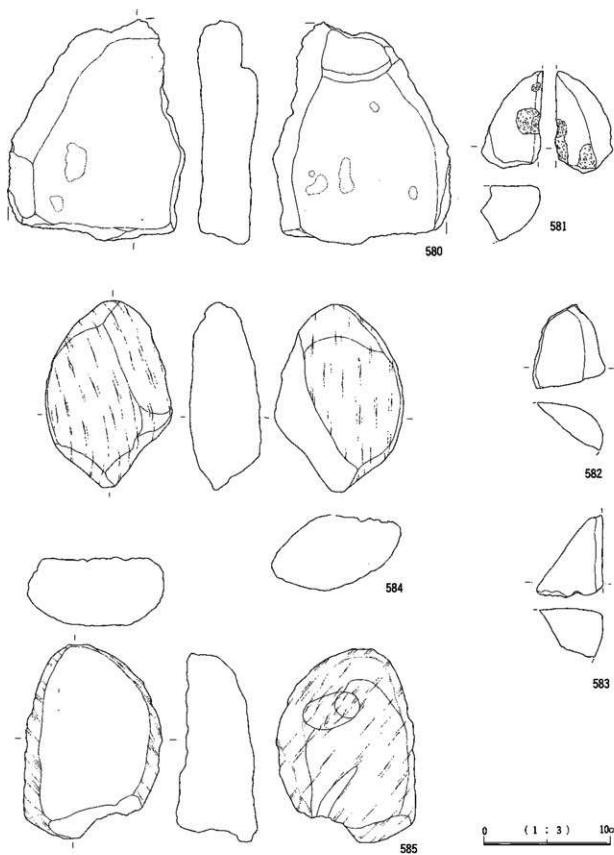
第58表 下堰遺跡 石器剥片一覧



第201圖 下堀遺跡 石器(8)



第202圖 下堰遺跡 石器(9)



第203圖 下掘遺跡 石器 (10)

採回 番号	遺物 番号	出土位置		種類	器種	石材	法量 (cm, g)			備考	
		地区	層位				長さ	幅	厚さ		重さ
549	455	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	6.70	7.50	5.10	62.35	磨礫石
550	—	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(7.20)	(4.60)	3.70	163.71	グリッドO9一括
551	748	7-1	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	砂岩	7.80	5.50	3.10	115.41	?
552	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	6.20	5.00	2.70	105.76	グリッドJ8・9一括
553	663	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(4.80)	(4.40)	(3.10)	70.18	
554	461	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	安山岩	5.20	3.80	3.60	66.70	
555	843	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	砂岩	(7.10)	(2.10)	(3.80)	65.48	
556	136	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	砂岩	9.40	(4.90)	4.10	194.88	
557	687	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	砂岩	(4.80)	2.60	(4.50)	74.41	
558	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	安山岩	(5.30)	3.00	(3.60)	50.83	グリッドI10・11一括
559	—	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	花崗岩	(2.20)	(3.00)	2.20	24.77	グリッドP9一括
560	—	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	安山岩	(3.80)	(4.80)	(4.20)	62.35	
561	—	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	花崗岩	5.40	4.00	1.90	53.00	
562	—	7-1	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	花崗岩	(4.30)	(5.00)	(3.50)	77.96	グリッドH8一括
563	—	4-7-1	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	花崗岩	3.70	(5.40)	(3.40)	67.85	グリッドM8・9一括
564	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	安山岩	5.95	6.70	4.20	273.47	グリッドJ10・11一括
565	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石?	砂岩	(6.70)	(5.00)	5.30	227.63	グリッドF10一括
566	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(5.50)	(5.70)	(4.60)	147.09	グリッドF10一括
567	—	3-4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	花崗岩	9.60	(6.60)	5.40	408.92	磨き面がある?
568	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	花崗岩	(3.30)	(1.80)	1.80	12.37	グリッドM10一括、磨き面がある?
569	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	花崗岩	(3.30)	(2.60)	2.30	21.79	グリッドM10一括、磨き面がある?
570	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	花崗岩	(3.40)	(2.80)	2.20	26.01	グリッドL8・9一括、磨き面がある?
571	875	5	Ⅷ	礫石器	磨石		(4.10)	(3.90)	3.40	78.22	
572	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(5.20)	4.80	3.80	133.53	グリッドH10・11一括
573	—	6	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(3.20)	5.10	3.20	70.68	グリッドC7一括
574	—	5	I	礫石器	磨石	安山岩	8.70	5.00	3.90	246.68	
575	—	6	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	(5.20)	4.70	3.40	113.94	グリッドC7一括
576	—	7-1	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	安山岩	7.30	6.40	2.80	232.46	グリッドI8一括
577	—	5	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	敲石?	花崗岩	7.70	3.50	3.70	146.39	グリッドI10・11一括
578	601	3-4	X	礫石器	敲石?	花崗岩	5.20	4.60	3.70	142.80	
579	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	磨石	花崗岩	5.90	5.20	3.10	123.92	グリッドC8・9一括 兼石鏝?
580	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	合石	花崗岩	(17.30)	(14.00)	3.80	1661.48	グリッドM10一括
581	—	7-1	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	石皿?	砂岩	(6.90)	(4.60)	(4.30)	150.79	グリッドG8一括、磨き面がある?
582	—	4	Ⅸ～Ⅺ	礫石器	石皿?	砂岩	(6.20)	(6.60)	(3.70)	106.98	グリッドH8一括、磨き面がある?
583	—	5	I	礫石器	石皿?	安山岩	(6.60)	5.10	3.20	107.87	磨き面がある?
584	428	7-2	Ⅸ～Ⅺ	軽石製品	—	軽石	14.80	10.00	5.50	182.34	
585	147	4	Ⅸ～Ⅺ	軽石製品	—	軽石	15.30	10.90	5.10	234.73	

注意1: 器種で「?」付のものは、東の見解、和田氏は礫と指摘

注意2: 備考の「※」は東の見解

第59表 下堰遺跡 礫石器一覧

	遺物番号	出土位置		法量 (g, cm)			備考
		地区	層位	長さ	厚さ	重さ	
花崗岩 1	—	5	IX~XI	5.8	1.6	65.08	グリッド E8-一括
花崗岩 2	—	4	IX~XI	5.6	2.9	76.66	グリッド L10-11一括
花崗岩 3	—	7-1	IX~XI	5.5	2.6	94.16	グリッド J7-8一括
花崗岩 4	—	4・5	IX~XI	4.8	2.5	59.05	グリッド J・K10一括
花崗岩 5	—	4	IX~XI	4.9	2.4	70.38	グリッド N10一括
花崗岩 6	—	4	IX~XI	4.8	2.3	61.88	グリッド L8-9一括
花崗岩 7	—	8	IX~XI	5.9	2.4	58.48	グリッド J・K一括
花崗岩 8	—	4	IX~XI	4.6	2.5	53.91	グリッド M8・9一括
花崗岩 9	—	7-1	IX~XI	5.3	1.7	57.73	グリッド H8一括
花崗岩10	—	7-2	IX~XI	5.4	2.0	52.51	グリッド K8一括
花崗岩11	—	7-2	IX~XI	4.8	1.7	36.71	グリッド L8一括
花崗岩12	—	7 2	IX~XI	4.2	2.5	33.45	グリッド L7一括
花崗岩13	—	3-4	IX~XI	5.0	2.5	56.04	グリッド P9一括
花崗岩14	—	4	IX~XI	4.8	1.7	33.92	グリッド M10一括
花崗岩15	—	5	IX~XI	5.2	1.0	24.71	グリッド E8一括
花崗岩16	—	7-1	IX~XI	4.1	2.2	30.20	グリッド I・J7-8一括
花崗岩17	—	7-2	IX~XI	3.2	1.6	13.93	グリッド L8一括
花崗岩18	—	4	IX~XI	4.0	1.8	21.21	グリッド L10-11一括
花崗岩19	—	7-1	IX~XI	3.7	1.5	17.79	グリッド H8一括
花崗岩20	—	5	IX~XI	3.1	1.1	12.13	グリッド E8一括
花崗岩21	—	5	IX~XI	3.2	1.3	12.29	グリッド E8一括
花崗岩22	—	—	IX~XI	3.2	1.1	15.07	グリッド J・K一括

総重量 957.29

第60表 下堀遺跡 花崗岩一覽

	遺物番号	出土位置		法量 (g, cm)			備考
		地区	層位	長さ	厚さ	重さ	
軽石 1	147-1	4	IX~XI	14.5	5.6	9.60	214.27
軽石 2	147-2	4	IX~XI	15.4	5.5	10.01	237.58
軽石 3	428	7-2	Ⅷ	14.9	5.6	10.00	183.67
軽石 4	738	7-1	IX~XI	9.6	5.4	6.20	95.09
軽石 5	—	5	IX~XI	14.0	4.3	9.30	148.62
軽石 6	—	5	IX~XI	6.2	2.8	5.80	33.02
軽石 7	472	5	IX	11.0	3.2	5.20	50.01
軽石 8	—	5	IX~XI	9.8	2.7	4.30	127.27
軽石 9	712	5	IX~XI	9.7	4.8	7.10	73.33
軽石10	799	7-1	IX~XI	8.3	2.0	5.10	13.76
軽石11	410-1	7-1	XI	—	—	—	3.31
軽石12	410 2	7-1	XI	—	—	—	1.30
軽石13	410-3	7-1	XI	—	—	—	0.85
軽石14	831-1	4	Ⅷ	—	—	—	25.93
軽石15	831-2	4	Ⅷ	—	—	—	23.58
軽石16	475	5	IX	—	—	—	39.04
軽石17	792	7-1	IX~XI	—	—	—	21.89
軽石18	817	7-1	IX~XI	—	—	—	1.99

総重量 1294.51

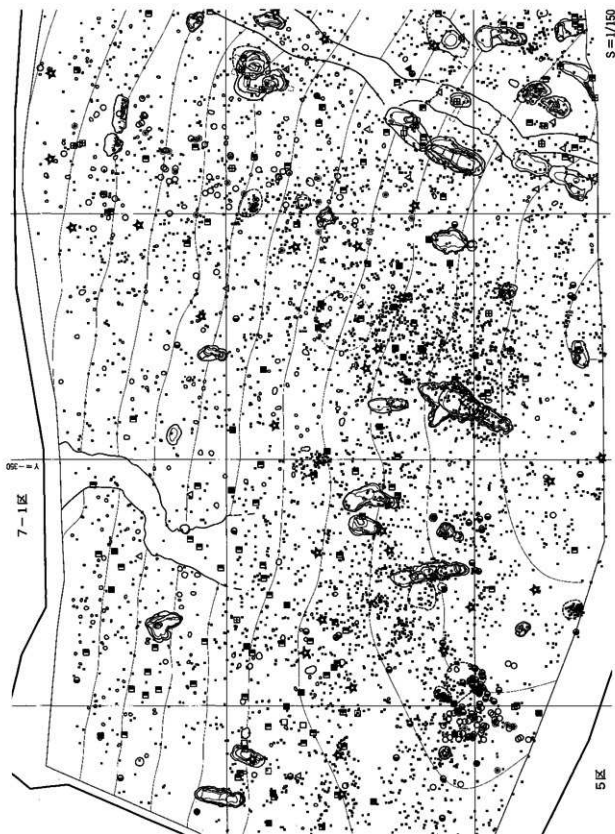
破損が激しく法量は重量  
だけ表示

第61表 下堀遺跡 軽石一覽

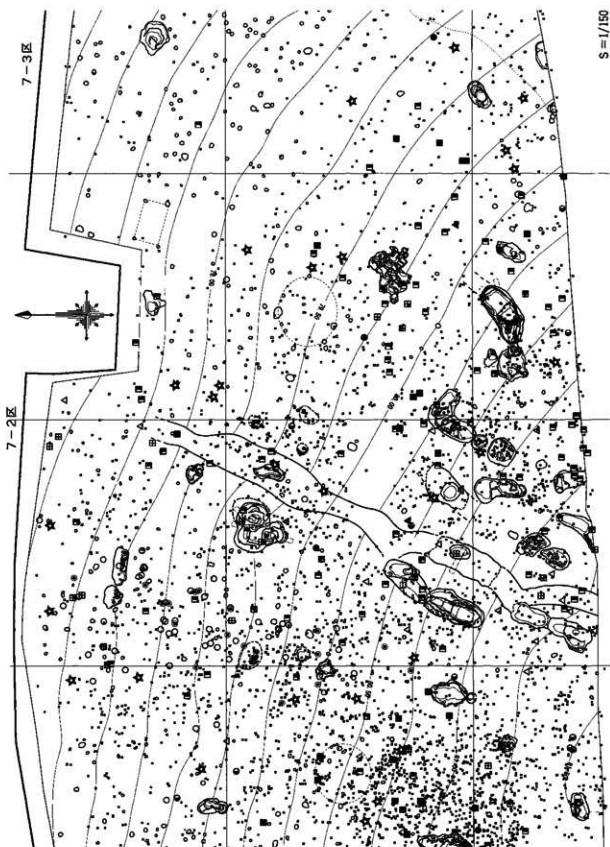




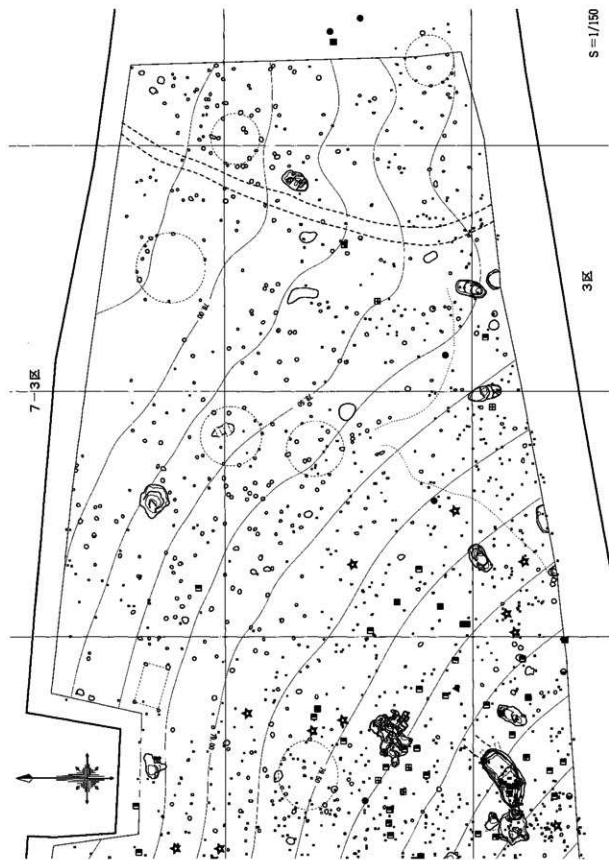
第204図 下堰遺跡 VII~XI層 遺物分布と遺構配置 (1)



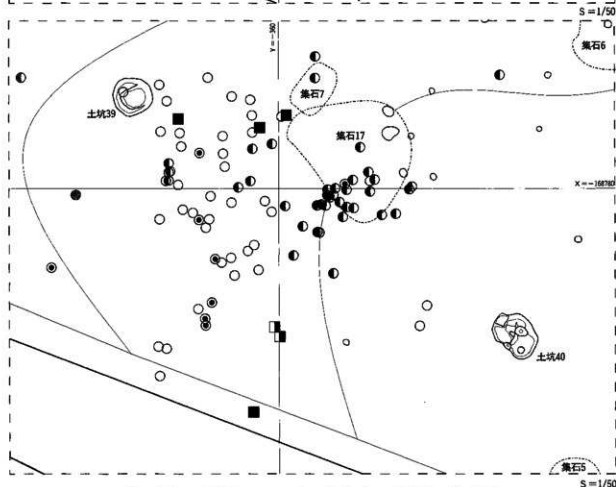
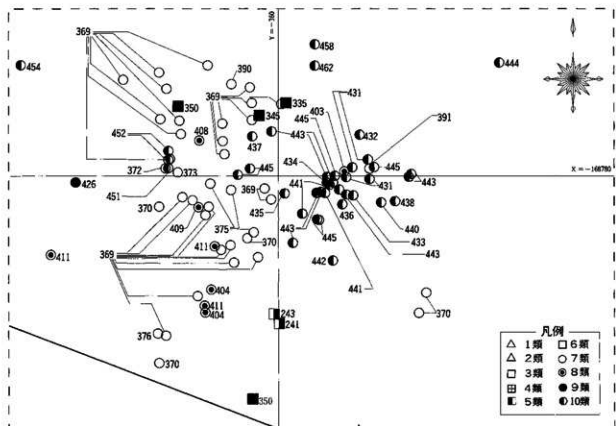
第205図 下堀遺跡 VII～XI層 遺物分布と遺構配置(2)



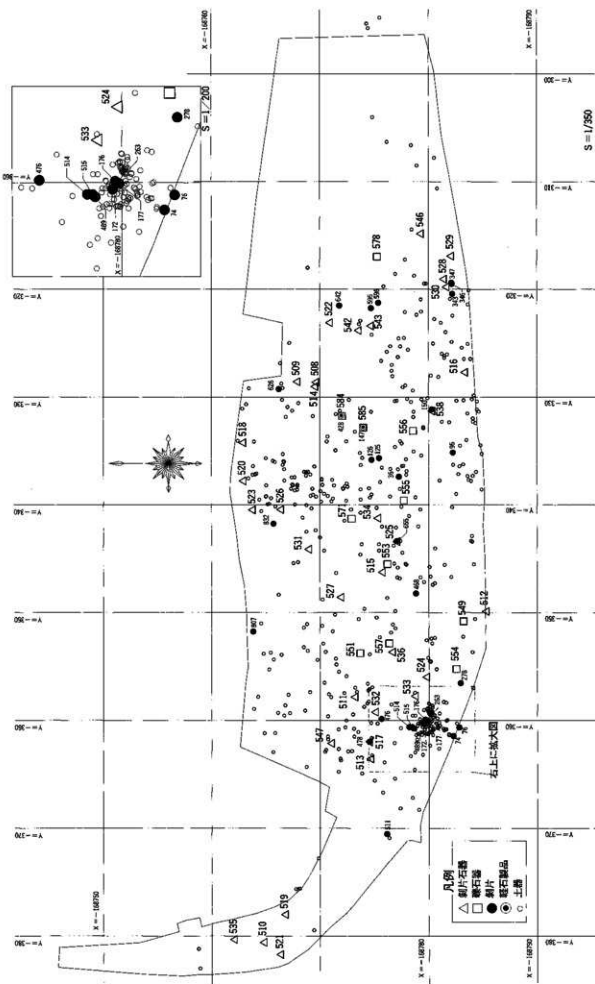
第206図 下堀遺跡 VII～XI層 遺物分布と遺構配置 (3)



第207図 下堀遺跡 VII～XI層 遺物分布と遺構配置 (4)



第208図 下掘遺跡 VII~XI層 遺物分布と遺構配置 (集中部)



※ポイントの小さなものは遺物（註記）番号

第209図 下堰遺跡 VII～XI層 石器・剝片分布

## 第3節 まとめにかえて

報告に際して、十分な検討が行えなかったため、調査者としての見解を述べてまとめにかえる。

### 1. 層位と環境

層位の火山灰同定の結果は、従来の調査見解とほぼ同様であった。しかし、疑問のあった第Ⅲ層についてはその由来を特定できるに至らず、今後の分析と検討が必要である。

古環境については、調査地周辺に人為的な植生干渉などが存在した可能性が指摘され、周辺には比較的固定した生活域もしくは頻繁に人為的影響が繰り返されていた可能性が高いことが分かった。

### 2. 検出面1

検出面1の時期は、出土した土器からおもに縄文時代晩期終末と考えられる。

この時期と考えられる遺構としては、5区から7-1区を中心に見られる柱穴群があり、これらは歪な掘り方をもつという共通の特徴をもっている。また、柱穴群の集中範囲と刻目突帯文土器の分布推定範囲が重なっている。この柱穴群内には掘立柱建物1が復元できたが、他に多数の柱穴があり、何らかの施設が存在していたと考えられる。その指標としては柱列6・7があり、柱穴群の中でも比較的並んでいる程度の列であるが、その柱間距離などに緩やかな規則性が伺える。これらのことから縄文時代晩期において、掘立柱を用いた何らかの施設が築かれていたと考えられる。この施設が複数の掘立柱建物とすれば、調査地点は縄文時代晩期の集落域の一部と考えられる。

一方、掘り方の特徴などから、前述の柱穴群とは異なる時期と考えられる柱列2～5がある。これらは柱列が弧状ないし馬蹄状に巡り、開放部が斜面下方に位置するなどの共通点を持っている。性格は不明であるが、牛馬の飼育に関係する施設の可能性が考えられる。詳細な時期は不明であるが、3区の土坑1の覆土より土師質の土器片が出土しており、並行する時期の可能性も考えられる。この時期は集落域の近辺であったことが考えられる。

他方、柱列配置から狩猟の民の可能性が考えられる柱列1がある。時期は不明である。

### 3. 検出面2

検出面2の時期は、出土土器と層位から縄文時代早期と考えられる。土器は1類から10類まで見られ、型式は前平式・吉田式・倉園B式・石板式・下剝峯式・桑ノ丸式・手向山式・押型文・右京西式にあたる考えられる。そのうちまとまった出土量があるものは、前平式・石板式・下剝峯式・桑ノ丸式・手向山式・押型文・右京西式であり、とくに下剝峯式が多くて推定個体数も10個体以上ある。前述の他の型式は1型式あたり2・3個体を数えるのみである。

以下、各土器型式の遺構配置は復元できなかったため、遺構ごとの特長について述べる。

なお、10類とした右京西式についてはⅣ層から出土しており、複数の集石と3基の小土坑を対応する層位で検出した。しかし、Ⅳ層がアカホヤ降下火山灰層の直下にあたるため、降下時の諸現象の影響を受けていた可能性が考えられる。そのため上記の遺構のみが対応するものと断言するには、今後の資料の増加と検討が必要と考えられる。

#### 集石

特長としては、いずれも明確な掘り方をもたず、礫密度も極めて疎な状態であることが挙げられる。形態が一般的な「集石遺構」とは異なる。しかし、炭化物はほとんど見られないが、礫が赤色化して破砕することから被熱を受けていると考えられ、性格は「集石遺構」同様のものと考えられる。また、

集石13・14のように掘り方からやや離れた位置に集石が見られることを合わせると、「集石遺構」の廃絶状況の相違と考えられる。このことから、土坑の中に集石の掘り込みになるものがあると考えられ、込められていた際は若干離れた位置に集石状態で置かれていたと考えられる。

#### 土坑

土坑は71基を検出したが、16基が「連穴土坑」と考えられる。「連穴土坑」は特徴から分けることができたが、その違いが何によるものかについては、検討が必要である。

1・2類は、一般的な「連穴土坑」と考えられ、両者は深さが異なるのみである。基本的には平面形が隅丸方形に近い楕円形、断面形は斜面上方がやや高い逆台形を呈する。底面は斜面上方に向かって低くなり、壁面手前でさらに一段低くなる。この位置は燃焼部にあたると考える。

3類は、深さは浅く、燃焼部手前の作業場とも言える空間が広いもので、平面形が瓢箪状に近い形態を呈する。

4類は、斜面上方に向かって長く伸びており、同一方向に崩落した「ブリッジ部」の再構築を繰り返したものと考えられる。この場合、放射状に広がっていないことに、同一方向に再構築する理由が存在したと予想される。理由としては、再構築のための掘削を最小限にするためと斜面に吹きつける風<sup>9)</sup>を利用した可能性が考えられる。

5類は、平面形も小さく深さも浅い小規模なものである。5類のものが再構築を繰り返すと土坑66・67の状態になると考えられる。

6類は、「連穴土坑」の斜面上方側に、極めて浅い円形土坑が存在するもので、「煙穴」に対する作業場と考えられる。土坑26・27の26底面には、施設を思わせる小土坑と柱穴が見られる。

1類：平面形が短い楕円形に、浅い掘り込みをもつもの；土坑13、土坑16、土坑37、土坑53・54、土坑60

2類：平面形が長い楕円形に、深い掘り込みをもつもの；土坑1、土坑2、土坑61

3類：平面形が円形から斜面上方に向かって一部が長く；土坑18、土坑47・48

突出して、浅い掘り込みをもつもの

4類：平面形が長く伸びるもの；土坑43～45、土坑66・67

5類：規模が極めて小さいもの；土坑46、土坑58

6類：「煙穴」の斜面上方に浅い掘り込みの円形土坑が；土坑20～23、土坑26・27

存在するもの

また、今回、「連穴土坑」の下部より「シミ状痕跡」を検出した。この痕跡が何の現象によるものであるかについては、自然科学分析によっても不明であるが、比較的規模の大きな<sup>9)</sup>「連穴土坑」の燃焼部の下に見られるという共通点が存在する。この痕跡の性格及びその存在が当遺跡に特有のものであるのか、普遍的なものであるのかなどについては、今後の資料の増加を待つ必要がある。

そのため、従来の「連穴土坑」の調査方法（検出→半掘→完掘）に加えて、完掘後に「断ち割り」を行う必要があると考えられる。ただし、この断ち割りは人力で行うには規模が大きすぎるため、今回は重機を用いている。

なお、自然科学分析後に、水の浸透による還元作用の結果ではないかとの指摘を受けて分析を行ったが異なるものであった<sup>9)</sup>。

#### 柱穴

第Ⅲ層上面より、多数の柱穴を検出した。従来は1層上の上面で検出していたが、小規模な柱穴については検出が困難であった。そのためより深い層で精査を行った結果である。この柱穴は複数の箇



所において円形に巡るように見えており、掘り方を伴わない施設が存在した可能性が考えられる。しかし、浅い掘り方が存在していた可能性は否定しきれない<sup>4)</sup>。また、方形に配置するものも存在している。今後、資料の増加と検討が必要と考えられる。

- 1) 調査地周辺では、10月から2月までの間、強い北風が吹き付けており、この状況が当時においても同じと考えられると、この北風の利用が理由の可能性とも考えられる。
- 2) 断ち柄りは、大きなものから順に、任意に選んだものについて行っており、さらに規模の小さい土坑58に「シミ状痕跡」が見られたことから、この「比較的規模の大きな」という共通点は除外される可能性がある。
- 3) 株式会社古環境研究所 杉山真二氏の指摘・分析による。
- 4) 生活面と推定される高さと検出面に差が大きいうえに、包含層・基盤層が黒色土で遺構の覆土も黒色土であるため検出が困難であり、浅い掘り方を見落とした可能性が存在する。

### 参考文献

- 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一 1999 『鹿児島県の歴史』県史46 山川出版社
- 有明町郷土史編さん委員会編 1980 『有明町誌』有明町
- 東徹志・中水忍・出口順一郎 2003 『黒墓遺跡(第1次・第2次)、牧原遺跡、牧原A遺跡、大迫遺跡、飯野A遺跡、本村遺跡』有明町埋蔵文化財発掘調査報告書(3) 有明町教育委員会
- 中村直子 「成川式土器再考」『鹿人考古』第6号 鹿児島大学法文学部考古学研究室
- 山崎純男・島津義昭 1994 「九州の土器」『縄文文化の研究』4 雄山閣出版株式会社
- 藤尾慎一郎 1993 「南九州の突帯土器」『鹿児島考古』第27号 鹿児島考古学会
- 堂込秀人 1997 「南九州縄文晩期土器の再検討—入佐式と黒川式の細分—」『鹿児島考古』第31号 鹿児島考古学会
- 新東晃一 1989 「九州貝殻文円筒土器様式」『縄文土器大観』1 小学館
- 新東晃一 1989 「塞ノ神・平格式土器様式」『縄文土器大観』1 小学館
- 南九州縄文研究会 2002 『南九州縄文集成1 南九州貝殻文系土器』I—鹿児島県—
- 白岩 修 1997 「宮崎県内における押型土器について」『宮崎考古』第15号 宮崎考古学会
- 横手浩二郎 1998 「手向山式土器の細分と編年試案」『縄文集成シリーズ3 九州の押型土器—論考編一』九州縄文研究会
- 重留康宏 2002 「縄文時代早期末の条痕文土器(予察)」『宮崎考古』第18号 宮崎考古学会
- 繁昌正幸 2003 「遺跡と遺跡—南九州の縄文時代早期を主として—」『研究紀要 縄文の森から』創刊号 鹿児島県立埋蔵文化財センター
- 秋成雅博ほか 2003 『ボクデン・サンコスモ古賀建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2)』福岡県古賀市教育委員会
- 桑波田武志 1998 「第4章 縄文時代草創期の調査」『向得原遺跡I』鹿児島県吉田町教育委員会
- 九州縄文研究会・宮崎県考古学会 2003 『九州縄文時代の集石遺構と炉穴』第13回 九州縄文研究会 宮崎大会 資料集
- 八木澤一郎 1992 「鹿児島県下の縄文期集石I」『南九州縄文通信』No6 九州縄文研究会
- 八木澤一郎 1994 「南九州の集石遺構」『南九州縄文通信』No8 九州縄文研究会
- 新東晃一 1997 「縄文時代早期炉穴の復元」『南九州縄文通信』No11 九州縄文研究会
- 南宮瑞生 1997 「煙道付き炉穴の設計図」『南九州縄文通信』No11 九州縄文研究会

## 第V章 自然科学分析の成果

### 第1節 自然科学分析の概要

自然科学を応用した分析は民間業者に委託して行なった。以下、自然科学分析の目的について略述する。分析結果の詳細については、第2節においてパリオ・サーヴェイ株式会社の分析報告を掲載している。

分析に用いた試料は総て下堀遺跡において採取を行なっている。なお、土壌試料の採取に際しては、直接触れないように注意を払い、金属製ヘラを用いて採取した。保管については、アルミホイルに包んだ上でビニール袋に詰めて室内に収蔵し、分析に出すまで時間のあつた試料に対しては、換気の良い室内でアルミホイルを開けて乾燥させて保管した。

#### 1. テフラ分析

当町では過去にテフラ分析の事例がなかったため、火山灰同定の確定を目的として行なった。試料は6区壁面の一部を深掘りして採取している。

また、既往の調査においては浜場遺跡・下堀遺跡の基本土層第Ⅲ層に見られる、やや赤く発色した黒色土層を「ミイケ」と呼称して、約4,200年前の御池降下火山灰に比定して年代決定の目安としてきた。しかし、最近の発掘調査成果により、その比定に疑問が生じてきたため、今回、従来の観点で分層した各層から試料を採取して火山灰同定を行なった。

なお、疑問が生じた例としては、通山の上苑遺跡において古墳時代の竪穴住居に、この「ミイケ」層土が流れ込んでおり、層と遺構の年代観に逆転が生じたことが挙げられる。

#### 2. 縄文時代早期 連穴土坑覆土の脂肪酸分析

燃焼痕跡が見られる連穴土坑（土坑26・27）内の覆土を分析して、土坑の性格に関する情報を得るのを目的とした。また、既往の連穴土坑を燵製炉という見解に対する検証を試みとしている。

#### 3. 縄文時代早期・晩期包含層を中心とした植物珪酸体分析

4区壁面から採取した試料を用いて、アカホヤ降下火山灰（Ⅶ）層を挟んで存在する縄文時代早期・晩期の包含層を中心とした環境変遷の把握を目的に行なっている。

#### 4. 縄文時代早期 連穴土坑下部のシミ状痕跡の科学分析

土坑26・27と土坑66・67の試料を用いて、縄文時代早期の連穴土坑「燃焼部」の下部より検出されたシミ状痕跡の情報を得ることを目的に、重鉱物・火山ガラス比分析・珪藻分析・植物珪酸体分析・脂肪酸分析を行なっている。

#### 5. 縄文時代早期 連穴土坑の燃焼部覆土の科学分析

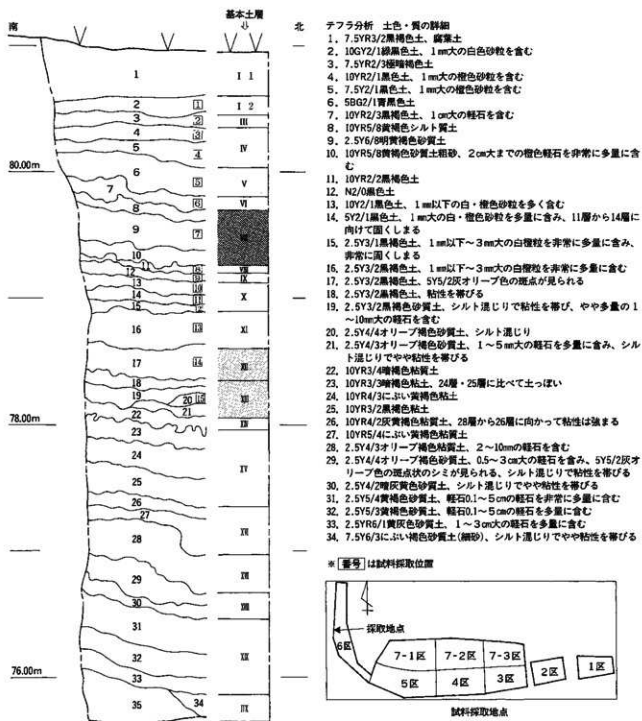
土坑43・44・45の「燃焼部」の覆土から採取した試料を用いて、連穴土坑に使用された燃料材の同定を目的に植物珪酸体・微細な遺物の洗出し分析・炭化材同定を行なっている。

#### 6. 縄文時代早期 連穴土坑の炭素分析

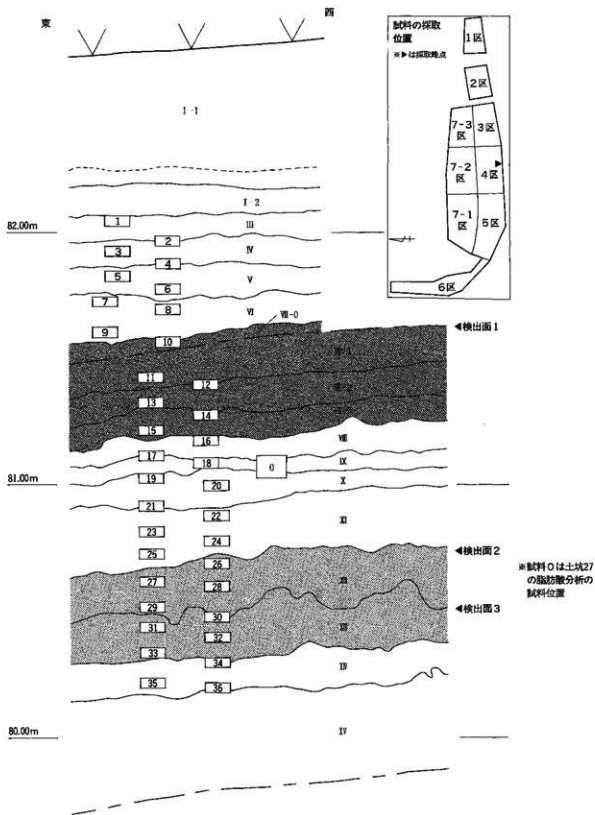
連穴土坑の年代について、土坑43・44・45の「燃焼部」覆土から出土した炭化材を用いて炭素分析

を行ない、実年代についての情報を得ることを目的に実施している。

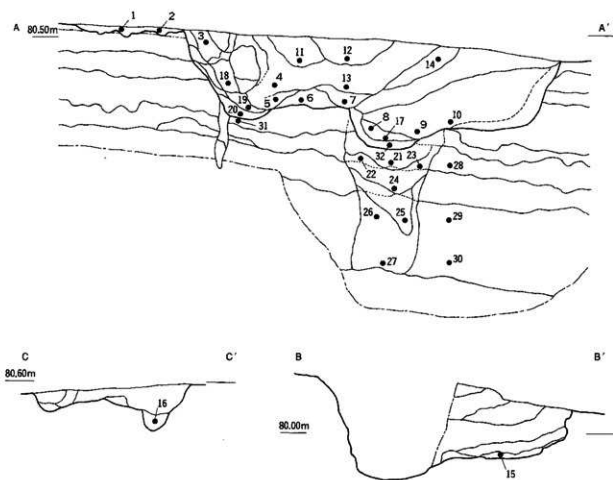
1) 平成15年3月に報告書を刊行している。



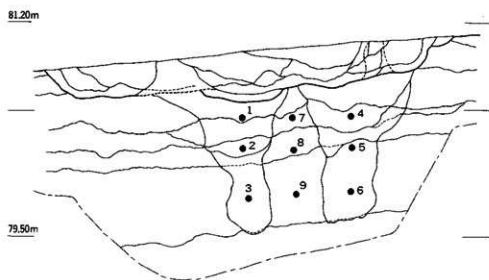
第210図 下堀遺跡 テフラ同定の試料採取位置



第211図 下堀遺跡 植物珪酸体分析の試料採取位置



第212図 下堀遺跡 土坑26・27 試料採取位置



第213図 下堀遺跡 土坑66・67 試料採取位置



土坑26



土坑27

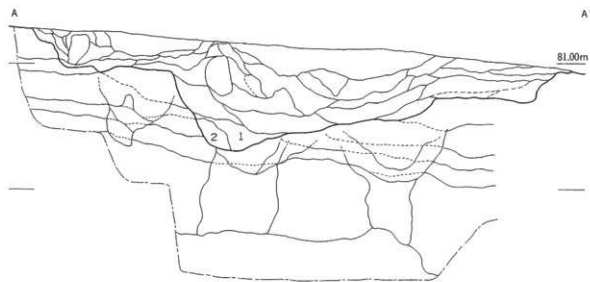


土坑66・67



土坑27下部

図版7 試料採取状況



第214図 下掘遺跡 土坑43・44・45 試料採取位置

## 第2節 下堀遺跡の自然科学分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

下堀遺跡は鹿児島県曾於郡有明町に所在し、大隅半島北部志布志湾に臨む標高約80mの台地上に位置する。遺跡の近傍には台地を開析する田原川の谷があり、遺跡の位置は田原川の左岸側に相当する。遺跡が立地する台地は、始良カルデラの活動により噴出した入戸火砕流により構成される、いわゆるシラスである(鹿児島県地質図編集委員会、1990)。入戸火砕流の噴出年代については、最近では約2.5万年前頃とされることが多い(池田ほか、1995など)。

発掘調査では、縄文時代早期および晩期を中心とする遺構、遺物が確認されている。特に縄文時代早期では、底面付近で2つの土坑が繋がる連穴土坑が複数検出されている。このような連穴土坑は、同県国分市上野原遺跡や加世田市の椀ノ原遺跡でも検出されており、薫製製造施設としての用途が推定されている。

今回の分析調査では、1)分層された土層断面において、テフラに由来する砕屑物(スコリア、火山ガラス、軽石)の産状を明らかにし、下堀遺跡における層序の基礎資料を作成することを目的として、テフラ分析を実施する。2)同じく分層された土層断面において、縄文時代早期、晩期を中心とした古植生についての検証を行うことを目的として植物珪酸体分析を実施する。3)縄文時代早期とされる連穴土坑燃焼部の下部にみられる灰色変色部分(シミ状痕跡)の由来についての情報を得ることを目的として、重鉱物・火山ガラス比分析、珪酸分析、植物珪酸体分析、脂肪酸分析を実施する。4)連穴土坑燃焼部の覆土において、土坑の年代観に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定を実施する。また、連穴土坑の用途、内容物、燃焼材などに関する情報を得ることを目的として、植物珪酸体分析、微細植物片分析、炭化材同定、脂肪酸分析を実施する。

### 1. 試料

#### 6区断面

下堀遺跡6区における深掘トレンチは、約5.5mの土層断面であり、1層から34層に分層されている。これらのうち、発掘調査所見から、土層断面の中部に堆積する17-21層が桜島薩摩テフラ(Sz-S; 小林、1986)に対比され、上部に堆積する8-10層が鬼界アカホヤ火山灰(K-Ah; 町田・新井、1978)に対比されている。また、7層が池田湖テフラ(Ik; 成尾・小林、1984)に、3層が霧島御池軽石(Kr-M; 町田ほか、1984)にそれぞれ対比されている。ただし、3層を霧島御池軽石に対比する従米の見解については、最近の考古学所見や今回の分析調査結果から、疑問が生じている。

試料は、11-17層までの各層と2-7層までの各層、およびSz-Sの中部層である20層とK-Ahの中部層である9層の合計15の層位から各1点ずつ採取されている。これらには上位より試料番号1-15までが付されており、この15点についてテフラ分析を実施する。層名と試料番号との対応は、分析結果を示した表1に併記する。

#### 4区断面

4区南壁は約3mの土層断面であり、II層を除くI層-IV層が観察される。このうち、IV層は縄文時代草創期の可能性が指摘される灰褐色粘土層である。II層とIII層はSz-Sに対比されており、6区断面の21-17層に相当する。このII層上面が遺構検出面3、III層上面が遺構検出面2である。X層はSz-11・12、Sz-13とされており、VII~IX層と合せて縄文時代早期とされる。VII層はK-Ahに対比され、6区の10-8層に相当する。VII層は、VII-0層からVII-3層の4層に細分され、4・5区については、VII-1層

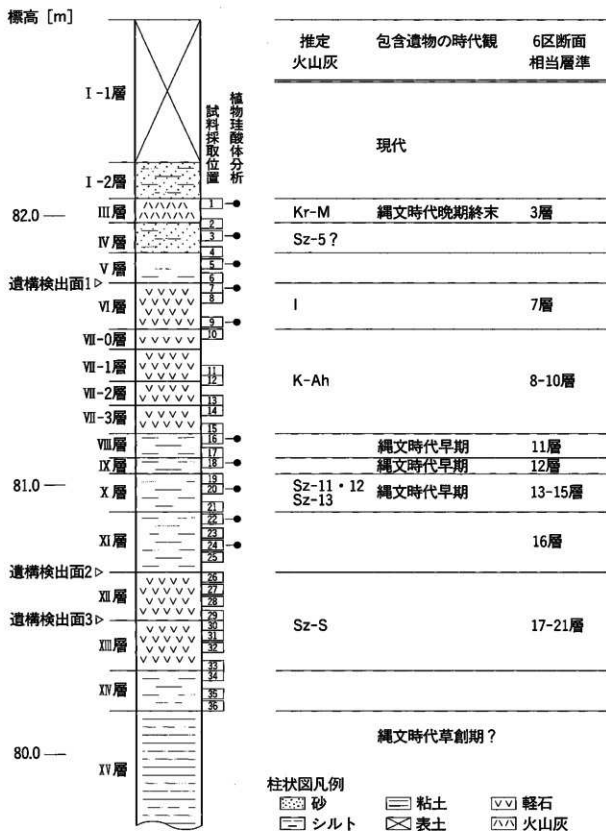


図1 4区南壁の模式柱状図、試料採取位置、および分析層位



上面が遺構検出面1である。Ⅳ層はIk、Ⅲ層はKr-Mに対比されており、それぞれ6区の7層、3層に相当する。Ⅳ層上面外交検出面1である。Ⅲ層は、縄文時代晩期終末とされる。Ⅰ層は現代であり、表土のⅠ-1層と旧耕作土のⅠ-2層に細分される。

試料は、Ⅲ層からⅣ層にかけて36点が採取されている。この中から、K-Ahの低位および上位より合計10点を選択し、植物珪酸体分析を実施する。模式柱状図、試料採取位置、および分析層位を図1に示す。

#### 連穴土坑下位変色部、地山

連穴土坑下位の変色部、地山については、土坑27より試料番号21-32の合計12点、土坑66・67より試料番号1-9の合計9点の土壌が採取されている。このうち、土坑27変色部の試料番号26、および地山の試料番号29、土坑66・67変色部の試料番号3、6、および地山の試料番号9の合計5点について、重鉱物・火山ガラス比分析、珪藻分析、植物珪酸体分析、脂肪酸分析を実施する。

#### 連穴土坑覆土

連穴土坑の覆土試料については、土坑26・27より試料番号1-20の合計20点、土坑43-45より赤色化が見られた覆土底部試料番号1、2の合計2点の土壌が採取されている。このうち、土坑26・27の試料番号2、6、7、10、16、17、20の合計7点について、脂肪酸分析を実施する。また、土坑43-45の試料番号1の合計1点について、放射性炭素年代測定を、土坑43-45の試料番号1、2の合計2点について、植物珪酸体分析、微細植物片分析、炭化材同定を実施する。

## 2. 分析方法

### (1) 放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、AMS法により行う。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma)に相当する年代である。測定年代の補正に用いた $\delta^{13}C$ の値は、加速器を用いて試料炭素の $^{13}C$ 濃度( $^{13}C/^{14}C$ )を測定し、標準試料PDB(白亜紀のペレムナイト類の化石)の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差(‰:パーミル)で表したものである。また、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4(Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与えて計算させている。

### (2) テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるY字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

### (3) 重鉱物・火山ガラス比

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム(比重約2.96)により重液分離、重鉱物と軽鉱物中の火山ガラスを偏光顕微鏡下にて同定

する。同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とした。「不透明鉱物」以外の不透明粒及び変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とした。また、火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡を持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

#### (4) 珪藻分析

試料を湿重で7g前後秤量し、過酸化水素水・塩酸処理、自然沈降法の順に物理・化学処理を施して、珪藻化石を濃集する。検鏡に適する濃度まで希釈した後、カバーガラス上に滴下し乾燥させる。乾燥後、ブリュワラックスで封入して、永久プレパラートを作製する。検鏡は、光学顕微鏡で油浸600倍あるいは1000倍で行い、メカニカルステージでカバーガラスの任意の測線に沿って走査し、珪藻殻が半分以上残存するものを対象に200個体以上同定・計数する(化石の少ない試料はこの限りではない)。種の同定は、原口ほか(1998)、Krammer(1992)、Krammer and Lange-Bertalot(1986, 1988, 1991a, 1991b)、Witkowski et al.(2000)などを参照する。

同定結果は、産出した淡水生種の各種類をアルファベット順に並べた一覧表で示す。なお、塩分・水素イオン濃度(pH)・流水に対する適応能についても示す。また、環境指標種についてはその内容を示す。また、産出化石が現地性か異地性か判断する目安として、完形殻の出現率を求める。堆積環境の解析は、海水-汽水生種については小杉(1988)、淡水生種については安藤(1990)、陸生珪藻については伊藤・堀内(1991)、汚濁耐性についてはAsai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とする。

#### (5) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすいう濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下、乾燥させる。乾燥後、ブリュワラックスで封入してプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から古植生について検討するために、植物珪酸体群集図を作成する。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求める。

なお、連穴土坑燃焼部の覆土試料では珪化組織片の産出に注目する。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や攪乱などの影響によって分離し単体となるが、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い(バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993など)。そのため、珪化組織片の産出により当時の構築材や燃料材などの種類が明らかになると考えられる。

#### (6) 微細植物片分析

土壌試料100cc程度を水に一晩液に浸し、試料の泥化を促す。0.5mmの篩を通して水洗し残渣を集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実遺体等を抽出する。種実の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑(石川, 1994)、日本植物種子図鑑(中山ほか, 2000)などと比較し、種類を同定・計数した。検出された炭化物(炭化材、不明炭化物)は、48時間80℃熱風乾燥後、重量を求め、炭化材は樹種を同定し別項目に報告する。分析後の植物遺体等は、種類毎にビンに入れ、

50%程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。炭化物は乾燥剤を入れて保存する。

#### (7) 炭化材同定

木口(横断面)・柀目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

#### (8) 脂肪酸分析

分析は、坂井ほか(1996)に基づき、脂肪酸およびステロール成分の含量測定を行う。試料が浸るに十分なクロロホルム:メタノール(2:1)を入れ、超音波をかけながら脂質を抽出する。ロータリーエバポレーターにより、溶媒を除去し、抽出物を塩酸-メタノールでメチル化を行う。ヘキサンにより脂質を再抽出し、セップバックシリカを使用して脂肪酸メチルエステル、ステロールを分離する。脂肪酸のメチルエステルの分離は、キャピラリーカラム(ULBON, HR-SS-10, 内径0.25mm, 長さ30m)を装着したガスクロマトグラフィー(GC-14A, SHIMADZU)を使用する。注入口温度は250℃、検出器は水素炎イオン検出器を使用する。ステロールの分析は、キャピラリーカラム(J&W SCIENFIC, DB-1, 内径0.36mm, 長さ30m)を装着する。注入口温度は320℃、絡む温度は270℃恒温で分析を行う。キャリアガスは窒素を、検出器は水素炎イオン化検出器を使用する。

### 3. 結果

#### (1) 放射性炭素年代測定

結果は表1・2に示した。土坑43-45より採取した炭化材の測定年代(補正年代)は、8740BPの値を示す。

表1 放射性炭素年代測定結果

遺構名	試料番号	試料の質	樹種	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code.No.
土坑43-45	1	炭化材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	8740±50	-25.31±0.67	8750±50	IAAA-31373

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表2 暦年較正結果

遺構名	試料番号	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)			相対比	Code.No.
土坑43-45	1	8740±48	cal BC 7,939 - cal BC 7,903	cal BP 9,889 - 9,853	0.038	IAAA-31373	
			cal BC 7,918 - cal BC 7,899	cal BP 9,868 - 9,849	0.092		
			cal BC 7,873 - cal BC 7,859	cal BP 9,823 - 9,809	0.062		
			cal BC 7,834 - cal BC 7,707	cal BP 9,784 - 9,657	0.625		
			cal BC 7,703 - cal BC 7,677	cal BP 9,653 - 9,627	0.122		
			cal BC 7,668 - cal BC 7,652	cal BP 9,618 - 9,602	0.062		

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer)を使用

計算には表に示した丸める前の値を使用している。

#### (2) テフラ分析

分析結果を表3に示す。スコリアは、土層断面上部の2層に中量、3層および4層に少量、5層に極めて微量に認められ、6層以下には認められない。スコリアの最大径は約1.5mm程度であり、黒灰色や暗灰褐色を呈する発泡の悪いものが多い。

火山ガラスは、K-Ahより上位の2-7層では中量程度、K-Ahより下位の11-14層では微量、15-17

表3 デアラ分析結果

層番号	深部調査所況		スコリア				火山ガラス			軽石		測定されるデアラ
	色調	注記	デアラなど	積	色調・発泡度	炭素	色調・形態	積	色調・発泡度	最大粒径		
2	緑褐色土	白色砂粒含む	銅地	+++	GB-b, DG-b, GB-ab, DGBR-b	1.5	+++	cl-bw, cl-pm >> br-bw	+++	W-g > GBR-g	2.5	Kr M, (Km)
3	極暗褐色土			++	GR-b, DG-b, GR-ab, DGBR-b	1.5	+++	cl-bw, cl-pm >> br-bw	+	W-g > GBR-g	3.0	
4	褐色土	棕色砂粒含む		+	GB-b, DGBR-b	1.5	+++	cl-bw, cl-pm >> br-bw	+	W-g	2.0	Sr-S?
5	黒色土	黒色砂粒含む		(+)	GB-b, DGBR-b	0.7	++	cl-bw, cl-pm >> br-bw	+++	W-g	2.0	
6	暗黒色土			-			+++	cl-bw > br-bw > cl-pm	-			
7	黒褐色土	極粒含む	池山	-			+++	cl-bw > br-bw > cl-pm	+	YW-b > CY-b	8.0	Ik
9	暗褐色砂状土		アカホヤ	-			+++	cl-bw >> br-bw > cl-pm	-			
11	黒褐色土		B1	-			+	cl-bw > br-bw	-			
12	黒色土	白褐色砂粒含む	B1	-			+	cl-bw > br-bw	(+)	GW*sg	1.5	
13	黒色土	白褐色砂粒多量含む	B2	-			+	cl-bw > br-bw	+	GW*sg	1.5	Sa 11-12
14	黒色土	白褐色砂粒多量含む	B2	-			+	cl-bw > br-bw	+	GW*sg > YW*sg	3.0	
15	黒褐色土	白褐色砂粒多量含む	B2	-			++	cl-pm > cl-bw > br-bw	++	GW*sg > YW*sg	2.0	Sa 13
16	黒褐色土	白褐色砂粒多量含む	B3	-			+	cl-pm > cl-bw > br-bw				
17	黒褐色土	灰オリーブ色の斑点が現れる	B3	-			+	cl-pm > cl-bw > br-bw	++	W-g	4.0	Sr-S
20	オリーブ褐色砂状土	シルト混じり	盛塚	-			++	cl-pm > cl-bw > br-bw	++	W-g	3.5	

凡例 一：含まれない、(+)：きわめて微量、-：微量、++：少量、+++：多量、++：少量、+++：多量。

R：黒色、G：灰色、Br：褐色、GB：灰褐色、DG：暗褐色、DGBR：暗所褐色、K：赤色、W：白色、GW：灰白色、YW：黄白色、CY：灰黄色

g：良好、sg：やや良好、ab：やや不良、b：不良、最大粒径はmm。

cl：無色透明、br：褐色、bw：パツル型、mal：中間型、pm：軽石型。

層および20層では少量含まれる。2-7層では、無色透明のバブル型と軽石型が混在し、微量の褐色を帯びたバブル型が認められる。11-14層では無色透明のバブル型と褐色のバブル型が混在し、15-17層および20層では、無色透明の軽石型が多く、少量の無色透明のバブル型と褐色のバブル型が含まれる。なお、K-Ah層である9層の試料については、処理後に得られた砂分のほとんどが火山ガラスにより構成されており、多量の無色透明のバブル型と微量の軽石型および褐色のバブル型が認められた。

軽石は、2層および5層に中量、4層、15層、17層、20層の各層に少量、3層、7層、13層、14層の各層に微量認められた。これらの内、2層と3層、4層と5層、14層と15層、17層と20層はそれぞれ同一の特徴を持つことから、7層の軽石と合わせて計5種類の軽石を検出することができた。2層と3層の軽石は、最大径約3mm程度、白色のものが多くが灰褐色のものも混在する。いずれも発泡は良好である。4層と5層の軽石は、最大径約2mm、白色を呈し、発泡は良好である。7層の軽石は、最大径約8mm、黄白色および灰黄色のものが混在し、いずれも発泡は不良である。14層と15層の軽石は、最大径約3mm程度、灰白色のものが多くが、黄白色のものも混在する。いずれも発泡はやや良好である。17層と20層の軽石は、最大径約4mm、白色を呈し、発泡は良好である。

### (3) 重鉱物・火山ガラス比

結果を表4、図2に示す。5点の試料は、いずれもほぼ同様の重鉱物組成および火山ガラス比を示す。すなわち、重鉱物組成では、斜方輝石が最も多く、

50-60%を占め、これよりやや少ない20-30%の不透明鉱物と微量の単斜輝石および角閃石を含む。火山ガラス比では、土坑27試料番号26ではバブル型火山ガラスが多く、少量の軽石型火山ガラスを伴う組成であり、他の4点はいずれも軽石型火山ガラスが多く、中量のバブル型火山ガラスを伴う組成である。

### (4) 珪藻分析

結果を表5に示す。珪藻化石は39個体以下と非常に少なく、土坑27の試料番号26は無化石である。土坑66・67の試料番号3、9、土坑27の試料番号29からは、湖沼～池沼などの止水域で浮遊生活する淡水浮遊性の *Aulacoseira italica*、*A. granulata*、*A. ambigua*、*Cyclotella ocellata* などが少ないながらも

表4 重鉱物・火山ガラス比分析結果

遺構名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
土坑27	26	0	113	4	3	115	15	250	111	0	42	97	250
	29	0	159	8	9	66	8	250	70	0	152	28	250
土坑66・67	3	3	129	8	3	95	12	250	76	0	160	14	250
	6	1	153	5	6	75	8	250	76	0	105	69	250
	9	1	154	12	3	70	10	250	69	0	135	46	250

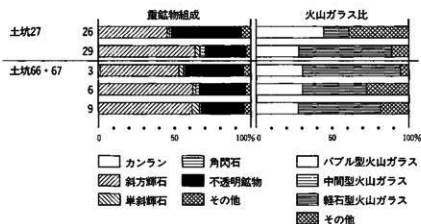


図2 土坑変色部と地山の重鉱物組成および火山ガラス比

表5 珪藻分析結果

種 類	生態性			環境 指標種	土坑27		土坑66・67		
	塩分	pH	流水		26	29	3	6	9
Aulacoseira ambigua (Grun.) Simonsen	Ogh ind	al-il	l-bi	N,U	-	-	-	-	4
Aulacoseira granulata (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-bi	M,U	-	-	1	-	5
Aulacoseira islandica (O.Mull.) Simonsen	Ogh ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	2
Aulacoseira italica (Ehr.) Simonsen	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	2	-	11
Aulacoseira spp.	Ogh unk	unk	unk		-	1	-	-	6
Cyclotella ocellata Pantocsek	Ogh-ind	al-bi	l-bi		-	1	-	-	3
Cyclotella radiosa (Grun.) Lemm.	Ogh-ind	al il	l bi	M,U	-	-	-	-	1
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	1	-
Epithemia adnata (Kuetz.) Brebisson	Ogh-ind	al-bi	ind		-	-	-	-	1
Fragilaria construens (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	l-ph	U	-	-	-	-	1
Fragilaria construens fo. binodis (Ehr.) Hustedt	Ogh-ind	al il	l ph	U	-	-	-	-	1
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	1	-	-	-
Stephanodiscus alpinus Hustedt	Ogh-ind	al-il	l-bi		-	-	-	-	1
Stephanodiscus spp.	Ogh-unk	unk	unk		-	-	-	-	3
海水生種					0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0	0
淡水生種					0	3	3	1	39
珪藻化石総数					0	3	3	1	39

凡例

I.I.R. : 塩分濃度に対する適応性

pH: 水素イオン濃度に対する適応性

C.R.: 流水に対する適応性

Ogh-ind: 貧塩不応性種

al-bi: 真アルカリ性種

l-bi: 真止水性種

Ogh-unk: 貧塩不明種

al-il: 好アルカリ性種

l-ph: 好止水性種

unk: pH不明種

ind: 流水不応性種

unk: 流水不明種

環境指標種群

M: 湖沼浮遊性種, N: 湖沼沼沢湿地指標種(安藤, 1990)

U: 広域適応性種(Asai and Watanabe, 1995)

表6 4区南壁の植物珪酸体分析結果

種 類	試料番号	1	3	5	7	9	16	18	20	22	24
イネ科葉部短細胞珪酸体											
タケ重科クマザサ属		-	-	-	-	-	-	-	-	3	14
タケ重科ネザサ節	51	55	51	65	52	64	94	52	15	12	
タケ重科	57	67	84	32	30	35	84	51	38	51	
ヨシ属	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ウシクサ族ススキ属	4	9	3	5	4	1	4	16	6	10	
イチゴツナギ草科	-	-	-	-	-	-	6	9	8	23	
不明キビ類	32	18	26	18	12	7	10	36	22	24	
不明ヒゲシバ型	37	23	26	15	20	8	24	14	7	15	
不明ダンテク型	24	25	31	27	14	18	20	15	12	16	
イネ科葉身機動細胞珪酸体											
タケ重科クマザサ属		-	-	-	-	-	-	-	-	2	15
タケ重科ネザサ節	68	75	65	156	162	151	76	124	12	11	
タケ重科	9	8	19	8	4	3	28	44	36	31	
ヨシ属	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウシクサ族	33	17	7	18	15	13	7	42	33	35	
不明	22	12	20	13	11	16	18	26	35	21	
合 計											
イネ科葉部短細胞珪酸体	207	199	221	162	132	133	242	193	111	167	
イネ科葉身機動細胞珪酸体	133	114	111	195	192	183	129	236	118	113	
総 計	340	313	332	357	324	316	371	429	229	280	

産出した。このうち、*Aulacoseira granulata* は湖沼浮遊性種群、*Aulacoseira ambigua* は湖沼沼沢地指標種群でもある（安藤，1990）。

#### (5) 植物珪酸体分析

##### 4区南壁断面

結果を表6、図3に示す。分析した全試料から、植物珪酸体が豊富に検出される。また、表面に小孔（溶食痕）がわずかに認められるだけであり、保存状態も比較的良好い。

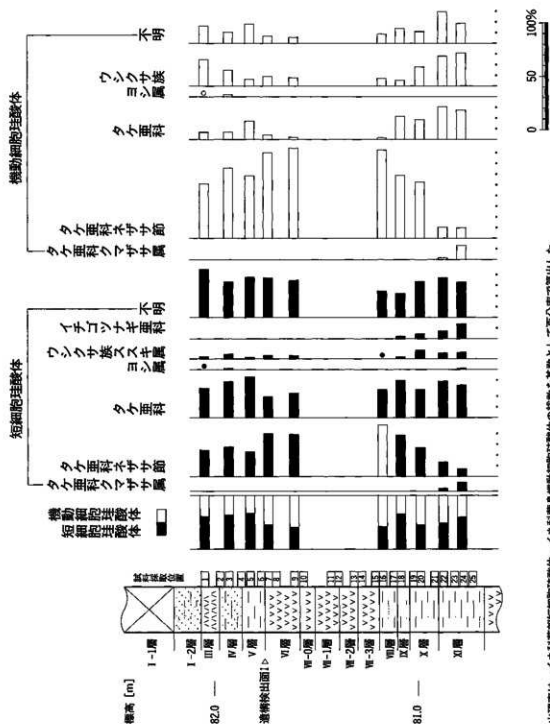


図3 4区南壁の植物珪酸体群集の層位的変化

出現率は、イネ科を除く短細胞珪酸体、イネ科を除く機動細胞珪酸体の総数を基数として百分率で算出した。  
なお、●は1%未満の種数を示す。

植物珪酸体群集をみると、試料番号24, 22ではクマザサ属とネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども認められる。上位の試料番号20, 18では、クマザサ属は産出しなくなり、下位の試料番号24, 22と比較して、ネザサ節の産出が目立つ。また、ススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科などは、上位に向かい減少する傾向を示す。K-A hを挟んだ試料番号15から試料番号7では、ネザサ節が優占し、イチゴツナギ亜科は産出しなくなる。また、ウシクサ族は低率である。Ik 降灰後の試料番号5から試料番号1にかけては、下位層準同様ネザサ節をはじめとするタケ亜科が優占するが、ウシクサ族が上位層に向かい増加する傾向が認められる。

#### 連穴土坑

結果を表7に示す。連穴土坑の各試料からは、植物珪酸体の検出個体数が少なく、珪化組織片は全く認められない。

土坑27下位の変色部である試料番号26と地山の試料番号29からは、いずれもタケ亜科など数個体が認められるに過ぎない。

土坑43-45覆土底部の試料番号1, 2では保存状態の比較的良好なタケ亜科、ススキ属を含むウシクサ族がわずかに認められる。

土坑66・67下位の灰色変色部から採取された試料番号3, 6, および地山の試料番号9では、タケ亜科など数個体が認められる。

なお、いずれの試料からも、栽培植物や樹木葉部に由来する植物珪酸体は認められない。

#### (6) 微細植物片分析

結果を表8に示す。試料番号1からは、同定可能な種実遺体は検出されない。試料番号2からはカラスザンショウ

(*Fagaria ailanthoides* (Sieb. et Zucc.) Engler: ミカン科イヌザンショウ属)の核の破片が1個体と種類の特定に至らない花序が3個体検出された。その他、両試料から、炭化材が2-3mm以下の細片を中心に検出された。なお、不明炭化物は、木材組織が認められない、部位・種類不明の炭化物を示す。

検出されたカラスザンショウの核(内果皮)の破片は黒

表7 連穴土坑の植物珪酸体分析結果

種 類	土坑27		土坑43-45		土坑66・67			
	試料番号	26	29	1	2	3	6	9
イネ科葉部短細胞珪酸体	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節	-	-	1	-	-	-	-	-
タケ亜科	1	-	19	27	-	1	1	-
ウシクサ族ススキ属	-	1	4	2	-	-	-	-
イチゴツナギ亜科	-	-	2	4	-	-	-	-
不明キビ型	-	1	17	6	-	-	-	-
不明ヒゲシバ型	-	-	14	1	-	-	-	-
不明ダンチク型	-	-	8	5	1	1	1	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体	-	-	-	-	-	-	-	-
タケ亜科ネザサ節	-	-	2	-	-	-	-	-
タケ亜科	-	-	17	7	-	-	-	-
ウシクサ族	-	-	18	1	-	-	-	-
不明	1	2	9	6	1	1	2	-
合 計								
イネ科葉部短細胞珪酸体	1	2	65	45	1	2	1	-
イネ科葉身機動細胞珪酸体	1	2	46	14	1	1	2	-
総 計	2	4	111	59	2	3	3	-

表8 微細植物片分析結果

種 類	試料名	土坑43 45		備考
		1	2	
分析試料	重量(g)	173.3	180.7	
	容量(cc)	100	100	
カラスザンショウ 核	個数	-	1	
炭化材	重量(g)	0.73	0.45	炭化材同定対象試料
不明炭化物	重量(g)	0.01	-	
不明植物 花序	個数	-	3	

表9 樹種同定結果

遺積名	試料番号	点数	樹種 ( )内は点数
土坑43-45	1	5	コナラ属コナラ亜属コナラ節 (5)
	2	5	コナラ属コナラ亜属コナラ節 (5)



表10 脂質分析結果

種 類 試料名	土坑26			土坑27			土坑66・67					
	2	16	20	6	7	10	17	26	29	3	6	9
脂肪酸組成												
ミスチン酸 (C14)	-	-	-	-	-	-	-	12.2	10.0	11.2	5.9	12.2
パルミチン酸 (C16)	100.0	76.9	56.9	100.0	100.0	100.0	100.0	36.6	40.4	46.7	38.1	57.5
パルミトレイン酸 (C16:1)	-	-	-	-	-	-	-	9.9	9.8	8.4	5.4	-
ステアリン酸 (C18)	-	23.1	16.7	-	-	-	-	-	11.9	12.5	17.1	-
オレイン酸 (C18:1)	-	-	26.3	-	-	-	-	32.6	10.8	15.7	23.4	30.3
リノール酸 (C18:2)	-	-	-	-	-	-	-	8.7	-	5.6	10.1	-
γリノレン酸 (C18:3)	-	-	-	-	-	-	-	-	10.3	-	-	-
αリノレン酸 (C18:3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アラキジン酸 (C20)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イコセン酸 (C20:1)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アラキドン酸 (C20:4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ベヘン酸 (C22)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ドコセン酸 (C22: Itrans)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エルカ酸 (C22: Icis)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イコサペンタエン酸 (C20:5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
リグノセリン酸 (C24)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
チトラコセン酸 (C24:1)	-	-	-	-	-	-	-	-	6.7	-	-	-
ドコサヘキサエン酸 (C22:6)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ステロール組成												
コプロスタノール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コレステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
エルゴステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カンペンステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ステイグマステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シトステロール	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
分析試料の重量 (g)	104.5	103	76.9	101.3	103.1	102.8	123.4	80.4	85.1	101.1	98.7	85.1

色で、完形ならば非対称広倒卵体でやや偏平を呈する。径3.5mm程度。片方の側面に核の長さの半分以上に達する深く広い鱗がある。内果皮は厚く硬く、表面にやや深く大きな網目模様がある。

不明植物の花序は灰褐色で細長い楕円体。長さ4.5mm、径1.5mm程度。表面には0.6mm程度の鱗片が螺旋状に配列する。

### (7) 炭化材同定

樹種同定結果を表9に示す。炭化材は、全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属コナラ節に同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Prinus) ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと同複合放射組織とがある。

### (8) 脂肪酸分析

結果を表10、図4に示す。脂肪酸組成をみると、土坑26・27では、試料番号2、6、7、10、17でパルミチン酸 (C16) のみ検出される。その他の試料はパルミチン酸 (C16) の割合が高く、オレイン酸 (C18:1) やステアリン酸 (C18) が検出される。土坑66・67ではパルミチン酸 (C16) の割合が高く、その他ミリスチン酸 (C14)、パルミトレイン酸 (C16:1)、ステアリン酸 (C18)、オレイン酸を含んでいる。全体的に検出される脂肪酸の種類が少ないのが特徴である。また、ステロールは、いずれの試料においても未検出である。

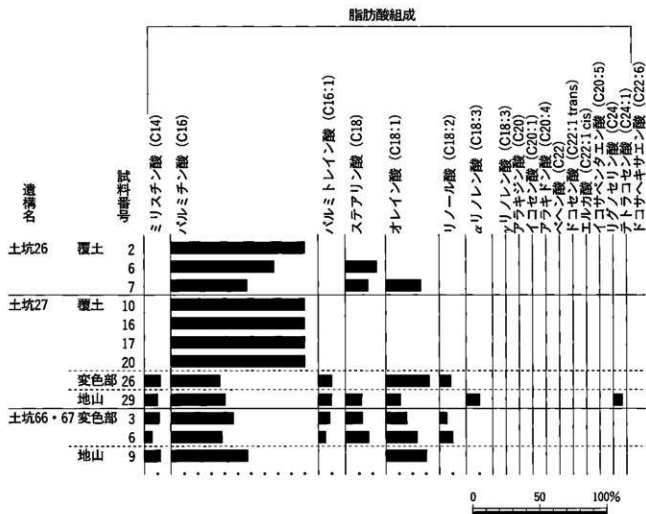


図4 土坑覆土、変色部、および地山の脂肪酸組成

#### 4. 考察

##### (1) 6区土層断面の年代観

下堀遺跡の所在する有明町の地理的位置を考慮すると、Sz-Sの噴出した1.1万年前(奥野, 1997)以降も、桜島を給源とするテフラはもちろんのこと、池田カルデラや霧島火山さらには開聞岳などを給源とするテフラが、この地に降下堆積している可能性がある。ここでは、小林(1986)、小林・江崎(1997)、森脇(1994)、町田ほか(1984)、町田・新井(1992)などの記載から、検出されたテフラの碎屑物の由来を検討する。

分析の対象とされた土層のうち、最下位の20層および17層は、Sz-Sの降下堆積層とされており、今回の分析では白色で発泡の良好な軽石が確認された。その上位の15層において軽石質テフラの降灰層準が推定される。Sz-SとK-Ahとの間であることと軽石質であることから、桜島テフラのうちSz-13~11のいずれかに対比される可能性がある。これらの中では、複数ある分布軸の一つが南東方向にあるとされるSz-13に対比される可能性が高い。この場合、12層や13層に微量含まれる軽石は、Sz-12・11に由来する可能性がある。

約6500年前に降灰したとされるK-Ahからなる9層は、ほぼ火山ガラスのみからなる。今回、その屈折率を確認したところn1.508-1.511の値が得られた。この値は、町田・新井(1992)に掲載されているK-Ahの火山ガラスの屈折率とほぼ一致する。なお、屈折率の測定には、古澤(1995)の温度変化法を使用した。

K-Ahの上位の7層の軽石は、桜島テフラであれば、層位関係からSz-8~5になる。これらの桜島テフラのうち、Sz-8~6は、上述の文献における記載などから、その分布域は狭く、有明町付近には降灰していない可能性が高い。また、Sz-5の分布軸は北方に向いている。これらのことから、桜島以外の給源を考えるとすれば、K-Ahとの層位から、池田カルデラを給源とするIkがあげられる。池田湖テフラの活動は、ベースサージ、降下軽石の噴出の後、火砕流を噴出し、その年代は約5600年前とされている。池田湖降下軽石が最も広範囲に分布が認められており、給源の東方400km以上でも確認されている(町田ほか, 1984)。したがって、有明町にも降下堆積している可能性は充分にある。前述および後述する、桜島テフラに対比される軽石の発泡が比較的良好であるのに対して、7層の軽石の発泡が不良であることも、それが桜島テフラとは異なる給源であることを示唆していると考えられる。

5層には、白色で発泡の良好な軽石からなるテフラの降灰層準があると考えられる。軽石の特徴がSz-SやSz-13に類似していることから、桜島テフラに対比される可能性がある。Ikとの層位関係を考慮すれば、おそらくSz-5に対比されると考えられるが、前述のようにSz-5の分布軸は北方にあることから、現時点では、まだ他のテフラに対比される可能性もある。

3層にも発泡の良好な軽石からなるテフラの降灰層準があると考えられる。桜島テフラでは、Sz-5より上位のテフラは、8世紀以降の歴史時代のテフラになる。しかし、発掘調査所見による3層の年代観とは異なること、最近の発掘調査で同様の軽石が古墳時代の堅穴住居に流れ込んでいる状況が確認されたとの情報があることから、3層のテフラは桜島とは異なる火山を給源とするテフラであると考える。年代と分布から、霧島火山群の御池火山を給源とするKr-Mに対比される可能性がある。Kr-Mの噴出年代は、約4200年前とされている(奥野, 2002)。

ところで、2層から4層にかけては、他の層位にはほとんど含まれないスコリアが比較的多い。本項の冒頭で述べた各文献では、Kr-Mにスコリアが含まれるという記載がないことから、これらの層のスコリアは、Kr-Mとは異なるテフラに由来すると考えられる。Kr-Mの年代と同じ頃に多量の降下スコリアを噴出した火山は、南九州では開聞岳がある。開聞岳は、約4000年前から9世紀末に至る

まで多数の降下スコリアを噴出しており（藤野・小林，1997）、その一部は、有明町付近まで分布していることが、日本の地質「九州地方」編集委員会編（1992）に示されている。したがって、2層から4層にかけて含まれるスコリアは、開閉岳のテフラに由来する可能性が高い。

以上に述べた今回の土層断面におけるテフラの対比については、まだ既存の文献記載による部分が大きい。したがって、有明町付近におけるシラス台地上のSz-S以降のテフラ層序を確立するためには、今後も周辺域におけるテフラ層の産状を多数確認しながら、検証を進めていく必要があると考えられる。

## （2）縄文時代早期、晩期の古植生

4区南壁のⅡ層が形成された縄文時代早期以前には、調査区周辺にクマザサ属やタケ亜科をはじめとして、ススキ属を含むウシクサ族やイチゴツナギ亜科などのイネ科植物が生育していたと考えられる。

Ⅱ層の縄文時代早期前葉からⅢ層の縄文時代早期中葉になると、クマザサ属は産出しなくなり、タケ亜科（特にネザサ節）が増加する。大隅半島南部から宮崎県にかけての植物珪酸体分析例では、K-Ahの降灰以前にクマザサ属型機動細胞珪酸体の減少傾向が見られる（杉山，1999）。この要因として、完新世初頭の気候温暖化とともに森林伐採や火入れなどの人間による植生干渉の増加が指摘されている（杉山・早田，1997）。これらを考慮すれば、調査区周辺でも同様な要因による植生の変化があった可能性がある。

K-AhのⅦ層を挟んでⅧ層からⅠkのⅥ層では、ネザサ節が優占し、イチゴツナギ亜科は産出しなくなる。よって、当時の周辺は、ネザサ節を含むタケ亜科を主体とするイネ科植物が生育していたと思われる。

Ⅴ層からⅢ層にかけては、下位層準同様ネザサ節をはじめとするタケ亜科が優占するが、ウシクサ族が上位層に向かい増加する傾向が認められる。よって、この頃では、以前と同様にネザサ節を含むタケ亜科を主体とし、ススキ属を含むウシクサ族なども生育していたと考えられる。

杉山（1999）によれば、Sz-11の降灰以降から少なくとも約4200年前のKr-M降灰までは、南九州沿岸部に黒葉樹林が拡大したにも関わらず、宮崎県南部の内陸地にネザサ節などのタケ亜科を主体としてススキ属なども見られる草原植生が成立していたことが推定されている。また、この要因には定期的な刈り取り、火入れなど人為的な植生干渉や山火事の頻発などの自然条件が指摘されている。調査区周辺と宮崎県南部の内陸地は、県境付近に位置する都城盆地の分水界で隔てられている（森脇・長岡，2001）。しかし、今回の結果を見る限り、調査区周辺が立地する台地上でも人為的な植生干渉などにより、同様な草原植生が存在していた可能性が考えられる。また、縄文時代早期に認められるイチゴツナギ亜科の減少・消失やウシクサ族の減少、およびⅠk降灰以降に認められるウシクサ族の増加などは、K-Ah、Ⅰkの降灰が少なからず影響している可能性がある。

## （3）連穴土坑下位の灰色変色部

試料が採取された砂質の土層は、層相と層位から、調査区の立地している台地を構成する入戸火砕流堆積物の風成二次層に相当する。したがって、地山の試料である土坑27試料番号29と土坑66・67試料番号9の重鉱物組成および火山ガラス比は、入戸火砕流堆積物のそれらの特性が反映されている。実際に、今回得られた結果は、上野（2001）に記載されている入戸火砕流堆積物の特性とほぼ一致する。さらに、土坑27試料番号29の火山ガラスについて、古澤（1995）の温度変化法により屈折率を確認したところ、n1.498-1.501（モード1.499-1.500）の値が得られた。これは、入戸火砕流により発生した広域テフラである始良Tn火山灰（AT：町田・新井，1976）の火山ガラスの屈折率とも一致す

る。なお、入戸火砕流堆積物の風成二次層について、永迫・森脇（2002）は、台地の下から吹き上げられたシラス起源のテフリックレスであり、大隅半島北部の台地では数10cm以上の厚さを持つと述べている。

連穴土坑下位の変色部について考えると、まず土坑66・67については、地山と全く同様の重鉱物組成・火山ガラス比であることから、変色部の母材となっている砕屑物は地山に由来するものと考えられる。一方、土坑27については、地山とは重鉱物組成・火山ガラス比ともに若干の量比の違いが認められる。しかし、土坑27試料番号26の火山ガラスから、土坑27試料番号29の火山ガラスとはほぼ同様の屈折率を確認できたことから、土坑27の変色部の母材も入戸火砕流に由来することは確実であり、地山に由来するといえる。指摘した量比の違いについては、地山層内における空間的な部位による砕屑物のばらつきが反映されている可能性がある。

また、珪藻分析、植物珪酸体分析の結果では、いずれの化石もほとんど産出ししない。珪藻化石、植物珪酸体の検出個数が少なかった要因として、埋積速度が速かったために土壤中に化石が取り込まれにくい状態であったと考えられる。また、微量ながらも淡水浮遊性種産出したことから、土層堆積時に周囲の止水域に堆積した土壌が流入した可能性がある。

一方、土坑27の試料番号26, 29、土坑66・67の試料番号3, 6の脂肪酸分析結果をみると、数種類の脂肪酸が検出されており、パルチミン酸やオレイン酸が多くなっている。土坑66・67の試料番号9は、構成する脂肪酸の種類数が少ないが、組成的に他の試料と大きく異なっていない。このことから、各土坑の下位に認められた変色部と地山における脂質の組成に差異は認められない。

考古遺物や土壌の脂肪酸分析を行った場合、パルチミン酸の割合が高いことが多い。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が酸化されてパルチミン酸を生成するため、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物に由来すると推定されている（中野ほか、1993）。また、坂井・小林（1995）は、既存の基礎実験結果を検討し、熟や経年変化によりオレイン酸に対する、パルチミン酸の割合が増加することを指摘している。このことから、今回の試料は、経年変化による分解が進んでいる可能性がある。また、当社でこれまで行った分析結果からみると、遺体埋納など動物の痕跡が認められる場合には、脂肪酸組成やステロール組成にばらつきが大きくなるのに対し、自然に近い状態の場合は組成のばらつきが小さくなる傾向にある（当社未公表資料）。これは、自然状態では組成が均質化し、物理・化学的に安定した方向に向かうのに対し、埋納などが行われた場合はその状態が崩れ、局所的に濃集が起こるためである。このことは、小山（1995）でも指摘されており、土坑中での動物の痕跡を検証するための指標の一つとされている。今回の場合、全体としてばらつきが小さいように見えるが、中でも土坑27の試料番号29は、 $\alpha$ リノレン酸やテトラコセン酸など多価不飽和脂肪酸や高級脂肪酸が検出される点で異なる。特にテトラコセン酸は動物の臓器、脳、神経などに検出されると考えられており（中野、1993）、ここでは動物遺体に由来する可能性もある。しかし、一方で、C20以上の脂肪酸は植物のワックス中にも多くみられるという報告もあるため（筒木・近藤、1997；1998）、今回のような1種類のみの検出では、その評価は慎重に行う必要がある。

以上のことより、連穴土坑焼燼部の下位に認められる変色部については、いずれの分析においても地山との相違点が認められず、その由来についての検証は困難である。今後は、X線回折分析、蛍光X線分析、土壌理化学分析などを実施し、粘土鉱物や土壌中の元素組成、成分の変化などを検討することにより、新たな見解がえられる可能性がある。

#### （4）土坑内覆土の検証

連穴土坑は、南九州では縄文時代早期からみられ、その形状などから藁蓋を作るための施設と考

えられている。加世田市の椀ノ原遺跡では、その内容物を推定するために、連結土坑の脂肪酸分析が行われている。それによると、脂肪酸の割合は、炉穴の煙道出入口付近で高く、炉穴の外側と焚き火口とされる炉穴後ろ側で低いという結果が得られている（中野，1998）。また、煙道の出入口付近で、動物由来のステロール（コレステロール、コプロスタノール）が高く、動物の臓器、脳、神経などに由来する高級脂肪酸や不飽和度の高い脂肪酸の酸化物が検出されており、脂肪酸組成からイノシシンに類似する脂肪酸が得られたことが指摘されている（中野，1998）。椀ノ原遺跡では、脂肪酸・ステロール組成が同一遺構内で異なる点と遺構の形状などから、煙道付き炉穴が蒸製施設であったことが想定されている（加世田市教育委員会，1998）。ただし、脂肪酸分析から動物種を特定するには、慎重な解釈を必要とするとする意見も多くあるため（坂井・小林，1995；山口，2002）、今回は細かな動物種の検討は行わず、動物の痕跡が認められるか否かに着目して考察する。

食品の脂肪酸組成をみると、1つの食品に対して10種類以上の脂肪酸が組み合わさった複雑な組成を示しているものがほとんどであり、動植物の脂肪酸組成は単純でないことがわかる（五明・長谷川編，1993）。土坑26・27の覆土における脂肪酸分析結果をみると、すべての試料でステロールが検出されず、脂肪酸についても構成する種類数が少ない。おそらく、抽出された脂質の量が微量なため検出器の感度を下回り、偶発的に反応した種類のみが誇大に表示されているものと考えられる。また、前述のように、パルチミン酸は経年変化により土壤中に増加するとされている。これらのことを考慮すると、今回得られた脂肪酸組成は、経年変化による均質化や安定な脂肪酸への分解がかなり進行していると考えられる。したがって、動物質の埋納に関して推定することは困難である。また、椀ノ原遺跡で認められたような遺構内での脂質の偏りも認められないことから、土坑26・27が蒸製施設であるかは不明である。

連穴土坑43-45の覆土については、植物珪酸体、炭化材、炭化物が検出された。検出された炭化材について放射性炭素年代測定を実施したところ、測定年代値で約8700年前という値が得られた。連穴土坑の年代観は縄文時代早期とされていることから、今回得られた結果は発掘所見と大きく矛盾するものではない。また、遺構検出面の下位に認められるSz-Sの噴出年代が1.1万年前とされていることから、層位的にも矛盾がない。植物珪酸体については、検出されるものの豊富といえず、珪化組織片も全く認められない。しかし、検出されたタケ亜科やススキ属は、前述したように縄文時代早期頃の周辺に生育していたことが推定される。これらの種類は古くから燃料材や住居構築材などの資材として利用されている。この点を考慮すれば、本遺跡内でもタケ亜科やススキ属が燃料材のひとつとして利用された可能性も否定できない。

土壌の洗い出しの結果からは、炭化材と炭化物が確認された。試料番号2から検出された不明植物の花序は遺存状態が良好である。一般に、種実を含む大型植物遺体は、低湿地遺跡など特別な場合を除き、炭化していない限り残らないと言っておく、解析に関して炭化種子以外を除外して考えた方が妥当だという意見がある（古崎，1992）。不明植物は遺跡周辺に生育していたと思われるが、遺存状態が良好であることから、遺構が埋没する過程で混入した後代のものであると考えられ、解析から除外する。同じく試料番号2から検出されたカラスンショウは、山中に普通にみられる落葉高木で、遺跡周辺に生育していたものに由来すると思われる。

一方、燃料材の可能性が考えられる炭化材の樹種は、全てコナラ属コナラ亜属コナラ節であった。コナラ節にはコナラやミズナラなどが含まれており、主に林縁部や集落周辺等の陽地に生育し、とくに森林伐採後の二次林の主構成種となる種類である。木材が重硬であるが、薪炭材としては国産材の中でも特に優良な種類の一つとされる。このことや、調査した全点がコナラ節であったことなどから、

集落周辺で入手可能で薪炭材としても優良な木材を選択・利用した可能性がある。ただし、いずれも微細な炭化材であることを考慮すると、同一個体が細かく割れた可能性もある。

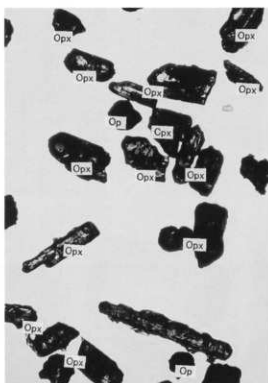
以上のことより、速穴土坑43-45の燃焼部では、少なくともコナラ節の木材を燃料材として利用したことが推測される。本地域では、同時期の木材利用に関する資料が少ないため、今後さらに多くの資料を蓄積して用途別の木材利用状況を把握することが必要と思われる。

## 引用文献

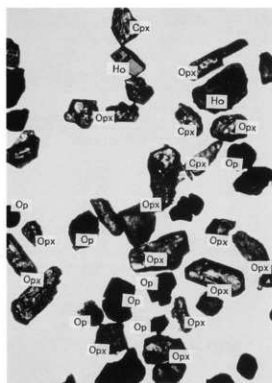
- 安藤 一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用, 東北地理, 42, 73-88.
- Asai, K. and Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophytic and, saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.
- 藤野 貞樹・小林 哲夫, 1997, 関門岳火山の噴火史, 火山, 42, 195-211.
- 古澤 明, 1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別, 地質学雑誌, 101, 123-133.
- 五明 紀春・長谷川 恭子 (編著), 1993, アミノ酸&脂肪酸組成表, 女子栄養大学出版部, 292p.
- 原口 和夫・三友 清・小林 弘, 1998, 埼玉の藻類 珪藻類, 埼玉県植物誌, 埼玉県教育委員会, 527-600.
- 池田 晃子・奥野 充・中村 俊夫・筒井 正明・小林 哲夫, 1995, 南九州、始良カルデラ起源の大隅降下軽石と入戸火砕流中の炭化樹木の加速質量分析法による14C年代, 第四紀研究, 34, 377-379.
- 石川 茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑, 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 伊藤 良永・堀内 誠, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, 珪藻学会誌, 6, 23-45.
- 鹿児島県地質図編集委員会, 1990, 鹿児島県地質図 縮尺10万分の1, 鹿児島県.
- 加世田市教育委員会, 1998, 加世田市埋蔵文化財発掘調査報告書15 椀ノ原遺跡, 197p.
- 小林 哲夫, 1986, 桜島火山の形成史と火砕流, 文部省科学研究費自然災害特別研究, 計画研究 火山噴火に伴う乾燥粉体流(火砕流等)の特質と災害 (代表者荒牧重雄) 報告書, 137-163.
- 小林 哲夫・江崎 真美子, 1997, 桜島火山, 噴火史の再検討, 月刊地球, 19, 227-231.
- 近藤 誠三・佐藤 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.
- 小杉 正人, 1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用, 第四紀研究, 27, 1-20.
- 小山 陽造, 1995, 東北地方の脂肪酸分析結果, 考古学ジャーナル, 386, 17-21.
- Krammer, K., 1992, PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa. BIBLIOTHECAIATOMOLO- GICA, BAND. BERLIN - STUTTGART, 26, 353p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1986, Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae. Band 2/1 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa. Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1988, Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae. Band 2/2 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa., Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991a, Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaceae, Eunotiaceae. Band 2/3 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa. Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer, K. and Lange-Bertalot, H., 1991b, Bacillariophyceae, Teil 4, Achnantheaceae, Kritische Ergaenzungen zu Navicula (Lineolatae) und Gomphonema. Band 2/4 von: Die Suesswasserflora von Mitteleuropa. Gustav Fischer Verlag, 248p.
- 町田 洋・新井 房夫, 1976, 広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義-, 科学, 46, 339-347.
- 町田 洋・新井 房夫, 1978, 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アコホヤ火山灰, 第四紀研究, 17, 143-163.
- 町田 洋・新井 房夫, 1992, 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井 房夫・杉原 重夫・小田 壽夫・遠藤 邦彦, 1984, テフラと日本考古学-考古学研究と関連するテフラのカタログ-, 渡辺貞経 (編著), 古文化財に関する保存科学と人文・自然科学, 865-928.
- 森脇 広, 1994, 桜島テフラ-層序・分布と細粒火山灰層の層位-, 文部省科学研究費 (一般研究C), 研究成果報告書 鹿児島湾周辺における第四紀後期の細粒火山灰層に関する古環境学的研究, 1-20.
- 森脇 広・長岡 信治, 2001, 鶴岡山地と大隅半島の山地と平野, 町田 洋・太田 陽子・河名 俊男・森脇 広・長岡 信治

- (編), 日本の地形7 九州・南西諸島, 東京大学出版会, 193-199.
- 永迫 俊郎・森脇 広, 2002, シラス台地の古環境変化—流水・風成作用がつくる非一様性—, 日本地理学会発表要旨集, 62, 156.
- 中野 益男・福島 道広・中野 寛子・明瀬 雅子・長田 正宏, 1993, 西隆寺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析, 奈良国立文化財研究所学報52 西隆寺発掘調査報告書, 94 100, 奈良国立文化財研究所.
- 中野 益男, 1993, 脂肪酸分析法. 第四紀試料研究法2 研究対象別分析法, 東京大学出版会, 388-403.
- 中野 益男, 1995, 脂肪酸分析の現状と課題. 考古学ジャーナル, 386, 2-8.
- 中野 益男, 1998, 榑ノ原遺跡から出土した(煙道付き)炉穴に残存する脂肪の分析. 加世田市埋蔵文化財調査報告書15 榑ノ原遺跡 第1分冊, 鹿児島県加世田市教育委員会, 196-197.
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 志志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 成尾 英仁・小林 哲夫, 1984, 池田カルデラ形成時の降下堆積物(演習). 火山第2集, 29, 148.
- 日本の地質「九州地方」編集委員会, 1992, 日本の地質9 九州地方. 共立出版, 371p.
- 奥野 充, 1997, 桜島テフラ群の放射性炭素(14C)年代学. 月刊地球, 19, 231-235.
- 奥野 充, 2002, 南九州に分布する最近約3万年間のテフラの年代学的研究. 第四紀研究, 41, 225-236.
- バリノ・サーヴェイ株式会社, 1993, 自然科学分析からみた人々の生活(1). 慶應義塾難波沢校地埋蔵文化財調査室(編) 難波沢キャンパス内遺跡 第1巻 総論, 慶應義塾, 347-370.
- 坂井 良輔・小林 正史, 1995, 脂肪酸分析の方法と問題点. 考古学ジャーナル, 386, 9-16.
- 坂井 良輔・小林 正史・藤田 邦雄, 1996, 灯明皿の脂質分析. 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第7集 梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告(遺物編) 第二分冊, 財団法人 富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所, 24 37.
- 杉山 真二, 1999, 植物脂肪酸体からみた最終氷期以降の九州南部における原葉樹林発達史. 第四紀研究, 38, 109-123.
- 杉山 真二・早田 勉, 1997, 南九州の植生と古環境-植物脂肪酸体分析による検討-. 月刊地球, 19, 252-257.
- 筒木 潔・近藤 練二, 1997, 泥炭地植物のフェノール性化合物, 脂肪酸, ステロール組成. 日本土壤肥料学雑誌, 46, 37-44.
- 筒木 潔・近藤 練三, 1998, 泥炭地の乾燥化と積層変化に伴う泥炭の脂質組成の変化. 日本土壤肥料学雑誌, 69, 12-20.
- 上野 龍之, 2001, 火山灰粒子組成の個方・垂直変化から見た入戸火砕流の堆積機構. 火山, 46, 257-268.
- Witkowski, A., H. Lange-Bertalot, and D. Metzeltin, 2000, Diatom flora of Marine coast I. *Iconographia Diatomologica* 7:, Koeltz Sci. Koenigstein, 881p.
- 山口 昌美, 2002, 考古学の残存脂肪酸分析と食の問題(前編), 食の科学, 光琳, 295, 37-45.
- 吉崎 昌之, 1992, 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル, 355, 2-14.





1. 重鉱物 (土坑66・67;3)



2. 重鉱物 (土坑27;29)



3. 火山ガラス (土坑66・67;3)

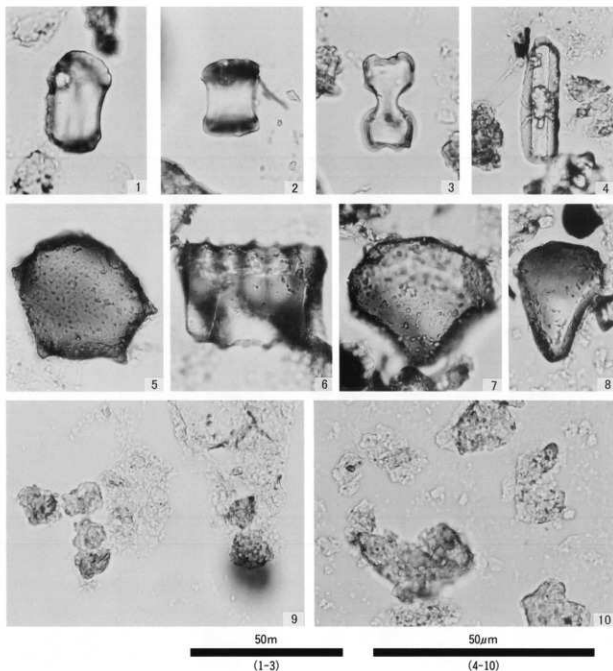


4. 火山ガラス (土坑27;29)

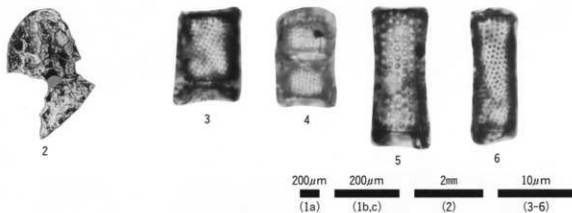
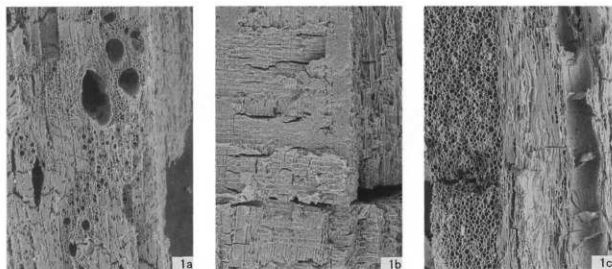
Opx : 斜方輝石, Cpx : 単斜輝石, Ho : 角閃石, Op : 不透明鉱物.

0.5mm





- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. クマザサ属短細胞珪酸体 (4区南壁; 24)  | 2. ネザサ節短細胞珪酸体 (4区南壁; 20)     |
| 3. ススキ属短細胞珪酸体 (4区南壁; 24)   | 4. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体 (4区南壁; 24) |
| 5. クマザサ属機動細胞珪酸体 (4区南壁; 24) | 6. ネザサ節機動細胞珪酸体 (4区南壁; 20)    |
| 7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (4区南壁; 1)    | 8. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (4区南壁; 24)   |
| 9. 状況写真 (土坑43-45; 2)       | 10. 状況写真 (土坑27; 26)          |



1. コナラ属コナラ亜属コナラ節 (土坑43-45; 1) a: 木口, b: 柁目, c: 板目
2. カラスザンショウ核 (土坑43-45; 2)
3. *Aulacoseira ambigua* (Grun.) Simonsen (土坑66・67; 9)
4. *Aulacoseira islandica* (O. Mull.) Simonsen (土坑66・67; 9)
5. *Aulacoseira granulata* (Ehr.) Simonsen (土坑66・67; 9)
6. *Aulacoseira italica* (Ehr.) Simonsen (土坑66・67; 9)



1



10



26

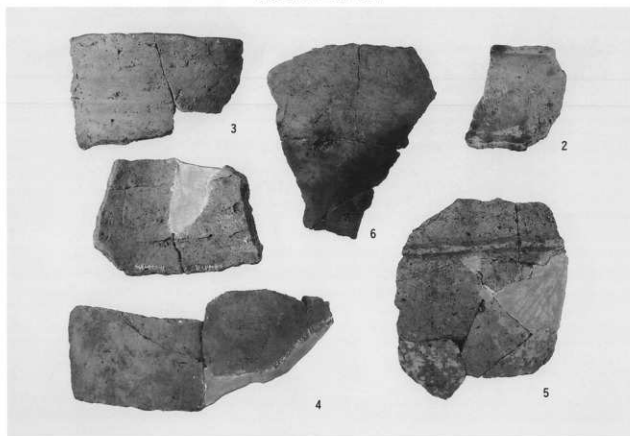


8

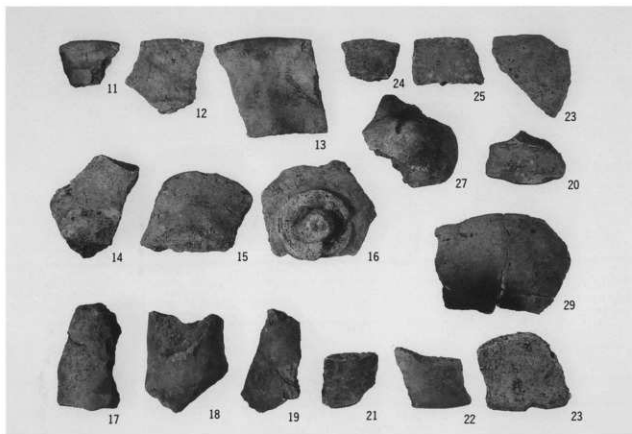


7

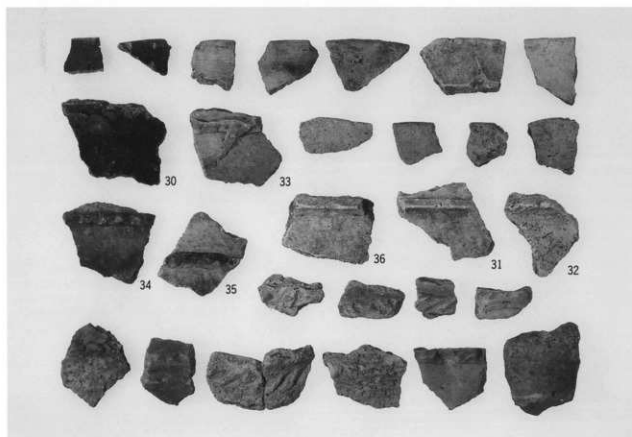
古墳時代 土器 (1)



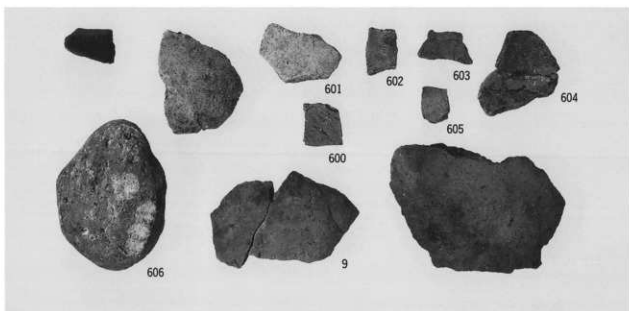
古墳時代 土器 (2)



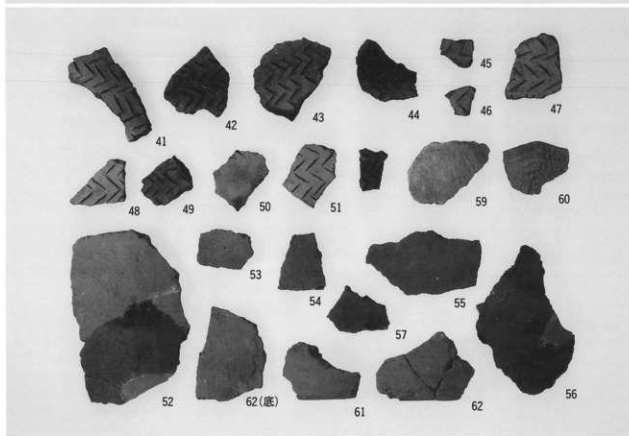
古墳時代 土器 (3)



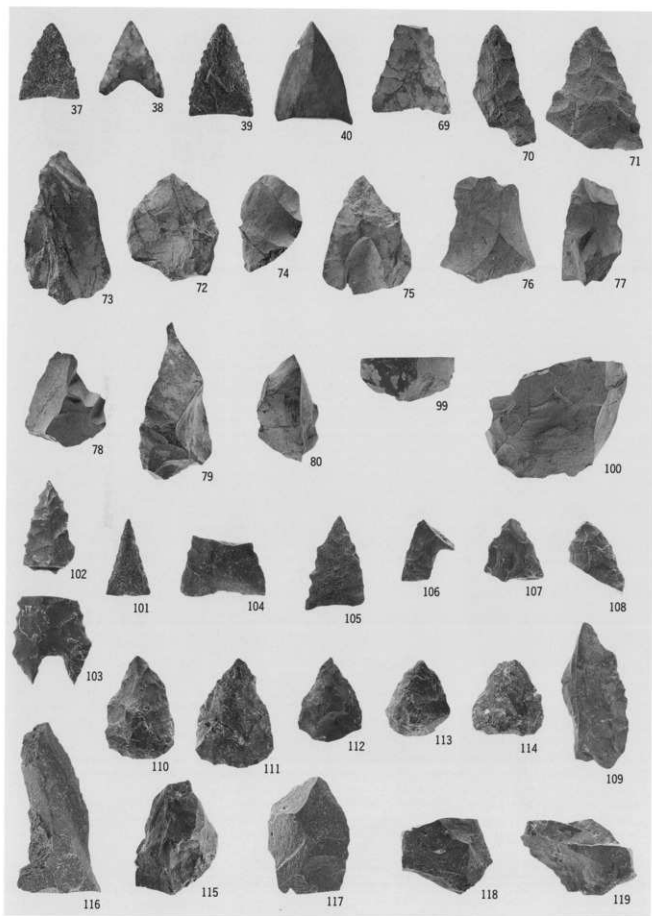
古墳時代 土器 (4)



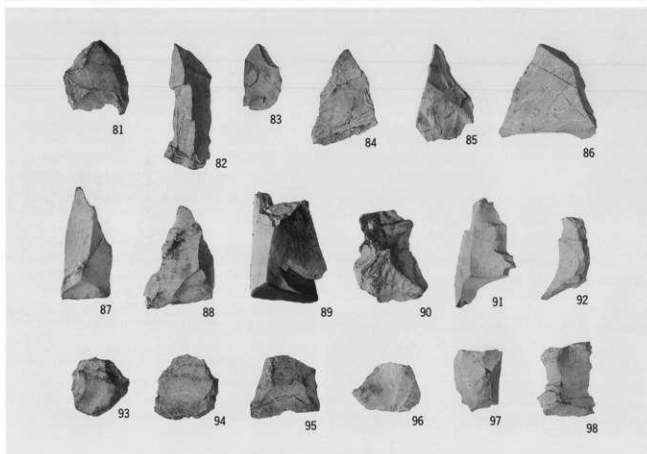
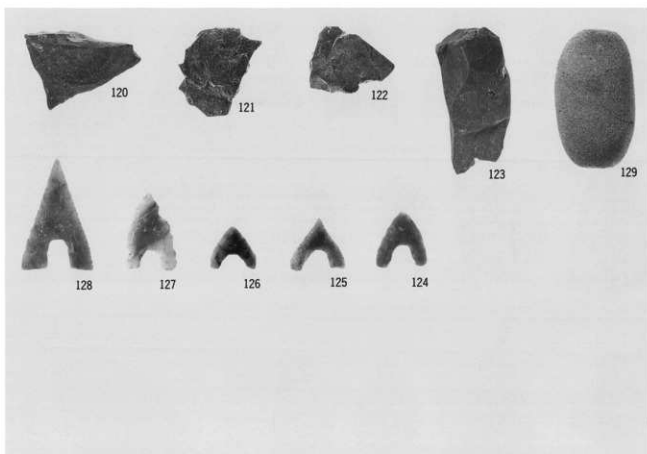
古墳時代 土器(5)



縄文時代早期 土器



古墳時代・縄文時代早期 石器 (1)



縄文時代早期 石器 (2)





1区全景 (北西より)



柱列 1



2区全景 (北東より)



4区北半全景 (西より)



3区全景 (北西より)



土器 1 出土状況



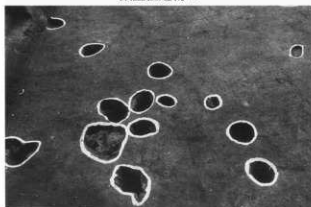
3区西半 遺物出土状況



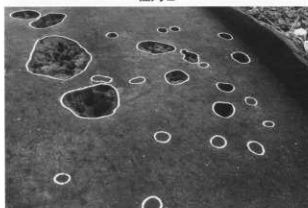
掘立柱建物1



柱列2



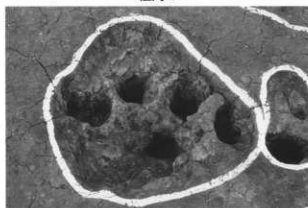
柱列5



柱列4



柱穴半截状況



土坑4



1・5区 東壁土層断面



6区 遺物出土状況



土坑5



5・6区 全景



土坑6



5区 遺物出土状況



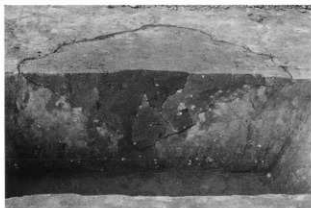
土坑11



土坑11 土層断面



土坑10



土坑4 半截



土坑4 完掘



柱穴5・6



柱穴13



柱穴22



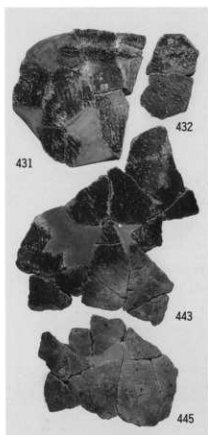
柱穴



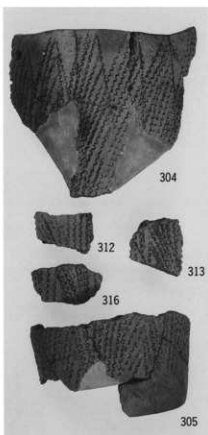
8区 遺物出土状況



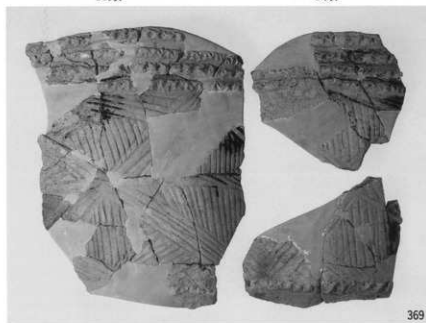
8区 完掘状況



10類



5類



7類

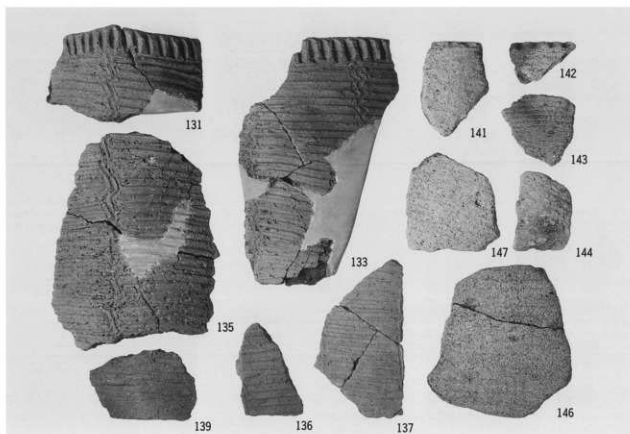


277・290・300=5類

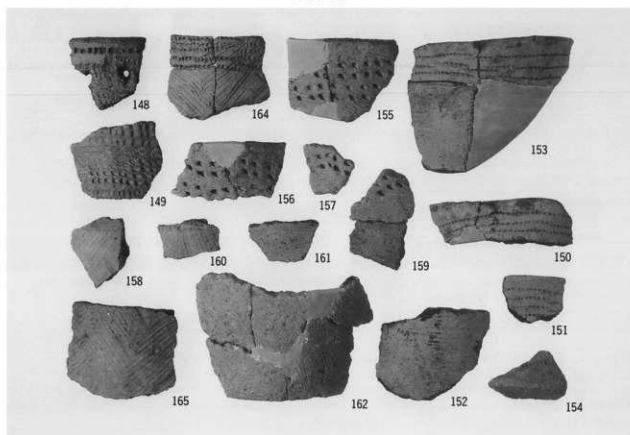
447=10類

412=8類

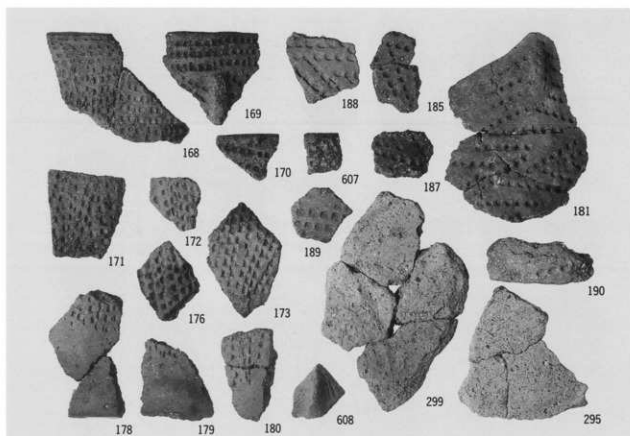
縄文時代早期 土器



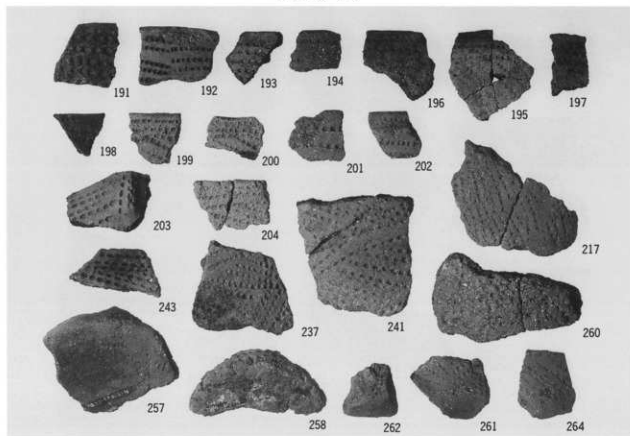
土器1類



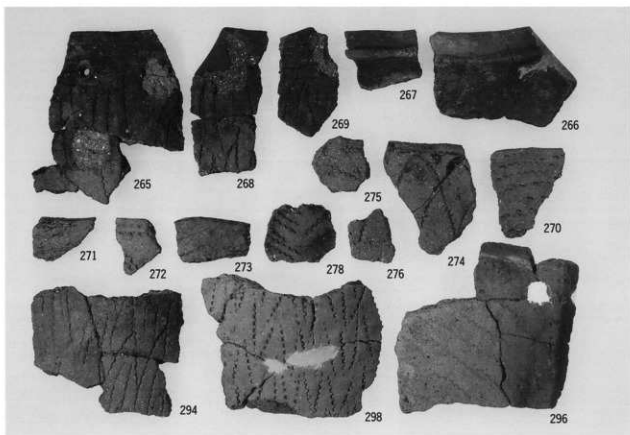
土器2~4類



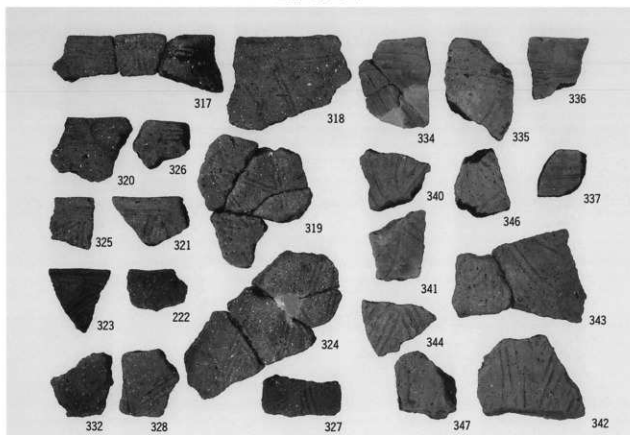
土器5類 (1)



土器5類 (2)

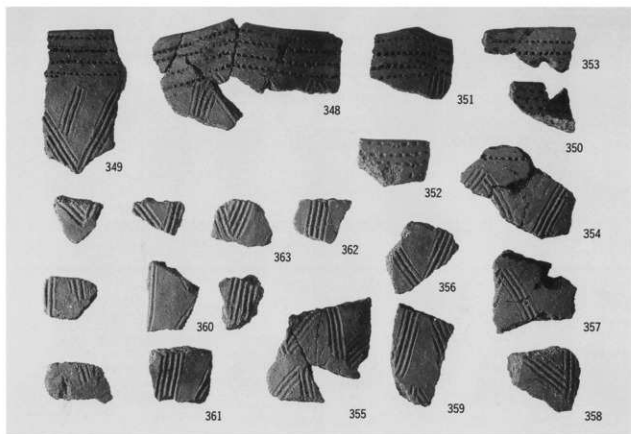


土器5類 (3)

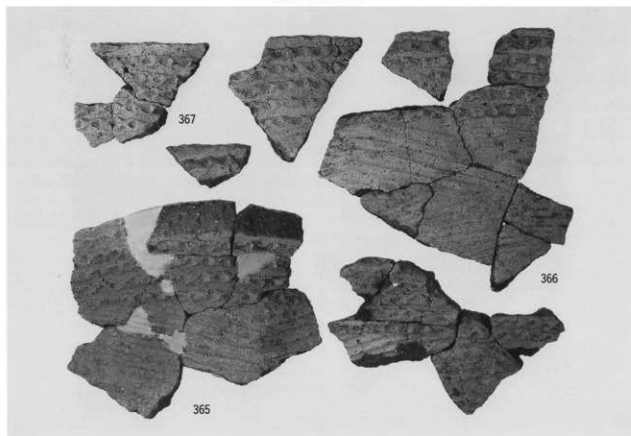


土器6類 (1)

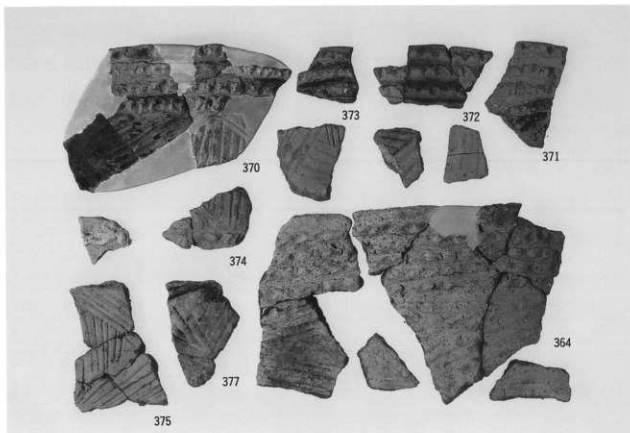




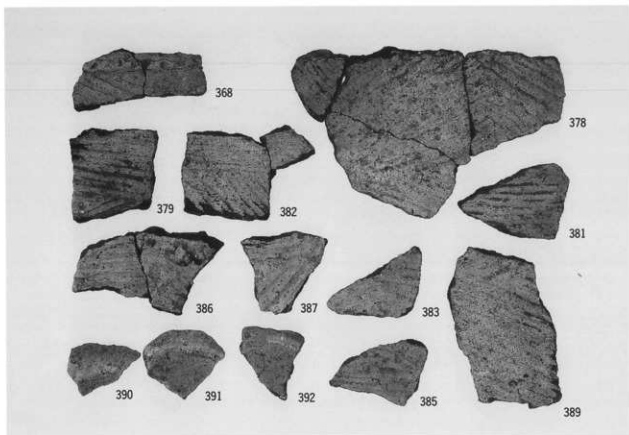
土器 6 類 (2)



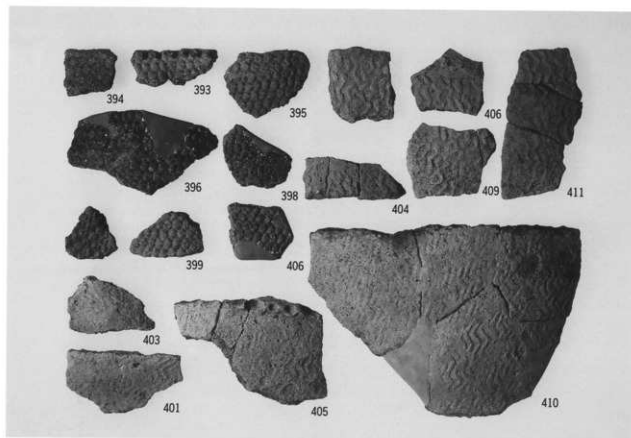
土器 7 類 (1)



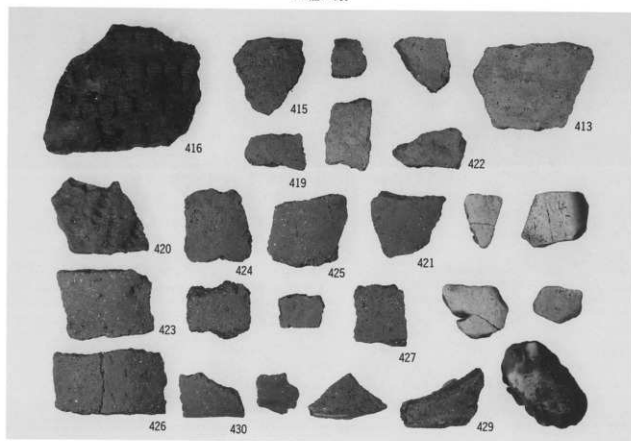
土器7類 (2)



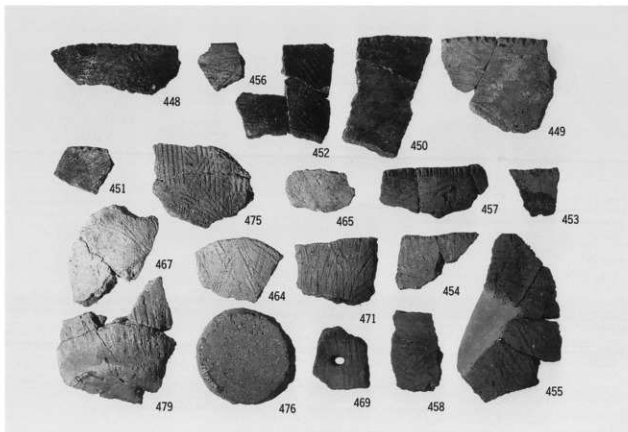
土器7類 (3)



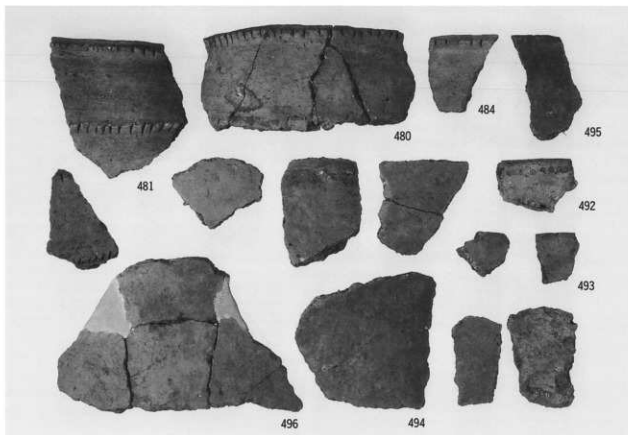
土器8類



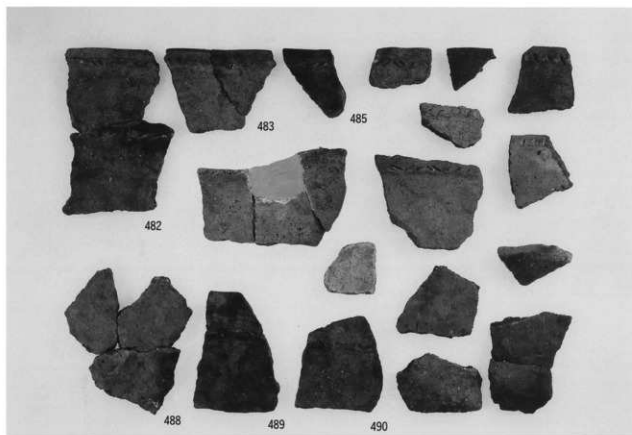
土器9類



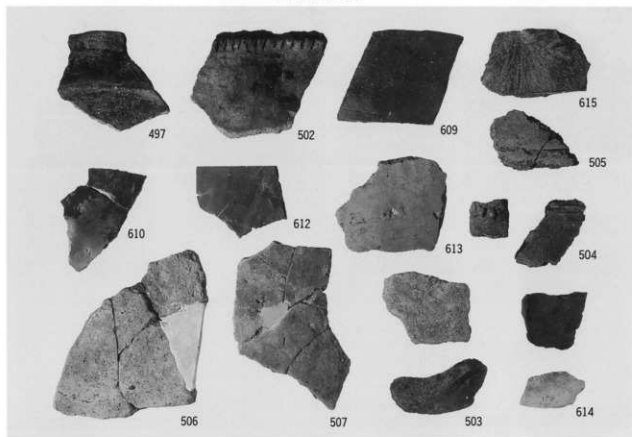
土器10類



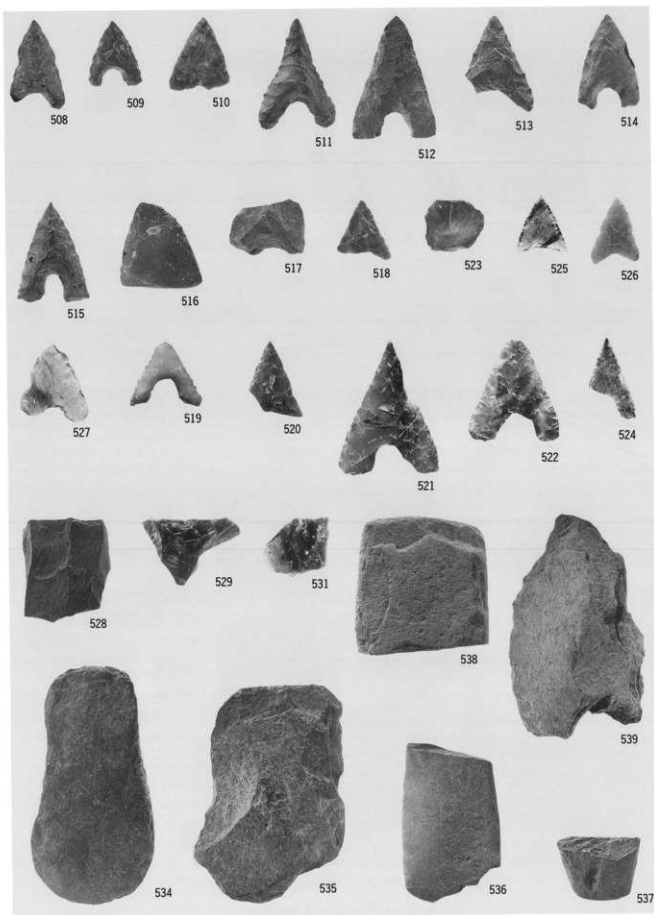
土器11類 (1)



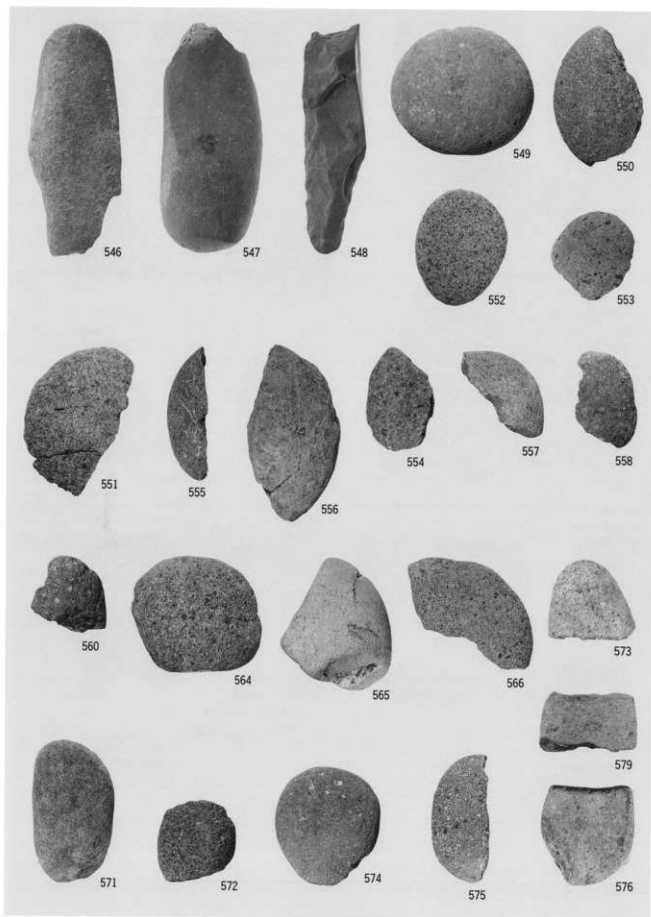
土器11類 (2)



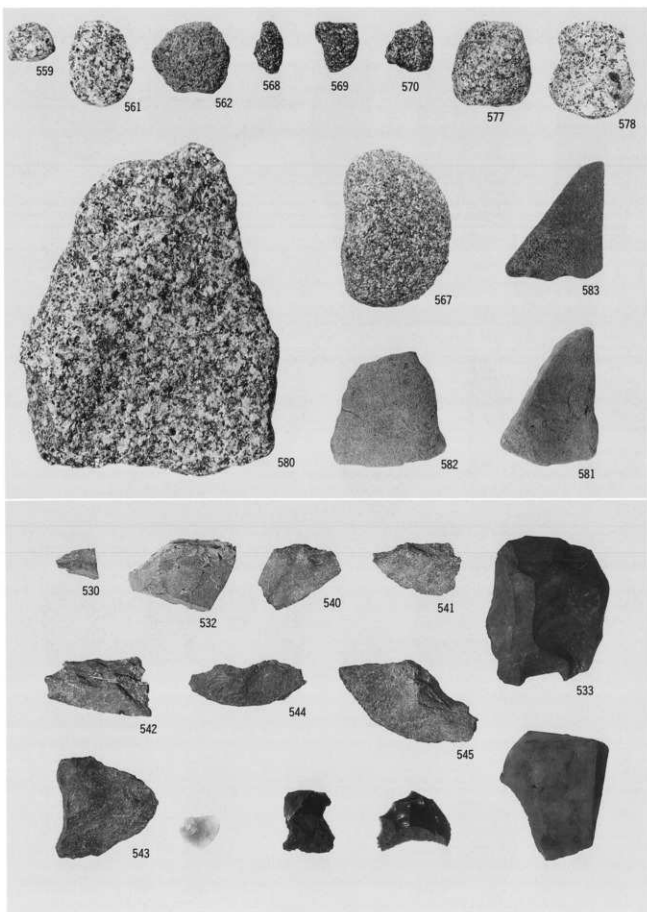
土器11類 (3)・その他



下堰遺跡 石器 (1)



下堀遺跡 石器 (2)



下堀遺跡 石器 (3)





1区 (北西より)



2区 (東より)



3区 (北東より)



4区 (北東より)



6区南半 (北より)



6区北半 (南東より)



7-1区 (北北東より)



7-3区 (東より)



柱列 7 (西より)



柱列 1



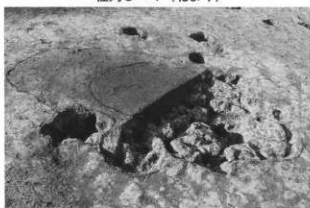
柱列 2 (北より)



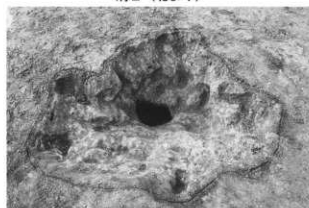
柱列 3・4 (北より)



溝 2 (北より)



土坑 11 土層断面



土坑 7



土坑 7 土層断面



3・4区 作業風景（北東より）



4・7-2区 西壁土層



3・4区 先行トレンチ遺物出土状況（東より）



6区 遺物出土状況（北より）



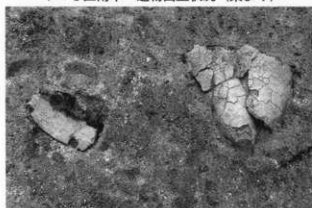
5区 先行トレンチ遺物出土状況（東より）



7-1区南半 遺物出土状況（東より）



土器412 出土状況



土器447 出土状況



調査区全景



3・4区 全景 (東より)



4・5・7-1・7-2区 全景 (北東より)



3区 柱穴集中部 (東より)



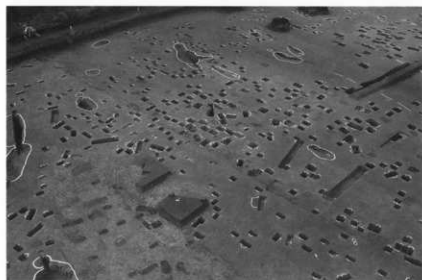
5・7-1区 全景 (北東より)



溝1



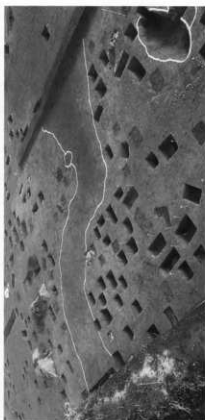
4区 土坑集中部 検出状況(北より)



5・7-1区 柱穴集中部



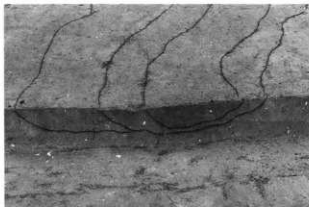
7-2・3区 柱穴集中部



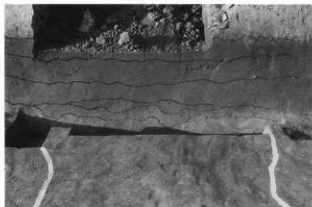
溝2



6区 全景



溝1



溝2



集石1



集石2



集石4



集石3



集石6



集石7



集石8



集石9



集石10・11・12



集石10 土層断面



集石14 土層断面



集石13



集石13 土層断面



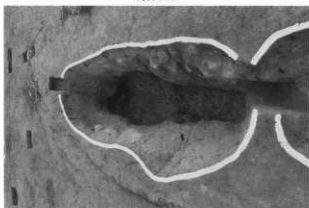
集石15



集石16



集石17



土坑1



土坑2



土坑1・16



土坑2・3

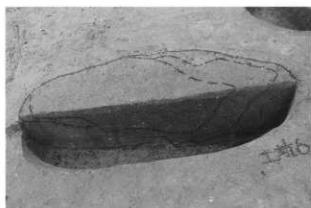


土坑3・4・35

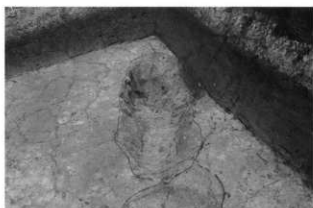


土坑11・12





土坑6 土層断面



土坑13



土坑18 土層断面



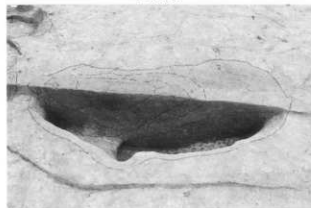
土坑20・21・22・23



土坑25



土坑26・27



土坑27 土層断面



土坑25 土層断面



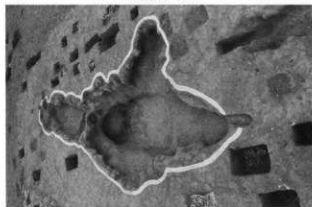
土坑31 土層断面



土坑24・34



土坑38



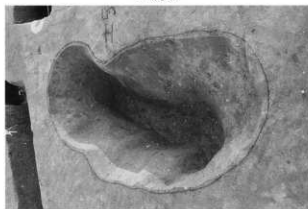
土坑43・44・45



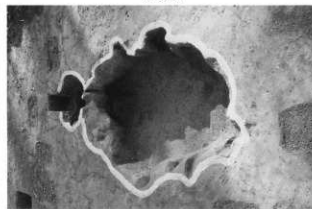
土坑45



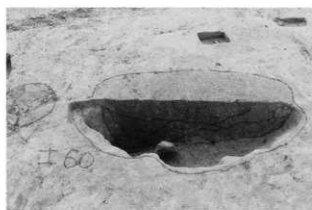
土坑46



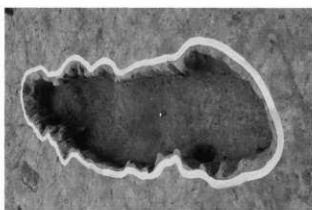
土坑59



土坑60



土坑60 土層断面



土坑66・67



土坑53・54



土坑65



土坑47・48



土坑47・48 土層断面



土坑68・69・70



土坑70



7-3区 柱穴検出状況



柱穴707



柱穴3 検出状況



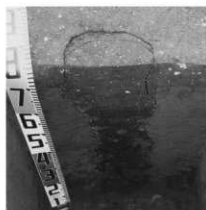
柱穴45



柱穴5 柱穴半截状況



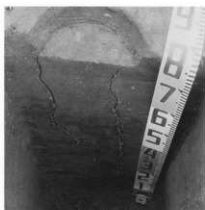
柱穴3 柱穴半截状況



柱穴46



柱穴672



柱穴712



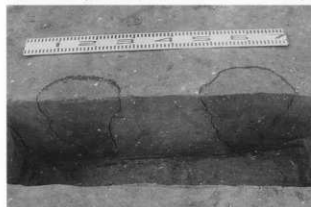
柱穴714



柱穴6



柱穴8



柱穴95・93



柱穴



柱穴107・108



柱穴76・77・78・79



浜場遺跡 調査地遠景（西より）



下堀遺跡 調査地遠景（北より）



遺跡遠景（北東より） \*左：下堀遺跡、右：浜場遺跡



遺跡遠景（南西より） \*左：浜場遺跡、右：下堀遺跡

## あ と が き

後悔、ただ、ただ、後悔です。調査の責任者として、消滅する埋蔵文化財を闇雲に調査・破壊してしまったことに後悔と責任の重さを痛感しています。

さらに、調査・整理過程においては自身の力不足で様々な問題を引き起こし、調査成果の検証・検討にまったく時間をかけることができずに「刊行すればいい」の内容となってしまう、反省以外の言葉がありません。

また、今回も事業完了年度に追われる緊急発掘調査となったため、委託などの様々な形で効率向上・期間短縮に努めましたが、この状態に疑問を感じることも多々ありました。発掘調査は消滅する埋蔵文化財の記録保存のための調査であり、効率化・期間短縮は一步間違えると調査と記録の精度との綱引きになってしまいます。そのため、調査の本来の目的を達成しようとすれば、それに携わる人達の心次第となる場合が多くなります。そのため安易な気持ちで作業に携わることは、自分を含めて猛省に値すると考えさせられた1年間でした。

なお、最後になりますが、様々な点でご協力いただいた文化財課・県立埋蔵文化財センターの方々や近隣の文化財担当の方々、また、個人的に支えてもらい、応援してくれた方々に、この程度になってしまったことに対する謝罪と感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。

編集者



## 報告書抄録

ふりがな	はまばいせき、しもばいせき												
書名	浜場遺跡、下堀遺跡												
副書名	半島基幹農道整備事業（草野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書												
巻次													
シリーズ名	有明町埋蔵文化財発掘調査報告書												
シリーズ番号	6												
編集者名	東 徹志、松崎卓郎、中水 忍												
編集機関	有明町教育委員会												
所在地	〒899-7492 鹿児島県曾於郡有明町野井倉1756番地 TEL 0994-74-1111												
発行年月日	2004年3月19日												
遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
		市町村	遺跡番号										
浜場遺跡	鹿児島県曾於郡有明町野神字浜場	46467	69-128	31°28'34"	130°59'27"	確認 1999.12.6~2000.1.7 全面 2002.8.1~2003.3.14 整理作業・報告書作成 2003.4.1~2004.3.19	確認 118.8㎡  全面 1,662㎡	農道整備事業					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									包含層	縄文時代早期  古墳時代	竪穴状土坑、連穴土坑、柱穴土坑、柱列	辻タイプ、石鏃、剥片、石核  成川式、石鏃	石鏃製作跡
遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
		市町村	遺跡番号										
下堀遺跡	鹿児島県曾於郡有明町野神字下堀	46467	69-127	31°28'37"	130°59'48"	確認 1999.12.6~2000.1.7 全面 2002.8.1~2003.3.14 整理作業・報告書作成 2003.4.1~2004.3.19	確認 112.4㎡  全面 2,226㎡	農道整備事業					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									包含層	縄文時代早期  縄文時代晩期以降	炉穴、土坑、柱穴、集石柱列  土坑、柱穴掘立柱建物、柱列	前平式、青田式、倉廩B式、石坂式、下刺峰式、桑ノ丸式、手向山式、押型文、塞ノ神式、右京西式、石器類  刻目突帯文	炉穴の下部の「シミ状痕跡」自然科学分析（火山灰同定、炉穴覆土の脂肪酸分析、遺跡の植生変化、炉穴の燃料材の特定など）

---

有明町埋蔵文化財発掘調査報告書（6）

半島基幹農道整備事業（草野地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

**浜場遺跡、下堀遺跡**

発行日 2004年3月19日

発行 鹿兒島県曾於郡有明町教育委員会  
〒899-7492 鹿兒島県曾於郡有明町野井倉1756番地  
TEL 0994-74-1111

印刷所 (株) トライ社  
〒892-0834 鹿兒島県鹿兒島市南林寺町12-6  
TEL 099-226-0815

---